



Title	明治・大正期の国立博物館が収集した鳥類標本史とその現代的意義に関する研究
Author(s)	浅井, さやか
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第14801号
Issue Date	2022-03-24
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k14801
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/92810
Type	doctoral thesis
File Information	Asai_Sayaka.pdf



明治・大正期の国立博物館が収集した鳥類標本史と
その現代的意義に関する研究

北海道大学 大学院農学院

環境資源学専攻 博士後期課程

浅井 さやか

目次

第1章 序論 ―自然史標本の価値と課題―

1-1. 本研究の目的	1
1-2. 研究対象のコレクションの特徴と課題	2
1-3. 本論の構成	3
1-4. 本論で用いる用語等について	4

第2章 帝室博物館コレクションの成立と歴史的背景

2-1. はじめに	7
2-2. 博物館の名称の変遷	8
2-3. 既存文献による帝室博物館コレクションの成立過程	9
2-4. 調査対象と方法	10
2-5. 結果と考察	11
2-5-1. 帝室博物館コレクションに関連する現存台帳類とその検証	11
2-5-2. 帝室博物館コレクションの標本点数	15
2-5-3. 帝室博物館天産部廃止後の標本移管	18
2-5-4. 天産部から移管された標本群と YIO-IH 標本群との関連	20
2-5-5. 帝室博物館コレクションの歴史的背景と標本情報の復元への効果	22

第3章 帝室博物館コレクションを構成する主な標本群の歴史 その1 ―スミソニアン米国立博物館由来標本群―

3-1. はじめに	36
3-2. 調査対象と方法	36
3-3. 結果および考察	38
3-3-1. 東京国立博物館が入手したスミソニアン由来標本	38
3-3-2. 国立科学博物館が入手したスミソニアン由来標本	39
3-3-3. スミソニアン資料から得られた入手経緯	39
3-3-4. 古資料から得られたスミソニアン由来標本の範囲	40
3-3-5. スミソニアン台帳による採集情報復元の可能性	42
3-3-6. スミソニアン由来標本群の歴史的考察	42

第4章 帝室博物館コレクションを構成する主な標本群の歴史 その2 ーオーストラリア博物館由来標本群ー	
4-1. はじめに	53
4-2. 対象の標本と方法	53
4-3. 結果および考察	54
4-3-1. 国立科学博物館と東京国立博物館の歴史書による検証	54
4-3-2. オーストラリア博物館年報による検証	55
4-3-3. 古資料による検証	56
4-3-4. オーストラリア博物館台帳による検証	57
4-3-5. オーストラリア博物館由来標本の歴史的考察	59
第5章 帝室博物館コレクションを構成する主な標本群の歴史 その3 ーフランス国立自然史博物館由来標本群ー	
5-1. はじめに	82
5-2. 調査対象と方法	82
5-3. 結果および考察	82
5-3-1. 国立科学博物館の歴史書による検証	82
5-3-2. フランス国立自然史博物館の標本台帳類から 確認された標本交換の実態	83
5-3-3. フランス国立自然史博物館由来標本の情報復元	85
5-3-4. フランス国立自然史博物館由来標本の歴史的考察	89
第6章 帝室博物館コレクションの情報復元 ー南鳥島産鳥類標本を例にー	
6-1. はじめに	110
6-2. 調査対象と方法	111
6-3. 結果および考察	113
6-3-1. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的背景	113
6-3-2. 現存する標本の種同定	116
6-3-3. 現存する標本の復元された情報	122
6-3-4. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的考察	122
6-3-5. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の評価	124

第7章 総合考察と今後の課題	
7-1. 解明された帝室博物館コレクションの歴史的背景	145
7-2. 東京国立博物館と国立科学博物館収集標本の考察	146
7-3. 帝室博物館コレクションの学術的意義	147
7-4. 今後の展望と課題	150
謝辞	156
引用文献	158
Abstract	169

第1章 序論 ―自然史標本の価値と課題―

1-1. 本研究の目的

自然史研究に利用される標本は、いつ、どこで採集されたかといった情報を備え、良好な状態で保管される必要がある（松浦 2014）。標本は採集された生物がその日、その場所で生息していた証拠となるからである。加えて標本が研究に利用されれば、標本は研究結果を保証する役割を担うことになる。標本が研究資源として活用され続けるためには、採集地、採集日、採集者といった採集情報に加え、研究で利用された証拠であることを示す標本番号などの情報が適切に付属していなければならない。しかし、古い標本の中には、添付されたラベルから十分な採集情報を得られず、学術標本として研究に利用しにくいものが存在する。例えば、標本の保存過程でラベルの汚損、破損が生じ、記載内容の読み取りが困難な場合、採集当時に記載された地名や年号の解釈が困難な場合、標本移管の過程で付与された複数のラベル間で情報に齟齬がある場合などである。

しかし、採集情報が失われたとされる標本であっても、標本台帳や採集者のフィールドノートなどから帰属する標本群（コレクション）の成り立ちや採集者の背景を調べることで、採集情報を復元できることもある（加藤ら 2009, 2010, 2012, 加藤 2012a, b, Kato 2014, 加藤ら 2014）。

例えば、北海道と本州間の動植物の分布境界線、ブラキストン線の提唱者であるトーマス・ブラキストン（Thomas Wright Blakiston, 1832–1891）が収集した日本産鳥類標本コレクションでは、コレクションの歴史的経緯が解明されたことで（加藤 2012a, 2013）、各標本の採集情報が復元され、タイプ標本などの重要な標本が再発見された。イワツバメ *Chelidon blakistoni*（現在は *Delichon urbica dasypus* のシノニム）では、これまでタイプ標本とされてきた標本が記載年以降に採集されていたものであり、ブラキストンが採集した別の標本がホロタイプに該当した（Kato 2014）。また、コジュリン *Emberiza yessoensis* では、ブラキストンが 1863 年に *E. minor* として記載したホロタイプが失われたとされていたが（Morioka et al. 2005）、スミソニアン米国立自然史博物館に現存していたことが明らかになった（Kato & Davis 2019）。

これらのタイプ標本の再発見は、特定の標本の探索から見出されたものではなく、コレクション全体の情報が復元された結果である。コレクションの情報復元は、タイプ標本のような特別な標本の再発見という成果だけでなく、各標本に正確な採集地、採集日を与えることで、過去の分布を把握したり、過去に生息していた鳥類の遺伝情

報を取得するなど、現在の科学的手法の研究資源として新たな価値を生み、現代の鳥学に寄与することが期待できる。標本情報の復元や精査は、単なる歴史の解明にとどまらず、生物学全般に寄与するものである。特に遡及して収集することができない過去の標本の調査は、関連する情報が失われる前に行う必要がある。

本研究は、明治から大正期に収集された鳥類標本群の歴史的背景の解明を通して、現存する標本の採集情報を復元することを第一の目的とする。その上で、情報を復元した標本が現代の鳥学や博物館史などにおいて、どのような価値を有するのかという標本の意義について考察することを最終的な目的とする。

1-2. 研究対象のコレクションの特徴と課題

本研究では、東京帝室博物館がかつて所蔵していた鳥類標本群（以後、帝室博物館コレクション）の歴史的背景の解明と標本情報の復元を試みる。東京帝室博物館は、東京国立博物館の前身であり、日本で最も長い歴史を有する博物館である。現在の東京国立博物館は、文化財を多数所蔵する博物館として知られるが、設立当初は産業関係の資料や動植物などの自然史標本を多数収集、所蔵していた。この自然史標本の大部分は、関東大震災で所蔵標本のすべてを焼失した国立科学博物館に移管されたことが知られている（東京国立博物館 1973）。しかし、東京帝室博物館旧蔵の鳥類標本（帝室博物館コレクション）は、国立科学博物館よりも山階鳥類研究所に多数存在する。東京国立博物館や国立科学博物館の歴史書（東京国立博物館 1973, 国立科学博物館 1977）には、この経緯についての記載はなく、帝室博物館コレクションの全容はこれまで明確にされてこなかった。

帝室博物館コレクションが、どのような特徴を有していたのかを解明することは、東京帝室博物館が日本の中核の博物館であったことから、日本の博物館史や鳥学史の解明につながる。また、コレクションの各標本に採集情報を与えることができれば、研究資源としての価値を向上させることにつながる。

本研究では、帝室博物館コレクションの歴史的背景の解明や情報復元を試みる材料として、最も規模が大きいと推測される山階鳥類研究所（以後、山階鳥研）の 3,300 点を超える標本群（以後、YIO（Yamashina Institute for Ornithology）-IH（Imperial Household Museum）標本群）を主な調査対象とする。YIO-IH 標本群は、明治から大正期に収集され、海外産の鳥類標本が多く、タイプ標本や絶滅種などの標本が含まれていた（山階鳥類研究所 2021）。帝室博物館コレクションから派生した YIO-IH 標本群は、標本群の成立時期の古さや、学術的に貴重な標本を内包することから、さまざま

まな研究の進展に貢献する可能性を秘めている。しかし、YIO-IH 標本群の主な情報源は標本に添付するラベルであり、長期間の保管中にラベルが欠落するなどで採集情報が得られない標本や、ラベルに採集日や地名が記載されていたとしても、記載内容を理解するのに解釈を要し、明確な情報が得られない標本が多数存在する。そのため、YIO-IH 標本群の多くは研究資源として注目されてこなかった。

また、YIO-IH 標本群の経緯は、東京帝室博物館から学習院を経て山階鳥研に移管されたことが知られている（山階 1966）。山階鳥研には、学習院から YIO-IH 標本群と一緒に移管された標本目録が存在するが、この目録からは YIO-IH 標本群の経緯や帝室博物館コレクションの収集過程は明らかにならなかった。帝室博物館コレクションの関連資料が、どこにどの程度残されているかが把握されていないことも大きな課題であった。

1-3. 本論の構成

本研究は、帝室博物館コレクションの歴史的背景の検討に必要な資料を探索し、それらを用いて帝室博物館コレクションの個々の標本の採集情報を復元する。その結果から、個々の標本の学術的価値を向上させ、生物学や博物館史などに活用できる研究資源とすることを目指す。合わせて、標本群全体の歴史的、生物学的価値について検討し、YIO-IH 標本群が現代の鳥類学や博物館学に果たす意義について考察する。

これを踏まえ、本論では、第 2 章「帝室博物館コレクションの成立と歴史的背景」で、帝室博物館コレクションの歴史的背景を明らかにする。既知の情報を整理した上で関連資料を探索し、新たに見出された情報からコレクションの歴史的背景を考察する。また、帝室博物館コレクションの一部が山階鳥研に所属されるに至った経緯についても検討する。

第 3, 4, 5 章「帝室博物館コレクションを構成する主な標本群の歴史」では、帝室博物館コレクションの中に多数確認されるスミソニアン米国立博物館、オーストラリア博物館、フランス国立自然史博物館に由来する標本が、どのような経緯で東京帝室博物館に所蔵されたのかについて検討する。その経緯を踏まえ、旧蔵機関における標本管理情報に基づいて、採集情報の復元や精査を行う。

第 6 章「帝室博物館コレクションの情報復元」では、帝室博物館コレクション内の南鳥島産標本を例に、標本の歴史的背景から、採集情報を復元し、復元された情報が付与された標本の学術的な意義を検討する。

第 7 章「総合考察と今後の課題」では、本研究で議論した帝室博物館コレクション

の歴史的背景の解明という研究手法が、YIO-IH 標本群に含まれる標本の採集情報の復元にどの程度寄与したのかについて整理する。そして、本研究の命題である、帝室博物館コレクションの学術標本としての価値を評価し、現代的意義を考察することとする。

1-4. 本論で用いる用語等について

博物館の名称

本論では、明治・大正期の東京国立博物館と国立科学博物館について言及するが、博物館の名称は年代ごとに変更されているため、両博物館の名称を表 1-1 に整理した。本論では、特定の時代の名称を示す場合を除き、現在の博物館の名称である「東京国立博物館」、「国立科学博物館」と表記する。

標本番号

帝室博物館コレクションは、1 つの標本に対し帝室博物館の他、旧蔵機関や山階鳥研などの現在の所蔵機関などの標本番号が、複数添付されている場合がある。本論では、主に帝室博物館の標本台帳（本論では「天産部台帳」と表記）の番号と、山階鳥研での現在の標本番号を用いる。断りのない限り、「A」に続いて 1 から 4 桁の番号であれば天産部台帳番号、「YIO-」に続いて 1 から 5 桁の番号であれば山階鳥研の標本番号とする。

種名

山階鳥研の標本は、『世界鳥類和名辞典』（山階 1986）に準拠している（山階鳥類研究所 2021）。本論においても、断りのない限り山階（1986）に準拠する。

表 1-1. 東京国立博物館と国立科学博物館の年代ごとの名称（東京国立博物館 1973，国立科学博物館 1977）.

西暦（年）	和暦（年）	東京国立博物館の名称	国立科学博物館の名称
1872	明治 5	博覧会	
1873	6	博覧会事務局	
1875	8	内務省博物館	東京博物館
1877	10		教育博物館
1881	14	農商務省博物館	東京教育博物館
1886	19	宮内省博物館	
1889	22	帝国博物館	
1900	33	東京帝室博物館	
1921	大正 10		東京博物館
1931	昭和 6		東京科学博物館
1947	22	国立博物館	
1949	24		国立科学博物館
1952	27	東京国立博物館	

第 2 章

帝室博物館コレクションの成立と歴史的背景

2-1. はじめに

山階鳥研には 70,000 点以上の鳥類標本が所蔵されており、これは日本では最大のコレクションである。創設者の山階芳麿（1900-1989）が 1920 年代ごろから収集した標本を中心に、鳥類学者や研究機関から移管された多様な標本群から形成され、現在も標本の収集が継続されている（山階 1966, 笹川 1984, 小林ら 2009）。山階鳥研コレクションと同様に黒田長禮（1889-1978）や鷹司信輔（1889-1959）が所蔵していたコレクションは、タイプ標本を含む国内の重要な標本群であったが、太平洋戦争中の空襲で大部分が焼失してしまった（高島 1948, 柿沢 1980, 浅野 1992）。震災や戦災で多くの標本を失った日本において、山階鳥研の標本は、日本の鳥学の歴史を知る上でも重要な役割を担っている。

山階鳥研の鳥類標本は、200 点を超えるタイプ標本が所蔵され、山階芳麿の収集品のほか、他機関から移管された標本も多数含まれている（山階鳥類研究所 2021）。この中には、本研究で対象とする帝室博物館コレクションのように、明治から大正期にかけて収集された標本も含まれている。これらは、明治・大正期の鳥類相を知るうえで、また日本の鳥学の草創期の歴史を知る上で価値の高い標本群と言える。山階鳥研の鳥類標本は、2007 年以降、「山階鳥類研究所標本データベース」（以後、山階データベース）で公開され、現在は収蔵する鳥類標本のほぼ全部が閲覧可能となっている（山階鳥類研究所 2021）。

帝室博物館コレクションは、東京国立博物館が収集していた鳥類標本群である。山階鳥研には、「東京帝室博物館」の印字に、天産部台帳番号が記載されたラベルを添付した約 3,300 点の帝室博物館コレクション（YIO-IH 標本群）が所蔵されている（図 2-1）。YIO-IH 標本群には、「東京帝室博物館」のラベル以外に、国立科学博物館の前身である「東京教育博物館」と印字されたラベルや、「Smithsonian Institution, United States National Museum」、「National Museum Victoria」、「Museum D'Histoire Naturelle」などの海外の博物館のラベルも確認される（図 2-2）。ラベルの状況からは、東京国立博物館が独自で収集していた標本以外に、国内外の博物館の収集標本を入手していたことが推測される。さらに、東京教育博物館のラベルには、「from Australian Museum by exchange」と記載されていたことから（図 2-2）、東京教育博物館がオーストラリア博物館と交換で得た標本を、さらに帝室博物館が入手するといった、複雑な収集過程を経ていることも推測される。しかし、帝室博物館の鳥類標本の収集経緯はラベルから推測するのみで、明確にされていない。

YIO-IH 標本群は、学習院から移管され（山階 1966）、山階鳥研には標本と一緒に移

管された『学習院標本目録』が所蔵されているが、帝室博物館から山階鳥研までの移管経緯も判っていない。

本章では、帝室博物館コレクションがどのように成立してきたかについて、YIO-IH 標本群を基に検討する。また、あわせて帝室博物館から山階鳥研までの移管経緯も検討する。

2-2. 博物館の名称の変遷

YIO-IH 標本群は、東京国立博物館と国立科学博物館の標本が存在していたことから、両博物館の名称の変遷を整理しておく。

東京国立博物館は、1872（明治 5）年に文部省博物館が開催した博覧会が起源である（東京国立博物館 1973）。同博物館は翌年にウィーン万博への出品業務のため、太政官に設置されていた博覧会事務局へ統合された。しかし、1875（明治 8）年には文部省博物館が独立したことで、文部省博物館から名称を変更した「東京博物館」と「内務省博物館」との 2 つの国立博物館が併存することになった。前者が現在の国立科学博物館で、後者が後の帝室博物館、すなわち現在の東京国立博物館である。

東京国立博物館は、内務省博物館の後、1881（明治 14）年に「農商務省博物館」、1886（明治 19）年からは宮内省管轄となり「宮内省博物館」、1890（明治 23）年には「帝国博物館」、1900（明治 33）年には「東京帝室博物館」と名称を変更しながら整備された。太平洋戦争後、新憲法が公布された 1947（昭和 22）年からは文部省管轄となり「国立博物館」に改め、1952（昭和 27）年に現在の「東京国立博物館」となった（表 1-1）。

一方、国立科学博物館は、1875（明治 8）年「東京博物館」、1877（明治 10）年「教育博物館」、1881（明治 14）年「東京教育博物館」と名称が変更された。1889（明治 22）年には東京教育博物館が高等師範学校の付属機関となったことで博物館の活動を縮小し、上野にあった土地と建物は東京美術学校（現東京藝術大学）へ譲渡して湯島聖堂へ移転した。この際、同博物館のすべての自然史標本は帝国博物館へ移管された。1914（大正 3）年には東京高等師範学校（高等師範学校から改称）から独立し、文部省普通学務局に東京教育博物館が設置され、博物館活動を再開した。その後、1921（大正 10）年に再び文部省直轄の「東京博物館」となり、1931（昭和 6）年には湯島聖堂内にあったお茶の水陳列館を閉鎖し、「東京科学博物館」と改め、現在の所在地である上野公園に移転し、1949（昭和 24）年に「国立科学博物館」となった（表 1-1）。

2-3. 既存文献による帝室博物館コレクションの成立過程

2-3-1. 帝室博物館コレクション収集の歴史と課題

東京国立博物館（1973）によれば、1872（明治 5）年に開催された博覧会に鳥類標本が出品されていた。この頃には、文部省博物館にはすでに鳥類標本が収集されていたことになる。1875（明治 8）年に東京博物館（国立科学博物館）が文部省博物館から独立した際には、それまで収集していた標本（鳥類標本 54 点）は博覧会事務局（東京国立博物館）へ引き渡された。その後、2 館の国立博物館はそれぞれ独自に標本を収集していたが、1889（明治 22）年の東京教育博物館の活動縮小に伴い、国立科学博物館の鳥類標本 2,887 点を含むすべての自然史標本が東京国立博物館に移管された。この時移管された鳥類標本数は、当時の帝国博物館（東京国立博物館）の所蔵標本 1,190 点よりも上回っていた。その後も両博物館では標本の収集が続けられたが、1923（大正 12）年の関東大震災により帝室博物館（東京国立博物館）は資料の展示場所を失い、東京博物館（国立科学博物館）は所蔵資料のほとんどを焼失した。これを契機に帝室博物館は天産部を廃止し、天産部標本の大部分を東京博物館へ、一部を学習院と東京帝国大学へ移管した。国立科学博物館へ移管された天産部標本は動物区標本 23,822 点を含む 94,000 点余り、学習院へは動物区 480 点を含む 3,040 点であった。つまり、帝室博物館コレクションは、帝室博物館天産部廃止までに東京国立博物館と国立科学博物館が収集、管理してきた鳥類標本群であった。

東京国立博物館（1973）によると、帝室博物館コレクションの規模は 1923 年の関東大震災直前までに 5,041 点であった。「明治二十二、三年頃には立派な収集品であったが、その後大正十二年まで三十三年間に帝室博物館で収集した標本は少なく、例えば鳥類の増加は九六四点に過ぎ」なかったようであり、帝室博物館コレクションの大部分は 1890（明治 23）年以前に収集されていた。国立科学博物館への移管標本については、東京国立博物館（1973）の別ページに「哺乳類一五九点、鳥類三三一点、爬虫類八八点、両生類二三点、魚類三五一点等」との記載もあり、この文章で言及されていない震災直前の昆虫類標本 4,238 点を加えたとしても、国立科学博物館へ移管された動物標本 23,822 点には及ばないため矛盾がある。また、学習院への移管についても、東京国立博物館（1973）の記載では動物標本 480 点であるのに対し、帝室博物館から学習院を経て山階鳥研に移管された YIO-IH 標本群は、暫定な標本数だけで 3,349 点であることから、整合性が取れない。これらの点から、天産部廃止後に国立科学博物館および学習院に移管された標本数について、検討する必要があることが確認された。

2-3-2. 所蔵品目録にみる帝室博物館コレクションの成立過程

帝室博物館の展示品目録（東京帝室博物館 1920）の「第二鳥綱（Class II. AVES.）」には、1920（大正 9）年に帝室博物館で展示されていた 419 点の鳥類標本について、学名、和名とともに「A.」で始まる天産部台帳番号が記載されていた。哺乳類標本は「M.」で始まる番号が記載されていたことから（東京帝室博物館 1920）、この「A.」は「AVES」や「Avian」の鳥類を意味する分類記号であると考えられた。東京帝室博物館（1920）に記載された標本番号は「A.2545」から「A.5034」までであった。このことから、少なくともこの目録が刊行された 1920 年には A5034 までは台帳に登録されていたことが確認できた。東京帝室博物館（1920）に記載された標本番号と、YIO-IH 標本群の天産部台帳番号を照合したが、合致する番号はなく、1920 年時点の展示品との関連は確認できなかった。

このほか、東京帝室博物館（1920）以外の刊行目録（博物局 1881, 教育博物館 1881, 帝国博物館 1891）には、個々の標本に関する採集情報の記述はあるものの、天産部台帳番号の記載はなく、YIO-IH 標本群との関連を明確にすることはできなかった。

これらを総合すると、刊行物として利用できる資料からは、帝室博物館コレクションの全体の成立から解消までの大きな流れを知ることはできたものの、山階鳥研の標本群につながる情報を得ることはできなかった。

2-4. 調査対象と方法

YIO-IH 標本群は、山階データベースで 3,348 点が登録され、旧標本番号に「IH」のコードが与えられている（山階鳥類研究所 2021）。これら以外に、ラベルの類似性から YIO-24027 ノドグロヤイロチョウ *Pitta versicolor* が、帝室博物館コレクションに含まれると推測される。YIO-24027 には、天産部台帳番号ラベルが添付していないが、左側に 3 本の青色ラインがあるラベルが付され（図 2-3）、YIO-IH 標本群に含まれる 92 点に共通していた。ただし、帝室博物館コレクションの歴史的背景と標本情報の調査結果を踏まえて、最終的に判断することとし、YIO-24027 を加えた計 3,349 点の標本群を暫定的な YIO-IH 標本群として議論を進める。

この暫定的な YIO-IH 標本群 3,349 点について、標本情報を山階データベースから抜き出し、調査用データベースを構築した。調査用データベースの項目は、山階データベースの項目である標本番号、旧標本番号（IH-A 番号）、標本の種類、タイプ標本、分類（目名、科名、属名）、和名、学名、性、採集地（原文）、採集地の国名、島名（採

集地が日本のみ)、採集年月日(原文)、採集年月日(解釈後)、採集者に、標本に添付するラベルの状況(ラベルの様式、印字など)、帝室博物館に移される前の旧蔵機関、ラベルの記載(旧蔵機関の標本番号や採集番号など)を追加した。この調査用データベースを基に次の事項を検討した。

2-4-1. 帝室博物館コレクションに関連する標本台帳類とその検証

帝室博物館コレクションに関連する標本台帳類について(表 2-1)、調査用データベースと照合することで、それぞれの台帳の位置づけと、その信頼性について検証した。帝室博物館コレクションの基礎的な標本台帳と推測される『天産部 列品目録』(天産部台帳)については、台帳の信頼性をより明確にするために、台帳の記載内容から運用時期を推定し、東京国立博物館(1973)を基に天産部台帳の歴史的背景を調べた。

2-4-2. 帝室博物館コレクションの標本点数

帝室博物館コレクションは、他機関への寄贈、廃棄、関東大震災での消失により、天産部台帳から除籍されている標本があった。天産部台帳で除籍された標本について、東京国立博物館の所蔵史料(表 2-1)、YIO-IH 標本群、国立科学博物館や学習院に現存する標本と照合し、標本収集が終了する天産部廃止時点の帝室博物館コレクションの標本数を推定した。

2-4-3. 天産部廃止後の標本移管

天産部廃止後に帝室博物館から国立科学博物館と学習院に移管された帝室博物館コレクションについて、天産部台帳と博物館所蔵資料(表 2-1)の記載を照合し、移管された標本数を推定した。

2-4-4. 天産部から移管された標本群と YIO-IH 標本群との関連

暫定的な YIO-IH 標本群について、天産部台帳の記載を基に検討することで、YIO-IH 標本群の範囲を確定した。さらに、YIO-IH 標本群が天産部廃止後に帝室博物館から山階鳥研に移管された経緯を推定した。

2-5. 結果と考察

2-5-1. 帝室博物館コレクションに関連する現存台帳類とその検証

2-5-1-1. 『学習院標本目録』

山階鳥研には学習院から YIO-IH 標本群と共に移管された『学習院標本目録』が存在する（図 2-4）。この目録の最初のページには「鳥類仮剥製」と記され、3,359 点の標本が記載されていた。個々の標本に関する記載項目は、29 から 3387 までの通し番号、A1 から始まる天産部台帳番号、種名、採集地、仮剥製などの標本の種類の別、数量（すべて 1）であった。また、目録の末尾には「以上 3359 点、学習院外国産鳥類、1495 種」の記載があった。YIO-IH 標本群において、標本に添付されたラベルに採集地などの記載がなく、この目録に情報が記載されている場合において、山階鳥研移管後に付されたラベルにこの目録の採集地が反映されていることが散見された。したがって、『学習院標本目録』は YIO-IH 標本群の基礎的情報源となっていた。

天産部台帳番号は A1 から A4316 ままで記載されているが、記載標本点数が 3,359 点であることから明らかなように多数の欠番があった。目録と YIO-IH 標本群の天産部台帳番号を照合した結果、目録の 3,359 点のうち 3,348 点で天産部台帳番号が合致した。この点から『学習院標本目録』は、YIO-IH 標本群に関連する目録であることに疑いはなかったが、帝室博物館コレクション全体（5,041 点）を示す目録ではない。また、この目録がいつ、どのように作成されたのかについては定かではなく、記載情報については慎重に取り扱う必要があると考えられる。

2-5-1-2. 天産部台帳

国立科学博物館には、帝室博物館天産部の標本台帳が保存されている。鳥類標本の台帳は 2 冊にわたっていて、台帳の背には『列品目録 鳥類 天産部』、『列品目録 哺乳類 天産部』と書かれていた。本論ではこの 2 冊の台帳を「天産部台帳」と表記した。天産部台帳番号は、『列品目録 鳥類 天産部』から始まり、その続き番号が哺乳類の標本台帳と合冊された『列品目録 哺乳類 天産部』に記載されていた。

天産部台帳は、番号、品目（種名）、産地、数量、製法（剥製、仮剥製など）、価格、備考（入手の由来など）が記載されていた。A1 から A5043 までの標本が順に記載され、番号が朱印、その他の記載は黒色のインクで書かれていた（図 2-5）。ただし、A5042 と A5043 については鉛筆で書かれていた。天産部台帳における番号は、番号の前に鳥類標本は“A”，哺乳類標本は“M”のコードが記載されており、前述の刊行目録（東京帝室博物館 1920）と同じ表記であった。天産部台帳に記載されている標本情報は、刊行目録（東京帝室博物館 1920）、『学習院標本目録』、および YIO-IH 標本群の天産部台帳番号ラベル、種名、採集地の記載内容とほぼ合致したことから、天産部台帳は帝室博物館コレクション全体を網羅する基礎的台帳と考えられる。

関東大震災直前までの標本数について、東京国立博物館（1973）で 5,041 点と言及されているのに対し、天産部台帳では 5,043 点が記載されていた。これは 1925（大正 14）年 3 月 31 日付で天産部台帳は天産部標本とともに東京国立博物館から国立科学博物館に移管され、国立科学博物館への天産部標本の移管は同日付で完了したが（東京帝室博物館 1926d, 国立科学博物館 1977）、その後、天産部標本に組み入れていなかった標本が残務整理で見つかり、1926（大正 15）年 1 月 13 日付で 2 点の標本が国立科学博物館へ追加移管されたことによると推測される（東京帝室博物館 1926e）。天産部台帳に鉛筆で書かれている「A5042 駝鳥（卵）3 個」、「A5043 食火鶏（卵）6 個」の種名と卵数は、天産部台帳番号の記載はなかったものの東京帝室博物館（1926e）の記載と合致し、この記載が追加標本に該当すると考えられる。このことから、天産部台帳が国立科学博物館へ移管された 1925 年 3 月 31 日時点では、ペン書きされた A5041 までが台帳に登録されていたと判断できる。東京国立博物館（1973）で言及されている 5,041 点は、この移管前の天産部台帳に基づいているため、その後 2 点が追記された天産部台帳との間に相違が生じたと考えられる。

2-5-1-3. 天産部台帳の運用時期の検討

天産部台帳は、帝室博物館コレクション全体を網羅する台帳である。この台帳を利用することで、単純な標本情報だけでなく、例えば寄贈や移管による東京国立博物館への標本の入出など、様々な情報が得られる可能性がある。しかし、天産部台帳の記載を、YIO-IH 標本群の個々の標本の情報として利用するためには、天産部台帳が後世に作成された二次的な資料ではなく、標本収集と並行して記述されたものであるという裏付けが求められる。天産部台帳の位置づけを明確にするために、台帳運用の歴史的背景を検証した。

天産部台帳の運用開始時期を推定するために、まず台帳に記載されている標本の入手経緯を整理した。標本の入手経緯は、A1 から A2381 までが明治「二十三年東京教育博物館引継」、A2382 から A3115 が明治「二十二年舊博物館引継品」（「舊」=旧）であった。「東京教育博物館引継」とある標本は、前述のように国立科学博物館が 1889 年に博物館活動を縮小するまでに収集した標本で、1890 年に帝国博物館へ移管されたことを意味していた。「舊博物館引継品」は東京国立博物館の前身が収集した標本であり、「宮内省博物館」から「帝国博物館」へと機関名称が変わった 1889 年に引き継がれたことを意味していた。ついで、A3116 から A3249 までが明治「二十六年七月濠州博物館寄贈」とあり、1893 年にオーストラリア博物館から寄贈を受けた標本の記載が

ある。ただし、A3250 以降も 1889 年の宮内省博物館からの引継ぎ標本と 1890 年に東京教育博物館からの移管標本の記載と、1889 年から 1912 年までに入手された標本の記載が混在していた。A4891 から最後 A5041 までは 1912 年から 1923 年までに入手された標本が登録されていた。すなわち、天産部台帳全体を通して、必ずしも標本が入手された年代順に登録されていなかった（表 2-2）。天産部台帳の記載にある最も古い標本入手時期は 1889（明治 22）年であるが、台帳の記載は 1890（明治 23）年に入手された標本から始まっていることを勘案すると、天産部台帳の運用開始は 1890 年以降であると推定される（表 2-2）。

次に天産部台帳における寄贈や廃棄などの除籍についての記述を整理した。標本の除籍を示す記述のうち、最も古いものは 1910 年で、A3594 の明治「四十三年十二月十日廃棄処分決済」であった。次に 1912 年であり、A4 から A4648 までのうち 125 点で明治「四十五年七月十五日学習院女学部へ寄贈」が確認された。台帳への登録時に除籍されていた標本であれば、記載する必要はないと考えられるため、少なくとも 1910 年 12 月 10 日には A3594 まで、1912 年 7 月 15 日には A4648 までが台帳に登録されていたと判断できる。さらに前述の刊行目録（東京帝室博物館 1920）から、1920 年には A5034 までが、A5035 から最後 A5041 までは天産部が廃止された 1923 年までに台帳に登録されていたことがわかる（表 2-2）。

これらのことから、天産部台帳の運用は 1890 年から 1910 年の間に始まったと推定される（表 2-2）。ただし、台帳の 4,500 点超の記載がほぼ同じ筆跡であったため、天産部台帳は継続的に運用されたものというよりは既存の台帳を清書したものである可能性もある。

2-5-1-4. 『東京国立博物館百年史』にみる天産部台帳の歴史

1890（明治 23）年に東京教育博物館（国立科学博物館）の標本が統合され、所蔵資料が増加した帝国博物館（東京国立博物館）では、1891（明治 24）年に基本台帳の様式が定まり、運用が始まった。1902（明治 35）年からは台帳整備を進めるために「列品保管証」により収蔵資料が管理された。これは、新たに資料を受け入れる際に会計帳簿の登録をするために、担当部署から会計課へ出された受領証を「列品保管証」という新たな様式にしたものであり、既存資料についても列品保管証を会計課に提出した。1908（明治 41）年からは「列品保管証」を利用した総台帳の整備が開始された。ただし、総台帳による整備は、膨大な収蔵資料を管理することになり進まず、1916（大正 5）年には各課・各部備え付けの台帳を正本とするという臨時取決めを経て、1918

（大正 7）年に改めて列品台帳規定が制定されたのち、1922（大正 11）年に中央列品台帳が完成した。

天産部台帳は、1891 年の基本台帳が基盤となっている可能性が高いが、東京国立博物館（1973）で示されている基本台帳の様式と天産部台帳とは異なり、天産部台帳は基本台帳そのものではなかった。また、天産部台帳は東京国立博物館に保存されている「列品保管証」とも異なり、1902 年以降の管理台帳でもなかった。ただし、列品保管証に対応する記述を部分的に確認することはできた。例えば、天産部台帳の A4718 の備考欄には「四十年 贈 第一六號ノ一二」という注記があり、対応する YIO-53606 シメ *Coccothraustes coccothraustes* に添付するラベルには「明治四〇年 天産 會 一六號ノ一二 寄贈」というシールが貼られていた（図 2-6）。しかし、1902 年以降に収集されたすべての標本に列品保管証に対応する記載があったわけではないため、1908 年以降に整備されたとされる総台帳としても位置付けられなかった。おそらくは、1891 年に整備された基本台帳を基に、継続して運用されていた各課・各部備え付けの台帳を清書し、中央列品台帳の一部としたものが天産部台帳であると考えられる。

天産部標本の管理台帳の歴史的背景を検証するなかで、天産部台帳には次の問題が指摘された。第一に、1889 年以前に収集された標本については、東京教育博物館（国立科学博物館）からの移管、宮内省博物館（東京国立博物館）からの引き継ぎといった記載があるのみで、それらの博物館がいつ、どのように入手したかは明確にならなかった。第二に、複数回にわたる転記があったと予想されることから、台帳に誤記がある可能性があったことである。ただし、これらの問題があったとしても、帝室博物館コレクションを網羅する台帳は天産部台帳が確認されるのみであり、依拠すべき資料であることに疑いはなかった。

2-5-2. 帝室博物館コレクションの標本点数

関東大震災直前までの帝室博物館コレクションの規模は、天産部台帳に登録されていた 5,041 点であったが（東京国立博物館 1973）、天産部台帳の A1 から A5041 までのなかには、除籍を示す記載が見られたため、天産部廃止時点の帝室博物館コレクションの標本数は、東京国立博物館（1973）で示されている 5,041 点より少なかったはずである。

具体的には天産部台帳の各標本の記載欄の余白に、「贈」や「廃」、「震」の印が付けられ、番号欄に除籍を意味する斜線が引かれていた。これらの印は台帳の末尾の記

載から、それぞれ「贈」は寄贈、「廃」は廃棄処分、「震」は関東大震災で消失した標本という意味であった（図 2-7）。ただし、天産部台帳で除籍されたことになっている標本の中には、存在が確認された標本もあったことから、「贈」、「廃」、「震」印のある各標本について検証したうえで、天産部廃止時点における帝室博物館コレクションの標本数を推定した。

「贈」印の標本は 125 点で、すべてが 1912（明治 45）年 7 月 15 日に学習院女学部へ寄贈されていた。学習院女学部では同年 2 月 11 日の火災により同校の本館が全焼し、教授用の標本、図書なども大きな被害を受けた（学習院 1981）。教授用資料を失った同校では当時同じ宮内省管轄であった帝室博物館に書籍や標本を要請し、要請を受けた帝室博物館では所蔵する動物や鉱物標本、書籍や美術品など 501 点を寄贈した（東京帝室博物館 1912）。当時の学習院長であった乃木希典が、帝室博物館総長の股野 琢に宛てた受領書の日付は、「贈」印標本の寄贈日（1912 年 7 月 15 日）と同日であり、「贈」印標本 125 点は受領書に添付された目録の鳥類標本と一致した（東京帝室博物館 1912）。著者が 2015 年に学習院中・高等科の所蔵標本を調査した際にはこれらに相当する標本の存在は確認されなかったが、学習院女学部から継承される現在の学習院女子中・高等科や、学習院の他の部署に標本が残されている可能性もある。この 125 点の標本が現存するかは今後の課題であるが、天産部廃止以前には帝室博物館コレクションから除籍されており、天産部廃止時点の標本には含まれないと判断された。

天産部台帳で図 2-7 の「廃」印のある標本は、205 点が確認された。さらに、この「廃」印とは別に、廃棄処分を意味する鉛筆書きの記載や、「産地」欄の横に小さい「廃」のスタンプがある事例もあった（図 2-8）。これら鉛筆書き（図 2-8B）やスタンプ（図 2-8C）による記載は 121 点が確認され、廃棄された標本は図 2-7 と図 2-8A の「廃」印 205 点より多い可能性が示された。鉛筆書きや小さいスタンプの記載 121 点と、YIO-IH 標本群の天産部台帳番号を照合したところ、26 点の標本が現存していた（表 2-3）。少なくともこの 26 点については、東京国立博物館から学習院を経て、山階鳥研に移管された標本であることから、鉛筆書きや小さいスタンプの記載は、天産部台帳が東京国立博物館で管理されていた時期のものではなく、標本や台帳が国立科学博物館に移管された後で、何らかの理由により書き加えられたものであると推測される。このため、天産部廃止時点で廃棄処分となっていた標本は、図 2-7 と図 2-8A の「廃」印が押された 205 点であったものと思われる。

天産部台帳で「震」印の標本は、684 点が確認された。「列品台帳削除ノ件」（東京

帝室博物館，1924）によれば，関東大震災の影響で帝室博物館の三年町支局に保管されていた動物標本 1,164 点が失われ，その中には鳥類標本 682 点が含まれていた．天産部台帳と東京帝室博物館（1924）の 2 点の差は，「A4815 かけす（雛）」，「A5017 のごま」による．これは，東京帝室博物館（1924）には記載がなく，天産部台帳では「震」印が付けられていた．このうち，「A5017 のごま」については，著者が学習院中等科・高等科で標本の存在を確認したため，天産部台帳の誤記と判断した．

天産部台帳と東京帝室博物館（1924）の双方において震災で消失と記載されている「A3995 ぬみう（卵）」，「A4297 あぢさし 一種」の 2 点については，天産部台帳で番号欄に除籍を示す斜線が引かれておらず，「震」印の他に「引継」印も合わせて押されていた．東京帝室博物館（1924）には，「A3995 ぬみう（卵）」について 5 卵中 4 卵が消失，「A4297 あぢさし 一種」について剥製 2 点中 1 点が消失した，という記載があった．つまり，標本の一部が震災で失われたが，天産部廃止時点では残りの標本が存在していたために，天産部台帳では除籍とはしなかったと考えられる．よって，この 2 点については本論でも除籍標本として扱わないこととする．また，同様に双方の資料において震災で消失したと記載されている「A4575 野鷄」については，著者の調査で国立科学博物館に現存していることが確認された．この A4575 標本について天産部台帳を精査したところ，「震」印が記されていたが，これを打ち消す斜線が引かれ「生キル」と書き加えられていた．このことを裏付ける資料が東京国立博物館に残されていた．帝室博物館から国立科学博物館への標本の移管が 1925（大正 14）年 3 月 31 日付で完了した後（東京帝室博物館，1926d），震災で消失したとされた標本が現存していたことが残務整理中に判明し，当該標本 9 点が 1926（大正 15）年 1 月 13 日付で国立科学博物館へ追加移管された（東京帝室博物館，1926e）．この 9 点のうち「野鷄 雄」の剥製は，天産部台帳番号の記載はなかったものの，台帳の状況，種名，性の表記から A4575 に該当すると考えられる（東京帝室博物館，1926e）．したがって，天産部台帳の「震」印は 684 点が確認されたものの，2 点は標本の一部が残存していたため除籍とせず，2 点は標本の現存が確認されたため，関東大震災で失われた標本は 680 点であった．

これらのことから，天産部台帳から除籍された標本は，寄贈（125 点），廃棄処分（205 点），関東大震災による消失（680 点）により 1,010 点であった．天産部廃止時点の帝室博物館コレクションは，関東大震災直前の 5,041 点から 1,010 点を差し引き，標本移管後の残務整理で見つかった 2 点を加えた 4,033 点であったことが明らかになった．

2-5-3. 帝室博物館天産部廃止後の標本移管

2-5-3-1. 学習院への標本移管

天産部台帳において学習院へ移管された標本は、各標本の記載欄の余白に「學」の印が押され、番号に斜線が引かれていた。台帳の末尾には「學」は「学習院へ保管轉換ノモノ」との注記があることから（図 2-7）、「學」印が学習院への移管標本であることが読み取れた。「保管轉換」という表記については、当時、学習院は帝室博物館と同じ宮内省の管轄であったため、同省内で保管場所を変えるという意味であった。天産部台帳で「學」印の標本は、86 点が確認された。なお、台帳に鉛筆書きで「学」と記されていた「A4028 *Ostinops citreus*」については、廃棄処分 of 記載と同様に、天産部台帳が東京国立博物館で管理されていた時期に記載されたものではない可能性が高いため、本論では学習院への移管標本に含めなかった。このほか、学習院への移管標本数については、国立科学博物館所蔵資料の『学習院保管品目録（動物ノ部）大正十二年十二月十二日貸出』において、動物標本 550 点、うち鳥類標本 94 点と記載されていた。ほかに「十四 學習院長ヨリ受領證送付ノ件」（東京帝室博物館, 1926c）では、動物標本 480 点、うち鳥類標本 86 点が学習院に保管轉換（移管）されたことが記されていた。この東京帝室博物館（1926c）は、帝室博物館と学習院との間で交わされた公文書であり、国立科学博物館所蔵資料よりも後の 1925（大正 14）年 6 月 4 日付であることを考慮すると、学習院へ移管された標本についての最終的な資料と判断される。天産部台帳と東京帝室博物館（1926c）を照合したところ、学習院への移管標本点数は 86 点で合致するものの、移管された標本の情報として天産部台帳では「A4986 メジロ雄 武蔵」、東京帝室博物館（1926c）では「A 四九八八 メジロ♂ 武蔵」と記載されており、天産部台帳番号に相違がみられた。天産部台帳の A4988 は「よしがも雄」であり、この標本には「學」印ではなく後述の「引継」印が押されていること、天産部台帳の A4986 と種、性、産地ともに合致していることから、天産部台帳番号の相違は移管時に作成された書類である東京帝室博物館（1926c）の誤記と考えられた。したがって、天産部台帳と東京帝室博物館（1926c）の記載に相違はないと判断した。このことから、東京国立博物館から学習院へ移管された動物標本数は、東京国立博物館（1973）で言及されたとおり、鳥類標本 86 点を含む 480 点であったことが明確になった。しかし、学習院へ移管された鳥類標本 86 点のなかには、YIO-IH 標本群の天産部台帳番号と合致するものは見出せなかった。つまり、「學」印が押された標本は、YIO-IH 標本群とは別系統の標本群であった。

ここで本論からは外れるが、天産部廃止後に学習院に標本が移管された経緯について言及しておく。吉廣（2016）によると、関東大震災で教授用標本のほとんどを消失していた学習院で、標本の収集は急務であったため、同じ宮内省管轄下であった帝室博物館（東京国立博物館）へ教授用標本を要請した。その頃、帝室博物館では天産部の廃止に伴い、文部省管轄の東京博物館（国立科学博物館）へ天産部標本の移管が進められていた。宮内省管轄下であった学習院と帝室博物館の間では、人事異動による職員の往来があり、人的交流があったことで学習院への天産部標本の保管転換が円滑に進められたと考察している。

2-5-3-2. 国立科学博物館への標本移管

天産部台帳において国立科学博物館へ移管された標本は、各標本の番号欄の右上に縦に「引継」印が押されていた（図 2-8C 左）。除籍された標本や「學」印には天産部台帳番号に斜線が引かれていたが、「引継」印の標本には斜線が引かれていなかった。台帳の末尾にある「文部省へ引継ヲ了セルモノ<引継>」との表記から（図 2-7）、「引継」印が帝室博物館から当時文部省管轄であった東京博物館（国立科学博物館）へ移管された標本を意味していることが読み取れた。天産部台帳で「引継」印の標本は、331 点が確認された。

このほか国立科学博物館への標本の移管については、「東京帝室博物館天産部列品其ノ他引渡ニ付報告」（東京帝室博物館 1926a）に分類群ごとの集計が記載されていた。この史料によると、国立科学博物館へ移管されたことを意味する「文部省へ譲渡」の動物区標本は、移管が完了した 1925 年 3 月 31 日時点の 23,798 点。これに 1926 年 1 月 13 日付で追加された「震災ノタメ列品ヨリ削除シタル損失品ヲ残務整理ニ於テ再調ノ結果現存シタルモノナリ」9 点と、「未製了品トシテ列品ニ組入レス保存シアリタルモノナリ」の骨格・仮剥製 15 点を加えた 23,822 点が東京国立博物館から東京国立博物館へ移管された標本の総数であることが確認された。これは東京国立博物館（1973）で言及されている国立科学博物館へ移管された動物標本数と一致していた。このうち鳥類標本については、移管完了（1925 年 3 月 31 日）時点の 3,943 点に、後日（1926 年 1 月 13 日）追加された標本 1 点と、列品に組み入れていなかった卵標本 2 点を加えると 3,946 点であった（東京帝室博物館, 1926a ; 1926e）。追加された 3 点に該当する標本は、前述した「A4575 野鷄」と、天産部台帳に鉛筆で書き足されていた「A5042 駝鳥（卵）3 個」, 「A5043 食火鷄（卵）6 個」である。

東京帝室博物館（1926a）は、天産部標本の引き渡しに関する最終的な報告で、宮

内大臣や次官らへ決裁を受けた公文書であることから、その記載内容は信憑性の高いものと考えられる。この資料に基づいて記載された東京国立博物館（1973）も同様に信頼できるものであると考えられる。このことについて、天産部台帳の末尾にある標本数を集計したメモを見ると、台帳登録点数の総計が 5,041 点とされ、廃棄などによって生じた除籍と学習院への移管の合計が 1,098 点、国立科学博物館への移管標本が 331 点、台帳登録数からこれらを引いた残り「残品」が 3,612 点、「残品」のうち 3,387 点が「學貸」とあった（図 2-7）。天産部台帳には「残品」の行き先や「學貸」の説明は記載されていないが、「残品」3,612 点と「引継」331 点を合わせると 3,943 点であり、移管完了（1925 年 3 月 31 日）時点の鳥類標本の移管数と一致した（東京帝室博物館，1926a）。これにより国立科学博物館へ移管された標本は「引継」印標本 331 点だけではなく、「残品」3,612 点も含まれると推測される。

国立科学博物館へ移管された「引継」印標本をはじめ、除籍を示す「贈」、「廃」、「震」印の標本や学習院への移管を示す「學」印の標本からは YIO-IH 標本群に含まれる標本を見出せなかった。したがって、天産部台帳の末尾の集計で「残品」とされた 3,612 点のなかに YIO-IH 標本群が含まれると推測される。「残品」のうち「學貸」3,387 点の記載は、YIO-IH 標本群の暫定標本数 3,349 点に近い値であった。「學貸」の説明は天産部台帳になかったものの、「十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ旨通知ノ件」（東京帝室博物館，1926d）の「備考」に「一 今回譲渡スヘキ動物區列品目録中「學貸」ノ印ヲ押捺シタル三五五八點ハ學習院へ貸與ノ分ナリ」と記されていたことから、「學貸」は学習院へ貸与された標本を意味していると解釈できる。YIO-IH 標本群が学習院に旧蔵されていたことを考慮すると、山階鳥研の標本群は天産部台帳の「學貸」標本と関連していることが推測される。

2-5-4. 天産部から移管された標本群と YIO-IH 標本群との関連

2-5-4-1. YIO-IH 標本群の検証

天産部から各機関へ移管された標本群と、山階鳥研の標本群との関連を整理するには、まず YIO-IH 標本群の範囲を明確にする必要がある。ここまでに明らかになった帝室博物館コレクションの歴史的背景と標本ラベルや天産部台帳の記載情報に基づいて、YIO-IH 標本群に含まれる可能性のある各標本を検証した。

追加される可能性があった YIO-24027 ノドグロヤイロチョウは、標本ラベルの左上に番号「54」が記載されていた（図 2-3A）。共通するラベルを持つ 92 点も同様に番号が記載され（図 2-3B）、YIO-24027 を含み 1 から 93 ままでが連番になっていた。標本

に付された天産部台帳番号をこの番号順にすると A3116 から A3208 まだが順に並び、途中 54 番目に当たる A3169 が欠番であった。YIO-24027 の標本ラベルに記載された番号から、A3169 には YIO-24027 が該当すると推測できる。天産部台帳にある A3169 の記載は、種名「*Pitta strepitans*」、産地「N. S. Wales」であり、YIO-24027 の標本ラベルの記載内容と一致していた（図 2-3A）。したがって、YIO-24027 は帝室博物館コレクションに含まれると判断され、YIO-IH 標本群は 3,349 点と確定された。

2-5-4-2. 山階鳥研の標本群と学習院へ貸与された標本との関係

天産部台帳で表記された「學貸」については、前述のように国立科学博物館から学習院へ貸与された標本を意味し、学習院へは東京国立博物館から移管された標本以外に貸与された標本もあったこと、学習院へ貸与された動物標本は 3,558 点であったことが判明した（東京帝室博物館，1926d）。しかしながら、東京帝室博物館（1926d）には学習院へ貸与された動物標本の内訳の記載はなく、貸与された鳥類標本の点数や該当する標本まではわからなかった。

天産部台帳の末尾の集計では、学習院への貸与標本（「學貸」）は 3,387 点であったが（図 2-7）、台帳の各標本の記載欄で「學貸」印が確認されたのは 28 点のみであった。この「學貸」印の標本 28 点のなかには YIO-IH 標本群に該当する標本は見出せず、7 点については、著者の調査で学習院中等科・高等科に現存していることを確認した（表 1-4）。「學貸」印標本は天産部台帳の記載からすべてが展示用剥製（本剥製）であり、これに対し YIO-IH 標本群はすべてが仮剥製であった。また、「學貸」印標本の一部が学習院中・高等科で確認された状況から、「學貸」印標本 28 点は山階鳥研へは移管されなかったと考えられる。学習院への貸与標本 3,387 点（図 2-7）から「學貸」印標本 28 点を差し引くと 3,359 点となり、これは YIO-IH 標本群の目録である『学習院標本目録』の標本数と一致する。しかし、台帳の各標本の記載欄にこの 3,359 点に対応する記載は見出せず、対応する標本については明確にはならなかった。

国立科学博物館所蔵資料の『学習院ヨリ新ニ希望ノ分（動物ノ部）』では、この資料に年次の記載がないため、どの時点のものかはわからないが、学習院からの追加要請として「哺乳類、鳥類、爬虫類、腔腸類」の「剥製、骨格、液漬、乾製、假剥製」標本、計 3,486 点の動物標本が記されていた。そのうち鳥類標本の記載は、剥製 20 点と仮剥製 3,359 点の計 3,379 点であった。剥製と仮剥製とが分けて表記されていたことから、「剥製」とは展示用剥製と考えられる。この資料には一部の標本、鳥類では「丹頂」、「鶴」、「コノハヅク」の 3 点の展示用剥製について学習院へ保管転換（移

管)することとし、それ以外については東京博物館（国立科学博物館）が必要とするまで学習院に貸与するという注記があった。このことから、展示用剥製 3 点以外の 3,376 点が国立科学博物館から学習院へ貸与されたと解釈できる。ここで、天産部台帳末尾の貸与点数が 3,387 点であったのに対し、この資料の貸与点数が 3,379 点であったことについて検討する。『学習院標本目録』の通し番号が 29 から始まっており（図 2-4）、山階鳥研に移管されなかった標本が 28 点存在していたと推測され、その点数が「學貸」印の展示用剥製数と合致すること、展示用剥製が現在も学習院中・高等科に所蔵されていることから、学習院が当初希望していた展示用の剥製点数が 20 点であったが、結果として 28 点の剥製が貸与され、仮剥製を含む貸与点数は 3,387 点になったと理解することが妥当である。

学習院への貸与標本について整理すると、天産部廃止後に東京国立博物館から国立科学博物館へ移管され、その後国立科学博物館から学習院へ貸与された動物標本は 3,558 点（東京帝室博物館，1926d）で、うち鳥類標本は 3,387 点（天産部台帳）であった。このうち展示用剥製 28 点を除く、3,359 点が山階鳥研に移管され、3,349 点が YIO-IH 標本群として現存していた。

2-5-5. 帝室博物館コレクションの歴史的背景と標本情報の復元への効果

2-5-5-1. 帝室博物館コレクションの歴史的背景

本章における結果から、帝室博物館コレクションは、総体として 1872（明治 5）年に開催された博覧会に出品された鳥類標本を出発点として、1923（大正 12）年に関東大震災の影響で帝室博物館天産部が廃止されるまでの間に収集された鳥類標本から成り立っていることが明らかとなった。そして、この標本群は、東京国立博物館が収集した標本と 1890（明治 23）年に国立科学博物館から移管された標本から成立したものであり、二つの国立博物館が明治から大正期にかけて収集したコレクションであった。国立科学博物館では、1890 年に所蔵標本を東京国立博物館に移管した後にも独自の標本収集を実施していたが、それらの自然史標本が関東大震災によってすべて焼失したことで（国立科学博物館，1977）、帝室博物館コレクションは明治・大正期に国立博物館が収集した唯一のナショナルコレクションとなった。

帝室博物館コレクションの規模は、関東大震災直前までに 5,041 点とされていたが（東京国立博物館，1973）、収集、管理の過程で寄贈や廃棄、関東大震災の影響で標本が減っていたことから、天産部廃止時点では 4,033 点となっていた。後述のようにその後、学習院（86 点）と国立科学博物館（3,946 点）へ移管された標本数の合算は

4,032 点であり、1 点の差異があった。これは、当時「A5017 のごま」1 点が震災により消失したとされ（天産部台帳）、その後の移管標本には含まれていなかったため（東京帝室博物館, 1926b, 1926c）、実際には現存することが本研究で判明した。したがって、天産部廃止時点の帝室博物館コレクションの標本数は 4,033 点で矛盾はなかった。

帝室博物館天産部が廃止された後、その動物標本は学習院へ 480 点（うち鳥類は 86 点）、国立科学博物館へ 23,822 点（うち鳥類は 3,946 点）が移管された（東京帝室博物館 1926a, 1926c）。その後、国立科学博物館へ移管された動物標本 23,822 点のうち 3,558 点が学習院へ貸与された（東京帝室博物館 1926d）。この貸与標本のうち鳥類標本は 3,387 点であった。その後、国立科学博物館から貸与標本の返却要請はなかったと推測され、貸与標本のうち展示用剥製 28 点を除く研究用仮剥製 3,359 点が学習院から山階鳥研へ移管されるに至った。これが帝室博物館コレクションから派生した YIO-IH 標本群であり、そのうち 3,349 点が現存していた（図 2-9）。

2-5-5-2. YIO-IH 標本群の評価

帝室博物館コレクションの一部である YIO-IH 標本群は明治・大正期のナショナルコレクションの中でどのような位置づけにあるのだろうか。東京国立博物館（1973）によれば、関東大震災直前の帝室博物館の各分類群の標本数は鳥類を除き、哺乳類 953 点、爬虫類 492 点、両生類 172 点、魚類 2,947 点、昆虫類 4,238 点、貝類約 7,000 点であった。鳥類標本の台帳登録数が 5,043 点であったことを考えれば、帝室博物館の自然史標本の中でも鳥類は特に充実していたと考えられる。東京国立博物館（1973）には「特に鳥類と爬虫類等では現在の国立科学博物館の標本資料を凌ぐといっても過言ではなかった」とも述べられている。国立科学博物館の 2006 年時点の鳥類標本数は約 6,300 点であったことから（森岡 2006）、帝室博物館コレクションは東京国立博物館（1973）刊行時点の国立科学博物館の鳥類標本に近い規模であったことは間違いない。このことから、帝室博物館コレクションは明治・大正期の充実したコレクションであり、日本の博物館史の研究資源として有用であると言える。

また、山階鳥研に現存する YIO-IH 標本群（3,349 点）は、天産部廃止時点の帝室博物館コレクション（4,033 点）の約 8 割（83.0%）を占める。これは、明治・大正期のナショナルコレクションの大部分が現存していることを意味する。YIO-IH 標本群の中には、ラベルに日本の鳥学の草創期に活躍したスミソニアン国立自然史博物館のレナード・スタイナー（Leonhard Stejneger, 1851–1943）や東京教育博物館の波江元

吉（1854–1918）の名前が記載されている標本があり，日本の鳥学史において興味深い標本群である．太平洋戦争の影響で失われてしまった標本が多い中，日本の博物館史や鳥学史研究において，戦災を経てなお明治・大正期のナショナルコレクションの多くが現存していた意義は大きい．

2-5-5-3. 帝室博物館コレクションの歴史的背景の解明がもたらす各標本への効果

冒頭で述べたように，YIO-IH 標本群の標本情報には不明確な点が多く，山階データベースにおいては，YIO-IH 標本群 3,349 点の 9 割（93.1%）を超える 3,117 点について，採集年次は不明のままである（山階鳥類研究所 2021）．本論により明確になった帝室博物館コレクションの歴史的背景は，個々の標本の情報復元においてどのような意義をもたらすであろうか．

帝室博物館コレクションは，収集経緯によって次の 3 つの標本群に分けられた：(1) 1872–1889 年に東京国立博物館が収集した標本群，(2) 1875–1890 年に国立科学博物館が収集した標本群，(3) 1889–1923 年に東京国立博物館が収集した標本群．この 3 つの標本群に YIO-IH 標本群を当てはめると，(1) 733 点，(2) 2,370 点，(3) 246 点であることがわかった．この収集期間の限定により，個々の標本の採集時期を特定できた．例えば，山階データベースで採集年が確定されていない YIO-42784 (A3) *トラツグミ* *Zoothera dauma* では，天産部台帳の記載から (2) の標本群に該当し，1890 年までに収集されていたことから，標本ラベルに記載された採集日「24/11/84」は，「1884 年 11 月 24 日」であると判断できる（図 2-10）．このように標本に付されたラベルだけでは明確でない情報も，歴史的背景の解明によって情報の信頼性が保証され，個々の標本の学術的な価値を向上させることができる．

本論では帝室博物館コレクションを収集過程の異なる 3 つの標本群に分けることで，山階鳥研に現存する標本群の採集年代を限定できることを示した．今後，帝室博物館コレクションをさらに小規模な標本群に分けて検討することで，個々の標本についてさらに情報を得ることも可能である．例えば，(1)，(2) の標本群は，海外の博物館との交換によって得られた標本が多く，旧蔵機関である海外の博物館の標本台帳やフィールドノート類から取得できる採集情報もあるだろう．(3) の標本群については，列品保管証に対応する資料が東京国立博物館に残されており，この資料から標本ラベルでは確認できない採集情報や周辺情報を得ることができるであろう．小規模の標本群についての歴史的背景や，個々の標本と対応する旧蔵機関や採集者については，次章以降で検討することとする．

表 2-1. 調査で利用した博物館の史料や台帳類. 小林・加藤 (2017) より転載.

調査目的	史料名	所蔵機関
帝室博物館コレクションに 関連する台帳類とその検証	学習院標本目録	山階鳥研
	天産部 列品目録 鳥類	国立科学博物館
	天産部 列品目録 哺乳類	
	館資 508「十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ 旨通知ノ件」(東京帝室博物館 1926d)	東京国立博物館
	館資 508「十九 元天産部列品ヲ文部省へ無償譲渡ノ件 伺」(東京帝室博物館 1926e)	
帝室博物館コレクションの 標本点数	館資 409「第一九號 國華外五百點學習院女學部へ無償 譲渡稟議の件」(東京帝室博物館 1912)	東京国立博物館
	館資 827「列品台帳削除ノ件」(東京帝室博物館 1924)	
	館資 508「十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ 旨通知ノ件」(東京帝室博物館 1926d)	
	館資 508「十九 元天産部列品ヲ文部省へ無償譲渡ノ件 伺」(東京帝室博物館 1926e)	
天産部廃止後の標本移管	学習院保管品目録(動物ノ部) 大正十二年十二月十二日貸出	国立科学博物館
	館資 508「東京帝室博物館天産部列品其ノ他引渡ニ付報 告」(東京帝室博物館 1926a)	東京国立博物館
	館資 508「十四 學習院長ヨリ受領證送付ノ件」(東京 帝室博物館 1926c)	
	館資 508「十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ 旨通知ノ件」(東京帝室博物館 1926d)	
	館資 508「十九 元天産部列品ヲ文部省へ無償譲渡ノ件 伺」(東京帝室博物館 1926e)	
天産部から移管された標本 群と YIO-IH 標本群との関 連	館資 508「十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ 旨通知ノ件」(東京帝室博物館 1926d)	東京国立博物館
	学習院ヨリ新ニ希望ノ分(動物ノ部)	国立科学博物館
	東京帝室博物館 (1926a)	
考察および今後の展望	館資 508「五 天産部列品九百四拾八点ヲ文部省へ無償 譲渡ノ件伺」(東京帝室博物館, 1926b)	東京国立博物館
	東京帝室博物館 (1926c)	
	東京帝室博物館 (1926d)	

表 2-2. 天産部台帳の記載による標本の取得年代と台帳への登録完了年代. 小林・加藤（2017）より転載.

台帳のA番号	標本の取得年																																						
	明治22							明治30							明治40							大正元							大正12										
	1889	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	1900	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23				
A1～A2381	2381																												★										
A2382～A3115	734																												★										
A3116～A3249								134																						★									
A3250～A3594	137	201	1										2	1	3																★								
A3595～A4648	357	361	11	7	9	7	12	7	6	1	1	32	8	6	29	28	19	22	15	7	103	6	★																
A4649～A4890	15	12											19	23	27	9	3	2	3	85	4	5	7	24	4											★			
A4891～A5034																						10	22	9	9	7						76	10	1★					
A5035～A5041																																	4	3★					

標本の寄贈や削除から推定される登録完了年代は★で示した. A1–A2381 : 1890 年東京教育博物館からの引継標本, A2382–A3115 : 1889 年宮内省博物館からの引継標本, A3116–A3249 : 1893 年濠州博物館からの寄贈標本, A3250–A3594 : 1889 年以降取得され, 1910 年までに台帳に登録された標本, A3595–A4648 : 1889 年以降取得され, 1912 年までに登録された標本, A4649–A4890 : 1889 年以降取得され, 1920 年までに登録された標本, A4891–A5034 : 1912 年以降取得され, 1920 年までに登録された標本, A5035–A5041 : 1912 年以降取得され, 1923 年までに登録された標本.

表 2-3. 天産部台帳で鉛筆書きや小さいスタンプで「廃棄」と記載されたもののうち、現存が確認された標本 26 点. 小林・加藤 (2017) より転載.

ID	天産部 台帳番号	台帳の種名	標本番号
1	A4016	くろつぐみ <i>Turdus cardis</i> Tem	YIO-43046
2	A4017	いそひよどり <i>Monticola solitarius</i>	YIO-42169
3	A4028	<i>Ostinops citreus</i>	YIO-50814
4	A4257	ぐはびてう 画眉鳥	YIO-36966
5	A4259	おしどり 鸕鷀 <i>Anas galericulata</i> L.	YIO-13873
6	A4268	はくとうおう 白頭翁	YIO-35469
7	A4275	むくどり 一種	YIO-57035
8	A4280	せきせいゝんこ	YIO-06830
9	A4287	うみすゝめ 一種	YIO-12783
10	A4344	はゝてう	YIO-57562
11	A4360	<i>Stipitulus malachurus</i>	YIO-37482
12	A4361	<i>Conurus pertinax</i>	YIO-07147
13	A4606	わしノ一種	YIO-09021
14	A4610	くろみづなぎどり	YIO-00744
15	A4611	くろみづなぎどり	YIO-00745
16	A4630	チャウシヤウバト	YIO-05977
17	A4637	テツバシダルマインコ	YIO-07544
18	A4640	ちょうびけい 長尾鶏 <i>Gallus domesticus</i> Briss	YIO-18440
19	A4641	ちょうびけい 長尾鶏 <i>Gallus domesticus</i> Briss	YIO-18441
20	A4643	ちょうびけい 長尾鶏 <i>Gallus domesticus</i> Briss	YIO-18442
21	A4645	しまふくろ 角鴮 <i>Bubo blackistoni</i> Seeb	YIO-19487
22	A4659	ホルンビル 一種	YIO-30444
23	A4660	ホルンビル 一種	YIO-30441
24	A4666	しやむろばと	YIO-05797
25	A4788	つばめノ一種	YIO-25511
26	A4789	いはまきつばめノ一種	YIO-25271

表 2-4. 天産部台帳で「學貸」印の記載があった 28 点のうち学習院中・高等科で標本が確認された 7 点. 小林・加藤 (2017) より転載.

ID	天産部 台帳番号	台帳の種名
1	A3304	やつがしら 載勝 <i>Upupa epops</i> Linn
2	A3467	やまつばめ又とつくりつばめ <i>Hirundo alpestris nipalensis</i> Hodgs
3	A3617	さぶなみ 長尾鶏 (しらふじ) <i>Gullus bankiva</i> var <i>domesticua</i> B
4	A3728	ひらしぎ <i>Tringa pigmaea</i> L
5	A4553	こかりがね <i>Anser erythropus</i> Linn
6	A4902	アデリイペンギン
7	A4904	マク コルミックスクア

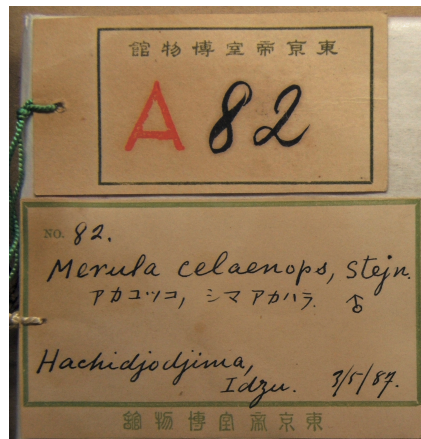


図 2-1. 帝室博物館の印字が入った標本ラベル. 上: 天産部台帳番号が記載されたラベル, 下: 標本の採集情報が記載されたラベル. 小林・加藤 (2017) より転載.



図 2-2. 帝室博物館コレクションにみられる帝室博物館以外の機関が印字された標本ラベル. A: 東京教育博物館, YIO-21453, B: Smithsonian Institution, United States National Museum (スミソニアン国立自然史博物館), YIO-00240, C: National Museum Victoria (現メルボルン博物館), YIO-50441, D: Muséum D'Histoire naturelle (フランス国立自然史博物館), YIO-01372. 本図は小林・加藤 (2017) より転載.

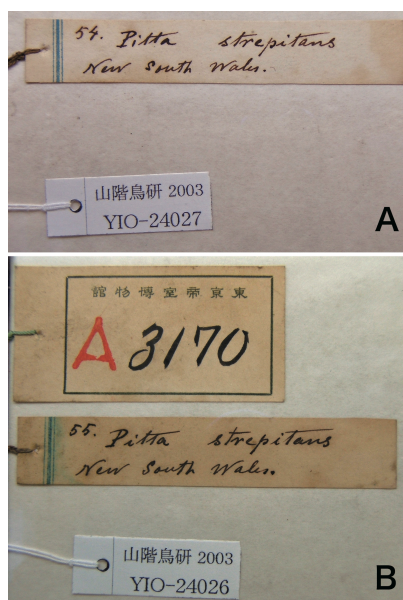


図 2-3. 左側に 3 本の青色ラインのあるラベル. A : YIO-24027, B : YIO-24026 ノドグロヤイロチョウ *Pitta versicolor*. 小林・加藤 (2017) より転載.

鳥類 仮割製				
29✓ A 1	又エビナイ	トラツグニ	日光	仮割製 1
30✓ A 2	全		全	全 1
31✓ A 3	全	♀	駿河	全 1
32✓ A 5	マシロ	♂	伊豆	全 1
33✓ A 6	全	♂	伊豆天城	全 1
34✓ A 7	全	♂ (幼)	相模足柄山	全 1
35✓ A 8	全	♂ (幼)	全	全 1
36✓ A 9	クロツグニ		全	全 1
37✓ A 10	全	♂	武蔵秩父	全 1
38✓ A 11	全	♂	—	全 1
39✓ A 12	全	♂	相模足柄山	全 1
40✓ A 13	全	(幼)	甲斐台ヶ原	全 1
41✓ A 14	4マウマツグニ	♂	磐城	全 1
42✓ A 15	全	♂	全	全 1
43✓ A 16	全	♂	全	全 1
44✓ A 17	全	♀	全	全 1
45✓ A 18 ✓	全	♀	全	全 1
46✓ A 19	全	♀	全	全 1
47✓ A 20	全	♂	全	全 1
48✓ A 21	全	♂	全	全 1

図 2-4. 『学習院標本目録』. 山階鳥研所蔵.

番 號	品 目	産 地	数 量	製 法	價 格	備 考
A 1	ぬわい 又とらつぐみ <i>Geocichla varia</i> Pall. (White Ground-Thrush)	下野日光 Nikko	1	假刺製	50	二十三年東京教育博物館引經
A 2	同 (" " ")	同	1	同	50	同
A 3	同 雄 (" " ") ♀	駿河 Omihayama Suruga 24/11/84	1	同	70	同
A 4	同 (" " ")	同	1	同	35	同 四十五年七月十五日 學報院女學部へ寄贈
A 5	まみろ 雄 <i>Geocichla sibirica</i> Pall. (Siberian Ground-Thrush) ♂	伊豆 Kiryama Idzu 15/5/85	1	同	1.00	同
A 6	同 雄 (" " ") ♂	伊豆 天城 Amagi Idzu 15/5/85	1	同	1.00	同
A 7	同 雄 (幼) (" " ") ♂	相模 足柄山 Ashigarayama Sagami 28/10/84	1	同	1.00	同
A 8	同 (幼) (" " ") (Jun)	同 28/10/84	1	同	70	同
A 9	とらつぐみ <i>Merula cardis</i> Tem (Grey Japanese Ouzel)	伊豆 岩田野 Iwadano Idzu 13/5/85	1	同	60	同
A 10	同 雄 (" " ") ♂	武蔵 秩父 Chichibu Musashi 14/1/85	1	同	80	同
A 11	同 雄 (" " ") ♂	同	1	同	40	同
A 12	同 雄 (" " ") ♂	相模 足柄山 Ashigarayama Sagami 28/10/84	1	同	80	同
A 13	同 (幼) (" " ") (Jun)	甲斐 塩ヶ原 Daigahara Kai 22/7/86	1	同	60	同
A 14	あやうま 又つぐみ 雄 <i>Merula fuscata</i> Pall. (Dusky Ouzel) ♂	岩城 Hashikuma Iwaki 4/1/86	1	同	40	同
A 15	同 雄 (" " ") ♂	岩城 赤井村 Akaimura Iwaki 8/1/86	1	同	40	同
A 16	同 (" " ") ♂	岩城 神子山				

図 2-5. 天産部台帳. 国立科学博物館所蔵.



図 2-6. YIO-53606 シメに付された列品保管証に対応するラベル. 小林・加藤 (2017) より転載.

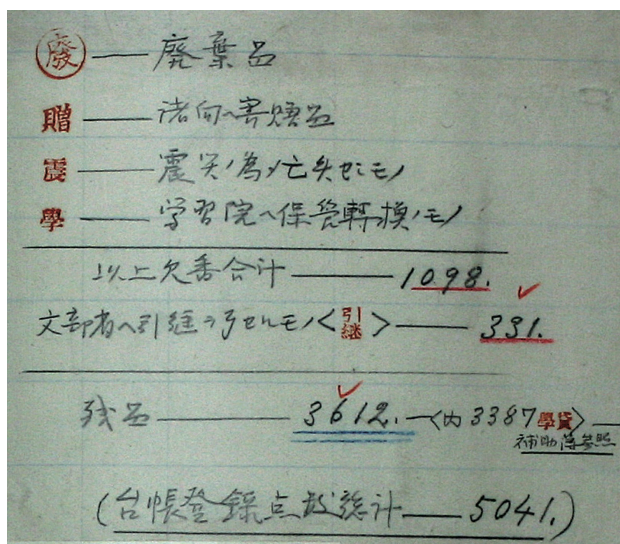


図 2-7. 天産部台帳の末尾に貼られた標本点数を集計したメモ. 小林・加藤 (2017) より転載.

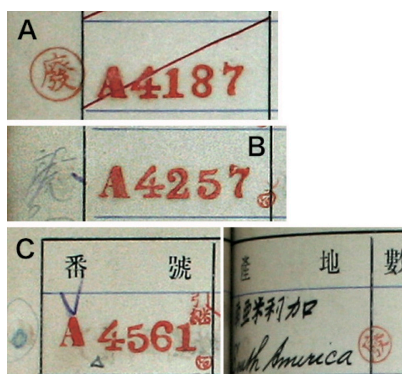


図 2-8. 天産部台帳で廃棄処分を意味する記載. A: 図 2-7 と同じ「廢」印, B: 鉛筆書きによる記載, C: 産地欄に押された小さいスタンプ. B と C は番号欄に斜線が引かれていない. 小林・加藤 (2017) より転載.

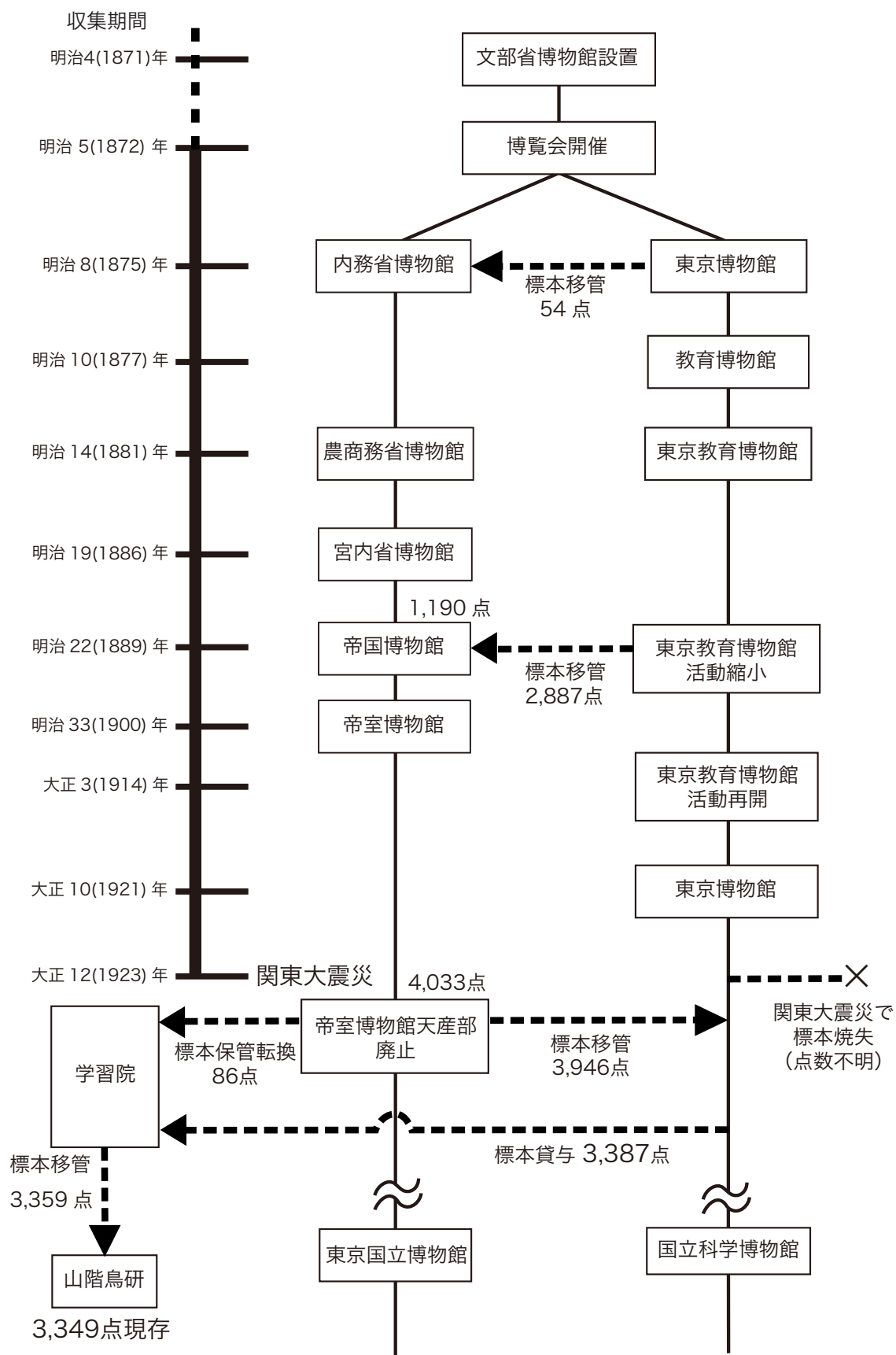


図 2-9. 国立博物館の歴史と帝室博物館コレクションの移管の流れ. 点線は標本の移動を示す.
小林・加藤（2017）を基に改変.

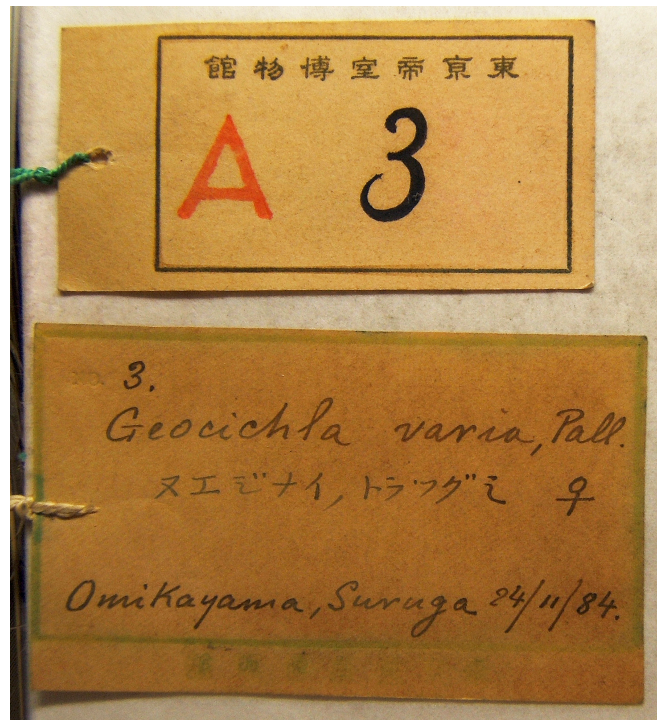


図 2-10. YIO-42784 トラツグミに添付されたラベル. 小林・加藤 (2017) より転載.

第3章

帝室博物館コレクションを構成する

主な標本群の歴史 その1

－スミソニアン米国立博物館由来標本群－

3-1. はじめに

明治・大正期の日本のナショナルコレクションの一部である YIO-IH 標本群は 3,349 点の標本から成り立っている。その中には、海外産の鳥類標本が多数存在し、なかでも “Smithsonian Institution” (以後、スミソニアン) と表記されたラベルを付した標本が多数確認される (図 3-1)。このなかには、北米で絶滅したカロライナインコ *Conuropsis carolinensis*, エスキモーコシヤクシギ *Numenius borealis* や、日本産のリュウキュウヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis pryeri*, リュウキュウカラスバト *Columba jouyi* のホロタイプが含まれている。このように学術上重要な標本が含まれている標本群ではあるが、山階鳥研にはスミソニアンから標本を入手した経緯が判る資料や、スミソニアンから標本が移管された当時の資料が確認されてないため、現状の標本情報は添付されたラベルから読み取れるものに限定されている。そのためにラベルの紛失、汚損、破損があれば標本情報は得られない。また、ラベルの記載が筆記体などで読み取りにくい場合は、誤読によって正確な情報を得られていない可能性がある。YIO-IH 標本群はこのような理由で採集年代や採集地が明確でない標本が多く、研究に利用しにくいという問題があった。

これらの問題を解決するために、前章で帝室博物館コレクションの歴史的背景を調査した。本章では、スミソニアン由来標本が日本へ送られた歴史的経緯を明らかにし、その過程で見出される記録から個々の標本の採集情報を補足する、または既知の情報を裏付けることでスミソニアン由来標本の学術的価値の向上を目指した。

本章では、対象となる 19 世紀のスミソニアンの名称 “United States National Museum, the Smithsonian Institution” を「スミソニアン米国立博物館」とする。また、日本の博物館の名称は表 1-1 を参照する。

3-2. 調査対象と方法

3-2-1. 調査対象

本章における検討対象は、YIO-IH 標本群のうちスミソニアンから寄贈された標本である。YIO-IH 標本群の採集や由来に関わる情報を確認するための資料として、これまで確認されたものは標本に添付されたラベルと、帝室博物館コレクションを網羅した天産部台帳である。天産部台帳には、種名や産地のほか、寄贈先などの入手経緯についても記載されている。YIO-IH 標本群に含まれる “Smithsonian Institution” と印字されたラベルを付した標本 604 点の入手経緯は、明治「二十二年舊博物館引継品」(舊=旧)、あるいは明治「二十三年東京教育博物館引継」と記されており、天産部台帳に

はスミソニアンから標本が移管された記載はなかった（図 3-2）. しかし、天産部台帳の入手経緯の記載からは標本を入手した年代の下限が明らかになった. 「二十二年舊博物館引継品」と表記された標本は、1889（明治 22）に宮内省博物館から帝国博物館へ引き継がれた標本であり、1889 年までに入手された. 「二十三年東京教育博物館引継」と表記された標本は、1890（明治 23）年に国立科学博物館から東京国立博物館へ移管された標本であり、1890 年までに入手された.

また、天産部台帳の「品目」欄には種名に続き、スミソニアンのラベルに記載されたものと同じ番号が表記されていた. その番号の前には、“S.I.”と記され（図 3-2A, B）, “Smithsonian Institution”の略記と考えられる. したがって、天産部台帳に“S.I.”の略記があれば、標本にスミソニアンの印字ラベルが付されていない場合でも、スミソニアン由来標本と推測できる. 天産部台帳に“S.I.”の略記があり、スミソニアンのラベルが付されていない標本は 116 点が確認された（図 3-2B 参照）. 一方で、スミソニアンのラベルが付された標本のなかには、天産部台帳に“S.I.”の記載がない場合もあり（図 3-2C 参照）, スミソニアン由来標本に対し常に“S.I.”と表記されていたのではないことも確認された. つまり、標本ラベルと天産部台帳だけでは、スミソニアン由来標本を完全に判別することはできなかった.

3-2-2. 調査方法

既知の資料である天産部台帳により、スミソニアン由来標本は東京国立博物館と国立科学博物館の収集標本であったことが明らかになったため、両博物館の歴史書（東京国立博物館 1973, 国立科学博物館 1977）から関連する記載を探索した. これらの歴史書の記載を基に他機関に保管される歴史資料を探索した.

標本の旧蔵機関であるスミソニアンの資料については、まずスミソニアンの年報（Smithsonian Institution 1878, 1880, 1881, 1883, 1889, 1890）から日本の博物館へ標本が送られた記載を探索した. 北米の博物館では、機関として博物館資料の入出の記録を体系的に記録、保存しているため（蔭山 2005, 小林・浅井 2007）, 日本へ標本を送付した当時の書簡や送付リストなどの資料が、スミソニアンに保存されている可能性がある. 年報の記載を基に、スミソニアンの古資料を保存しているスミソニアン協会アーカイブスでこれらを探索した.

平行して、標本ラベルと天産部台帳にスミソニアンの標本管理番号と推測される番号が表記されていたことから、これを明確にするためにスミソニアン自然史博物館鳥類部門に保存されている標本台帳 “catalog ledger”（以後、スミソニアン台帳）を調査

した．YIO-IH 標本群のスミソニアン由来標本は，ラベルから採集情報が判読できる標本も多いが，誤読している可能性もあり，採集情報の修正や追加が期待される．例えば，YIO-19465 (A1388) アメリカワシミミズク *Bubo virginianus* では，天産部台帳にスミソニアンの標本管理番号と推測される“6886”の表記はあるものの，旧蔵機関のラベルが欠落していてスミソニアン由来標本か否かが明確ではない（図 3-2D）．スミソニアン台帳やスミソニアンから見出された資料から“6886”がスミソニアンの標本管理番号であることが明確にできれば，YIO-19465 はスミソニアンに由来する標本であることが判明するとともに，スミソニアン台帳から採集情報を補足することが可能である．

3-3. 結果および考察

3-3-1. 東京国立博物館が入手したスミソニアン由来標本

東京国立博物館が収集したスミソニアン由来標本については，東京国立博物館（1973）に日本政府が 1876（明治 9）年に開催された米国フィラデルフィア万国博覧会へ出展したことがきっかけで，翌 1877（明治 10）年にスミソニアンなどと天産物物品（自然史標本）を交換したこと，事務交渉は外務省を介して行われたことが書かれていた．この記述に基づき，外交史料館の資料（JACAR, Ref. B12082112200）を探索した結果，当時のスミソニアンの副長官（Assistant secretary）であったスペンサー・フラトン・ベアード（Spencer Fullerton Baird, 1823–1887）がワシントン駐在日本公使に宛てた 1877 年 6 月 15 日付の書簡の写しが見つかった（図 3-3）．書簡の差出人であるベアードは，鳥類学者であり，スミソニアンの初代キュレーターで 2 代目の長官を務めた人物である．1876 年に開催されたフィラデルフィア万国博覧会で，ベアードはスミソニアンのコレクション展示を監督し，博覧会終了後は出品者へスミソニアンに標本を寄贈してくれるよう働きかけた（Smithsonian Institution Archives 2020）．この資料の内容は，東京国立博物館百年史（東京国立博物館 1973）における「フィラデルフィア万国博覧会がきっかけとなり，日本の博物館がスミソニアンと標本の交換に至った」という記載とも合致した．

ベアードの書簡には，“Tokio Museum”へ米国の農務省から木材標本 2 箱とスミソニアンから南米産鳥類標本 1 箱を送り，“Mombusho Museum”へはスミソニアンから北米産鳥類標本 2 箱と北米産魚類標本 1 箱の計 3 箱を送った旨が書かれていた（図 3-3）．この書簡の内容について天産部台帳を確認したところ，「二十二年舊博物館引継品」（東京国立博物館）の標本は中南米産であり，「二十三年東京教育博物館引継」（国立

科学博物館)の標本は北中米産であった。したがって、ベアードの書簡にある“Tokio Museum”は東京国立博物館の前身にあたる内務省博物館, “Mombusho Museum”は国立科学博物館の前身にあたる教育博物館と判断された。

ここまでをまとめると、東京国立博物館(1973)とベアードの書簡から、天産部台帳に記載されたとおり、スミソニアンから東京国立博物館と国立科学博物館へ鳥類標本が送付されたことが裏付けられ、送付年代は1877年であったことが判明した。

3-3-2. 国立科学博物館が入手したスミソニアン由来標本

国立科学博物館が収集したスミソニアン由来標本は、前述のようにスミソニアンから1877年に送付されていたことが判明したが、スミソニアンのラベルを付した標本のなかには、1877年以降から1887年までに採集されたものが複数存在した。スミソニアンラベルを付し、1877年以降に採集された標本の全てが「二十三年東京教育博物館引継」であったことから、国立科学博物館には、1877年の交換とは別にスミソニアンから鳥類標本が送られている可能性が示唆された。国立科学博物館(1977)によると、スミソニアンから1880年に184点、1881年に212点の動物標本を送られたことが言及されていた。しかし、スミソニアンラベルの標本の中に1881年以降の採集が確認されたことから、1877年以降にスミソニアンから国立科学博物館へ鳥類標本が送られた経緯について、国立科学博物館(1977)から把握することはできなかった。

3-3-3. スミソニアン資料から得られた入手経緯

東京国立博物館や国立科学博物館の歴史書やベアードの書簡から得られた情報を基に、スミソニアンの年報から関連する記載を探索した。年報には1877年に日本の2つの博物館へ鳥類標本を送付した明確な記載はなかったが、1879年にスミソニアンが文部省や教育博物館から返礼として送られた魚類と鉱物の標本を受け取ったことが書かれていた(Smithsonian Institution 1878, 1880)。この記述について、前述したスミソニアンとの標本の交換を示す外交史料館の歴史資料で確認したところ、1879年に文部省が教育博物館に準備させた魚類と鉱物の標本を、外務省を経由してスミソニアンに送った旨の一連の書類が見出され、1877, 79年に日本政府とスミソニアンとの間で標本の交換が行われたことを裏付けた(JACAR, Ref.B12082112200)。

国立科学博物館(1977)で言及された1880, 81年にスミソニアンから動物標本が送られたことについては、1880年のスミソニアン年報に日本の文部省から植物標本が送られた記載はあったが、1880, 81年の両年にスミソニアンから動物標本を国立科学

博物館へ送付した記載は確認できなかった (Smithsonian Institution 1881, 1883). したがって、国立科学博物館 (1977) で言及された 1880, 81 年にスミソニアンから動物標本が送られた、という情報は間違いである可能性が考えられる。

スミソニアンのラベルを付した標本の採集年が 1887 年までであったこと、国立科学博物館が収集した標本は 1890 年までに入手されていたことから、スミソニアンからの入手年代を 1887-90 年と推測し、その間のスミソニアン年報から日本へ送付された標本に関連する記載を探索した。その結果、1887 年の年報には日本への標本送付についての記載はなかったが、スミソニアンが東京教育博物館 (国立科学博物館) などから民族学資料、魚類、鉱物、鳥類標本を受け取ったことが書かれていた (Smithsonian Institution 1889)。1888 年の年報では“Educational Department, Tokyo”から鳥類標本、漆器、鉱物、沖縄の和鞍を受け取り、その返礼として、スミソニアンから 117 点の鳥類剥製標本を送ったことが書かれていた (Smithsonian Institution 1890)。同年報の別ページには、東京教育博物館の波江元吉 (1854-1918) が 1887 年に伊豆諸島で採集した標本が送られたこと、また、スミソニアン鳥類部門のアシスタント・キュレーターであったレナード・スタイネガー (Leonhard Stejneger, 1851-1943) が、波江採集の伊豆諸島産標本からアカコッコ *Turdus celaenops* を新種として記載したことが書かれていた (Smithsonian Institution 1890)。これらのことから、1887, 88 年頃にスタイネガーと波江らの学術的な交流によって、スミソニアンと東京教育博物館との間で自然史標本を交換していたことがうかがい知れた。

1887, 88 年のスミソニアン年報から得られた情報を整理すると、スミソニアンには日本から鳥類標本はじめ、民族資料や魚類、鉱物標本が送られていた。その返礼としてスミソニアンは東京教育博物館へ鳥類標本 117 点を送った。しかし、東京教育博物館へ鳥類標本を送付した明確な年代や個々の標本の詳細な情報は、年報からは明らかにならなかった。

3-3-4. 古資料から得られたスミソニアン由来標本の範囲

スミソニアン協会アーカイブスで標本発送当時の書簡や送付標本リストなどを探索した結果、スミソニアンが、1877 年 6 月 16 日に“Mombusho Museum, Tokio, Japan”へ送付した鳥類標本のリスト (Smithsonian Institution Archives, Record Unit 105, Box 33, Folder 4, 図 3-4 参照) と、1887 年 9 月 22 日に“Tokio Educational Museum” (東京教育博物館) へ送付した鳥類標本のリスト (Smithsonian Institution Archives, Record Unit 105, Box 34A, Folder 2, 図 3-5 参照) が見出された。1877 年のリストにはスミソニアンが

送付した 1,204 点，1887 年のリストには 117 点が，スミソニアン の標本管理番号とともに記載され，日本に送付された標本点数とスミソニアン管理番号が明確になった．送付リストで明らかになったスミソニアン管理番号は，YIO-IH 標本群の各標本に添付されたラベルや，天産部台帳に表記された番号と照合することができた．

1877 年の送付リストは，冒頭に表記された送付日がベアードの書簡の日付 1877 年 6 月 15 日の 1 日後であり，同じ時期に作成されていた．送付先は Mombusho Museum であり，ベアードの書簡で言及された Tokyo Museum（東京国立博物館）と Mombusho Museum（国立科学博物館）に書き分けられてはいなかったが（図 3-4A），リストの後半に“Neotropical birds”として 431 点がまとめられていた（図 3-4B）．この 431 点の採集地を標本ラベルや天産部台帳で確認すると中南米産であり，1 点を除き東京国立博物館の収集品であった．このことから，送付リストで“Neotropical birds”とされた 431 点は，ベアードの書簡で言及された，スミソニアンから内務省博物館へ送付された南米産鳥類標本 1 箱と推定された．一方，送付リストで“Neotropical birds”としてまとめられていない前半の 773 点は（図 3-4A），標本ラベルと天産部台帳によると北中米産であり，3 点を除き国立科学博物館の収集品であったため，ベアードの書簡で教育博物館へ送られたとされた北米産鳥類標本 2 箱と推定された．

1887 年の送付リストに記された送付先（東京教育博物館）と標本点数（117 点）は 1888 年のスミソニアン年報の言及どおりであり，送付年は 1887 年であったことが明らかになった（図 3-5）．

見出された 1877 年，1887 年の送付リストからは，個々の標本の入手経緯を明確にできた．さらにスミソニアンの標本ラベルの記載に頼ることなく，スミソニアンに由来する標本を特定できた．いくつかの標本については次のような事実が明らかになった．例えば，スミソニアンのラベルが付されていない YIO-07243 キビタイボウシインコ（図 3-2B）では，ラベルや天産部台帳の種名“*Chrysotis levaillantii*”と番号“30111”に該当する標本が，1877 年送付リストの Neotropical birds から見出された（送付リストには“*Chrysotis levaillanti* 30111”と表記）．種名のスペルに若干の違いがあるにせよ，送付リストで指し示す種名と番号はラベルや天産部台帳と合致することから，YIO-07243 は送付リストの 30111 に該当し，スミソニアンの標本管理番号 USNM 30111 と考えられた．USNM 30111 は，送付リストから 1877 年に東京国立博物館に送られた標本であり，YIO-07243 は天産部台帳から東京国立博物館の収集標本であるので，YIO-07243 は USNM 30111 に該当するとして矛盾はなかった．また，旧蔵機関のラベルが欠落し，スミソニアン由来標本であるかが判別できなかった YIO-19465 アメリカ

ワシミミズク（図 3-2D）については、天産部台帳に表記された“*Bubo virginianus* Gm 6886”と同じ種名と番号が 1877 年送付リストから見出された。送付リストで、USNM 6886 は YIO-19465 の天産部台帳の情報と同じ国立科学博物館へ送付されたことから、YIO-19465 はスミソニアン由来標本の USNM 6886 であると判断された。

3-3-5. スミソニアン台帳による採集情報復元の可能性

スミソニアンの標本管理番号が把握できた標本の採集情報を調べるために、スミソニアン台帳を閲覧し情報を照合した。スミソニアン台帳では日本に送付された標本に、“Sent to Mombusho Mus., Tokio, in 1877.”（1877 年 Mombusho Museum へ送付）、あるいは“Sent to Tokio Ed. Mus., Sep 22/87”（1887 年 9 月 22 日東京教育博物館へ送付）と表記されていた（図 3-6）。1877 年の表記は、同年の標本送付を裏付けたが、送付先は送付リストと同様に Mombusho Museum で一括に表記され、ベアードの書簡にあった“Tokio Museum”（東京国立博物館）と“Mombusho Museum”（国立科学博物館）に書き分けられてはいなかった。1887 年の表記は、送付リストと同様に、同年に東京教育博物館（国立科学博物館）へ送付したことを裏付けた。

また、スミソニアン台帳からは標本の採集情報が得られ、標本ラベルに書かれていない情報の補足や、標本ラベルから読み取った情報の修正が可能になった。個々の標本の情報復元については他所で議論するが、例えば前述のスミソニアンのラベルが付されていなかった YIO-19465（USNM 6886）アメリカワシミミズク（図 3-2D）は、カリフォルニア州で採集され、採集日の記載はなかったが 1857 年に台帳に登録された標本であることが判った。YIO-03487（USNM 84645）アメリカオグロシギ *Limosa haemastica*（図 3-7）は、山階鳥研において採集日は「1779 年 5 月」とされていたが、スミソニアン台帳の採集日は 1879 年 5 月 17 日であり、ラベルに表記された“May 17 79”を誤読していたことが判った。YIO-39976（USNM 13589）ムナジロゴジュウカラ（図 3-1B）は、ラベルには採集年の記載がなかったが、スミソニアン台帳から採集年次は、標本を台帳へ登録した 1859 年 12 月 17 日以前に限定することができた。

3-3-6. スミソニアン由来標本群の歴史的考察

帝室博物館コレクションのスミソニアン由来標本は、スミソニアンから（1）1877 年に東京国立博物館（内務省博物館）に送付、（2）同年に国立科学博物館（教育博物館）に送付、（3）1887 年に国立科学博物館（東京教育博物館）に送付の 3 つのルートによって入手されていた。そして国立科学博物館が入手した（2）および（3）は、1890

年に東京国立博物館へ移管されたことで、皇室博物館に所蔵されるに至った(図 3-8). 各ルートの標本数は (1) 431 点, (2) 773 点, (3) 117 点であり (図 3-8), 山階鳥研には (1) 422 点 (98.3%), (2) 768 点 (99.1%), (3) 116 点 (99.1%) が所蔵され, スミソニアンから送付された鳥類標本のほとんどが現存していたことが判った. また, スミソニアンとの標本交換に至った経緯は, 1877 年の (1), (2) は日米両政府の外交として, 1887 年の (3) は東京教育博物館とスミソニアンとの学術的な交流であったことも明らかになった. スミソニアンのスタイネガーは, 東京教育博物館から送られた琉球列島や伊豆諸島産などの鳥類標本から, 冒頭で紹介したリュウキュウヒヨドリやリュウキュウカラスバトを含む 11 種を新種として記載している (Stejneger 1887a, 1887b, 1887c, 1887d, 1888, 1892). この中にはホントウアカヒゲ *Icoturus namiyei* Stejneger, 1887 やリュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus tegimae* Stejneger, 1887 のように, 東京教育博物館の波江や同館館長の手嶋精一 (1850–1918) に献名された種がある. 現在, スタイネガーがホロタイプに指定した標本は, 7 種がスミソニアン自然史博物館鳥類部門, 4 種が YIO-IH 標本群に存在している.

スミソニアン台帳からは, 標本ラベルからは得られなかった採集者や収集者 (コレクター) が判明した事例もあった. 例えば, YIO-50470 (USNM 104941) アオバネアメリカムシクイ (図 3-1A) は, ラベルにはコレクターの表記はなかったが, スミソニアン台帳でロバート・リッジウェイ (Robert Ridgway, 1850–1929) が採集した標本であったことが判明した. リッジウェイはスミソニアン鳥類部門のキュレーターで, 1887 年に東京教育博物館へ鳥類標本を送付した人物であった. YIO-39976 (USNM 13589) ムナジロゴジュウカラ (図 3-1B) は, ラベルからコレクターの判読が困難であったが, イギリスの鳥類学者で博物画家として知られるジョン・グールド (John Gould, 1804–1881) が収集した標本であったことが判明した. コレクターが判明すると, 採集者のフィールドノートや, コレクターの人物史などからより詳細な採集情報を得られる場合がある. YIO-50567 (USNM 69263), YIO-50571 (USNM 69264) キヅタアメリカムシクイ (図 3-6A, B) は, アメリカ西部開拓時代の学術探検調査で収集された標本であり, ラベルにスミソニアンの管理番号とは別の番号が記載されていた. この番号は採集者のヘンリー・ウェザビー・ヘンショウ (Henry Wetherbee Henshaw, 1850–1930) が付した管理番号と推測される. このヘンショウの番号を基に, 彼のフィールドノートからより詳細な情報を得たり, 調査報告書などの当時の出版物から標本を利用した記録を見出すことが可能である. また, たびたび言及している YIO-19465 (USNM 6886) アメリカワシミミズクはベアードの著書 (Baird et al. 1874) のイラスト

トのモデルとなっており，研究利用の証拠標本であることも確認された．今後これらの検討を継続することで，より詳細な情報を標本に付与し，標本のさらなる学術的価値の向上を目指していきたい．

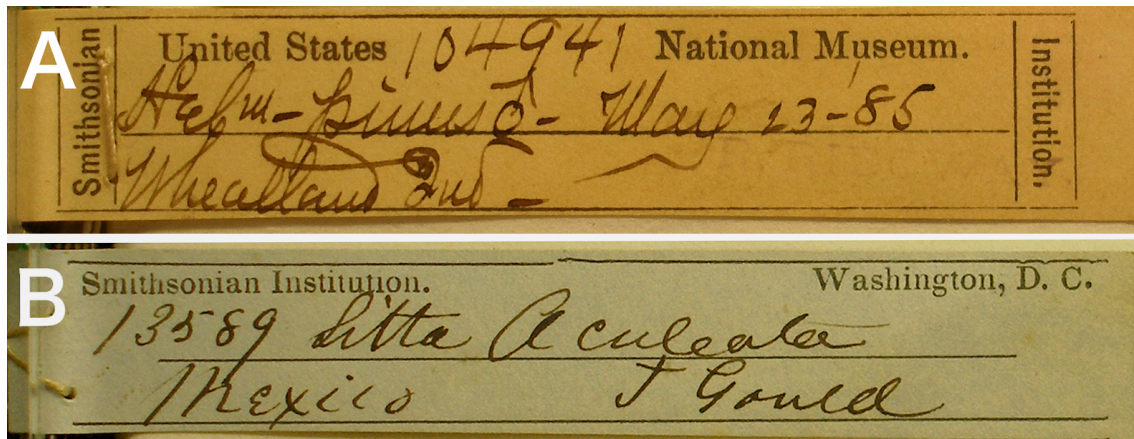


図 3-1. 山階鳥研が所蔵する帝室博物館旧蔵鳥類標本群内に見られる“Smithsonian Institution”と印字されたラベルの例. A: YIO-50470 アオバネアメリカムシクイ *Vermivora pinus* のラベル, B: YIO-39976 ムナジロゴジュウカラ *Sitta carolinensis* のラベル. 本図は小林・加藤 (2020a) より転載.



図 3-2. スミソニアン由来標本と天産部台帳の記載. A : YIO-20797 (A2701) ケンハシオニキバシリ *Xiphorhynchus picus* の例. 天産部台帳の備考欄に「二十二年舊博物館引継品」と表記. 品目欄には「S.I.」に続き番号の表記があり, 標本にはスミソニアンのラベルが添付している. B : YIO-07243 (A2672) キビタイボウシインコ *Amazona ochrocephala* の例. 天産部台帳の品目欄に「S.I.」の記載があり, 標本に添付されたラベルにスミソニアンの表記なし. 天産部台帳の備考欄は「二十二年舊博物館引継品」. C : YIO-50603 (A1741) ハゴロモムシクイ *Setophaga ruticilla* の例. 天産部台帳の品目欄には「S.I.」の表記がなく, スミソニアンのラベルが添付. 備考欄は「二十三年東京教育博物館引継」と表記. D : YIO-19465 (A1388) アメリカワシミミズク *Bubo virginianus* の例. 標本から旧蔵機関のラベルが欠落. 天産部台帳にスミソニアンの標本管理番号と推測される「6886」が記載. 備考欄は「二十三年東京教育博物館引継」. 天産部台帳は国立科学博物館所蔵. 本図は小林・加藤 (2020a) より転載.

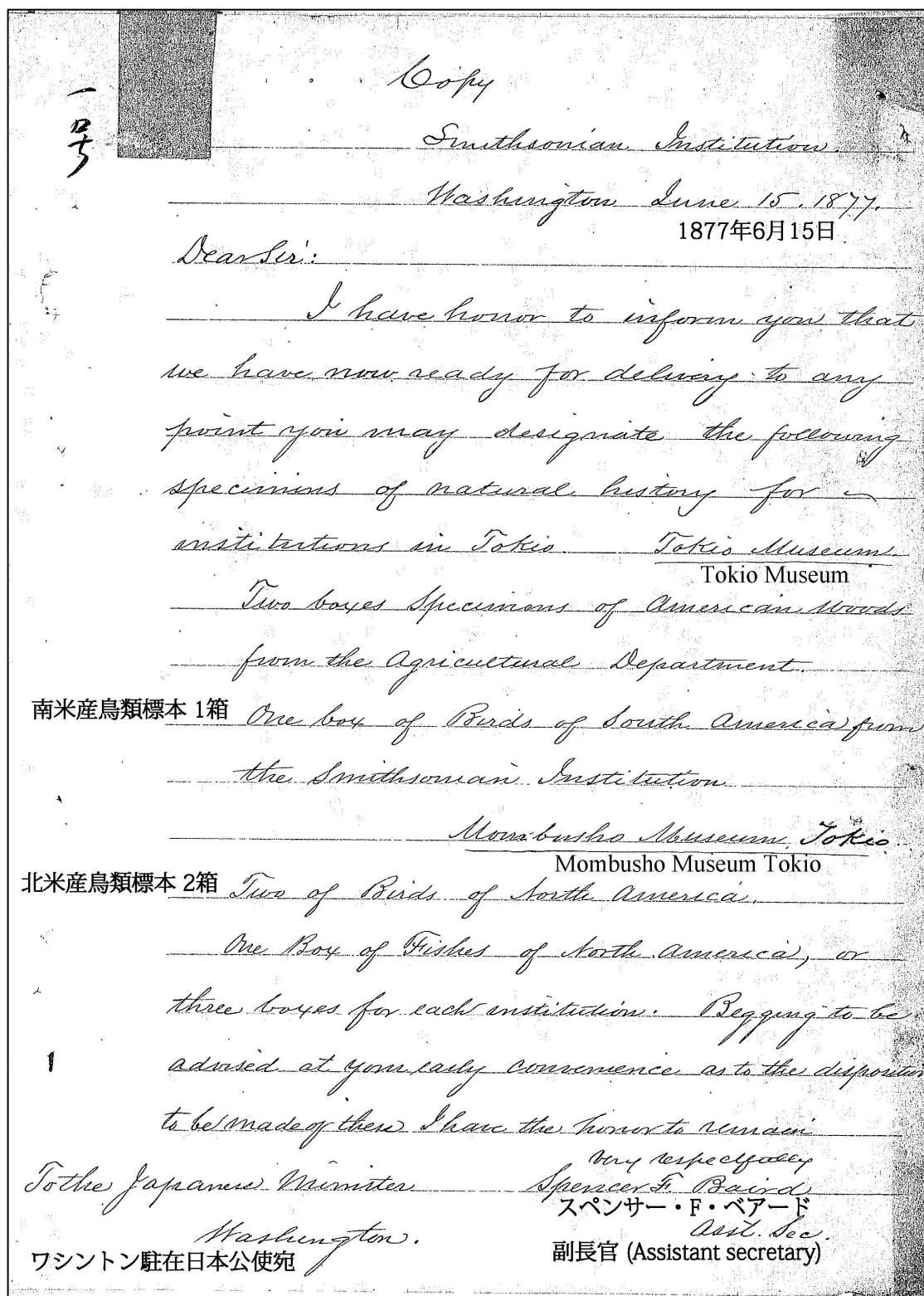


図 3-3. 1877 年にスミソニアンから日本の博物館へ標本を送付したことが書かれた書簡の写し。JACAR. Ref.B12082112200 (第 11 画像目) より転載。

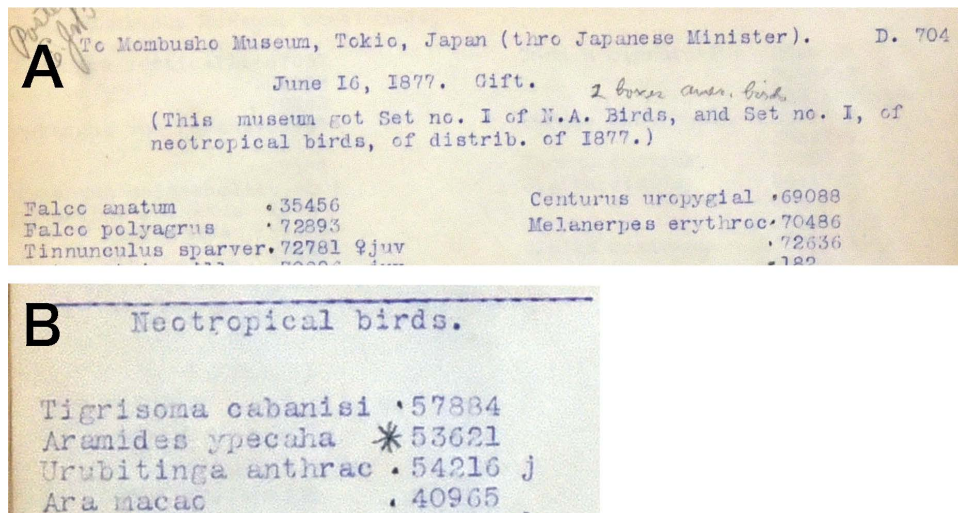


図 3-4. 1877 年にスミソニアンから日本へ送付した標本リスト. A: 最初のページの冒頭に 1877 年 6 月 16 日に “Mombusho Museum, Tokio” へ送付した旨の記載があった. リストは種名の次にスミソニアン標本管理番号が記載されていた. B: リストの後半は “Neotropical birds” として標本がまとめられていた. スミソニアン協会アーカイブス所蔵資料, Record Unit 105, Box 33, Folder 4 より転載.

3186

SMITHSONIAN INSTITUTION.

U. S. NATIONAL MUSEUM.

DISTRIBUTION OF SPECIMENS.

Date, September 22, 1887

Current No.,

; Place, Tokio, Japan. Name, Tokio Educational Museum.

[9984-5,000.]

Nature of Objects.

Locality.

Original Donor.

Catalogue
Number.

No. of
Specimens.

No. of
Species.

Remarks.
(How sent, etc.)

Alchiphorus occidentalis California

C. N. Townsend 107423 ✓

1

(Exchange)

Podilymbus podiceps Virginia

H. W. Smith 111544 ✓

1

Simothynchus pusillus Bornig Sea

C. N. Townsend 106885 ✓

1

Alca borealis ♂

Newfoundland

W. Palmer 111727 ✓

1

Stercorarius pomarinus ♀

"

U. S. F. B. Dr. Bangs 109648 ✓

1

" parasiticus ♀ Mass.

"

U. S. F. B. 109665 ✓

1

図 3-5. 1887 年にスミソニアンから東京教育博物館へ送付した標本のリスト. リストの冒頭に “September 22/ '87” (1887 年 9 月 22 日), “Tokio Educational Museum” (東京教育博物館) へ送付された旨の記載があった. リストには種名, 採集地, 採集または収集者, スミソニアン標本管理番号, 点数が記載されていた. スミソニアン協会アーカイブス所蔵資料, Record Unit 105, Box 34A, Folder 2 より転載.



図 3-6. スミソニアン台帳の記載と対応する標本. A, スミソニアン台帳で USNM 69263 は“Sent to Mombusho Mus., Tokio, in 1877.”と記載され, YIO-50567 キヅタアメリカムシクイ *Dendroica coronate* (右) に対応していた; B, USNM 69264 は“Sent Tokio Ed. Mus., Sep 22/87”と記載され, YIO-50571 キヅタアメリカムシクイ (左) に対応していた. A, B の標本ラベル (下) は“Explorations and Surveys West of the 100th Meridian” (アメリカ大陸西経 100 度線探検調査) と印字されていた. 台帳はスミソニアン自然史博物館鳥類部門所蔵 catalog ledger Vol.13, 129 ページより転載. 本図は小林・加藤 (2020a) より転載.

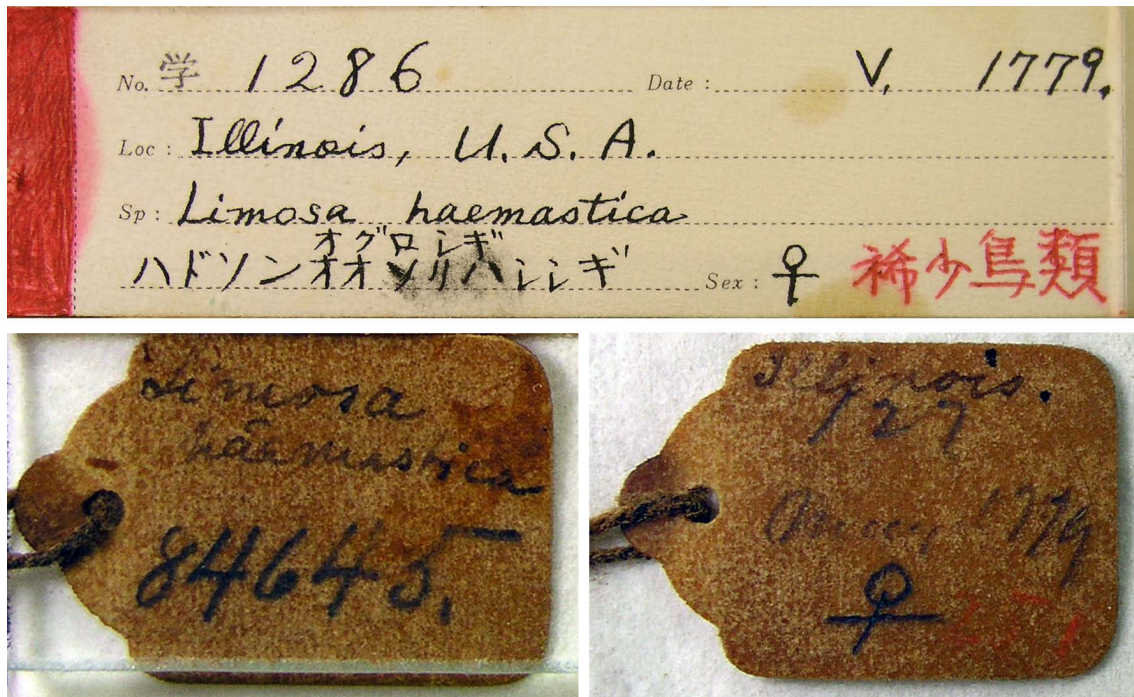


図 3-7. YIO-03487 (USNM 84645) アメリカオグロシギ *Limosa haemastica* に付された山階鳥研のラベル（上）と、スミソニアン・ラベル裏表（左右下）。スミソニアンラベル（右下）に採集日が“May 17 79”と表記されていて、山階鳥研のラベル（上）では採集日を“V. 1779”（1779 年 5 月）と判読されている。小林・加藤（2020a）より転載。

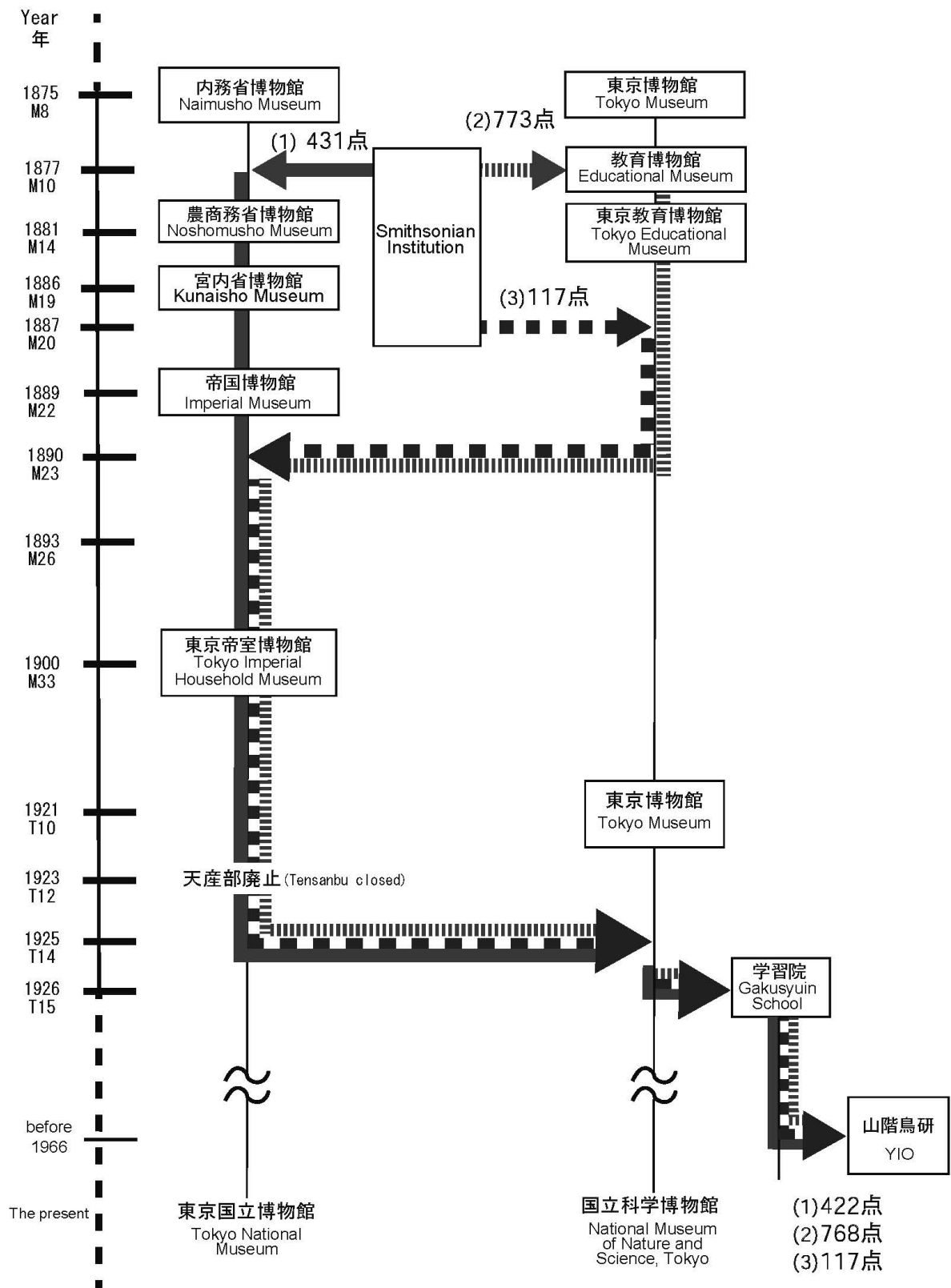


図 3-8. YIO-IH 標本群におけるスミソニアン由来標本の移管経路と明確になった点数. 小林・加藤 (2020a) を基に改変.

第 4 章

帝室博物館コレクションを構成する

主な標本群の歴史 その 2

-オーストラリア博物館由来標本群-

4-1. はじめに

帝室博物館コレクションには明治期に諸外国の博物館との交換によって得られた外国産の鳥類標本が多数含まれており、本章では、第3章のスミソニアン由来標本と同様に、YIO-IH 標本群に含まれるオーストラリア博物館由来標本が日本へ送られた歴史的経緯について検討する。その過程で見出された資料から、各標本の採集情報を明確にすることを目的とする。

4-2. 調査対象と方法

4-2-1. 調査対象

YIO-IH 標本群の情報源は、標本に添付されたラベルと、コレクション全体を網羅した天産部台帳である（2章参照）。標本ラベルと天産部台帳の記載から、オーストラリア博物館に由来すると推察される標本は、国立科学博物館の前身である「東京教育博物館」の印字があり、オーストラリア博物館から入手したことを示す「from Australian Museum by exchange」と表記されたラベルを付した標本と（図4-1A）、天産部台帳に「二十六年七月濠洲博物館寄贈」と表記された標本である（図4-2A）。本章ではこれらの標本及び関連資料からこれらの標本群に含まれると推定される標本を対象に検討を行う。

東京教育博物館の印字ラベルの標本は175点が確認された。このラベルの上部には1から125の番号が記載されているが、番号が重複している場合があった。また、これらの標本は天産部台帳ではA1139からA3266間に散在し、ラベルの番号配列との関係性は見出されなかった（表4-1）。天産部台帳の備考欄には「二十三年東京教育博物館引継」と表記されているのみで（図4-1B）、オーストラリア博物館由来であることは記されておらず、1890（明治23）年までに東京教育博物館（国立科学博物館）が入手していたことのみが把握された。

一方で、天産部台帳で「二十六年七月濠洲博物館寄贈」と表記された標本は、台帳番号A3116からA3249までに連続して登録された134点に該当した（表4-2）。1893（明治26）年にオーストラリア博物館から帝国博物館（東京国立博物館）に送られたこの134点の標本には、天産部台帳番号ラベルと、これとは別に番号、種名、採集地が書かれたラベルが付されていた（図4-2B）。この採集情報のラベルに表記された番号は、A3116からA3249の順に1から134まで並び、134点の通し番号と考えられる。なお、第2章で検討したように、YIO-24027 ノドグロヤイロチョウには「A3169」の帝室博物館ラベルは添付していないが、「54」の通し番号が記載された共通のラベル

が添付していたことから、YIO-24027 はこの標本群に含まれる A3169 として扱う。

東京教育博物館と帝国博物館がオーストラリア博物館から入手した標本群に添付するラベルの傾向は異なるが、アルファベット一文字の後に番号が刻印された金属製のタグがおおむね共通して添付し、天産部台帳の品名欄には種名に続いてタグの番号が表記されていた（図 4-1, 4-2）。この金属タグは、現在国立科学博物館に所蔵されているオーストラリア博物館由来の哺乳類標本に類似する金属タグが添付していたことから（加藤 2018）、オーストラリア博物館に由来すると考えられる。

以後、これら二つのオーストラリア博物館由来の標本群ごとに、日本に送られた歴史的経緯を解明する。

4-2-2. 調査方法

オーストラリア博物館に由来する標本は、東京国立博物館と国立科学博物館の収集標本であったことから、両博物館の歴史書（東京国立博物館 1973, 国立科学博物館 1977）から関連する記載を探索し、その記載を基に資料を探索した。次にオーストラリア博物館の年報から日本の博物館へ標本が送られた記載を探索した。国立科学博物館の収集標本については、ラベルに印字されている館名である東京教育博物館に名称変更された 1881 年から、帝国博物館へ標本を移管する 1890 年まで、東京国立博物館の収集標本については、天産部台帳で寄贈を受けたと言及された 1893 年と翌 94 年を対象に調査した（Australian Museum 1882, 1883, 1884, 1885, 1886, 1887, 1888a, 1889, 1890, 1891, 1894, 1894-5）。

さらに、東京国立博物館と国立科学博物館の歴史書や、オーストラリア博物館年報の記載を基に、標本が送付された当時の書簡や送付リストなどの資料を探索した。オーストラリア博物館に由来する哺乳類標本では、金属タグにオーストラリア博物館の標本番号が刻印されていたことから（加藤 2018）、オーストラリア博物館アーカイブスで同館の標本受入台帳（Australian Museum Register, 以後オーストラリア博物館台帳）を調査した。種名については、山階鳥研の標本以外の種名は Gill et al. (2020) に準拠した。

4-3. 結果および考察

4-3-1. 国立科学博物館と東京国立博物館の歴史書による検証

国立科学博物館では 1882 年から 1885 年にかけてオーストラリア博物館を含む諸外国の博物館から資料を受入れていたことが知られる（国立科学博物館 1977）。しかし、

それらの具体的な年代や資料の内容についての言及はみられず、詳細を把握することはできなかった。一方、東京国立博物館では、1893年にオーストラリア博物館から鳥類標本134点が寄贈されていた（東京国立博物館 1973）。この記載の根拠が天産部台帳の情報である可能性がある。

4-3-2. オーストラリア博物館年報による検証

4-3-2-1. 国立科学博物館が収集した標本

オーストラリア博物館の年報では、1882-3年、1887-8年の2回にわたり、“Educational Museum, Tokyo (Tokio), Japan”（東京教育博物館、現在の国立科学博物館）と標本を交換したことが言及されていた（Australian Museum 1883, 1884, 1888a, 1889）。

1882-3年の標本交換は、1882年にオーストラリア博物館から国立科学博物館へ貝類121種286点と甲殻類34種73点が送られ、翌83年に国立科学博物館からオーストラリア博物館へ哺乳類1点、鳥類5種5点、爬虫類2種2点、魚類8種8点が送られた（Australian Museum 1883, 1884）。1887-8年の標本交換は、送付年は明記されていなかったが、オーストラリア博物館から国立科学博物館へ鳥類標本125種169点と鉱物標本（点数の記載なし）が送られ、国立科学博物館からオーストラリア博物館へは魚類標本が送られる予定であることが言及されていた（Australian Museum 1888a, 1889）。この記述から、国立科学博物館は1887-8年にオーストラリア博物館から鳥類標本を入手していたことが判明した。しかし、「東京教育博物館」と印字されたラベルを付した標本は175点が確認され、年報で言及された送付点数169点とは合致しないため検討が必要である。

4-3-2-2. 東京国立博物館が収集した標本

オーストラリア博物館年報によれば、1893年にオーストラリア博物館から“Imperial Japanese Government”（日本政府）へ鳥類標本80種133点、貝類標本54種157点、魚類標本3種3点が送られ（Australian Museum 1894）、返礼として翌94年に東京国立博物館からオーストラリア博物館へ貝類標本384点が送付された（Australian Museum 1894-5）。この記述は、天産部台帳や東京国立博物館（1973）の記載を裏付けた。さらに年報からは、オーストラリア博物館から直接東京国立博物館宛に送られたのではなく、日本政府を経由して、貝類、魚類標本などと一緒に鳥類標本が送られていたことも判明した。しかし、年報で言及された送付標本は、天産部台帳や山階鳥研で確認された134点より1点少なく、検討が必要である。

4-3-3. 古資料による検証

4-3-3-1. 国立科学博物館が収集した標本

オーストラリア博物館年報の記載を基に、オーストラリア博物館アーカイブスで送付当時の資料を探索した。その結果、1888年に国立科学博物館へ送付した際の標本リストが見出された（図 4-3: Australian Museum 1888b）。

このリストには 169 点の標本情報が記載されており、これはオーストラリア博物館年報（Australian Museum 1888a, 1889）の記載と合致する。送付リストと YIO-IH 標本群および天産部台帳と照合したところ、リストの番号は標本に添付する金属タグの番号に対応した。なお、「東京教育博物館」印字ラベルが添付していないものの、オーストラリアに分布する鳥類標本に金属タグが添付、もしくは天産部台帳にタグの番号が記載されているものも照合させた結果、送付リストの 169 点中 166 点を YIO-IH 標本群から確認することができた（表 4-3）。このうち、YIO-37492 は「東京教育博物館」ラベルも金属タグも添付しておらず、天産部台帳にタグ番号の記載もなく、送付リストの番号と照合はできなかったが、標本の種 *Acanthiza lineata*（ムナフトゲハシムシクイ）と天産部台帳の採集地“N. S. Wales”が送付リストと合致したため、166 点に含めた（表 4-3）。一方で、「東京教育博物館」ラベルが添付していた YIO-38558 は、金属タグが添付せず、天産部台帳にもタグの番号の記載がなく、そのうえ当該標本のみ「二十二年旧博物館引継」と記載され、「二十三年東京教育博物館引継」ではなかったため、「東京教育博物館」ラベルが誤って付された可能性があり、166 点には含まなかった（表 4-3）。

また照合の結果、「東京教育博物館」ラベルの上部に記載されている番号が送付リストの配列に従っていることも確認された（表 4-3）。ラベルの番号は、ラベルの欠落によって欠けている番号もあるが、送付リストと照合できた標本は種ごとに 1 から 125 ままで確認され、オーストラリア博物館年報で言及された送付標本種数 125 種とも合致した（表 4-3）。

しかし、東京教育博物館ラベルが添付する標本の中には、送付リストには記載がなかった 26 点が確認された（表 4-4）。オーストラリア博物館アーカイブスからは、1888 年 1 月 2 日付の送付リスト以外に、国立科学博物館へ鳥類標本を送付した資料は見つからず、送付リストより実際に送られた標本が多い理由は判らなかった。しかし、この 26 点の標本の東京教育博物館ラベルに表記された番号は、送付リストに掲載された標本の後にまとめて付番されていたことから（表 4-3, 4-4）、送付リストには追加

のページがあった可能性が考えられる。

4-3-3-2. 東京国立博物館が収集した標本

東京国立博物館資料館で、標本が送付された 1893 年当時の資料を探索した結果、オーストラリア博物館からの書簡と、送付された標本リストが見出された（図 4-4; 帝国博物館 1893）。書簡は 1893 年 3 月 2 日付で、オーストラリア博物館のキュレーターで鳥類学者であったエドワード・ピアゾン・ラムゼイ（Edward Pierson Ramsay, 1842–1916）から外務省の高橋 昌（Sakan Takahashi, 生没年不明）宛に鳥類、貝類、魚類の標本を送った旨が書かれていた（帝国博物館 1893）。送付標本リストは、オーストラリア博物館年報の記載通り、“Imperial Japanese gove, Tokyo, Japan”（日本政府）に宛てられ、日付は 189 “3” がインクの染みで読めなかったが、ラムゼイの書簡の日付から 1893 年 1 月 14 日付と判断された（図 4-4）。リストの項目は番号（Reg. No.）、点数（No. of Specimens）、種名（Description）、採集地（Locality）の欄があり、1 行につき標本 1 点ずつが表記されていた（図 4-4）。また、送付リストに表記された番号 “Reg. No.” は、国立科学博物館に送られた送付リストと同様に標本の金属タグ番号に対応し、オーストラリア博物館の標本番号であることが確認された。なお、送付リストでは綴じ代部分に隠れて判読できない部分があったが（図 4-4）、標本、天産部台帳と送付リストを照合したところ、送付リストで判読できなかった 15 点を補うことができた。その結果、送付された標本数は 134 点であったことが判明した（表 4-2）。東京国立博物館（1973）の刊行段階では、天産部台帳は国立科学博物館の所蔵となっており、おそらくはこの書簡と送付標本リストが記述の根拠となったものと考えられる。

天産部台帳や標本ラベルの番号が送付リストの順で並んだことから、東京国立博物館では標本を送付リストの順で天産部台帳に登録し、通し番号を表記したラベルを標本に添付したと考えられる。したがって、採集情報が書かれたラベルは、オーストラリア博物館で添付されたのではなく、東京国立博物館が標本を受け取った後に送付リストから情報を転記して付したものと推察された。

4-3-4. オーストラリア博物館台帳による検証

YIO-IH 標本群に添付する金属タグや送付リストから、各標本のオーストラリア博物館の標本番号を確認および推定した。この標本番号を用いて標本情報の復元や修正を行うためにオーストラリア博物館台帳を閲覧した。オーストラリア博物館台帳の番号は、最初のアルファベット “A” が最も古い台帳で使用され、次に “B”，“O” の順

で使用されていた。以後、オーストラリア博物館の標本番号を示す場合は、番号の前に“AM”と表記する。オーストラリア博物館台帳の記載欄は、標本登録日 (Date), 台帳番号 (Consecutive No.), 種名 (Name or Description), 採集地 (Locality), 入手方法 (How acquired), 寄贈者 (Name of Donor or Seller), 価格 (Estimated or Market Value), 移管先 (Destination), 備考 (Remarks) であった。オーストラリア博物館台帳で送付リストの番号に対応する標本は、1888 年に国立科学博物館へ送付された標本であれば、移管先欄に“Tokyo mus. 1888”, 1893 年に東京国立博物館へ送付された標本であれば、“Tokio mus.”と表記されていた (図 4-5)。これらによって、送付リストの番号はオーストラリア博物館の標本番号であったことが明確になった。国立科学博物館へ送付された標本のうち 185 点、東京国立博物館へ送付された標本のうち 130 点、計 315 点をオーストラリア博物館台帳と照合することができた。

今回閲覧したオーストラリア博物館台帳は博物館の設立当初から継続して利用されているものであり、オーストラリア博物館の最も基礎的な情報源である。日本に送られた標本に付属する送付リストは、台帳の情報を転記したものと推測され、大まかな採集地情報しか記載されておらず、採集者などの情報は転記されていなかった。また、後述するように送付リストと博物館台帳との間には相違点がみられた。両者の間で矛盾がある場合は台帳の情報がより信憑性が高く、台帳の情報が優先されると判断された。

オーストラリア博物館台帳と各標本の採集情報を照合した結果、日本の博物館では送付リストの採集地を、天産部台帳や標本ラベルに転記していた。送付リストから認識された採集地は、オーストラリア博物館台帳と異なったり、地名がより詳細であったりする事例が、照合した 315 点中 288 点 (91.4%) で確認された。例えば、YIO-50450 (AM A.5375) アカミミダレミツスイ *Anthochaera carunculata* の採集地は、標本ラベルや送付リストからニューサウスウェールズ州とされていたが、オーストラリア博物館台帳では、タスマニア州で採集されたキミミダレミツスイ *A. paradoxa* であった。アカミミダレミツスイはニューサウスウェールズ州に生息するが、タスマニア州には生息しない (Pizzey et al. 2012)。YIO-50450 を測定したところ、翼長 173.7mm, 尾長 235.6mm, 跗蹠長 39.5mm で各部位ともアカミミダレミツスイより大きく、キミミダレミツスイの測定値に合致した (Higgins et al. 2001)。したがって、YIO-50450 はオーストラリア博物館台帳の記載通り、キミミダレミツスイと同定された。YIO-50450 のように、採集地が修正されることで、種同定の見直しが必要な標本が見つまっている。

オーストラリア博物館由来の標本に添付するラベルや送付リストには、採集日の情

報が記載されていなかった。オーストラリア博物館台帳にも採集日を記載する欄が設けられていなかったが、標本が登録された年月日の記載欄があり、この登録日以前に採集されたことは確実であった。一例として YIO-14008 (AM B.8570) コクチョウは、“B.8570”の金属タグのみ添付し、ラベルが欠落していたために採集情報不明として扱われてきた。送付リストでは採集地が“New South Wales”となっているが、オーストラリア博物館台帳の記載から、博物館の剥製師であったジョン・アドルフ・ソープ (John Adolphus Thorpe, 生没年不明) がクイーンズランド州フレーザー島 (Frasers Island) で採集した標本であることが確認された。B.8570 がオーストラリア博物館に登録されたのは 1885 年 10 月であり、採集者であるソープのオーストラリア博物館での任期は 1869-1907 年であったことから (Australian Museum 2021), 採集日は 1869 年から 1885 年 10 月までに限定することが可能であった。

4-3-5. オーストラリア博物館由来標本の歴史的考察

本章における結果から、帝室博物館コレクションのオーストラリア博物館に由来する標本は、1888 年に同館から国立科学博物館へ送られた 195 点と、1893 年に東京国立博物館へ送られた 134 点、計 329 点から構成され、YIO-IH 標本群には 326 点が所蔵されていたことが明らかになった (図 4-6)。300 点規模のオーストラリア産鳥類標本群は国内では類をみず (国立科学博物館 2022), ワシントン条約や生物多様性条約などの国際的な取り決めによって、海外産標本を新たに入手することが困難な現状のなか、今後、同規模のオーストラリア産標本群を日本国内で構築することは見込めないであろう。この状況を鑑みれば、帝室博物館コレクションのオーストラリア博物館由来標本は、国内において貴重な鳥類標本群であると言える。

さらに、オーストラリア博物館由来標本の歴史を検討する過程で、送付リストが見出され、オーストラリア博物館台帳との照合が可能になった。この結果、YIO-IH 標本群のオーストラリア博物館由来標本 326 点のうち 288 点 (88.3%) で採集地が追加、修正できた。各標本の採集情報の復元については、改めて他所で議論するが、情報が復元されたことで、同一標本が、山階データベース (山階鳥類研究所 2021) と、オーストラリアの博物館データベースである OZCAM (Online Zoological Collections of Australian Museum) の両方で公開されている事例が確認された。これは OZCAM が過去の生物の分布を把握する目的で、現在所蔵する標本かに関わらず、博物館の標本台帳に記載されている情報を登録しているためである。この中には、同一標本であるのに、異なった情報で公開されている標本も確認された。例えば、YIO-08757 (AM B.9397)

では、山階データベースではクロトキ *Threskiornis aethiopicus* だが、OZCAM ではオーストラリアヘラサギ *Platalea regia* として公開されている (CHAFC 2021)。現状では本研究のような調査をしない限り、山階データベースの YO-08757 と OZCAM の B.9397 を同一標本と認識することは困難である。山階データベースと OZCAM が連携されていれば、山階データベースで公開している標本の画像を閲覧者が見て、嘴の形状や頭部が暗色などの特徴から、オーストラリアヘラサギではなく、オーストラリアクロトキ *T. molucca* であると判断することができる (図 4-7)。山階データベースで旧蔵機関であるオーストラリア博物館の標本番号で検索できるなどの工夫で、双方のデータベースを関連づけられれば、双方の精度を高めることができるであろう。博物館資料の世界的なデータベース化が進むなか、標本の情報は所蔵する機関だけのものではなくっており、データベースの連携は今後重要度を増していくと考えられる。

表 4-1. 東京教育博物館の印字に、「from Australian Museum by exchange」と表記されたラベルを付した標本 175 点.

ID	天産部台 帳番号	東京教育博 物館ラベル No.	標本番号	種名	
1	A1139	63	YIO-00726	オナガミズナギドリ	<i>Puffinus pacificus</i>
2	A1140	63	YIO-00727	オナガミズナギドリ	<i>Puffinus pacificus</i>
3	A1158	69	YIO-11434	ギンカモメ	<i>Larus novaehollandiae</i>
4	A1175	51	YIO-01940	ペリカン属の不明種	<i>Pelecanus</i> sp.
5	A1180	70	YIO-01825	シロハラコビトウ	<i>Phalacrocorax melanoleucos</i>
6	A1183	60	YIO-01924	カツオドリ属の不明種	<i>Sula</i> sp.
7	A1186	71	YIO-01844	アジアヘビウ	<i>Anhinga melanogaster</i>
8	A1188	68	YIO-01595	アカオネツタイチョウ	<i>Phaethon rubricauda</i>
9	A1197	55	YIO-13752	カササギガン	<i>Anseranas semipalmata</i>
10	A1201	142 ^{*1}	YIO-14161	ゴマフガモ	<i>Stictonetta naevosa</i>
11	A1205	58	YIO-13921	タテガミガン	<i>Chenonetta jubata</i>
12	A1206	144	YIO-14832	サザナミオオハシガモ	<i>Malacorhynchus membranaceus</i>
13	A1215	57	YIO-21453	ニオイガモ	<i>Biziura lobata</i>
14	A1230	62	YIO-08616	シロガシラサギ	<i>Ardea pacifica</i>
15	A1231	61	YIO-08614	カオジロサギ	<i>Egretta novaehollandiae</i>
16	A1235	66	YIO-08472	コサギ	<i>Egretta garzetta</i>
17	A1245	64 ^{*2}	YIO-08046	ハシブトゴイ	<i>Nycticorax caledonicus</i>
18	A1247	67	YIO-07818	タカサゴクロサギ	<i>Ixobrychus flavicollis</i>
19	A1251	54	YIO-08757	クロトキ	<i>Threskiornis aethiopicus</i>
20	A1254	52	YIO-13718	オーストラリアオオノガン	<i>Choriotis australis</i>
21	A1271	39	YIO-03213	アカエリシロチドリ	<i>Charadrius ruficapillus</i>
22	A1272	38	YIO-03441	カタアカチドリ	<i>Charadrius melanops</i>
23	A1281	65	YIO-03546	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>
24	A1282	65	YIO-03547	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>
25	A1283	65	YIO-03548	オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>
26	A1341	73	YIO-13640	セイケイ	<i>Porphyrio porphyrio</i>
27	A1346	74	YIO-13669	オオバン	<i>Fulica atra</i>
28	A1354	37	YIO-16899	オーストラリアウズラ	<i>Coturnix pectoralis</i>
29	A1355	36	YIO-15831	ササフミフウズラ	<i>Turnix varia</i>
30	A1378	46	YIO-05848	オナガバト	<i>Macropygia phasianella</i>
31	A1386	45	YIO-05952	レンジャクバト	<i>Ocyphaps lophotes</i>
32	A1396	83	YIO-19552	オニアオバズク	<i>Ninox strenua</i>
33	A1397	84	YIO-19557	ニュージーランドアオバズク	<i>Ninox novaeseelandiae</i>
34	A1398	84	YIO-19558	ニュージーランドアオバズク	<i>Ninox novaeseelandiae</i>
35	A1400	82	YIO-19141	メンフクロウ	<i>Tyto alba</i>
36	A1405	81	YIO-08936	フエフキトビ	<i>Haliastur sphenurus</i>
37	A1417	77	YIO-13059	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>
38	A1421	78	YIO-13010	オーストラリアチゴハヤブサ	<i>Falco longipennis</i>
39	A1424	79	YIO-09927	オーストラリアチョウゲンボウ	<i>Falco cenchroides</i>
40	A1425	80	YIO-09816	チャイロハヤブサ	<i>Falco berigora</i>
41	A1429	75	YIO-09233	アカハラオオタカ	<i>Accipiter fasciatus</i>
42	A1430	76	YIO-09336	アカエリツミ	<i>Accipiter cirrhocephalus</i>
43	A1436	113	YIO-50424	キガオミツスイ	<i>Xanthomyza phrygia</i>
44	A1437	113	YIO-50425	キガオミツスイ	<i>Xanthomyza phrygia</i>
45	A1438	105	YIO-50364	アオツラミツスイ	<i>Entomyzon cyanotis</i>

*1 : 「143」が「142」に訂正されていた。 *2 : ラベルが外れて、標本と別に保管。

表 4-1 つづき (2/4)

ID	天産部台 帳番号	東京教育博 物館ラベル No.	標本番号	種名	
46	A1439	105	YIO-50365	アオツラミツスイ	Entomyzon cyanotis
47	A1440	106	YIO-50440	クロガオミツスイ	Manorina melanocephala
48	A1441	112	YIO-50435	スズミツスイ	Manorina melanophrys
49	A1442	104	YIO-50369	ヒメハゲミツスイ	Philemon citreogularis
50	A1443	103	YIO-50383	トサカハゲミツスイ	Philemon buceroides
51	A1444	101	YIO-50450	アカミミダレミツスイ	Anthochaera carunculata
52	A1445	102	YIO-50451	アカミミダレミツスイ	Anthochaera carunculata
53	A1446	117	YIO-50405	ミカヅキキバネミツスイ	Phylidonyris pyrrhoptera
54	A1447	115	YIO-50410	メジロキバネミツスイ	Phylidonyris novaehollandiae
55	A1448	115	YIO-50411	メジロキバネミツスイ	Phylidonyris novaehollandiae
56	A1449	116	YIO-50417	ホオジロキバネミツスイ	Phylidonyris nigra
57	A1450	116	YIO-50418	ホオジロキバネミツスイ	Phylidonyris nigra
58	A1451	108	YIO-50239	ミミジロミツスイ	Meliphaga leucotis
59	A1452	107	YIO-50225	キミミミツスイ	Meliphaga lewinii
60	A1453	107	YIO-50226	キミミミツスイ	Meliphaga lewinii
61	A1455	110	YIO-50249	キムネミツスイ	Meliphaga melanops
62	A1456	110	YIO-50250	キムネミツスイ	Meliphaga melanops
63	A1457	111	YIO-50235	キホオコバシミツスイ	Meliphaga chrysops
64	A1458	119	YIO-50349	ハチマキミツスイ	Melithreptus lunatus
65	A1459	119	YIO-50350	ハチマキミツスイ	Melithreptus lunatus
66	A1461	120	YIO-50345	チャガシラハチマキミツスイ	Melithreptus brevirostris
67	A1462	16	YIO-45646	マングローブメジロ	Zosterops chloris
68	A1463	31	YIO-44467	ヤドリギハナドリ	Dicaeum hirundinaceum
69	A1465	118	YIO-50430	キリハシミツスイ	Acanthorhynchus tenuirostris
70	A1466	121	YIO-50038	クレナイミツスイ	Myzomela sanguinolenta
71	A1468	121	YIO-50040	クレナイミツスイ	Myzomela sanguinolenta
72	A1475	10	YIO-44403	ベニマユキノボリ	Climacteris erythropis
73	A1476	121	YIO-44409	ノドジロキノボリ	Climacteris leucophaea
74	A1496	130	YIO-56187	カササギフエガラス	Gymnorhina tibicen
75	A1526	131	YIO-56086	オオツチスドリ	Corcorax melanorhamphos
76	A1527	43	YIO-56088	ハイイロツチスドリ	Struthidea cinerea
77	A1528	43	YIO-56089	ハイイロツチスドリ	Struthidea cinerea
78	A1620	133	YIO-56179	ノドグロモズガラス	Cracticus nigrogularis
79	A1621	134	YIO-56177	ハイイロモズガラス	Cracticus torquatus
80	A1622	138	YIO-39512	カンムリモズビタキ	Oreoica gutturalis
81	A1623	8	YIO-39506	ハシブトモズビタキ	Falcunculus frontatus
82	A1624	6	YIO-39559	キバラモズヒタキ	Pachycephala pectoralis
83	A1625	6	YIO-39560	キバラモズヒタキ	Pachycephala pectoralis
84	A1627	7	YIO-39573	アカハラモズヒタキ	Pachycephala rufiventris
85	A1628	1	YIO-38566	クロズキンヒタキ	Petroica cucullata
86	A1631	30	YIO-44519	ハウセキドリ	Pardalotus punctatus
87	A1632	30	YIO-44520	ハウセキドリ	Pardalotus punctatus
88	A1633	29	YIO-44532	アカボシハウセキドリ	Pardalotus substriatus
89	A1634	29	YIO-44533	アカボシハウセキドリ	Pardalotus substriatus
90	A1635	24	YIO-37488	コバシムシクイ	Smicrornis brevirostris

表 4-1 つづき (3/4)

ID	天産部台 帳番号	東京教育博 物館ラベル No.	標本番号	種名	
91	A1636	15	YIO-39468	ハイイロオウギビタキ	Rhipidura fuliginosa
92	A1637	15	YIO-39469	ハイイロオウギビタキ	Rhipidura fuliginosa
93	A1638	5	YIO-38548	サンショクヒタキ	Petroica multicolor
94	A1640	9	YIO-38896	カオグロカササギビタキ	Monarcha melanopsis
95	A1641	9	YIO-38898	ハグロカササギビタキ	Monarcha frater
96	A1642	47	YIO-35168	ハジロナキサンショウクイ	Lalage sueurii
97	A1643	48	YIO-35183	マミジロナキサンショウクイ	Lalage leucomela
98	A1867	19	YIO-37515	カオジロオーストラリアヒタキ	Ephthianura albifrons
99	A1869	135	YIO-56081	ツチスドリ	Grallina cyanoleuca
100	A1897	25 ^{*3}	YIO-37511	タテフムシクイ	Sericornis sagittata
101	A1899	26	YIO-37468	ルリオーストラリアムシクイ	Malurus cyaneus
102	A1900	50	YIO-56540	コシアカヒバリモドキ	Cincloramphus mathewsi
103	A1901	18	YIO-37504	マミジロヤブムシクイ	Sericornis frontalis
104	A1902	17	YIO-37505	マミジロヤブムシクイ	Sericornis frontalis
105	A1903	28	YIO-37480	エミュームシクイ	Stipiturus malachurus
106	A1904	28	YIO-37481	エミュームシクイ	Stipiturus malachurus
107	A1912	21	YIO-37497	コモントゲハシムシクイ	Acanthiza chrysorrhoa
108	A1913	21	YIO-37498	コモントゲハシムシクイ	Acanthiza chrysorrhoa
109	A1915	23	YIO-37493	ムナフトゲハシムシクイ	Acanthiza lineata
110	A1916	22	YIO-37490	ヒメトゲハシムシクイ	Acanthiza nana
111	A1954	44	YIO-32923	オーストラリアマルハシ	Pomatostomus temporalis
112	A1960	129	YIO-32801	ムナグロシラヒゲドリ	Psophodes olivaceus
113	A1970	4	YIO-38562	ノドアカサンショクヒタキ	Petroica phoenicea
114	A1971	2	YIO-38549	サンショクヒタキ	Petroica multicolor
115	A1972	4	YIO-38556	アカビタイサンショクヒタキ	Petroica goodenovii
116	A1983	13	YIO-56172	ウスズミモリツバメ	Artamus cyanopterus
117	A1984	12	YIO-56168	マミジロモリツバメ	Artamus superciliosus
118	A1985	12	YIO-56169	マミジロモリツバメ	Artamus superciliosus
119	A1986	14	YIO-56158	モリツバメ	Artamus leucorhynchus
120	A1989	137	YIO-57656	シロハラコウライウグイス	Oriolus sagittatus
121	A1990	136	YIO-56206	フウチョウモドキ	Sericulus chrysocephalus
122	A1991	144	YIO-57865	チモールメガネコウライウグイス	Sphecotheres viridis
123	A1992	42	YIO-56217	アオアズマヤドリ	Ptilonorhynchus violaceus
124	A1993	42	YIO-56218	アオアズマヤドリ	Ptilonorhynchus violaceus
125	A1994	41	YIO-56197	ネコドリ	Ailuroedus crassirostris
126	A1995	41	YIO-56198	ネコドリ	Ailuroedus crassirostris
127	A2012	49	YIO-24043	ヤブヒバリ	Mirafrja javanica
128	A2232	32	YIO-56643	オオキンカチョウ	Emblema guttata
129	A2233	32	YIO-56644	オオキンカチョウ	Emblema guttata
130	A2234	34	YIO-54596	シマコキン	Lonchura castaneothorax
131	A2235	33	YIO-54111	フヨウチョウ	Aegintha temporalis
132	A2236	33	YIO-54112	フヨウチョウ	Aegintha temporalis
133	A2238	141 ^{*4}	YIO-24022	ノドグロヤイロチョウ	Pitta versicolor
134	A2256	132	YIO-19004	オーストラリアガマグチヨタカ	Podargus strigoides
135	A2257	132	YIO-19005	オーストラリアガマグチヨタカ	Podargus strigoides

*3 : ラベルが外れて、標本と別に保管. *4 : 「142」が「141」に訂正されていた.

表 4-1 つづき (4/4)

ID	天産部台 帳番号	東京教育博 物館ラベル No.	標本番号	種名	
136	A2309	146	YIO-18788	オオオニカッコウ	<i>Scythrops novaehollandiae</i>
137	A2324	122	YIO-29779	ヒジリショウビン	<i>Halcyon sancta</i>
138	A2325	123	YIO-29749	モリショウビン	<i>Halcyon macleayii</i>
139	A2337	35	YIO-29532	ルリミツユビカワセミ	<i>Ceyx azureus</i>
140	A2340	124	YIO-30179	ハチクイ	<i>Merops ornatus</i>
141	A2344	40	YIO-30281	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>
142	A2345	40	YIO-30282	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>
143	A2352	91	YIO-07089	キンショウジョウインコ	<i>Alisterus scapularis</i>
144	A2353	91	YIO-07090	キンショウジョウインコ	<i>Alisterus scapularis</i>
145	A2354	92	YIO-06864	アカクサインコ	<i>Platycercus elegans</i>
146	A2355	92	YIO-06865	アカクサインコ	<i>Platycercus elegans</i>
147	A2357	93	YIO-06886	ナナクサインコ	<i>Platycercus eximius</i>
148	A2358	93	YIO-06887	ナナクサインコ	<i>Platycercus eximius</i>
149	A2359	94	YIO-06898	マキエゴシキインコ	<i>Barnardius barnardi</i>
150	A2360	94	YIO-06899	マキエゴシキインコ	<i>Barnardius barnardi</i>
151	A2361	96	YIO-06852	ハナガサインコ	<i>Psephotus haematogaster</i>
152	A2363	95	YIO-06847	ビセイインコ	<i>Psephotus haematonotus</i>
153	A2367	97	YIO-07389	ゴシキセイガイインコ	<i>Trichoglossus haematodus</i>
154	A2368	97	YIO-07390	ゴシキセイガイインコ	<i>Trichoglossus haematodus</i>
155	A2369	98	YIO-07421	コセイガイインコ	<i>Trichoglossus chlorolepidotus</i>
156	A2370	99	YIO-07478	ジャコウインコ	<i>Glossopsitta concinna</i>
157	A2371	100	YIO-07485	ヒメジャコウインコ	<i>Glossopsitta pusilla</i>
158	A2372	100	YIO-07486	ヒメジャコウインコ	<i>Glossopsitta pusilla</i>
159	A2375	85	YIO-07284	キバタン	<i>Cacatua galerita</i>
160	A2376	86	YIO-07272	クルマサカオウム	<i>Cacatua leadbeateri</i>
161	A2377	87	YIO-07267	モモイロインコ	<i>Eolophus roseicapillus</i>
162	A2378	87	YIO-07268	モモイロインコ	<i>Eolophus roseicapillus</i>
163	A2379	88	YIO-07259	アカサカオウム	<i>Callocephalon fimbriatum</i>
164	A2380	89	YIO-07253	キミミクロオウム	<i>Calyptorhynchus funereus</i>
165	A2381	90	YIO-07256	アカオクロオウム	<i>Calyptorhynchus magnificus</i>
166	A2483	3*5	YIO-38558	アカビタイサンショクヒタキ	<i>Petroica goodenovii</i>
167	A3258	記載なし	YIO-56211	フウチョウモドキ	<i>Sericulus chrysocephalus</i>
168	A3259	記載なし	YIO-39584	ハイイロモズツグミ	<i>Colluricincla harmonica</i>
169	A3260	記載なし	YIO-50448	ケミミミツスイ	<i>Anthochaera rufogularis</i>
170	A3261	記載なし	YIO-32795	ハシリチメドリ	<i>Orthonyx temminckii</i>
171	A3262	記載なし	YIO-56545	ハシリチメドリ	<i>Orthonyx temminckii</i>
172	A3263	記載なし	YIO-19988	カッコウ科の不明種	(Unknown genus of Cuculidae) sp.
173	A3264	記載なし	YIO-19989	カッコウ科の不明種	(Unknown genus of Cuculidae) sp.
174	A3265	記載なし	YIO-19990	カッコウ科の不明種	(Unknown genus of Cuculidae) sp.
175	A3266	記載なし	YIO-13830	ナンキンオシ	<i>Nettapus coromandelianus</i>

*5：東京教育博物館の標本に含めず。本文参照。

表 4-2. 天産部台帳で「二十六年七月濠洲博物館寄贈」と表記された標本 134 点. 「タグ番号」は標本に添付する金属タグの番号, または天産部台帳のタグ番号の記載による. “-” は送付リストの番号との合致を示す.

ID	天産部台帳番号	ラベル No.	送付リスト番号	タグ番号	標本番号	種名	
1	A3116	1	O.4587	-	YIO-09238	アカハラオオタカ	<i>Accipiter fasciatus</i>
2	A3117	2	A.8250	-	YIO-09339	アカエリツミ	<i>Accipiter cirrhocephalus</i>
3	A3118	3	O.5055	-	YIO-19561	ニュージーランドアオバズク	<i>Ninox novaeseelandiae</i>
4	A3119	4	O.5056	-	YIO-19562	ニュージーランドアオバズク	<i>Ninox novaeseelandiae</i>
5	A3120	5	読取不可	O.1265	YIO-19142	メンフクロウ	<i>Tyto alba</i>
6	A3121	6	読取不可	O.2802	YIO-30181	ハチクイ	<i>Merops ornatus</i>
7	A3122	7	読取不可	O.2829	YIO-30182	ハチクイ	<i>Merops ornatus</i>
8	A3123	8	B.8633	-	YIO-29786	ヒジリショウビン	<i>Halcyon sancta</i>
9	A3124	9	O.2261	-	YIO-29753	モリショウビン	<i>Halcyon macleayii</i>
10	A3125	10	O.800	-	YIO-29535	ルリミツユビカワセミ	<i>Ceyx azureus</i>
11	A3126	11	O.2650	-	YIO-56175	ウスズミモリツバメ	<i>Artamus cyanopterus</i>
12	A3127	12	O.4287	-	YIO-56176	ウスズミモリツバメ	<i>Artamus cyanopterus</i>
13	A3128	13	O.1633	-	YIO-44522	ホウセキドリ	<i>Pardalotus punctatus</i>
14	A3129	14	O.4773	-	YIO-44523	ホウセキドリ	<i>Pardalotus punctatus</i>
15	A3130	15	A.11745	-	YIO-44529	ヒガシアカボシホウセキドリ	<i>Pardalotus ornatus</i>
16	A3131	16	B.6613	-	YIO-44530	ヒガシアカボシホウセキドリ	<i>Pardalotus ornatus</i>
17	A3132	17	O.5073	-	YIO-56189	フエガラス	<i>Strepera graculina</i>
18	A3133	18	O.5074	-	YIO-56190	フエガラス	<i>Strepera graculina</i>
19	A3134	19	O.4697	-	YIO-56085	ツチスドリ	<i>Grallina cyanoleuca</i>
20	A3135	20	O.4669	-	YIO-35014	オニサンショウクイ	<i>Coracina novaehollandiae</i>
21	A3136	21	O.5088	-	YIO-35015	オニサンショウクイ	<i>Coracina novaehollandiae</i>
22	A3137	22	O.5426	-	YIO-35169	ハジロナキサンショウクイ	<i>Lalage sueurii</i>
23	A3138	23	O.4765	-	YIO-39565	キバラモズヒタキ	<i>Pachycephala pectoralis</i>
24	A3139	24	O.4766	-	YIO-39566	キバラモズヒタキ	<i>Pachycephala pectoralis</i>
25	A3140	25	O.4359	-	YIO-39575	アカハラモズヒタキ	<i>Pachycephala rufiventris</i>
26	A3141	26	no No.	タグなし	YIO-39576	アカハラモズヒタキ	<i>Pachycephala rufiventris</i>
27	A3142	27	O.5096	-	YIO-39582	ハイイロモズツグミ	<i>Colluricincla harmonica</i>
28	A3143	28	A.11721	-	YIO-39583	ハイイロモズツグミ	<i>Colluricincla harmonica</i>
29	A3144	29	O.5098	-	YIO-39509	ハシブトモズビタキ	<i>Falcunculus frontatus</i>
30	A3145	30	O.5105	-	YIO-39510	ハシブトモズビタキ	<i>Falcunculus frontatus</i>
31	A3146	31	O.4228	-	YIO-39470	ハイイロオウギビタキ	<i>Rhipidura fuliginosa</i>
32	A3147	32	O.5108	-	YIO-39375	フタイロヒタキ	<i>Seisura inquieta</i>
33	A3148	33	O.3109	-	YIO-39362	ナマリイロヒラハシ	<i>Myiagra rubecula</i>
34	A3149	34	no No.	タグなし	YIO-38899	ハグロカササギビタキ	<i>Monarcha frater</i>
35	A3150	35	O.4610	-	YIO-38553	サンショクヒタキ	<i>Petroica multicolor</i>
36	A3151	36	読取不可	A.17397	YIO-38554	サンショクヒタキ	<i>Petroica multicolor</i>
37	A3152	37	読取不可	O.4322	YIO-38581	ヒガシキバラヒタキ	<i>Eopsaltria australis</i>
38	A3153	38	読取不可	O.4744	YIO-38582	ヒガシキバラヒタキ	<i>Eopsaltria australis</i>
39	A3154	39	O.5171	-	YIO-32805	ムナグロシラヒゲドリ	<i>Psophodes olivaceus</i>
40	A3155	40	O.5172	-	YIO-32806	ムナグロシラヒゲドリ	<i>Psophodes olivaceus</i>
41	A3156	41	O.4910	-	YIO-37472	ルリオーストラリアムシクイ	<i>Malurus cyaneus</i>
42	A3157	42	B.8668	-	YIO-37477	セアカオーストラリアムシクイ	<i>Malurus melanocephalus</i>
43	A3158	43	O.5131	-	YIO-37510	キノドヤブムシクイ	<i>Sericornis citreogularis</i>
44	A3159	44	O.5136	-	YIO-37506	マミジロヤブムシクイ	<i>Sericornis frontalis</i>
45	A3160	45	O.5137	-	YIO-37507	マミジロヤブムシクイ	<i>Sericornis frontalis</i>
46	A3161	46	O.5042	-	YIO-37494	チャイロトゲハシムシクイ	<i>Acanthiza pusilla</i>
47	A3162	47	O.5138	-	YIO-37495	チャイロトゲハシムシクイ	<i>Acanthiza pusilla</i>
48	A3163	48	O.5144	-	YIO-54113	フヨウチョウ	<i>Aegintha temporalis</i>
49	A3164	49	O.5148	-	YIO-54114	フヨウチョウ	<i>Aegintha temporalis</i>
50	A3165	50	O.3333	-	YIO-54137	オオキンカチョウ	<i>Emblema guttata</i>

表 4-2 つづき (2/3)

ID	天産部台 帳番号	ラベル No.	送付リス ト番号	タグ番号	標本番号	種名	
51	A3166	51	O.4607	-	YIO-54138	オオキンカチョウ	<i>Emblema guttata</i>
52	A3167	52	O.5150	-	YIO-54598	シマコキン	<i>Lonchura castaneothorax</i>
53	A3168	53	O.5157	-	YIO-54599	シマコキン	<i>Lonchura castaneothorax</i>
54	A3169*	54	O.2246	-	YIO-24027	ノドグロヤイロチョウ	<i>Pitta versicolor</i>
55	A3170	55	1568	-	YIO-24026	ノドグロヤイロチョウ	<i>Pitta versicolor</i>
56	A3171	56	O.1337	-	YIO-42888	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>
57	A3172	57	O.5160	-	YIO-42889	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>
58	A3173	58	O.5243	-	YIO-56209	フウチョウモドキ	<i>Sericulus chrysocephalus</i>
59	A3174	59	O.5251	-	YIO-56210	フウチョウモドキ	<i>Sericulus chrysocephalus</i>
60	A3175	60	O.5220	-	YIO-56200	ネコドリ	<i>Ailuroedus crassirostris</i>
61	A3176	61	O.5234	-	YIO-56201	ネコドリ	<i>Ailuroedus crassirostris</i>
62	A3177	62	O.5186	-	YIO-56221	アオアズマヤドリ	<i>Ptilonorhynchus violaceus</i>
63	A3178	63	O.5210	-	YIO-56222	アオアズマヤドリ	<i>Ptilonorhynchus violaceus</i>
64	A3179	64	O.442	-	YIO-57659	シロハラコウライウグイス	<i>Oriolus sagittatus</i>
65	A3180	65	A.135	-	YIO-56090	ハイイロツチスドリ	<i>Struthidea cinerea</i>
66	A3181	66	O.1167	-	YIO-56091	ハイイロツチスドリ	<i>Struthidea cinerea</i>
67	A3182	67	O.2877	-	YIO-32925	オーストラリアマルハシ	<i>Pomatostomus temporalis</i>
68	A3183	68	読取不可	O.2318	YIO-50415	メジロキバネミツスイ	<i>Phylidonyris novaehollandiae</i>
69	A3184	69	読取不可	O.281	YIO-50416	メジロキバネミツスイ	<i>Phylidonyris novaehollandiae</i>
70	A3185	70	A.13085	-	YIO-50419	ホオジロキバネミツスイ	<i>Phylidonyris nigra</i>
71	A3186	71	13085	-	YIO-50420	ホオジロキバネミツスイ	<i>Phylidonyris nigra</i>
72	A3187	72	O.1414	-	YIO-50228	キミミミツスイ	<i>Meliphaga lewinii</i>
73	A3188	73	O.1415	-	YIO-50229	キミミミツスイ	<i>Meliphaga lewinii</i>
74	A3189	74	O.4163	-	YIO-50240	ミミジロミツスイ	<i>Meliphaga leucotis</i>
75	A3190	75	O.4202	-	YIO-50241	ミミジロミツスイ	<i>Meliphaga leucotis</i>
76	A3191	76	O.4834	-	YIO-50252	キムネミツスイ	<i>Meliphaga melanops</i>
77	A3192	77	B.7187	-	YIO-50253	キムネミツスイ	<i>Meliphaga melanops</i>
78	A3193	78	O.4168	-	YIO-50236	キホオコバシミツスイ	<i>Meliphaga chrysops</i>
79	A3194	79	O.4169	-	YIO-50237	キホオコバシミツスイ	<i>Meliphaga chrysops</i>
80	A3195	80	O.1247	-	YIO-50427	キガオミツスイ	<i>Xanthomyza phrygia</i>
81	A3196	81	1639	-	YIO-50428	キガオミツスイ	<i>Xanthomyza phrygia</i>
82	A3197	82	O.2903	-	YIO-50447	ケミミミツスイ	<i>Anthochaera rufogularis</i>
83	A3198	83	O.1407	-	YIO-50433	キリハシミツスイ	<i>Acanthorhynchus tenuirostris</i>
84	A3199	84	B.9280	-	YIO-50041	クレナイミツスイ	<i>Myzomela sanguinolenta</i>
85	A3200	85	O.4326	-	YIO-50353	ハチマキミツスイ	<i>Melithreptus lunatus</i>
86	A3201	86	O.2195	-	YIO-44468	ヤドリギハナドリ	<i>Dicaeum hirundinaceum</i>
87	A3202	87	O.3797	-	YIO-44469	ヤドリギハナドリ	<i>Dicaeum hirundinaceum</i>
88	A3203	88	O.2347	-	YIO-45652	ハイムネメジロ	<i>Zosterops lateralis</i>
89	A3204	89	O.2348	-	YIO-45653	ハイムネメジロ	<i>Zosterops lateralis</i>
90	A3205	90	O.2841	-	YIO-44405	チャイロキノボリ	<i>Climacteris picumnus</i>
91	A3206	91	O.2854	-	YIO-44406	チャイロキノボリ	<i>Climacteris picumnus</i>
92	A3207	92	O.5258	-	YIO-44410	ノドジロキノボリ	<i>Climacteris leucophaea</i>
93	A3208	93	O.5259	-	YIO-44411	ノドジロキノボリ	<i>Climacteris leucophaea</i>
94	A3209	94	O.5275	-	YIO-39983	オーストラリアゴジュウカラ	<i>Neositta chrysoptera</i>
95	A3210	95	O.5277	-	YIO-39984	オーストラリアゴジュウカラ	<i>Neositta chrysoptera</i>
96	A3211	96	O.5267	-	YIO-32797	メジロハシリチメドリ	<i>Orthonyx spaldingii</i>
97	A3212	97	O.5270	-	YIO-32798	メジロハシリチメドリ	<i>Orthonyx spaldingii</i>
98	A3213	98	O.3781	-	YIO-18708	ハイイロカッコウ	<i>Cuculus pallidus</i>
99	A3214	99	読取不可	O.5279	YIO-18719	ウチワヒメカッコウ	<i>Cacomantis pyrrhophanus</i>
100	A3215	100	読取不可	O.5282	YIO-18720	ウチワヒメカッコウ	<i>Cacomantis pyrrhophanus</i>

* : 本文参照.

表 4-2 つづき (3/3)

ID	天産部台 帳番号	ラベル No.	送付リス ト番号	タグ番号	標本番号	種名	
101	A3216	101	読取不可	O.4800	YIO-07287	キバタン	<i>Cacatua galerita</i>
102	A3217	102	読取不可	O.9298	YIO-07288	キバタン	<i>Cacatua galerita</i>
103	A3218	103	A.16722	-	YIO-07270	モモイロインコ	<i>Eolophus roseicapillus</i>
104	A3219	104	B.6973	-	YIO-07271	モモイロインコ	<i>Eolophus roseicapillus</i>
105	A3220	105	O.3265	-	YIO-07264	アカサカオウム	<i>Callocephalon fimbriatum</i>
106	A3221	106	O.4592	-	YIO-07265	アカサカオウム	<i>Callocephalon fimbriatum</i>
107	A3222	107	O.5290	-	YIO-07251	キミミクロオウム	<i>Calyptrorhynchus funereus</i>
108	A3223	108	O.5293	-	YIO-07252	キミミクロオウム	<i>Calyptrorhynchus funereus</i>
109	A3224	109	O.5318	-	YIO-07096	キンショウジョウインコ	<i>Alisterus scapularis</i>
110	A3225	110	O.5324	-	YIO-07097	キンショウジョウインコ	<i>Alisterus scapularis</i>
111	A3226	111	O.5454	-	YIO-06874	アカクサインコ	<i>Platycercus elegans</i>
112	A3227	112	O.5452	-	YIO-06875	アカクサインコ	<i>Platycercus elegans</i>
113	A3228	113	O.5326	-	YIO-06876	アカクサインコ	<i>Platycercus elegans</i>
114	A3229	114	O.3271	-	YIO-06890	ナナクサインコ	<i>Platycercus eximius</i>
115	A3230	115	O.5460	-	YIO-06891	ナナクサインコ	<i>Platycercus eximius</i>
116	A3231	116	B.7385	-	YIO-06837	キジインコ	<i>Pezoporus wallicus</i>
117	A3232	117	O.2230	-	YIO-07423	コセイガイインコ	<i>Trichoglossus chlorolepidotus</i>
118	A3233	118	B.8624	-	YIO-07424	コセイガイインコ	<i>Trichoglossus chlorolepidotus</i>
119	A3234	119	B.8616	-	YIO-07397	ゴシキセイガイインコ	<i>Trichoglossus haematodus</i>
120	A3235	120	O.5496	-	YIO-07398	ゴシキセイガイインコ	<i>Trichoglossus haematodus</i>
121	A3236	121	O.4466	-	YIO-07481	ジャコウインコ	<i>Glossopsitta concinna</i>
122	A3237	122	O.4467	-	YIO-07482	ジャコウインコ	<i>Glossopsitta concinna</i>
123	A3238	123	B.261	-	YIO-07487	ヒメジャコウインコ	<i>Glossopsitta pusilla</i>
124	A3239	124	O.4597	-	YIO-07488	ヒメジャコウインコ	<i>Glossopsitta pusilla</i>
125	A3240	125	O.5332	-	YIO-06379	ワーブーアオバト	<i>Ptilinopus magnificus</i>
126	A3241	126	O.5333	-	YIO-06380	ワーブーアオバト	<i>Ptilinopus magnificus</i>
127	A3242	ラベルなし	O.5343	-	YIO-06779	カミカザリバト	<i>Lopholaimus antarcticus</i>
128	A3243	128	O.5349	-	YIO-06780	カミカザリバト	<i>Lopholaimus antarcticus</i>
129	A3244	129	O.5359	-	YIO-05909	キンバト	<i>Chalcophaps indica</i>
130	A3245	130	読取不可	O.5362	YIO-05910	キンバト	<i>Chalcophaps indica</i>
131	A3246	131	読取不可	O.925	YIO-05973	チョウショウバト	<i>Geopelia striata</i>
132	A3247	132	読取不可	O.5373	YIO-05849	オナガバト	<i>Macropygia phasianella</i>
133	A3248	133	O.5375	-	YIO-05850	オナガバト	<i>Macropygia phasianella</i>
134	A3249	134	B.8645	-	YIO-03442	カタアカチドリ	<i>Charadrius melanops</i>

表 4-3. 1888 年にオーストラリア博物館から東京教育博物館（国立科学博物館）へ送付した標本のリストと YIO-IH 標本群と天産部台帳の照合.

送付リスト				標本ラベル		天産部台帳	
ID	番号	種名	採集地	ID	標本番号 東京教育博 物館ラベル No.	台帳番号	採集地
1	O.1195	<i>Eopsaltria bicolor</i>	New South Wales	1	YIO-38566	1	A1628 N. S. Wales
2	O.1192	<i>Eopsaltria bicolor</i>	New South Wales	2	YIO-38567	ラベルなし	A1629 N. S. Wales
3	O.1384	<i>Petroica leggii</i>	New South Wales	3	YIO-38549	2	A1971 N. S. Wales
					*1)YIO-38558	3	A2483 Australia
4	O.1212	<i>Petroica goodenovii</i>	New South Wales	4	YIO-38556	4	A1972 N. S. Wales
5	A17494	<i>Petroica phoenicea</i>	New South Wales	5	YIO-38562	4	A1970 N. S. Wales
6	O.160	<i>Petroica phoenicea</i>	New South Wales	6	YIO-38561	ラベルなし	A1969 N. S. Wales
7	O.1202	<i>Myroeca macroptera</i>	New South Wales	7	YIO-38548	5	A1638 N. S. Wales
8	O.1368	<i>Pachycephala gutturalis</i>	New South Wales	8	YIO-39560	6	A1625 N. S. Wales
9	O.1360	<i>Pachycephala gutturalis</i>	New South Wales	9	YIO-39559	6	A1624 N. S. Wales
10	O.1372	<i>Pachycephala rufiventris</i>	New South Wales	10	YIO-39572	ラベルなし	A1626 N. S. Wales
11	B.8639	<i>Pachycephala rufiventris</i>	New South Wales	11	YIO-39573	7	A1627 N. S. Wales
12	B.9870	<i>Falcunculus frontatus</i>	New South Wales	12	YIO-39506	8	A1623 N. S. Wales
13	B.10042	<i>Monarcha carinata</i>	New South Wales	13	YIO-38898	9	A1641 N. S. Wales
14	B.9249	<i>Monarcha carinata</i>	New South Wales	14	YIO-38896	9	A1640 N. S. Wales
15	O.127	<i>Climacteris erythrops</i>	New South Wales	15	YIO-44403	10	A1475 N. S. Wales
16	B.7400	<i>Climacteris melanotus</i>	New South Wales	16	YIO-44409	121	A1476 N. S. Wales
17	860	<i>Artamus superciliosus</i>	New South Wales	17	YIO-56168	12	A1984 N. S. Wales
18	974	<i>Artamus superciliosus</i>	New South Wales	18	YIO-56169	12	A1985 N. S. Wales
19	O.1178	<i>Artamus sordidus</i>	New South Wales	19	YIO-56172	13	A1983 N. S. Wales
20	B.8632	<i>Artamus leucopygialis</i>	New South Wales	20	YIO-56158	14	A1986 N. S. Wales
21	O.296	<i>Rhipidura albiscapa</i>	New South Wales	21	YIO-39468	15	A1636 N. S. Wales
22	O.316	<i>Rhipidura albiscapa</i>	New South Wales	22	YIO-39469	15	A1637 N. S. Wales
23	B.8663	<i>Zosterops caeruleascens</i>	New South Wales	23	YIO-45646	16	A1462 N. S. Wales
24	A.5286	<i>Sericornis frontalis</i>	New South Wales	24	YIO-37505	17	A1902 N. S. Wales
25	O.1389	<i>Sericornis frontalis</i>	New South Wales	25	YIO-37504	18	A1901 N. S. Wales
26	O.131	<i>Ephthianura albifrons</i>	New South Wales	26	YIO-37515	19	A1867 N. S. Wales
27	A.7525	<i>Ephthianura tricolor</i>	New South Wales	27	YIO-37517	ラベルなし	A1868 N. S. Wales
28	O.179	<i>Geobasileus chrysorrhoea</i>	New South Wales	28	YIO-37497	21	A1912 N. S. Wales
29	A.9872	<i>Geobasileus chrysorrhoea</i>	New South Wales	29	YIO-37498	21	A1913 N. S. Wales
30	O.1375	<i>Acanthiza nana</i>	New South Wales	30	YIO-37490	22	A1916 N. S. Wales
31	O.308	<i>Acanthiza lineata</i>	New South Wales	31	*2) YIO-37492	ラベルなし	A1914 N. S. Wales
32	O.864	<i>Acanthiza lineata</i>	New South Wales	32	YIO-37493	23	A1915 N. S. Wales
33	B.6989	<i>Smicornis brevirostris</i>	New South Wales	33	YIO-37488	24	A1635 N. S. Wales
34	O.1220	<i>Chthonicola sagittata</i>	New South Wales	34	YIO-37511	25	A1897 N. S. Wales
35	*3) A.7126	<i>Malurus gouldii</i>	Northern Territory	35	YIO-37467	ラベルなし	A1898 <u>N. S. Wales</u>
36	O.807	<i>Malurus cyaneus</i>	New South Wales	36	YIO-37468	26	A1899 <u>Northern Territory</u> (ママ)

*1, *2 : 本文参照.

*3 : 標本に添付された金属タグと天産部台帳のタグ番号の記載ともに「A.7176」.

表 4-3 つづき (2/5)

送付リスト				標本ラベル		天産部台帳	
ID	番号	種名	採集地	ID	標本番号	東京教育博物館ラベル No.	台帳番号 採集地
37	B.7390	<i>Stipiturus malachurus</i>	New South Wales	37	YIO-37480	28	A1903 N. S. Wales
38	B.7391	<i>Stipiturus malachurus</i>	New South Wales	38	YIO-37481	28	A1904 N. S. Wales
39	O.1223	<i>Pardalotus assimilis</i>	New South Wales	39	YIO-44533	29	A1634 N. S. Wales
40	O.1228	<i>Pardalotus assimilis</i>	New South Wales	40	YIO-44532	29	A1633 N. S. Wales
41	O.301	<i>Pardalotus punctatus</i>	New South Wales	41	YIO-44520	30	A1632 N. S. Wales
42	O.303	<i>Pardalotus punctatus</i>	New South Wales	42	YIO-44519	30	A1631 N. S. Wales
43	B.8664	<i>Dicaeum hirundinaceum</i>	New South Wales	43	YIO-44467	31	A1463 N. S. Wales
44	B.6602	<i>Amadina lathami</i>	New South Wales	44	YIO-56643	32	A2232 N. S. Wales
45	B.7194	<i>Amadina lathami</i>	New South Wales	45	YIO-56644	32	A2233 N. S. Wales
46	O.888	<i>Estrela temporalis</i>	New South Wales	46	YIO-54112	33	A2236 N. S. Wales
47	O.874	<i>Estrela temporalis</i>	New South Wales	47	YIO-54111	33	A2235 N. S. Wales
48	B.9301	<i>Amanda castaneothorax</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	48	YIO-54596	34	A2234 Belling R. N. S. Wales (ママ)
49	B.10021	<i>Alcyon azurea</i>	Cambewarra, N. S. W.	49	YIO-29532	35	A2337 Cambowara N. S. Wales (ママ)
50	O.1159	<i>Turnix varius</i>	New South Wales	50	YIO-15831	36	A1355 N. S. Wales
51	O.1158	<i>Coturnix pectoralis</i>	New South Wales	51	YIO-16899	37	A1354 N. S. Wales
52	O.923	<i>Hiaticula nigrifrons</i>	New South Wales	52	YIO-03441	38	A1272 N. S. Wales
53	A.2959	<i>Aegialitis ruficapillus</i>	New South Wales	53	YIO-03213	39	A1271 N. S. Wales
54	B.9384	<i>Eurystomus pacificus</i>	New South Wales	54	YIO-30281	40	A2344 N. S. Wales
55	B.9386	<i>Eurystomus pacificus</i>	New South Wales	55	YIO-30282	40	A2345 N. S. Wales
56	O.1319	<i>Ailuroedus smithii</i>	New South Wales	56	YIO-56198	41	A1995 N. S. Wales
57	O.1327	<i>Ailuroedus smithii</i>	New South Wales	57	YIO-56197	41	A1994 N. S. Wales
58	O.856	<i>Ptilonorhynchus holosericeus</i>	New South Wales	58	YIO-56217	42	A1992 N. S. Wales
59	O.857	<i>Ptilonorhynchus holosericeus</i>	New South Wales	59	YIO-56218	42	A1993 N. S. Wales
60	B.42	<i>Struthidea cinerea</i>	New South Wales	60	YIO-56089	43	A1528 N. S. Wales
61	A.11760	<i>Struthidea cinerea</i>	New South Wales	61	YIO-56088	43	A1527 N. S. Wales
62	B.47	<i>Pomatostomus temporalis</i>	New South Wales	62	YIO-32923	44	A1954 N. S. Wales
63	O.1179	<i>Pomatostomus temporalis</i>	New South Wales	63	YIO-32922	ラベルなし	A1953 N. S. Wales
64	B.2158	<i>Ocyphaps lophotes</i>	New South Wales	64	YIO-05952	45	A1386 N. S. Wales
65	B.4589	<i>Macropygia phasianella</i>	New South Wales	65	YIO-05848	46	A1378 N. S. Wales
66	B.9439	<i>Campephaga humeralis</i>	New South Wales	66	YIO-35168	47	A1642 N. S. Wales
67	?A.4611	<i>Campephaga leucomeleana</i>	New South Wales	67	YIO-35183	48	A1643 N. S. Wales
68	A.11868	<i>Mirafra horsfieldi</i> (ママ)	New South Wales	68	YIO-24043	49	A2012 N. S. Wales
69	A.9697	<i>Ptenoedus rufescens</i>	New South Wales	69	YIO-56540	50	A1900 N. S. Wales
70	B.9900	<i>Pelecanus conspicillatus</i>	New South Wales	70	YIO-01940	51	A1175 N. S. Wales
71	B.2142	<i>Otis australis</i>	New South Wales	71	YIO-13718	52	A1254 N. S. Wales
72	B.8570	<i>Cygnus australis</i>	New South Wales	72	YIO-14008	ラベルなし	A1195 N. S. Wales
73	B.9397	<i>Platalea melanocephalus</i>	New South Wales	73	YIO-08757	54	A1251 N. S. Wales

表 4-3 つづき (3/5)

送付リスト				標本ラベル		天産部台帳	
ID	番号	種名	採集地	ID	標本番号 東京教育博 物館ラベル No.	台帳番号	採集地
74	A.8258	<i>Anseranas melanoleuca</i>	New South Wales	74	YIO-13752	55	A1197 N. S. Wales
75	no No.	<i>Nettapus albipennis</i>	Luceusland	75	YIO-13830	(記載なし)	A3266 Australia
76	B.3488	<i>Biziura lobata</i>	New South Wales	76	YIO-21453	57	A1215 N. S. Wales
77	O.119	<i>Anas naevosa</i>	New South Wales	77	YIO-13921	58	A1205 N. S. Wales
78	*4) A.9540	<i>Malacorhynchus membranaceus</i>	New South Wales	78	YIO-14832	144	A1206 Australia
79	A.13056	<i>Sula australis</i>	Port Jackson, N. S. W.	79	YIO-01923	ラベルなし	A1182 Australia
80	B.2547	<i>Sula australis</i>	Port Jackson, N. S. W.	80	YIO-01924	60	A1183 Port Jacson N. S. Wales
81	B.2620	<i>Ardea novae-hollandiae</i>	New South Wales	81	YIO-08614	61	A1231 N. S. Wales
82	B.9485	<i>Ardea pacifica</i>	New South Wales	82	YIO-08616	62	A1230 N. S. Wales
83	O.719	<i>Puffinus sphenurus</i>	New South Wales	83	YIO-00726	63	A1139 Victoria
84	B.9930	<i>Puffinus sphenurus</i>	Victoria	84	YIO-00727	63	A1140 N. S. Wales
85	B.2561	<i>Nycticorax caledonicus</i>	New South Wales	85	YIO-08046	64	A1245 N. S. Wales
86	B.9472	<i>Limosa uropygialis</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	86	YIO-03546	65	A1281 Bellenger R. N. S. Wales (ママ)
87	B.9474	<i>Limosa uropygialis</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	87	YIO-03547	65	A1282 Bellenger R. N. S. Wales (ママ)
88	B.9475	<i>Limosa uropygialis</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	88	YIO-03548	65	A1283 Bellenger R. N. S. Wales (ママ)
89	A.4086	<i>Herodias alba</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	89	YIO-08472	66	A1235 Bellanger R. N. S. Wales (ママ)
90	B.9395	<i>Butoraides macrorhyncha</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	90	YIO-07818	67	A1247 Bellanger R. N. S. Wales (ママ)
91	no No.	<i>Phaeton rubricauda</i>	New South Wales	91	YIO-01595	68	A1188 N. S. Wales
92	A.17682	<i>Larus novae-hollandiae</i>	New South Wales	92	YIO-11434	69	A1158 N. S. Wales
93	O.142	<i>Gaculus leucogaster</i>	New South Wales	93	YIO-01825	70	A1180 N. S. Wales
94	1244	<i>Plotus novae-hollandiae</i>	New South Wales	94	YIO-01844	71	A1186 N. S. Wales
95	?B.10268	<i>Puffinus</i> sp.	New South Wales	(標本なし)			
96	B.9484	<i>Porphyrio melanotus</i>	New South Wales	95	YIO-13640	73	A1341 N. S. Wales
97	B.4119	<i>Fulica australis</i>	New South Wales	96	YIO-13669	74	A1346 N. S. Wales
98	B.9898	<i>Astur approximans</i>	New South Wales	97	YIO-09233	75	A1429 N. S. Wales
99	A.4510	<i>Astur cruentus</i>	New South Wales	98	YIO-09336	76	A1430 N. S. Wales
100	A.17671	<i>Falco frontatus</i>	New South Wales	99	YIO-13059	77	A1417 N. S. Wales
101	A.16704	<i>Falco lunulatus</i>	New South Wales	100	YIO-13010	78	A1421 N. S. Wales
102	B.9856	<i>Tinnunculus cenchroides</i>	Cambewarra, N. S. W.	101	YIO-09927	79	A1424 N. S. Wales
103	A.6441	<i>Hieracidea orientalis</i>	New South Wales	102	YIO-09816	80	A1425 N. S. Wales
104	B.2145	<i>Haliastur sphenurus</i>	New South Wales	103	YIO-08936	81	A1405 N. S. Wales
105	B.6636	<i>Strix delicatula</i>	New South Wales	104	YIO-19141	82	A1400 N. S. Wales

*4：標本の金属タグと天産部台帳のタグ番号の記載ともに「A.9340」。

表 4-3 つづき (4/5)

送付リスト				標本ラベル		天産部台帳	
ID	番号	種名	採集地	ID	標本番号	東京教育博物館ラベル No.	台帳番号 採集地
106	O.1145	<i>Ninox strenua</i>	(空欄)	105	YIO-19552	83	A1396 <u>N. S. Wales</u>
107	B.2298	<i>Ninox boobook</i>	New South Wales	106	YIO-19557	84	A1397 N. S. Wales
108	O.928	<i>Ninox boobook</i>	New South Wales	107	YIO-19558	84	A1398 N. S. Wales
109	B.6617	<i>Cacatua galerita</i>	New South Wales	108	YIO-07284	85	A2375 N. S. Wales
110	B.2152	<i>Cacatua leadbeateri</i>	New South Wales	109	YIO-07272	86	A2376 N. S. Wales
111	B.1815	<i>Cacatua eos</i>	New South Wales	110	YIO-07267	87	A2377 N. S. Wales
112	B.1816	<i>Cacatua eos</i>	New South Wales	111	YIO-07268	87	A2378 N. S. Wales
113	O.186	<i>Callocephalon galeatum</i>	New South Wales	112	YIO-07259	88	A2379 N. S. Wales
114	B.9320	<i>Calyptrorhynchus funereus</i>	New South Wales	113	YIO-07253	89	A2380 N. S. Wales
115	B.9466	<i>Calyptrorhynchus leachii</i>	Belinger R. N. S. W. (ママ)	114	YIO-07256	90	A2381 Bellanger R. N. S. Wales (ママ)
116	B.9326	<i>Aprosmictus scapulatus</i>	New South Wales	115	YIO-07089	91	A2352 N. S. Wales
117	O.1275	<i>Aprosmictus scapulatus</i>	New South Wales	116	YIO-07090	91	A2353 N. S. Wales
118	B.10017	<i>Platycercus pennantii</i>	New South Wales	117	YIO-06864	92	A2354 N. S. Wales
119	A.11202	<i>Platycercus pennantii</i>	New South Wales	118	YIO-06865	92	A2355 N. S. Wales
120	O.1281	<i>Platycercus eximius</i>	New South Wales	119	YIO-06886	93	A2357 N. S. Wales
121	*5) A.12863	<i>Platycercus eximius</i>	New South Wales	120	YIO-06887	93	A2358 N. S. Wales
122	A.18476	<i>Platycercus barnardii</i>	New South Wales	121	YIO-06898	94	A2359 N. S. Wales
123	O.1259	<i>Psephotus haematonotus</i>	New South Wales	122	YIO-06847	95	A2363 N. S. Wales
124	B.1580	<i>Platycercus barnardii</i>	New South Wales	123	YIO-06899	94	A2360 N. S. Wales
125	A.11902	<i>Psephotus haematonotus</i>	New South Wales	124	YIO-06846	ラベルなし	A2362 N. S. Wales
126	A.7670	<i>Psephotus haematogaster</i>	New South Wales	125	YIO-06852	96	A2361 N. S. Wales
127	A.6356	<i>Trichoglossus novae-hollandiae</i>	Frasers Island	126	YIO-07389	97	A2367 Frasers Island
128	B.8615	<i>Trichoglossus novae-hollandiae</i>	Frasers Island	127	YIO-07390	97	A2368 Frasers Island
129	B.8671	<i>Trichoglossus chlorolepidotus</i>	New South Wales	128	YIO-07421	98	A2369 N. S. Wales
130	A.6374	<i>Trichoglossus concinnus</i>	Frasers Island	129	YIO-07478	99	A2370 Frasers Island
131	A.11895	<i>Trichoglossus pusillus</i>	New South Wales	130	YIO-07486	100	A2372 N. S. Wales
132	A.11728	<i>Trichoglossus pusillus</i>	New South Wales	131	YIO-07485	100	A2371 N. S. Wales
133	A.5375	<i>Anthochaera inauris</i>	New South Wales	132	YIO-50450	101	A1444 N. S. Wales
134	O.1234	<i>Anthochaera carunculatus</i>	New South Wales	133	YIO-50451	102	A1445 N. S. Wales
135	no No.	<i>Philemon buceroides</i>	New South Wales	134	YIO-50383	103	A1443 N. S. Wales
136	A.11726	<i>Philemon citreogularis</i>	Dubbo District, N. S. W.	135	YIO-50369	104	A1442 N. S. Wales
137	O.755	<i>Entomyza cyanotis</i>	New South Wales	136	YIO-50365	105	A1439 N. S. Wales
138	O.967	<i>Entomyza cyanotis</i>	New South Wales	137	YIO-50364	105	A1438 N. S. Wales
139	O.5	<i>Myzantha garrula</i>	New South Wales	138	YIO-50440	106	A1440 N. S. Wales
140	O.1419	<i>Ptilotis lewinii</i>	New South Wales	139	YIO-50225	107	A1452 N. S. Wales

*5：標本の金属タグと天産部台帳のタグ番号の記載ともに「A.12868」.

表 4-3 つづき (5/5)

ID	送付リスト			ID	標本ラベル		天産部台帳	
	番号	種名	採集地		標本番号	東京教育博物館ラベル	台帳番号	採集地
141	B.9262	<i>Ptilotis lewinii</i>	New South Wales	140	YIO-50226	107	A1453	N. S. Wales
142	B.6990	<i>Ptilotis leucotis</i>	New South Wales	141	YIO-50239	108	A1451	N. S. Wales
143	A.5290	<i>Ptilotis flavicollis</i>	Tasmania	142	YIO-50243	ラベルなし	A1454	Tasmania
144	O.276	<i>Ptilotis auricomis</i>	New South Wales	143	YIO-50249	110	A1455	N. S. Wales
145	O.1135	<i>Ptilotis auricomis</i>	New South Wales	144	YIO-50250	110	A1456	N. S. Wales
146	O.274	<i>Ptilotis chrysops</i>	New South Wales	145	YIO-50235	111	A1457	N. S. Wales
147	B.9267	<i>Manorina melanophrys</i>	Bellinger R.	146	YIO-50435	112	A1441	Bellanger R. N. S. Wales (ママ)
148	O.1256	<i>Meliphaga phrygia</i>	New South Wales	147	YIO-50424	113	A1436	N. S. Wales
149	O.1249	<i>Meliphaga phrygia</i>	New South Wales	148	YIO-50425	113	A1437	N. S. Wales
150	no No.	<i>Plectorhyncha lanceolata</i>	New South Wales	(標本なし)				
151	B.9620	<i>Meliornis novae-hollandiae</i>	New South Wales	149	YIO-50411	115	A1448	N. S. Wales
152	B.9619	<i>Meliornis novae-hollandiae</i>	New South Wales	150	YIO-50410	115	A1447	N. S. Wales
153	A.13086	<i>Meliornis sericea</i>	New South Wales	151	YIO-50418	116	A1450	N. S. Wales
154	B.9623	<i>Meliornis sericea</i>	New South Wales	152	YIO-50417	116	A1449	N. S. Wales
155	B.4569	<i>Meliornis australasiana</i>	New South Wales	153	YIO-50405	117	A1446	N. S. Wales
156	O.1403	<i>Acanthorhynchus tenuirostris</i>	New South Wales	*6 (標本なし)				N. S. Wales
157	O.1409	<i>Acanthorhynchus tenuirostris</i>	New South Wales	154	YIO-50430	118	A1465	N. S. Wales
158	B.8647	<i>Melithreptus lunulatus</i>	Frasers Island	155	YIO-50349	119	A1458	Frasers Isl
159	O.287	<i>Melithreptus lunulatus</i>	Frasers Island	156	YIO-50350	119	A1459	Frasers Isl
160	O.175	<i>Melithreptus brevirostris</i>	New South Wales	157	YIO-50344	ラベルなし	A1460	N. S. Wales
161	B.6604	<i>Melithreptus brevirostris</i>	New South Wales	158	YIO-50345	120	A1461	N. S. Wales
162	B.8557	<i>Myzomela sanguinolenta</i>	New South Wales	159	YIO-50038	121	A1466	N. S. Wales
163	B.9286	<i>Myzomela sanguinolenta</i>	New South Wales	160	YIO-50040	121	A1468	N. S. Wales
164	B.9284	<i>Myzomela sanguinolenta</i>	New South Wales	161	YIO-50039	ラベルなし	A1467	N. S. Wales
165	O.1358	<i>Halcyon sanctus</i>	New South Wales	162	YIO-29779	122	A2324	N. S. Wales
166	B.8634	<i>Halcyon macleayii</i>	Frasers Island	163	YIO-29749	123	A2325	Frasers Island
167	B.9638	<i>Merops ornatus</i>	Lambton Dist, N. S. W.	164	YIO-30179	124	A2340	Lampton District N. S. Wales (ママ)
168	B.9652	<i>Merops ornatus</i>	Lambton Dist, N. S. W.	165	YIO-30180	ラベルなし	A2341	Lampton District N. S. Wales (ママ)
169	O.318	<i>Eopsaltria australis</i>	New South Wales	166	YIO-38576	ラベルなし	A1630	N. S. Wales

*6：天産部台帳の記載により，関東大震災で標本が消失。

表 4.4. オーストラリア博物館から東京教育博物館へ送付された標本で、送付リストに記載されていなかった 26 点. 小林・加藤 (2020b) より転載.

ID	東京教育博物館 ラベル NO.	金属タグの 番号	天産部台帳 番号	標本番号	種名
1	129	B.9235	A1960	YIO-32801	ムナグロシラヒゲドリ <i>Psophodes olivaceus</i>
2	ラベルなし	B.9234	A1961	YIO-32802	
3	130	O.972	A1496	YIO-56187	カササギフエガラス <i>Gymnorhina tibicen</i>
4	131	A.11748	A1526	YIO-56086	オオツチスドリ <i>Corcorax melanorhamphos</i>
5	132	B.2143	A2256	YIO-19004	オーストラリアガマグチヨタカ <i>Podargus strigoides</i>
6	132	B.2143	A2257	YIO-19005	
7	133	B.7002	A1620	YIO-56179	ノドグロモズガラス <i>Cracticus nigrogularis</i>
8	134	B.8611	A1621	YIO-56177	ハイイロモズガラス <i>Cracticus torquatus</i>
9	135	O.686	A1869	YIO-56081	ツチスドリ <i>Grallina cyanoleuca</i>
10	136	B.9304	A1990	YIO-56206	フウチョウモドキ <i>Sericulus chrysocephalus</i>
11	137	O.1185	A1989	YIO-57656	シロハラコウライウグイス <i>Oriolus sagittatus</i>
12	138	A.11761	A1622	YIO-39512	カンムリモズビタキ <i>Oreoica gutturalis</i>
13	141	O.765	A2238	YIO-24022	ノドグロヤイロチョウ <i>Pitta versicolor</i>
14	142	A.7307	A1201	YIO-14161	ゴマフガモ <i>Stictonetta naevosa</i>
15	144	B.9428	A1991	YIO-57865	チモールメガネコウライウグイス <i>Sphecotheres viridis</i>
16	146	B.9461	A2309	YIO-18788	オオオニカッコウ <i>Scythrops novaehollandiae</i>
17	記載なし	B.9313	A3258	YIO-56211	フウチョウモドキ <i>Sericulus chrysocephalus</i>
18	記載なし	O.1137	A3259	YIO-39584	ハイイロモズツグミ <i>Colluricincla harmonica</i>
19	記載なし	タグなし	A3260	YIO-50448	ケミミツスイ <i>Anthochaera rufogularis</i>
20	記載なし	O.774	A3261	YIO-32795	ハシリチメドリ <i>Orthonyx temminckii</i>
21	記載なし	B.4344	A3262	YIO-56545	
22	記載なし	B.6459	A3263	YIO-19988	カッコウ科の不明種 <i>Cuculidae</i> sp.
23	記載なし	O.1188	A3264	YIO-19989	
24	記載なし	O.1354	A3265	YIO-19990	
25	ラベルなし	O.1157	A1937	YIO-42885	トラツグミ <i>Zoothera dauma</i>
26	ラベルなし	O.803	A1938	YIO-42886	



図 4-1. 東京教育博物館がオーストラリア博物館から入手した標本の例. YIO-13010 オーストラリアチゴハヤブサ *Falco longipennis* (A) と, YIO-13010 に対応する天産部台帳の記載 (B). A : YIO-13010 には天産部台帳番号 “A1421” のラベル (左下), “from Australian Museum by exchange” と表記された「東京教育博物館」の印字ラベル (中央下) と “A16704” と刻印された金属タグ (右下) が添付する. B : 天産部台帳の品名欄には, 種名 “*Falco lunulatus*” の後に金属タグの番号 “A16704” が表記されている. 天産部台帳は国立科学博物館所蔵資料. 本図は小林・加藤 (2020b) より転載.



図 4-2. 帝国博物館がオーストラリア博物館から入手した標本の例. A: 天産部台帳番号“A3161”の備考欄には「二十六年七月濠洲博物館寄贈」が表記されている. B: A3161 に対応する YIO-37494 チャイロトゲハシムシクイ *Acanthiza pusilla* は、天産部台帳番号のラベル, “46, *Acanthiza pusilla*, New South Wales” と表記されたラベル (左下) と “O.5042” と刻印された金属タグ (右下) が添付する. YIO-37494 の金属タグの番号は、天産部台帳の品名欄に表記されている (A). 天産部台帳は国立科学博物館所蔵資料. 本図は小林・加藤 (2020b) より転載.

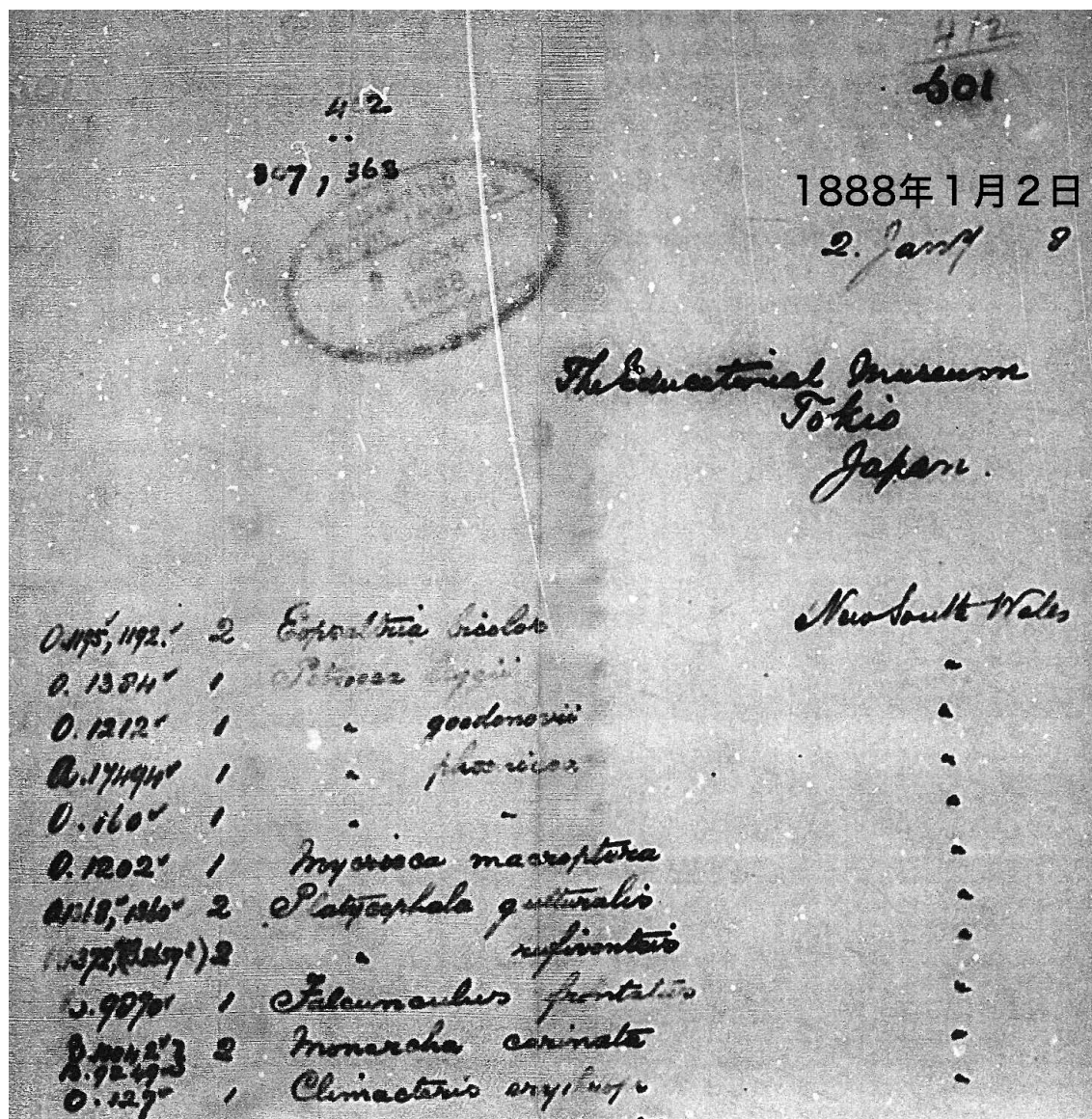


図 4.3. オーストラリア博物館から東京教育博物館へ送付された鳥類標本のリスト。オーストラリア博物館アーカイブス所蔵 (Australian Museum 1888b)。

5e 23-85

REFERENCES.

Exchange Schedule 12 (1893)

Correspondence 55



Exchange No. 1

The Australian Museum,
Sydney, Jan. 14th 1893

LIST OF SPECIMENS.

for Imperial Japanese Govt
Tokyo
Birds Japan

Reg. No.	No. of Specimens.	Description.	Locality.
0.4587	1	<i>Astur approximans</i>	New South Wales
A.8250	1	<i>Accipiter cirrhocephalus</i>	do.
0.5055	2	<i>Vinox boobook</i>	"
0.5056	1	"	"
0.5053	1	<i>Alcyon sanctus</i>	"
0.2261	1	" <i>macleayi</i>	"
0.800	1	<i>Alcyon azurea</i>	"
0.2650	2	<i>Artamus sordidus</i>	"

図 4.4. 1893 年にオーストラリア博物館が日本政府へ送付した標本のリスト. 4 行目の O.5056 の次の行が綴じ代に隠れて読み取れない. 東京国立博物館所蔵 (帝国博物館 1893).

Date	Consecutive No.	Name or Description	Locality	How acquired	Name of Donor or Seller	Estimated or Market Value	Destination
Oct 187	0						
	1401	<i>Malurus cyaneus</i>	Cambawanka	Collected	R. Grant		
	2	<i>Acantopodiceps tenuirostris</i>	"	"	"	Tokyo mus. 1888	Tokyo mus. 1888
	3	"	"	"	"		
	4	"	"	"	"		
	5	"	"	"	"		Ex. U.S.A. 191
	6	"	"	"	"		
	7	"	"	"	"	Tokio mus.	Tokio mus.
	8	"	"	"	"		Ex. U.S.A. 191
	9	"	"	"	"	Tokyo mus. 1888	Tokyo mus. 1888
	1410	"	"	"	"		

図 4-5. オーストラリア博物館台帳 (Australian Museum Register). 3 行目の “O.1403 ” と 9 行目の “O.1409” は “Tokyo mus. 1888”, 7 行目の “O.1407” は “Tokio mus.” と表記されていた. AM O.1409 は YIO-50430, AM O.1407 は YIO-50433 に対応した. AM O.1403 は 1923 年の関東大震災で失われた. オーストラリア博物館アーカイブス (Australian Museum Archives) 所蔵.

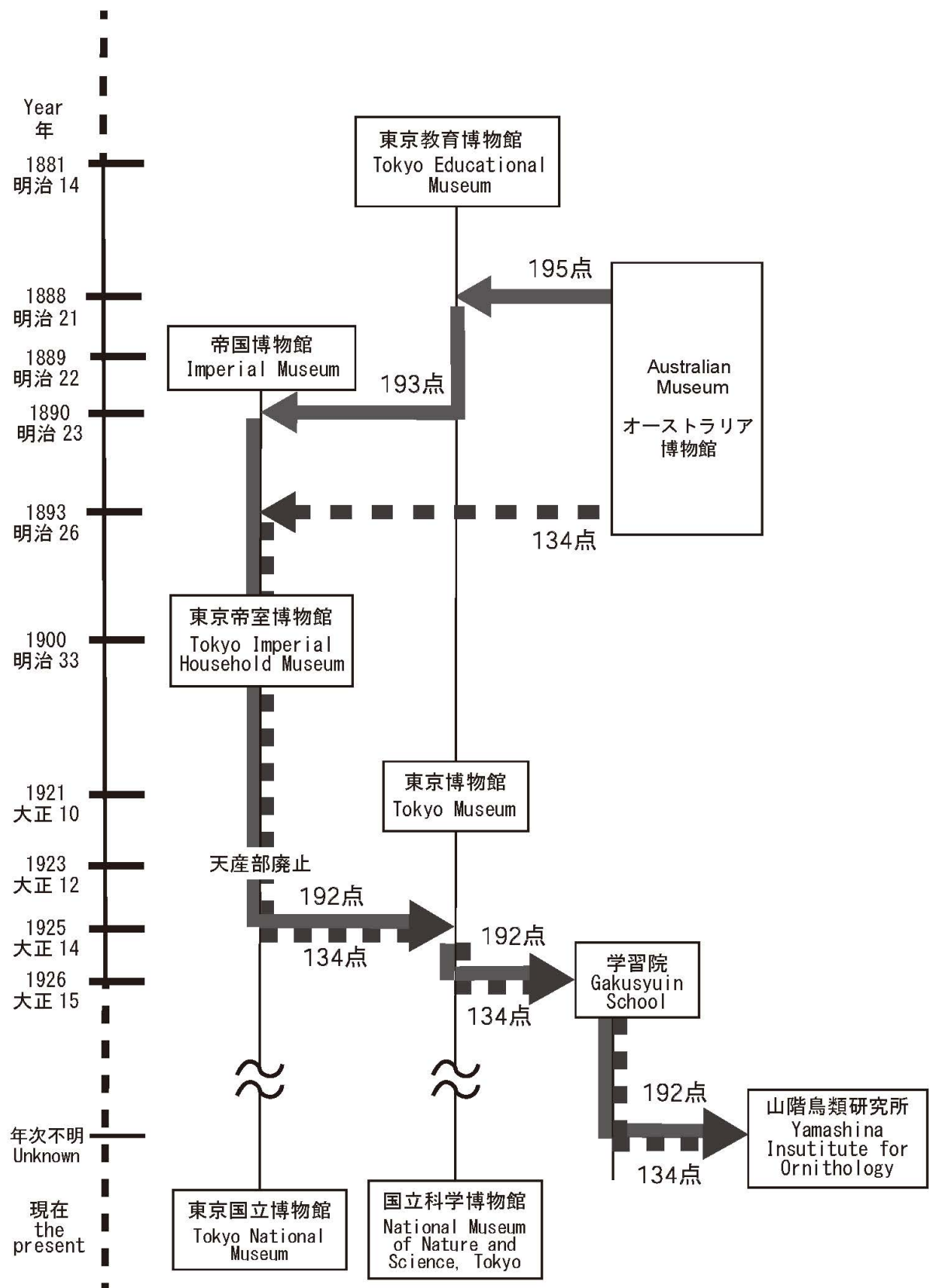


図 4-6. YIO-IH 標本群におけるオーストラリア博物館由来標本の移管経路と点数. 小林・加藤 (2020b) を基に改変.



図 4-7. YIO-08757 (AM B.9397) クロトキは，オーストラリア博物館台帳ではオーストラリアヘラサギとして登録されており、OZCAM でも同種としてデータが公開されている．本図は小林・加藤（2020b）より転載．

第 5 章

帝室博物館コレクションを構成する

主な標本群の歴史 その 3

–フランス国立自然史博物館由来標本群–

5-1. はじめに

帝室博物館コレクションには明治期に諸外国の博物館との交換によって得られた外国産の鳥類標本が多数含まれており、3章においてスミソニアン由来標本、4章においてオーストラリア博物館由来標本の歴史的背景を解明し、標本情報の復元を検討した。本章ではこれらに引き続きフランス国立自然史博物館（Muséum national d'histoire naturelle, 以後、本章では MNHN とする）由来標本の歴史的経緯について検討する。

5-2. 調査対象と方法

5-2-1. 調査対象

本章で検討対象とする標本は、YIO-IH 標本群中に散見される MNHN のラベルを持つ標本および関連資料から同じ由来であることが把握される標本である。

YIO-IH 標本群には、“MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE”と印字されたラベルが添付する標本が23点確認された（図5-1, 表5-1）。天産部台帳によれば、これらは「二十三年東京教育博物館引継」標本であり、1890（明治23）年以前に東京教育博物館（国立科学博物館）が所蔵していたという情報以上は得られなかった。また、オーストラリア博物館から国立科学博物館に送られた標本と同様に、天産部台帳でA1134からA2349の間に散在しており、帝室博物館（東京国立博物館）において一連の標本としては扱われていなかった（表5-1）。これらの点から、ラベルの印字以外でMNHN由来の標本を判別することはできなかった。

5-2-2. 調査方法

MNHN 由来標本は国立科学博物館が収集した標本であったことから、国立科学博物館の歴史書（国立科学博物館 1977）から関連する記載を探索した。また、MNHN で日本の博物館へ標本を送付した際の記録や標本台帳を調査した。

これらの調査から見出された資料、標本ラベル、天産部台帳の情報を照合し、標本の情報の復元を試みた。

5-3. 結果および考察

5-3-1. 国立科学博物館の歴史書による検証

国立科学博物館（1977）には、MNHN から国立科学博物館へ鳥類標本が送られた記載は見つからなかったが、国立科学博物館（東京博物館）から MNHN に自然史標

本を送付していた次の記載が見出された。「明治9年11月にフランス天文学士ジャンサン¹⁾の要請によって、文部省は東京博物館に委託して、九十九里浜で捕獲した鯨大小3頭の骨格と、国産の鳥獣49種、昆虫104種及び鯨についての図書、北海道産の魴の頭骨などをパリの自然史博物館解剖学教師兼督学士ポール・ジェルヴェー²⁾あてに送った」(国立科学博物館 1977)。同様の記載は明治9年の「文部省年報」(文部省 1876, 1877)からも見出されたが、MNHN から日本に何らかの標本が送付されたという記録は確認できなかった。

なお、文部省に自然史標本を要請した天文学士ジャンサンとは、1874(明治7)年12月9日の金星の太陽面経過の観測のため来日した、フランス観測隊の隊長ピエール・ジュール・セザール・ジャンサン(Pierre Jules César Janssen, 1824-1907)であった(斉藤・篠沢 1972)。金星の太陽面経過は、太陽、金星、地球が一直線にならび、金星が太陽の表面を横切るように見える現象で、1874年にはフランス隊のほか、アメリカ、メキシコ隊も観測のため来日したことが知られている(斉藤・篠沢 1972)。また、1876(明治9)年11月に国立科学博物館が自然史標本を送付した先は、MNHN 比較解剖学長ポール・ジェルヴェー(Paul Gervais, 1816-1879)であった。

5-3-2. フランス国立自然史博物館の標本台帳類から確認された標本交換の実態

MNHN に所蔵されている3種類の台帳から、国立科学博物館がMNHN 由来標本を所蔵していた1890年までの間に、日本との間で実施された鳥類標本の交換についての情報が得られた。

5-3-2-1. 受入台帳

MNHN には鳥類標本の受け入れを記録した受入台帳(entrance catalogue)が管理されていた。この受入台帳からは、1877年に日本政府からMNHN へ標本が送られた記載“japonais (gouvernement) 1877 485-559”が見出された(図5-2)。

5-3-2-2. 除籍簿

MNHN では鳥類標本の転出を記載していた除籍簿(Registre de sortie)が管理されていた。この除籍簿からは、1877年の10件目の転出“Donne en échange au Gouvernement japonais”(日本政府との交換)によって、鳥類標本104点、哺乳類標本7点がMNHN から除籍されたことが書かれていた(図5-3)。

5-3-2-3. MNHN 台帳

受入台帳，除籍簿とは別に MNHN の総合台帳 (Catalogue general) も管理されていた。以後，天産部台帳と区別するために，「MNHN 台帳」とする。MNHN 台帳には年ごとに整備され，台帳番号，種名，性と齢，採集地，個体数，転出などの備考にあたる情報が記載されていた (図 5-4)。採集日は台帳の記載項目には設けられておらず，受け入れた標本単位でまとめて記載されていたり，各標本に表記されている場合もあった。

MNHN 台帳番号は，標本を受け入れた年と，その年に受け入れた順に振られた番号で構成されていた (図 5-4)。例えば，1877 年の 604 番目に受け入れられている場合は「1877-604」とされ，これに対応する YIO-19697 アナホリフクロウ *Speotyto cunicularia* のラベルには，“Cat. Gen. 1877 No.604” (1877-604) と記載されていた (図 5-1, 5-4)。YIO-IH 標本群に添付する MNHN のラベルには MNHN 台帳 (Catalogue general) を示す “Cat. gen.”, “Cat. g.”, “C. g.” の後に台帳番号が表記されていた (図 5-1)。以後，MNHN 台帳番号を示す場合，番号の前に “MNHN” と表記する。

5-3-2-4. 各台帳の関係性

受入台帳での記載「japonais (government) 1877 485-559」は，MNHN 台帳の 1877 年の 485 番目から 559 番目に，同年の 17 件目の受け入れ “E.1877 No.17” (E は受け入れ (entrance) を示す) として，日本政府から送られた鳥類標本 75 点が登録されていた (図 5-5)。“E.1877 No.17” には “Don du gouvernement japonais, communiqué du M. le Prof. Gervais.” (ジェルヴェー教授から伝えられた，日本政府からの寄贈標本) の記載も確認された (図 5-5)。

また，除籍簿で 1877 年の 10 件目の転出として，MNHN から日本政府へ送った標本は，MNHN 台帳の各標本の備考に “S. 1877 No. 10” (S は転出 (sortie) を示す) と表記されていた (図 5-4)。

MNHN の台帳類の記載を整理すると，1877 年に日本政府から MNHN が受け入れた標本と，MNHN から日本政府へ送った標本の記載が見出された。このことから，MNHN と日本政府との間で標本の交換が行われたと推察された。

日本政府から MNHN が受け入れた 75 点 (MNHN 1877-485 から 1877-559) は，MNHN 台帳の記載からジェルヴェーが受け取ったと推察され，ジャンサンの依頼に基づいて，前 1876 年にジェルヴェーへ送ったとする国立科学博物館 (1977) の記載に合致した。MNHN から日本政府へ送った標本は，日本政府に対する返礼の可能性があるが，標

本の交換が行われた経緯が判る手紙などの資料は MNHN からも見出せなかった。

MNHN 台帳に記載された日本への転出標本は、日本からの寄贈に対する交換標本である可能性は高いものの、明確にはならなかった。

5-3-3. フランス国立自然史博物館由来標本の情報復元

5-3-3-1. 除籍簿による MNHN 台帳番号の復元

MNHN の除籍簿「S. 1877 No. 10」には、日本に送付するために除籍された標本の MNHN 台帳番号が記載されていた（図 5-2）。YIO-IH 標本群に添付する MNHN のラベルには MNHN 台帳番号が表記されており（図 5-1）、除籍簿の番号と照合することが可能であった。また、MNHN の名称が印字されていないラベルにも同様の MNHN 台帳番号が記載されているものが多数確認された（例えば図 5-6, 5-7）。これらを利用した照合の結果、除籍簿「S. 1877 No. 10」に記載された 104 点のうち、57 点の標本が YIO-IH 標本に含まれていることが確認された（表 5-2）。このほか、標本に添付された MNHN のラベルに台帳番号の記載がなかったり、ラベルが欠落しているものの、除籍簿「S. 1877 No. 10」の標本種と合致することから MNHN 由来と推定される 39 点について、1877 年に MNHN から送付された標本と推定した（表 5-2）。また、照合することができた 96 点とは別に、推定した 39 点と同様のラベル様式をもち、除籍簿には対応する標本がなかった 3 点を確認された（表 5-2, ID: 105-107）。これらが 1877 年に送付された標本とは異なるルートで国立科学博物館が入手したものであるのか、除籍簿や MNHN 台帳の記載に誤りがあるのかは明確にはならないが、これらも検討対象に含めておく。

5-3-3-2. 標本の採集日の復元

YIO-IH 標本群に含まれる MNHN 由来標本の大部分は採集日が不明であった。MNHN 台帳にも採集日が記載されていない場合があったが、MNHN 台帳番号からは MNHN への受入れ年次は確認できた。標本の受入れ年次からは、採集日とその年次以前であることが判断できた。その結果、日本に送られた標本の採集日は 1819 年から 1877 年までと判断され（表 5-2）、現存標本の採集日の復元や修正の根拠として利用することができた。

例えば、YIO-01732 (MNHN 1876-1035) ゴマダラウ *Phalacrocorax punctatus* は、「1895 年」に採集されたとして山階データベースで公開されていた（山階鳥類研究所 2021）。しかし、YIO-IH 標本群の MNHN 由来標本は 1877 年に送付されたものであることか

ら、この採集年次は明らかに誤りである。MNHN 台帳には採集年次の記載はないが、MNHN 台帳番号から、この標本の登録年次は 1876 年であること、標本ラベルの記載を再確認したところ、おそらくは 1875 年の採集標本であり、山階鳥研では「1875」を「1895」と誤読していたと推測された（図 5-6）。

マリー・フィルマン・ボクール（Marie Firmin Bocourt）が採集した標本は、YIO-IH 標本群に 9 点確認された。これらの標本ラベルには MNHN 台帳番号の記載がなく、また除籍簿「S. 1877 No. 10」とは、種で合致する標本はあったものの、ボクール標本が該当するかは明確ではなかった。しかし、ボクールは、フランス政府から科学調査のために中米諸国へ派遣され、1865 年初めから 1866 年 6 月 11 日まで、グアテマラのアルタベラパズ（Alta Verapaz）に滞在した（表 5-4）。9 点の採集地はラベルに「VeraPaz」, 「Haute VeraPaz」, 「Guatemala」と表記され、採集日の記載はなかったが、ボクールのアルタベラパズの滞在期間である 1865 年初めから 1866 年 6 月 11 日までに採集された標本であると推測された（Stuart 1948）。

5-3-3-3. 標本の採集地の復元

YIO-IH 標本群の MNHN 由来標本の採集地は、MNHN 台帳の記載から南北アメリカ、アフリカ、コーチシナ（フランス統治時代の名称、現在のベトナム南部）、インド、スマトラ、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、インド洋のサンポール島であった（表 5-3）。中には MNHN と同じ植物園内にある動物園（Ménagerie）で飼育されていた個体の標本もあった（表 5-3, ID: 19-21, 47, 68, 69）。

採集地域は採集者の特定から判明された場合もあった。例えば、YIO-07004（MNHN 1876-737）コセイインコ *Psittacula cyanocephala* は、“M. Harmand” によって採集された標本であった（図 5-7）。この採集者は、フランス人医師で外交官のジュール・アルマン（Jules Harmand, 1845-1921）であり、1875 年から 1877 年にコーチシナ（Cochinchina）を採集した人物であった（表 5-4）。これを裏付けるように MNHN 由来標本のアルマン標本は、MNHN 台帳から 1875 年から 1877 年に得られていた（表 5-3, ID: 28-32, 35-42, 58-64, 66-67）。MNHN 台帳の表記からは、採集地域の特定が難しく、台帳に表記がない場合もあったが、アルマンの背景や標本ラベルの“Cochinchina”との表記から（図 5-7）、アルマン採集標本 22 点の採集地はフランス領インドシナであったコーチシナ、またはカンボジアと推定された（表 5-3, ID: 28-32, 35-42, 58-64, 66-67）。この推定は、当該標本種の分布とも整合性がとれており、ある程度信頼できるものと考えられた。

また、探検家のアルフレッド・マルシェ (Alfred Marche) は、1872 年、1873–74 年、1875–77 年に西アフリカのオゴウエ川 Ogooué (現在のガボン) を探検した人物であった (表 5-4)。マルシェ標本 11 点は MNHN 台帳からは採集地が特定できない場合もあったが、1875、76 年に採集したものである (表 5-3, ID: 48-57, 65)。この時期はマルシェがオゴウエ川を探検した時期であり、オゴウエ川流域で採集した標本と推定された。

また、採集情報が復元されたことで、矛盾が解消された標本もあった。YIO-29271 (MNHN 1877-633) ヒメヤマセミ *Ceryle rudis* は、従来ブラジル採集とされていたが、本種は南米には分布していないため矛盾があった (山階鳥類研究所 2021)。MNHN 台帳の記載により、YIO-29271 は本種の分布域であるアフリカ、タンザニアで採集されたことが判明した (表 5-3, ID: 79)。

以上のように、除籍簿、MNHN 台帳、YIO-IH 標本群の標本ラベルの記載を照合した結果、ラベルの MNHN 台帳番号が明確であった 57 点のうち、50 点で正確な採集情報に修正、あるいは復元することができた。また、標本ラベルには MNHN 台帳番号が明記されておらず、除籍簿と YIO-IH 標本群の照合により MNHN 台帳番号を推定した 41 点のうち、16 点で MNHN 台帳の採集地とラベルの記載が合致した (表 5-3)。この照合結果は、あくまで推定に過ぎないものの、MNHN 台帳の記載を利用することで、従来、ラベルから適切に判読できていなかった採集地や採集者名などを特定することができた。

ボクール標本 9 点については、除籍簿にも記載されておらず、MNHN の標本番号も添付していないため、歴史的背景を明確にすることは困難だが、ボクールのグアテマラでの採集標本は MNHN に多数所蔵されていること、1890 年以前に国立科学博物館の所蔵標本であったこと、ボクール標本の採集年代は MNHN 標本が国立科学博物館に送付された 1877 年以前であることから、何らかの理由で、MNHN 台帳に登録される前の重複標本が送付されたと推測される。

5-3-3-4. 標本の種同定

除籍簿、MNHN 台帳と標本ラベルの情報を総合的に検討するなかで、山階鳥研において不明種とされていた標本、また山階鳥研の種同定との齟齬があった次の 3 点の種について検討した。

YIO-07542 ダルマインコの一亜種 *Psittacula alexandri fasciata* (P. L. S. Müller, 1776) (図 5-8)

YIO-07542 は、MNHN 台帳および除籍簿で *Palaeornis lathamii* と表記され、コーチシナで採集された標本であった。この種名は、ダルマインコの一亜種 (*Psittacula fasciatus* = 現 *P. alexandri fasciata*) を示していた (Reichenow 1881, Peters 1937)。標本を実見したところ、体は緑色、頬は灰色、太く黒色の顎線と眼先に薄い黒線があり、嘴は黒色であり、尾羽はダルマインコとしては明らかに短かった (図 5-7)。これらの特徴からダルマインコ *P. a. fasciata* の幼鳥と同定された (Robson 2020)。幼鳥の YIO-07542 は、本亜種の成鳥の各部位の既報値とは単純に比較できないが、跗蹠長 17.0mm と露出嘴峰長 22.8mm は既報値 [跗蹠長 16-19mm, 嘴峰長 22-26mm] の範囲内であり、YIO-07542 がダルマインコ *P. a. fasciata* であることを支持した (Juniper & Parr 1998)。

YIO-00883 ハイイロミズナギドリ *Puffinus griseus* (Gmelin, 1789) (図 5-9)

YIO-00883 は標本ラベルの記載からニュージーランドのキャンベル島 (Campbell Island) で採集され、標本ラベルおよび除籍簿ともに *Puffinus tristis* と表記されていた。この種名はハイイロミズナギドリ *P. griseus* であった (Gill et al. 2010)。YIO-00883 は上面が暗灰色、下面は明灰色、嘴は黒色で部分的に鞘が欠けていた。羽色はハイイロミズナギドリと合致するが、類似するハシボソミズナギドリの可能性もあるため、各部位を測定した。各部位の測定値は、翼長 298mm, 尾長 82mm, 跗蹠長 55.4mm, 露出嘴峰長 37.4mm であった。ハイイロミズナギドリの既報値 [翼長 260-308mm, 尾長 85.5-90mm, 嘴峰長 40.5-43.2mm, 跗蹠長 57.3-60.7mm] (キャンベル島で採集された成鳥剥製の測定値) より尾長と嘴峰長が短かった (Marchant & Higgins 1990a)。嘴峰長が短かったことについては、YIO-00883 の嘴の鞘が一部剥がれていたためと推測された。類似するハシボソミズナギドリの既報値 [翼長 261-287mm, 尾長 79-87.5mm, 嘴峰長 30.5-35.2mm, 跗蹠長 49.1-55.3mm] (ニュージーランドの捕獲された個体の測定値) と比較すると尾長を除き小さく、YIO-00883 はハイイロミズナギドリと同定された (Marchant & Higgins 1990a)。

YIO-14838 キバシオナガガモの一亜種 *Anas georgica spinicauda* Viellot, 1816 (図 5-10)

YIO-14838 は南米チリで採集され、MNHN 台帳および除籍簿ともに *Anas oxyura* と表記されていた。この種名はキバシオナガガモの一亜種 (*Defil (Anas) spinicauda* = 現

Anas georgica spinicauda) を示し、山階鳥研で登録していたベニバシガモとは別種であった (Hellmayr & Conover 1948, del Hoyo et al. 1992). YIO-14838 を実見したところ、嘴が黄色で嘴峰が黒色であり (図 5-10A), 尾羽は長く、下尾筒は明褐色に濃褐色のうろこ状の斑があり (図 5-10B), ベニバシガモの特徴である下尾筒の白斑はなかった。また次列風切羽は、ベニバシガモであれば白色で次列風切羽の先端は黒色だが、YIO-14838 では暗緑色の帯が次列風切羽と次列雨覆先端の白線で挟まれていた (図 5-10C)。これらは、キバシオナガガモの特徴と合致するため、YIO-14838 はキバシオナガガモ *A. g. spinicauda* と同定された (Navarro et al. 2003)。

5-3-4. フランス国立自然史博物館由来標本の歴史的考察

1877 年に MNHN から国立科学博物館へ送られた鳥類標本は、除籍簿では 104 点であったが、MNHN 台帳番号の記載がなかったボクール標本 9 点のうち、除籍簿で日本に送付した標本に含まれていなかった 3 点を追加し、少なくとも 107 点が MNHN から送られたと推測される (表 5-3)。このうち、確実に MNHN 由来であると評価できる標本は、YIO-IH 標本群中の 82 点 (76.6%) であった。推定を入れれば MNHN 由来標本は 100 点 (93.5%) であり、ほとんどが現存している可能性があった (表 5-3)。

本章における考察の結果、MNHN 由来標本は、1819 年 3 月に米ニューヨークで採集された YIO-50578 (MNHN 1819) キヅタアメリカムシクイ *Dendroica coronata* が最も古く、日本へ標本が送付された 1877 年までの間に、北中南米、アフリカ、アジア、オセアニアなど世界各地から採集された標本で構成されていた (表 5-3)。

帝室博物館コレクションの MNHN 由来標本は、現在では入手困難な地域の標本や、江戸時代末期から明治初期にあたる 200-140 年前の標本であり、国内の鳥類標本では屈指の歴史的な標本群と推測された。MNHN 由来標本は、後世に残すべき重要な標本群であろう。また、第 3 章のスミソニアン博物館、第 4 章のオーストラリア博物館由来標本とともに、明治初期に日本の博物館が海外の博物館との標本交換を行ったことを示す歴史的資料としても位置づけられる。

表 5-1. YIO-IH 標本群における MNHN ラベルが添付された 23 点の標本リスト.

ID	標本番号	天産部台帳番号	種名	
1	YIO-01372	A1134	ミミジロカイツブリ	<i>Rollandia rolland</i>
2	YIO-00883	A1138	ミズナギドリ科の不明種	(Unknown genus of <i>Procellariidae</i>) sp.
3	YIO-00523	A1142	ヒロハシクジラドリ	<i>Pachyptila vittata</i>
4	YIO-14165	A1192	シロコバシガン	<i>Chloephaga hybrida</i>
5	YIO-14167	A1193	コバシガン	<i>Chloephaga poliocephala</i>
6	YIO-14007	A1194	コクチョウ	<i>Cygnus atratus</i>
7	YIO-14280	A1208	キバシコガモ	<i>Anas flavirostris</i>
8	YIO-08576	A1233	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>
9	YIO-16201	A1350	カオグロナキシヤクケイ	<i>Aburria jacutinga</i>
10	YIO-17885	A1352	マクジャク	<i>Pavo muticus</i>
11	YIO-05951	A1385	レンジャクバト	<i>Ocyphaps lophotes</i>
12	YIO-19697	A1394	アナホリフクロウ	<i>Speotyto cunicularia</i>
13	YIO-09610*	A1411	ワシノスリ	<i>Geranoaetus melanoleucus</i>
14	YIO-09620	A1412	カタアカノスリ	<i>Buteo lineatus</i>
15	YIO-55581	A1525	オオハシガラス	<i>Corvus crassirostris</i>
16	YIO-23885	A1588	シマミドリカザリドリ	<i>Pipreola arcuata</i>
17	YIO-49889	A2074	ハイガシラスズメ	<i>Passer griseus</i>
18	YIO-49606	A2231	デンニンチョウ	<i>Vidua macroura</i>
19	YIO-21815	A2302	アオオビミドリチュウハシ	<i>Aulacorhynchus coeruleicinctis</i>
20	YIO-18849	A2319	オニクロバンケンモドキ	<i>Rhopodytes tristis</i>
21	YIO-29553	A2322	コウハシショウビン	<i>Pelargopsis capensis</i>
22	YIO-29271	A2330	ヒメヤマセミ	<i>Ceryle rudis</i>
23	YIO-30072	A2349	ハチクイモドキ	<i>Momotus momota</i>

*: 標本から MNHN ラベルは外れていたが、標本から外れて特定できなくなったラベルを集めているファイルの中から該当するラベルが見つかった.

表 5-2. MNHN の除籍簿 (S. 1877 No. 10) の記載と、それに対応する MNHN 由来標本. 旧蔵機関 MNHN で添付されたと推定されるラベルを「元ラベル」とした. YIO 標本番号前の “*” は除籍簿と YIO-IH 標本群の標本種によって MNHN 由来標本と推定したものを示す.

ID	MNHN除籍簿			YIO-IH標本群			備考
	MNHN台帳 番号	種名	標本番号	種名	ラベルの印字など		
1	1877-77	<i>Palaeornis rosa</i>	* YIO-07009	<i>Psittacula roseata</i>	バライロコセイインコ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
2	1876-737	<i>Palaeornis rosa</i>	YIO-07004	<i>Psittacula cyanocephala</i>	コセイインコ M. Harmand		
3	1876-732	<i>Palaeornis lathami</i>	YIO-07542	(Unknown genus of <i>Psittacidae</i>) sp.	インコ科の不明種 M. Harmand		
4	1868-1147	<i>Palaeornis lathami</i>	no specimen				
5	1877-595	<i>Buteo melanoleucus</i>	YIO-09610	<i>Geranoaetus melanoleucus</i>	ワシノスリ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE M. de la Narde Chili		
6	1877-775	<i>Buteo erythronotus</i>	YIO-09620	<i>Buteo lineatus</i>	カタアカノスリ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE		
7	1877-596	<i>Buteo albicaudatus</i>	* YIO-09625	<i>Buteo polyosoma</i>	セアカノスリ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
8	1876-2046	<i>Haliaeetus vocifer</i>	YIO-09003	<i>Gypohierax angolensis</i>	ヤシハゲワシ Alf Marche		
9	1866-503	<i>Aquila naevia</i>	YIO-09760	<i>Aquila clanga</i>	カラフトワシ		
10	1877-597	<i>Falco fusco-caerulescens</i>	YIO-09955	<i>Falco femoralis</i>	オナガハヤブサ M. de la Narde Chili		
11	1877-776	<i>Hycter chimango</i>	* YIO-09806	<i>Milvago chimango</i>	チマンゴカラカラ	ラベルに MNHN 番号の記載ないため種から推定	
12	1875-695	<i>Microhierax caerulescens</i>	YIO-09811	<i>Microhierax caerulescens</i>	モモアカヒメハヤブサ M. Harmand		
13	1877-598	<i>Perchneis sparveria</i>	YIO-09833	<i>Falco sparverius</i>	アメリカチョウゲンボウ M. de la Narde Chili		
14	1876-413	<i>Ninox scutellata</i>	YIO-19656	<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク M. Harmand		
15	1877-604	<i>Speotyto cunicularia</i>	YIO-19697	<i>Speotyto cunicularia</i>	アナホリフクロウ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE M. de la Narde Chili		
16	1876-443	<i>Pelargopsis javana</i>	* YIO-29553	<i>Pelargopsis capensis</i>	コウハシショウビン MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルに MNHN 番号の記載ないため種から推定 同種の YIO-29558 の可能性もあり	
17	1875-712	<i>Pelargopsis javana</i>	* YIO-29558	<i>Pelargopsis capensis</i>	コウハシショウビン (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定 同種の YIO-29553 の可能性もあり	
18	1877-777	<i>Streptoceryle torquata</i>	* YIO-29253	<i>Ceryle torquata</i>	クビワヤマセミ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
19	1877-633	<i>Ceryle rudis</i>	YIO-29271	<i>Ceryle rudis</i>	ヒメヤマセミ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE		
20	1862-718	<i>Ceryle amazona</i>	* YIO-29273	<i>Chloroceryle amazona</i>	オオミドリヤマセミ	ラベルに MNHN 番号の記載ないため種から推定	

表 5-2 つづき (2/5)

ID	MNHN除籍簿		YIO-IH標本群			備考
	MNHN台帳 番号	種名	標本番号	種名	ラベルの印字など	
21	1852-209	<i>Ceryle americana</i>	YIO-29283	<i>Chloroceryle americana</i>	ミドリヤマセミ	
22	-	<i>Chloroceryle superciliosa</i>	* YIO-29289	<i>Chloroceryle aenea</i>	コミドリヤマセミ Bocourt	除籍簿に番号の記載ないため種から推定
23	1863-918	<i>Alcedo ispida</i>	* YIO-29489	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
24	1863-917	<i>Alcedo ispida</i>				除籍簿のNo.1896-918か197に該当
25	1872-93	<i>Alcedo bengalensis</i>	YIO-29478	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	
26	1859-500	<i>Halcyon sanctus</i>	YIO-29778	<i>Halcyon sancta</i>	ヒジリショウビン	
27	1877-640	<i>Merops nubicus</i>	* YIO-30192	<i>Merops nubicus</i>	ベニハチクイ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定
28	1876-135	<i>Merops viridis</i>	YIO-30102	<i>Merops orientalis</i>	ミドリハチクイ M. Harmand	
29	1862-722	<i>Galbula melanogenia</i>	no specimen			
30	1877-55	<i>Coccyzus coromandus</i>	YIO-12947	<i>Clamator coromandus</i>	カンムリカッコウ M. Harmand	
31	1875-704	<i>Phaenicophaeus tristis</i>	YIO-18849	<i>Rhopodytes tristis</i>	オニクロバンケンモドキ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
32	1876-2047	<i>Centropus senegalensis</i>	YIO-19960	<i>Centropus senegalensis</i>	セネガルバンケン Alf Marche	
33	1877-53	<i>Eudynamis malayana</i>	YIO-18771	<i>Eudynamis scolopacea</i>	オニカッコウ M. Harmand	
34	1877-87	<i>Megalaima lineata</i>	YIO-21610	<i>Megalaima lineata</i>	シロボシオオゴシキドリ M. Harmand	
35	1877-90	<i>Megalaima lineata</i>	no specimen			
36	-	<i>Hylomanes momotula</i>	* YIO-30060	<i>Hylomanes momotula</i>	コハチクイモドキ Bocourt	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
37	1877-828	<i>Cymbirhynchus macrorhynchus</i>	YIO-20779	<i>Cymbirhynchus macrorhynchus</i>	クロアカヒロハシ	ラベルのMNHN番号1877-827 標本から欠落した 元ラベルが存在
38	1877-706	<i>Aulacorhamphus caeruleocinctus</i>	YIO-21815	<i>Aulacorhynchus coeruleicinctis</i>	アオオビミドリチュウハシ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
39	1849-51	<i>Momotus lessoni</i>	* YIO-30072	<i>Momotus momota</i>	ハチクイモドキ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
40	1877-719	<i>Pyrrhorhynchus arcatus</i>	YIO-23885	<i>Pipreola arcuata</i>	シマミドリカザリドリ MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
41	1862-762	<i>Pipra chrysoptera</i> ♀	YIO-23821	<i>Masius chrysopterus</i>	キンカムリマイコドリ	
42	1876-481	<i>Upupa indica</i>	* YIO-30330	<i>Upupa epops</i>	ヤツガシラ	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
43	1875-732	<i>Mixornis sumatrana</i>	YIO-36803	<i>Macronous gularis</i>	ムナフムシクイチメドリ M. Harmand	
44	1859	<i>Petroica alvifrons</i>	* YIO-38570	<i>Petroica australis</i>	ニュージーランドコマヒタキ	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
45	1859-512	<i>Petroica phaenicea</i>	YIO-38560	<i>Petroica phoenicea</i>	ノドアカサンショクヒタキ	

表 5-2 つづき (3/5)

ID	MNHN除籍簿		YIO-IH 標本群				備考
	MNHN台帳 番号	種名	標本番号	種名	ラベルの印字など		
46	1877-261	<i>Iora tiphia</i>	YIO-36644	<i>Aegithina tiphia</i>	ヒメコノハドリ	M. Harmand	
47	1876-2062	<i>Carmelita fuliginosa</i>	YIO-44596	<i>Nectarinia fuliginosa</i>	チョコレートタイヨウチョウ	Alf Marche	
48	1862-116	<i>Progne purpurea</i>	* YIO-24871	<i>Progne subis</i>	ムラサキツバメ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
49	1877-610	<i>Anthus correndera</i>	YIO-32376	<i>Anthus correndera</i>	セジマタヒバリ	M. de la Narde Chili	
50	1851-510	<i>Otocorys bilopha</i>	* YIO-24853	<i>Eremophila bilopha</i>	ウスイロハマヒバリ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
51	1876-486	<i>Oriolus melanocephalus</i>	YIO-56657	<i>Oriolus xanthornus</i>	ズグロコウライウグイス	M. Harmand	
52	1877-113	<i>Irena puella</i>	* YIO-36676	<i>Irena puella</i>	ルリコノハドリ	(元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定
53	1876-810	<i>Copsychus macrourus</i>	YIO-41349	<i>Copsychus malabaricus</i>	アカハラシキチョウ	M. Harmand	
54	1866-582	<i>Copsychus saularis</i>	* YIO-41338	<i>Copsychus saularis</i>	シキチョウ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
55	-	<i>Dendroica aestiva</i>	* YIO-50503	<i>Dendroica petechia</i>	キイロアメリカムシクイ	Bocourt	除籍簿に番号の記載ないため種から推定 同種の YIO-50505 (♀) も要検討
56	1875-898	<i>Grallaria melanoleuca</i> ♀	no specimen				
57	-	<i>Grallaria canadensis</i>	* YIO-50522	<i>Dendroica caerulescens</i>	ノドグロルリアアメリカムシクイ		除籍簿に番号の記載ないため種から推定
58	1863-870	<i>Grallaria coronata</i> ♂	* YIO-50579	<i>Dendroica coronata</i>	キヅタアメリカムシクイ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
59	1819	<i>Grallaria coronata</i>	* YIO-50578	<i>Dendroica coronata</i>	キヅタアメリカムシクイ		除籍簿の番号とラベルの採集年と種が一致することから推定
60	-	<i>Grallaria blackburniae</i>	* YIO-50556	<i>Dendroica fusca</i>	キマユアメリカムシクイ	Bocourt	除籍簿に番号の記載ないため種から推定
61	1862-909	<i>Grallaria blackburniae</i> ♂	YIO-50554	<i>Dendroica fusca</i>	キマユアメリカムシクイ		
62	-	<i>Grallaria virens</i> ♂	* YIO-50539	<i>Dendroica virens</i>	ノドグロミドリアメリカムシクイ	Bocourt	除籍簿に番号の記載ないため種から推定
63	-	<i>Grallaria virens</i> ♀	* YIO-50541	<i>Dendroica virens</i>	ノドグロミドリアメリカムシクイ	Bocourt	除籍簿に番号の記載ないため種から推定
64	-	<i>Grallaria vieillotii</i>	* YIO-50509	<i>Dendroica petechia</i>	キイロアメリカムシクイ		除籍簿に番号の記載ないため種から推定
65	1842	<i>Parula americana</i>	* YIO-50492	<i>Parula americana</i>	アサギアメリカムシクイ		除籍簿の番号とラベルの採集年と種が一致することから推定
66	1842	<i>Parula pitayumi</i>	YIO-50494	<i>Parula pitayumi</i>	ミナミアサギアメリカムシクイ		
67	1853	<i>Parula pitayumi</i>	YIO-50495	<i>Parula pitayumi</i>	ミナミアサギアメリカムシクイ		

表 5-2 つづき (4/5)

ID	MNHN除籍簿		YIO-IH標本群				備考
	MNHN台帳 番号	種名	標本番号	種名	ラベルの印字など		
68	1862-922	<i>Mniotilta varia</i>	YIO-50462	<i>Mniotilta varia</i>	シロクロアメリカムシクイ		
69	1875-756	<i>Mirafra javanica</i>	no specimen				
70	1877-826	<i>Buceros rhinoceros</i>	no specimen				
71	1877-285	<i>Garrulax leucolophus</i>	YIO-36867	<i>Garrulax leucolophus</i>	ハクオウチョウ	M. Harmand	
72	1867-359	<i>Heterornis elegans</i>	* YIO-57033	<i>Sturnus malabaricus</i>	インドコムクドリ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
73	1875-653	<i>Eulabes ruligiosa</i>	* YIO-57616	<i>Gracula religiosa</i>	キュウカンチョウ	(元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定
74	1876-1039	<i>Keropia crassirostris</i>	YIO-39638	<i>Turnagra capensis</i>	ニュージーランドツグミ		
75	1876-2075	<i>Hyphantornis textor</i>	YIO-59582	<i>Ploceus cucullatus</i>	ズグロウロコハタオリ	Alf Marche	
76	1877-659	<i>Pyrgita simplex</i>	YIO-49889	<i>Passer griseus</i>	ハイガシラスズメ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
77	1854-753	<i>Corvus crassirostris</i>	* YIO-55581	<i>Corvus crassirostris</i>	オオハシガラス	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
78	1877-664	<i>Vidua principalis</i>	YIO-49606	<i>Vidua macroura</i>	テンニンチョウ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
79	1876-2085	<i>Butorides atricapilla</i>	YIO-08262	<i>Ardeola striata</i>	ササゴイ	Alf Marche	
80	1876-2086	<i>Ardetta podiceps</i>	YIO-01978	<i>Ixobrychus minutus</i>	ヒメヨシゴイ	Alf Marche	
81	1877-612	<i>Ardea egretta</i>	YIO-08576	<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE M. de la Narde Chili	
82	1877-157	<i>Actitis hypoleucos</i>	* YIO-04317	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ		ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
83	1877-138	<i>Glareola lactea</i>	YIO-02175	<i>Glareola lactea</i>	ヒメツバメチドリ		
84	1876-2079	<i>Metopodius africanus</i>	YIO-02008	<i>Actophilornis africana</i>	アフリカレンカク	Alf Marche	
85	1876-2083	<i>Metopodius africanus</i>	YIO-02007	<i>Actophilornis africana</i>	アフリカレンカク	Alf Marche	
86	1876-2078	<i>Rallus niger</i>	YIO-13146	<i>Porzana flavirostra</i>	アフリカクロクイナ	Alf Marche	
87	1876-1085	<i>Ocyphaps lophotes</i>	* YIO-05951	<i>Ocyphaps lophotes</i>	レンジャクバト	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
88	1876-88	<i>Ianchoenas vitiensis</i>	YIO-05269	<i>Columba vitiensis</i>	アカメカラスバト		
89	1865-114	<i>Pipile jacutinga</i>	* YIO-16201	<i>Aburria jacutinga</i>	カオグロナキシヤクケイ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
90	1877-1298	<i>Cygnus atratus</i>	YIO-14007	<i>Cygnus atratus</i>	コクチョウ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
91	1877-790	<i>Chloephaga antarctica</i>	YIO-14165	<i>Chloephaga hybrida</i>	シロコバシガン	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
92	1877-795	<i>Chloephaga poliocephala</i>	YIO-14167	<i>Chloephaga poliocephala</i>	コバシガン	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	

表 5-2 つづき (5/5)

ID	MNHN除籍簿			YIO-IH標本群			備考
	MNHN台帳 番号	種名	標本番号	種名	ラベルの印字など		
93	1877-484	<i>Dendrocygna vidnota</i>	* YIO-13771	<i>Dendrocygna viduata</i>	シロガオリュウキュウガモ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
94	1877-616	<i>Anas oxyura</i>	* YIO-14838	<i>Netta peposaca</i>	ベニバシガモ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
95	1877-798	<i>Querquedula flavirostris</i>	YIO-14280	<i>Anas flavirostris</i>	キバシコガモ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	
96	1877-617	<i>Podiceps rollandi</i>	YIO-01372	<i>Rollandia rolland</i>	ミミジロカイツブリ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE M. de la Narde Chili	
97	1876-2089	<i>Plotus Levaillantii</i>	YIO-01845	<i>Anhinga melanogaster</i>	アジアヘビウ	Alf Marche	
98	1877-809	<i>Graculus brasilianus</i>	no specimen				
99	1876-1035	<i>Graculus punctatus</i>	YIO-01732	<i>Phalacrocorax punctatus</i>	ゴマダラウ		
100	1876-988	<i>Stercorarius antarcticus</i>	YIO-11146	<i>Catharacta skua</i>	オオトウゾクカモメ		
101	1877-810	<i>Diomedea exulans</i>	* YIO-00329	<i>Diomedea exulans</i>	ワタリアホウドリ (元ラベルなし)	元ラベルないため種で推定	
102	-	<i>Puffinus tristis</i>	* YIO-00883	(Unknown genus of <i>Procellariidae</i>) sp.	ミズナギドリ科の不明種	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	除籍簿にもラベルにもMNHN番号の記載ないため種から推定
103	1876-998	<i>Prion vittatus</i>	* YIO-00523	<i>Pachyptila vittata</i>	ヒロハシクジラドリ	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
104	1877-482	<i>Pavo spiciferus</i>	* YIO-17885	<i>Pavo muticus</i>	マクジャク	MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE	ラベルにMNHN番号の記載ないため種から推定
105			* YIO-50461	<i>Mniotilta varia</i>	シロクロアメリカムシクイ	Bocourt	除籍簿にないがラベルからMNHNと判断
106			* YIO-50505	<i>Dendroica petechia</i>	キイロアメリカムシクイ	Bocourt	ラベルからMNHNと判断 ID:55に該当する可能性あり
107			* YIO-21554	<i>Galbula ruficauda</i>	アカオキリハシ	Bocourt	ラベルからMNHNと判断 ID:29と種が一致するが採集者が異なった

表 5-3. MNHN 台帳を利用した標本情報の照合結果. ID 後の“R”は YIO-IH 標本群の中で MNHN 台帳番号が確認できた標本のうち、情報の追加、修正できたもの、“**”は除籍簿との照合で MNHN 台帳番号が確定できなかったものの、MNHN 台帳と標本ラベルの記載情報が合致する標本、“*”は YIO-IH 標本群の標本種と除籍簿、MNHN 台帳の記載の合致から MNHN 由来標本と推定したものを示す. コレクターは MNHN 台帳から解読できた場合のみ記載した. MNHN 由来標本の種名、性、採集地、採集日は山階データベースの登録情報を記載した. 下線は、山階データベースに追記、修正できる情報を示す.

ID	MNHN台帳							MNHN由来標本					備考
	MNHN台帳番号	種名	性	採集地	採集日	コレクター (解説)	コレクターから解読される採集地	標本番号	種名	性	採集地	採集日	
1	**	1819	Grallaria coronata		Before 1819	Jacques-Gérard Milbert (1766-1840)	New York, U.S.A.	YIO-50578	キツタアメリカムシクイ	F	New York Mill Estio@New York, U. S. A.		ラベルに採集者“Milbert”, 採集日“Mars 1819”と表記.MNHNでの受入年代と合致
2	R	1842			<u>Before 1842</u>	Louis Daniel Beauperthuy (1807-1871)	<u>Costa Firme, Central America</u>	YIO-50494	ミナミアサギアメリカムシクイ		Baupesthuy@Cote Ferme		
3	**	1842	Parula americana		Before 1842	François Louis Nompard de Caumont LaPorte (1810 - 1880)	U. S. A.	YIO-50492	アサギアメリカムシクイ		U. S. A.		ラベルに採集者“Castelnau”, 採集日“Février 1842”の表記
4	**	1849-51	Momotus lessoni	Amerique centrale	Before 1849			YIO-30072	ハチクイモドキ		Central America@Ameriq● Centra●		MNHNラベル添付. 該当の種は当該のみ
5	**	1851-510	Alawa (Otocorys bilopha)	Algérie	Before 1851			YIO-24853	ウスイロハマヒバリ		Algérie		ラベルとMNHN台帳の産地が合致
6	R	1852-209	Alcedo americana	Amerique	<u>Before 1852</u>	Victor Fontanier (1796-1857)	<u>Santa Marta, Columbia</u>	YIO-29283	ミドリヤマセミ	F	St Marthe		
7	R	1853-755	(判読できず)	Bahia (Brazil)	<u>Before 1853</u>	François Louis Nompard de Caumont LaPorte (1810 - 1880)	Bahia, Brazil	YIO-50495	ミナミアサギアメリカムシクイ		Brazil		
8	**	1854-753	Corvus crassirostris	Afrique	Before 1854			YIO-55581	オオハシガラス		Abyssinie@Abyssinia		MNHNラベル添付. 該当の種は当該のみ
9	R	1859-500	Alcedo sacra	Nouvelle Holland (Melbaurue), Australie	<u>Before 1859</u>		Melbaurue, Australie	YIO-29778	ヒジリショウビン		Australia		
10		1859-512	Petroeca phaenicea	M Nouvelle Holland (Melbaurue), Australie	Before 1859		Melbaurue, Australie	YIO-38560	ノドアカサンショクヒタキ	M	Australia	1859	
11	*	1859	Petroica alvifrons		Before 1859			YIO-38570	ニュージーランドコマヒタキ		N● Zélande@New zealand		
12	*	1862-116	Tlirund purpurea	Mexique	1861	Lucien Biart (1828-1897)	Mexico	YIO-24871	ムラサキツバメ	M	Brésil @ Brazil		
13	*	1862-718	Alcedo graudis	Nauoelle Grenada	Before 1862	Alejandro Lindig (Ca. 1815-1882?)	New Grenada	YIO-29273	オオミドリヤマセミ		Brazil. @ Bri●il		
14		1862-722	Galbula (vaes d'albiveuter)	Nauoelle Grenada	Before 1862	Alejandro Lindig (Ca. 1815-1882?)	New Grenada	no specimen					
15	R	1862-762	Sypra chrysotira	M Nauoelle Grenada	<u>Before 1862</u>	Alejandro Lindig (Ca. 1815-1882?)	<u>New Grenada</u>	YIO-23821	キンカムリマイコドリ	F	Nth Gren●de		
16	R	1862-909	Motacilla blackburniae	M Nauoelle Grenada	<u>20 February 1861</u>	Alejandro Lindig (Ca. 1815-1882?)	New Grenada	YIO-50554	キマユアメリカムシクイ	M	M. Lindig Nele Grenade @ New Granada,		
17	R	1862-922	Myiiodiacter varia	Nauoelle Grenada	<u>Before 1862</u>	Alejandro Lindig (Ca. 1815-1882?)	New Grenada	YIO-50462	シクロロアメリカムシクイ		New Grenada		

表 5-3 つづき (2/5)

ID	MNHN台帳							MNHN由来標本					備考
	MNHN台帳番号	種名	性	採集地	採集日	コレクター (解説)	コレクターから解釈される採集地	標本番号	種名	性	採集地	採集日	
18	**	1863-870	Matacilla coronata	M	Mexique: cuvoyes l'Orizaba	Before 1863	Lucien Biart (1828-1897)	Mexico	YIO-50579	キツタアメリカムシクイ	Mexico, Central America @ Menigan		ラベルとMNHN台帳の産地が合致
19	*	1863-917	Alcedo ispida		(Ménagerie)	Donated on 28 May 1863, died on June 1863			YIO-29489	カワセミ	France		
20	*	1863-918	Alcedo ispida		(Ménagerie)	Donated on 28 May 1863, died on June 1863			YIO-29489	カワセミ	France		
21	**	1865-114	Pipile jacutinga		(Ménagerie)	Obtained in 1861, died on 15 February 1865			YIO-16201	カオグロナキシヤクケイ	Brésil		MNHNラベル添付。該当の種は当該のみ
22	R	1866-503	Aquila naevia	F	Cochinchine	Before 1866	Rodolphe Germain (1827-1917)	Cochinchine	YIO-09760	カラフトワシ	Vietnam.		
23	**	1866-582	Copsychus saularis	F	Cochinchine	Before 1866	Rodolphe Germain (1827-1917)	Cochinchine	YIO-41338	シキチョウ	F Cochinchina @ (ベトナム)	1863	ラベルに“Mars 1863”の表記
24	**	1867-359	Heterornis cricus		Saigon	1861			YIO-57033	インドコムクドリ	Cochinchine @ Cochinchina (インドシナ)		ラベルとMNHN台帳の産地が合致
25		1868-1147	Palaeornis rasciatus		Saigon Cochinchine	Before 1868			no specimen				
26	R	1872-93	Alcedo bengalensis		Madras	Before 1872	Pierre Jules César Janssen (1824 – 1907)	Madras, India	YIO-29478	カワセミ	Madras, India. @ Madras		
27	*	1875-653	Mainate	M	(Ménagerie)	Died on 11 August 1875			YIO-57616	キュウカンチョウ	South India		
28		1875-695	Microhierax cutolmos=caerulescens		Mts. le Tursat (Turksat?)	Before 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-09811	モモアカヒメハヤブサ	Cochinchine	Ca. 1875	
29	R	1875-704	Phaenicophaeus tristis		Tonle Sap	June 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-18849	オニクロバンケンモドキ	Cochin China	June	
30	*	1875-712	Alcedo(Pelargopsis) javana	-		Before 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-29558	コウハシショウビン	不明		
31	R	1875-732	Myxornis sumatrana	Comb		Before 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-36803	ムナフムシクイチメドリ	Cochinchina		
32		1875-756	Mirafra javanica	-		Before 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	no specimen				
33		1875-898	Grallaria melanoleuca		Letinbird, Australie	Before 1875	Henri Filhol (1843-1902)	Australia	no specimen				
34	R	1876-88	Ianchoenas vitiensis	M	Kozo	Before 1876	Henri Filhol (1843-1902)	Fiji Island	YIO-05269	アカメカラスバト	M Fiji Island		
35	R	1876-135	Merops viridis		Ha Tien	September 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-30102	ミドリハチクイ	Cochinchina (インドシナ) @ Cochinchine		
36		1876-413	Ninox scutellata	-		Before 1876	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-19656	アオバズク	Cochinchine @ Cochinchina	1876	
37	*	1876-443	Halcyon(Pelargopsis) javana		Cratic	October 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cambodia (MNHNラベルに表記)	YIO-29553	コウハシショウビン	M Java.		
38	**	1876-481	Upupa indica (Hodgs)		Mékong cambodge	11 December 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Mékong, Cambodia	YIO-30330	ヤツガシラ	Cambosia @ MéKong Cambodgien		ラベルとMNHN台帳の産地が合致
39	R	1876-486	Oriolus melanocephalus		Sombor	December 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-56657	ズグロコウライウゲイス	Cochinchina	1876	
40	R	1876-732	Palaeornis lathamii		Thnom-Domiek	Before 1876	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-07542	インコ科の不明種	Cochin China (インドシナ) @ Cochinchina		
41	R	1876-737	Palaeornis rosa	F	Khone	December 1875	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-07004	コセイインコ	F Cochinchine @ Cochin China (インドシナ)		

表 5-3 つづき (3/5)

ID	MNHN台帳							MNHN由来標本					備考
	MNHN台帳 番号	種名	性	採集地	採集日	コレクター (解説)	コレクターから解釈 される 採集地	標本番号	種名	性	採集地	採集日	
42	1876-810	Copsychus macrourus		Tayo les Kouys	Before 1876	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-41349	アカハラシキチョウ		Cochinchine@インドシナ半島 (Cochinchina)	1876	
43	R 1876-988	Lertris antarcticus	M	St Paul	<u>Before 1876</u>	Alfred Grandidier (1836 – 1921)	Saint Paul Islamd, Indian Ocean	YIO-11146	オオトウゾクカモメ	M	St. Poul@Antarc, Ocean,	October	
44	** 1876-998	Prion vittatus	M	St Paul	Before 1876	Alfred Grandidier (1836 – 1921)	Saint Paul Islamd, Indian Ocean	YIO-00523	ヒロハシクジラドリ	M	●● St. Paul		MNHNラベル添付。該当の種は当該のみ
45	R 1876-1035	Graculus punctatus	M	<u>Akarua, New Zeland</u>	<u>Before 1876</u>	Julius von Haast (1822 – 1887)	New Zealand	YIO-01732	ゴマダラウ	M	N. Ze'lande	1895	
46	R 1876-1039	Keropia crassirostris	M	Yaipo, New Zeland	<u>Before 1876</u>	Julius von Haast (1822 – 1887)	New Zealand	YIO-39638	ニュージーランドツグミ	M	Yaipo.@Nth. Ziland@New Zealand		
47	** 1876-1085	Colombe huppée (Ocyphaps lophotes)		(Ménagerie)	Died on 10 September 1876			YIO-05951	レンジャクバト		Australia@Australie		MNHNラベル添付。該当の種は当該のみ
48	R 1876-2046	Haliaetus vocifer	F	Couflt Ogoue	<u>9 December 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	Ogooué Rivers, Gabon	YIO-09003	ヤシハゲワシ	F	Africa@Confl.. Ogouoe		
49	R 1876-2047	Centropus senegalensis		<u>Adanlinango (Ogooue)</u>	<u>8 December 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-19960	セネガルバンケン		●●●		
50	R 1876-2062	Carmelita fuliginosa	M	Adonlinalango	<u>6 December 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	Ogooué Rivers, Gabon	YIO-44596	チョコレートタイヨウチョウ	M	West Africa,@Aoambinalango ogouae		
51	R 1876-2075	Hyphantornis textor	M	<u>Lambaréné</u>	<u>Before 1876</u>	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-59582	ズグロウロコハタオリ	M			
52	R 1876-2078	Limnecorax flavirostris	M	?	<u>3 December 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-13146	アフリカクロクイナ	M	Mozambique		
53	R 1876-2079	Metopidius africanus	F	Lac ziele	25 November 1875	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-02008	アフリカレンカク	F	Africa@Zilé Ogo●●● Af. Equatoris●●. Occid●●●●	November 1875	
54	R 1876-2083	Metopidius africanus	M	Lac ziele	25 November 1875	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-02007	アフリカレンカク	M	Africa@Zilé Ogo●●●● Af. Equatoris●● Occid●●●	November 1875	
55	R 1876-2085	Butorides atricapilla	M	Lac ziele	<u>12 February 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-08262	ササゴイ	M	●●●e Z●●●● Ogonoe	1875	
56	R 1876-2086	Ardetta podiceps		Lac ziele	<u>2 December 1875</u>	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-01978	ヒメヨシゴイ		●a● Zulé	1875	
57	R 1876-2089	Plotus Levaillantii		<u>Couflt Ogoue</u>	6 December 1875	Alfred Marche (1844-1898)	<u>Ogooué Rivers, Gabon</u>	YIO-01845	アジアヘビウ		C●●● f l ●●●. Ogo●●●e	December 1875	
58	R 1877-53	Eudynamis malayana (orientalis var mawlata)		Saigon	<u>October 1876</u>	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-18771	オニカクコウ		Saigon	October	
59	R 1877-55	Coccyzus coromandus		Saigon	<u>September 1876</u>	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-12947	カンムリカクコウ		Saigon		
60	* 1877-77	Palaeornis rosa (bengalensis)	-		Before 1877	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-07009	バライロコセイインコ		Cochin China (インドシナ)		
61	R 1877-87	Megalaima lineata	Mts S Chaudoc		<u>June 1876</u>	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-21610	シロボシオオゴシキドリ		M. Harmand Cochinchina.@Cochinchina.		
62	1877-90	Megalaima dunaubii	Mts S Chaudoc		June 1876	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	no specimen					
63	* 1877-113	Irena puella	F	-	Before 1877	Jules Harmand (1845–1921)	Cochinchine	YIO-36676	ルリコノハドリ	F	Cochinchina	1877	
64	1877-138	Glareola lactea		bovesl dabbl cambodge	May 1876	Jules Harmand (1845–1921)	Cambodia	YIO-02175	ヒメツバメチドリ		Cambodia@Camb●dg●●●.	May 1876	

表 5-3 つづき (4/5)

ID	MNHN台帳							MNHN由来標本					備考
	MNHN台帳 番号	種名	性	採集地	採集日	コレクター (解説)	コレクターから解釈 される 採集地	標本番号	種名	性	採集地	採集日	
65	**	1877-157	Actitis hypoleucos		Lopen, Ogooue - Okanda	18 March 1876	Alfred Marche (1844-1898)	Ogooué Rivers, Gabon	YIO-04317	イソシギ	West Africa.		ラベルに“Ogooué” (ママ) と表記
66	R	1877-261	Iora tiphia	-		Before 1877	Jules Harmand (1845-1921)	Cochinchine	YIO-36644	ヒメコノハドリ	Cochinchine		
67		1877-285	Garrulax Belangeri leucolophus	-		Before 1877	Jules Harmand (1845-1921)	Cochinchine	YIO-36867	ハクオウチョウ	Cochinchina@Cochinchine	1877	
68	*	1877-482	Pavo spiciferus	F	(Ménagerie)	Obtained in 1875, died on 20 February 1877			YIO-17885	マクジャク			MNHNラベル添付。該当の種は当該 のみ
69	*	1877-484	Dendrocygna vidnota	M	(Ménagerie)	Purchased in 1874, died on 16 January 1877			YIO-13771	シロガオリユウ キュウガモ	Brazil		
70		1877-595	Buteo melanoleucus =halaguia		Agile, Chili	Before 1877		Chili	YIO-09610	ワシノスリ	Andes, South America	1877	
71	*	1877-596	Tachytriorchis albicaudatus		Chili	Before 1877		Chili	YIO-09625	セアカノスリ	South America.		
72	R	1877-597	Falco fusco-caerulescens (=femorialis)	M	Arcon, Chili	Before 1877		Chili	YIO-09955	オナガハヤブサ	M. de la Narde Chili		
73	R	1877-598	Cerchneis sparveria		fernicalo, Chili	Before 1877		Chili	YIO-09833	アメリカチヨウゲ ンボウ	M. de la Narde Chili		
74	R	1877-604	Speotyto (Athene) cunicularia		Oeqnen, Chili	Before 1877		Chili	YIO-19697	アナホリフクロウ	Chili@		
75	R	1877-610	Anthus correndera		Bailarin chico, Chili	Before 1877		Chili	YIO-32376	セジマタヒバリ	M. de la Narde Chili@Chili, South America.		
76	R	1877-612	Ardea egretta		Garza gronde, Chili	Before 1877		Chili	YIO-08576	ダイサギ	M. de la Narde Chili@Chili, South America		
77	**	1877-616	Anas oxyura		Jergon grond, Chili	Before 1877		Chili	YIO-14838	ベニバシガモ	Chili		山階DBの種が誤同定、MNHN台帳 の種と合致 (本文参照)
78	R	1877-617	Podiceps rollandi		Pitroca, Chili	Before 1877		Chili	YIO-01372	ミミジロカイツブ リ	Magellan. Str. @M. de la Narde Chili		
79	R	1877-633	Ceryle rudis		Bogamoyo (Tanzania)	Before 1877		Bogamoyo (Tanzania)	YIO-29271	ヒメヤマセミ	Mission on du S. Esprit Bagamoyo @Brasil		
80	*	1877-640	Merops nubicus		Bogamoyo (Tanzania)	Before 1877		Bogamoyo (Tanzania)	YIO-30192	ベニハチクイ	Africa		
81	R	1877-659	Passer(Pyrgita) simplex		Bogamoyo (Tanzania)	Before 1877		Bogamoyo, Tanzania	YIO-49889	ハイガシラスズメ	West, Africa.		
82	R	1877-664	Vidua principalis		Bogamoyo (Tanzania)	Before 1877		Bogamoyo, Tanzania	YIO-49606	テンニンチョウ	M	Africa	
83	R	1877-706	Rhamphastés (Aulacorhamphus) caeruleocinctus		Andes du Perou	Before 1877	Félix Dibos (1831-1898)	Peru	YIO-21815	アオオビミドリ チュウハシ	-		
84	R	1877-719	Pyrhorrhynchus arcuatus	F	Andes du Perou	Before 1877	Félix Dibos (1831-1898)	Peru	YIO-23885	シマミドリカザリ ドリ	F	Australia. @Perou@Peru	
85	R	1877-775	Buteo erythronotus	Juv.	Punta Arenas (Chili)	Before 1877	Paul Serre (1818-1900)	Punta Arenas, Chili	YIO-09620	カタアカノスリ	Punta, t●ena@Chili		
86	**	1877-776	Hycer chimango		Sorto Bueno (Patag)	Before 1877	Paul Serre (1818-1900)	Patagonia	YIO-09806	チマンゴカラカラ	South America		ラベル、MNHN台帳の双方に 「No.14」表記

表 5-3 つづき (5/5)

ID	MNHN台帳							MNHN由来標本					備考
	MNHN台帳 番号	種名	性	採集地	採集日	コレクター (解説)	コレクターから解釈 される 採集地	標本番号	種名	性	採集地	採集日	
87	*	1877-777	Ceryle(Streptoceryle) torquata(stellata)		Fortescue (Chili)	Before 1877	Paul Serre (1818-1900)	Fortescue, Chili	YIO-29253	クビワヤマセミ	Brazil		
88	R	1877-790	Chloephaga(Bernicla) antarctica	F, Ad	Churuca	<u>Before 1877</u>	Paul Serre (1818-1900)	South coast of North America	YIO-14165	シロコバシガン	S. Coast of N. America @M. l' Amiral Serres		
89	R	1877-795	Chloephaga(Bernicla) poliocephala		Eden	<u>Before 1877</u>	Paul Serre (1818-1900)	South coast of North America	YIO-14167	コバシガン	S. Coast of N. America @M. l' Amiral Serres		
90	R	1877-798	Querquedula flavirostris		Eden	<u>Before 1877</u>	Paul Serre (1818-1900)	South coast of North America	YIO-14280	キバシコガモ	南米 @M. l' Amiral Serres		
91		1877-809	Phalacrocorax(Graculus) brasilianus			Before 1877			no specimen				
92	*	1877-818	Diomedea exulans?		Golfo de Penas (Chili)	Before 1877	Paul Serre (1818-1900)	Golfo de Penas, Chili	YIO-00329	ワタリアホウドリ			
93		1877-826	Buceros rhinoceros		Sumatra	Before 1877			no specimen				
94	R	1877-828	Eurysainus(Cymbirhynch us) macrorhynchus		Sumatra	<u>Before 1877</u>	Xavier Brau de Saint Pol Lias (1840-1914)	Sumatra	YIO-20779	クロアカヒロハシ	Smatra.		
95	R	1877-1298	Cygnus noir		<u>Cap York queensland (Cape York)</u>	<u>Before 1877</u>	François Louis Nompard de Caumont LaPorte (1810 - 1880)	Queensland, Australia	YIO-14007	コクチョウ	Queens Paud		
96	*	-							YIO-50509	キイロアメリカム シクイ	U. S. A.		
97	**	-							YIO-00883	ミズナギドリ科の 不明種	●● Campbell.		MNHNラベル添付。除籍簿とラベル の種名“Puffinus tristis”で合致
98	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-29289	コミドリヤマセミ	F Central America		
99	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-30060	コハチクイモドキ	Central America		
100	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-50503	キイロアメリカム シクイ	M U. S. A.		
101	*	-							YIO-50522	ノドグロルリアメ リカムシクイ	M U. S. A		
102	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)		YIO-50556	キマユアメリカム シクイ	Guatemala @Guatemala, South America		
103	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)		YIO-50539	ノドグロミドリ アメリカムシクイ	M Guatemala. @Guatemala, South America		
104	*	-				Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)		YIO-50541	ノドグロミドリ アメリカムシクイ	F Guatemala.		
105	*					Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>Haute VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-50461	シロクロアメリカ ムシクイ	M U. S. A.		
106	*					Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>Haute VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-50505	キイロアメリカム シクイ	F U. S. A.		
107	*					Marie-Firmin Bocourt (1819- 1904)	<u>Haute VeraPaz, Guatemala (Early in 1865- 11 June 1866)</u>		YIO-21554	アカオキリハシ	M ●●●		

表 5-4. MNHN 由来標本のコレクターとその背景.

コレクター	生没年	標本の 採集日	採集地	コレクターの背景	文献
Alejandro Lindig	Ca. 1815-1882?	1861-1862	New Grenada	ドイツ人の植物学者。コロンビアのボゴタ在住。1860 年頃に現在のコロンビア、パナマ、エクアドル、ベネズエラの一部であったニューグレナダ (New Grenada) で植物採集。 <i>Lindigianthus</i> 属に献名。	Meagher (2012)
Alfred Grandidier	1836 – 1921	~1876	Saint Paul Island, Indian Ocean	フランスの博物学者で探検家。1865 年にマダガスカルを初めて訪れた後、1866, 68 年にも訪れていたが、戦争のため 1870 年に永久にフランスへ戻った。	Palmer (1922)
Alfred Marche	1844-1898	1875-1876	Ogooué Rivers, Gabon	1872, 1873-74, 1875-77 年にオゴウェ川 Ogooué River (現在のガボン) を探検。	Muséum d'histoire naturelle de Nantes (2021)
Félix Dibos	1831-1898	~1877	Peru	ペルー在住のフランス人商人。	Riviale (2005)
François Louis Nomp de Caumont LaPorte	1810 – 1880	Feb. 1842 (U.S.A) - 1853 (Brazil) - 1877 (Aust.)	U.S.A. Bahia, Brazil Queensland, Australia	博物学者で外交官。Francis de Castelnau とともに表記される。1837-41 年に北米を旅し、1843-47 年は南米で標本本を採集した。1843-47 年にはアマゾン川、ラプラタ川を探検。1862 年からオーストラリアのメルボルンに住み、メルボルンで没した。	Whitley (1974)
Henri Filhol	1843-1902	1876	Fiji Island	フランス人の医師、古生物学者。1894-1902 年に MNHN の比較解剖学の教授。1874 年のニュージーランド、キャンベル島の金星観測に医師として参加。	Osborn (1902), Global Plants (2021)
Jacques-Gérard Milbert	1766-1840	1819	New York, U.S.A.	フランス人の地形画家。1815-22 年にアメリカ合衆国で描いた図をリトグラフとして出版。	British Museum (2021a)
Jules Harmand	1845-1921	1875-1877	Cochinchine, Cambodia	医者、探検家、外交官。1873-1877 年コーチシナ (Cochinchina) を探検。	Aurousseau (1922)
Julius von Haast	1822 – 1887	1876	New Zealand	ドイツ人で古生物学者。ニュージーランドに Canterbury Museum を設立。絶滅鳥ハーストイーグル Haast's Eagle の骨格を発見。	Jenkinson (1940)
Lucien Biart	1828-1897	1861-1863	Mexico	作家、民族、考古学者。18 歳でメキシコに在住、昆虫や鳥などのコレクションを MNHN に送った。	Hamy (1989)

表 5-4 つづき (2/2)

コレクター	生没年	標本の 採集日	採集地	コレクターの背景	文献
Louis Daniel Beauderthuy	1807-1871	-1842	Costa Firme	フランス人の医師, 科学者. 1837 年に MNHN からベネズエラの探検調査に派遣. 1841 年からベネズエラのクマナに永住.	Sakula (1986)
Marie-Firmin Bocourt	1819-1904	Early in 1865- 11 June 1866	Guatemala	フランス人の動物学者, 博物画家. フランス政府からグアテマラに送られ, 1865 年始めから 1866 年 6 月 11 日までグアテマラのアルタベラパス(Alte Verapaz)で過ごした.	Stuart (1948)
Paul Serre	1818-1900	- 1877	Chili, Patagonia, South coast of North America	1876-79 年に太平洋海軍基地の軍艦 La magicienne の提督. 1877 年南アメリカの海岸を巡航し, 主にパタゴニアとチリで採集した鳥類を MNHN へ送った.	Riviale (1996)
Pierre Jules César Janssen	1824 – 1907	- 1872	Madras, India	天文学者. 1868 年インドで日食観測. 1874 年金星の日面通過の観察のため来日.	British Museum (2021b)
Rodolphe Germain	1827-1917	- 1866	Cochinchine	1862-67 年にフランス領インドシナのフランス軍獣医. 空き時間に標本作製し MNHN に標本を送った.	Beolens et al. (2009)
Victor Fontanier	1796-1857	- 1852	Sainte-Marthe, Columbia	ナチュラリスト. 1852 年コロンビア, サンタマルタ (Sainte-Marthe) の執務官として派遣.	Anonymous (1858)
Xavier Brau de Saint Pol Lias	1840-1914	- 1877	Smatra	探検家, 外交官. 1876-77 年にジャワとスマトラを旅行した.	Reid (1973)

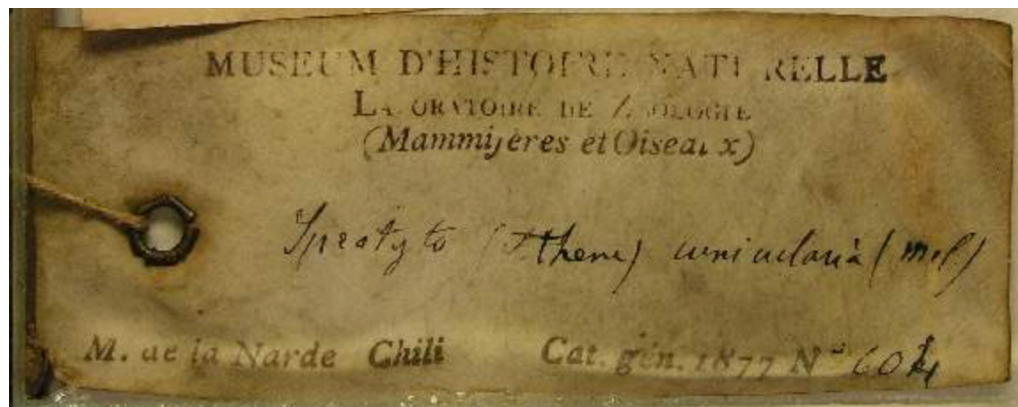


図 5-1. 「MUSEUM D'HISTOIRE NATURELLE」と印字された YIO-19697 アナホリフクロウのラベル。ラベルの右下に“Cat. gen.”とあり MNHN 台帳番号「1877-604」の記載がある。

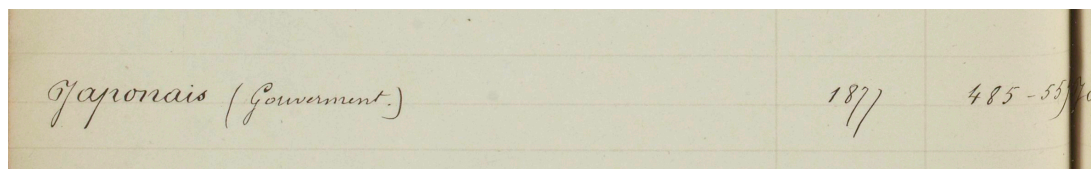


図 5-2. MNHN の受入台帳 (entrance catalogue)。

10.	Donne' en échange au Gouvernement japonais.		
1877	<u>Oiseaux.</u>		
	<i>Palaeornis rosa</i>	1877	77
	" "	1876	737
	" <i>Lathamii et caniceps</i>	{ 1876 1878	{ 732 1147
	<i>Buteo melanoleucus</i>	1877	595
	" <i>erythronotus</i>	1877	775
	" <i>albicaudatus</i>	1877	596
	<i>Haliaeetus vocifer</i>	1876	2046
	<i>Aquila naevia</i>	1866-29-	593
	<i>Falco fusco-caerulescens</i>	1877	597
	<i>Nyctar chimango</i>	1877	776
	<i>Microhierax caerulescens</i>	1875	695
	<i>Perdix parva</i>	1877	598

図 5-3. MNHN の除籍簿 (Registre de sortie). 1877 年の 10 件目の日本政府との交換のため転出した標本のページ. 上部に “Donne en échange au Gouvernement japonais” (日本政府との交換) の記載が確認できる.

Magasins de Mammalogie et d'Ornithologie.			Catalogue Général.		Année 1877	
Numéros des Objets.	Désignation des objets reçus.			Emploi des objets reçus.		
575.	Faisan de Linnæe	♂	mort le 7 Mai 1877	G. O. 12158 H. Nouv. 74. A		
576.	"	♂	mort le 15 Mai 1877	G. O. 12158 G.		
577.	"	♂	15 Juin 1877	G. O. 12158 F.		
578.	" prêtre	♀	acquise M. Weil en 1874, morte le 20 juin 1877	Go. 12177 A2		
Ménagerie						
579	Maki à front blanc	mort le 1 ^{er} février 1877.	L. 1872 non			
580	Coq de Moutchourie	" le 1 ^{er} " 1877.	G. m. n° 472, B			
581	Tatou	" le 11 fév 1877.	L. 1878 n° 6			
582	Chamois	" le 13 fév. 1877.	mort			
583	Castor	" le 17 fév. 1877.	G. m. 2326. A.			
584	Hamadryas	" le 3 mars 1877.	L. 1878 n° 6			
585	Callitriche	" le 8 mars 1877.	L. 1872 non			
586	Paradoxure	" le 16 mars 1877.	L. 1877 n° 10.			
587	Gazelle	" le 3 mai 1877.	L. 1878 n° 2			
588	Paca	" le 15 mai 1877.	L. 1877 n° 10.			
589	Thérot	" le 29 mai 1877.	L. 1878 n° 2			
590	Agouti	" le 14 juin 1877.	L. 1877 n° 10.			
591	Guinea-lapereuse	" le 9 juin 1877.	Reformé. Am. à l'anatomie Avril 1877			
592	Dauv. femelle	" le 9 juin 1877	G. m.			
593	Macaque leonine	" le 23 juin 1877.	G. m. 2269. A			
594	Bleat Boeck	" le 25 juin 1877	L. 1878 n° 3			
595	Reçu de M. de la Harpe			L. 1877 n° 10		
596	E. 1877 n° 23			L. 1877 n° 10.		
595	Buteo melanocephalus (Vill.) = Hal. aguiar	Agil. 11. Chili	L. 1877 n° 10.			
596	Tachytrichis albicaudatus (V.)	"	L. 1877 n° 10.			
597	Falco fusco-caruleus (V.) (= femoralis 8.)	Arcon. 86 "	L. 1877 n° 10.			
598	Cerchneis sparveria (L.)	Ternuco 68 "	L. 1877 n° 10.			
599	Circus cinereus (V.)	Penco Rilla 81 "	L. 1877 n° 10.			
600	Onych (Cathartes) aura (L.)	Gotte 117 "	L. 1877 n° 10.			
601	Myiobaga (Myiob.) chimango	Pingu. comen. 81 "	L. 1890 n° 25			
602	Bubo magellanicus	Tucumcure 122 "	G. O. 101 B			
603	Otus brachyotus var. castaneus	Nuco 87 "	G. O. 637 a			
604	Protyto (Athene) unicolor (Vill.)	Ceguen 93 "	L. 1877 n° 10.			
605	Agriornis maritima (Laf.)	Lazal. Mero 37 "	G. O. 3851 B			

YIO-09610
YIO-09625
YIO-09955
YIO-09833

YIO-19697

図 5-4. MNHN 台帳 (Catalogue general). このページには MNHN 由来標本 5 点が確認された。

下から 2 行目が図 5-1 の YIO-19697 (MNHN 1977-604) アナホリフクロウ。

Magasins de Mammalogie et d'Ornithologie.				Année 1877	
Catalogue Général.					
Numéros des Objets.	Designation des objets reçus.			Emploi des objets reçus.	
Don du gouvernement japonais, communiqué par M. le Prof. Gervais.					
E. 1877 n° 17					
485.	<i>Otus semitorques</i> (B. et Schl.)	Cat. 31.	Japon	G.O. 872 ^c	
486	<i>Picus major</i> (L.)	Cat. 15	"	G.O. 2095 ^A	
487	" "	Cat. 15	"	G.O. 2095 ^B	
488	<i>"(Byrrh) hisuki</i> (B. et Schl.)	Cat. 47	"	G.O. 2165 ^c	
489	" "	"	"	Ach	
490	<i>Tarus varius</i> (B. et Schl.)	Cat. 13	"	G.O. 10833 ²	
491	" "	"	"	G.O. 10833 ⁴	
492	<i>Oriolus chinensis</i> (B. et Schl.)	Cat. 24	"	G.O. 10870 ^A	
493	<i>Lanius borealis</i> (B. et Schl.)	Cat. 8	"	G.O. 9968 ^c	
494	" <i>superbiorum</i> (Lath.)	Cat. 48	"	G.O. 9964 ^B	
495	<i>Cyanoptila cyanomelana</i> (B. et Schl.)	Cat. 14	♂	G.O. 9342 ^B	
496			♀	G.O. 9342 ^c	
497			?	G.O. 9342 ^D	

図 5-5. MNHN 台帳で 1877 年の 17 件目 (E 1877 No.17) に日本政府から送付された標本の登録ページ。上部に “Don du gouvernement japonais, communiqué du M. le Prof. Gervais.” (ジェルヴェー教授から伝達された, 日本政府からの寄贈) の記載が確認できる。

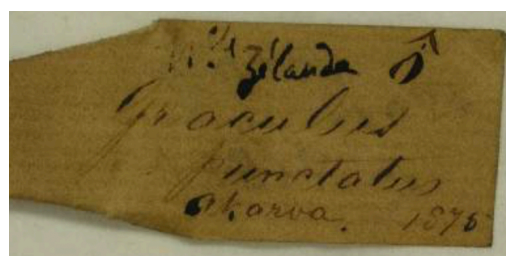
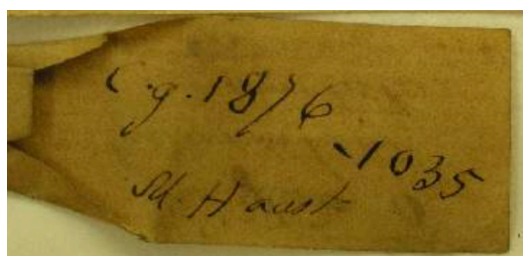


図 5-6. YIO-01732 ゴマダラウの MNHN ラベルの表裏。上: MNHN 台帳番号「1876-1035」を示す表記。その裏(下)の右下に採集年「1876」年と推測される表記がある。

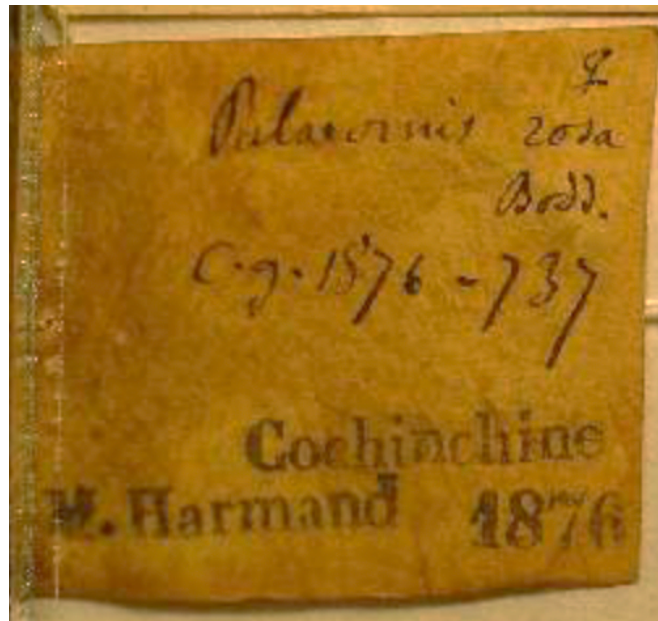


図 5-7. MNHN ラベルに“Cochinchina”と表記されたアルマン（Harmand）標本。名前の前の“M.”は名前の頭文字ではなく、敬称の Monsieur を意味すると推測される。
YIO-07004（MNHN 1876-737）コセイインコのラベル。



図 5-8. ダルマインコの一亜種 *Palaeornis alexandri fasciata* と同定された YIO-07542。



図 5-9. ハイイロミズナギドリ *Puffinus griseus* と同定された YIO-00883.



図 5-10. キバシオナガガモの一亜種 *Anas georgica spinicauda* と同定された YIO-14838.

A : 嘴の上面. B : 尾部の下面. C: 側面.

第 6 章

帝室博物館コレクションの情報復元

－南鳥島産鳥類標本を例に－

6-1. はじめに

帝室博物館コレクションの一部である YIO-IH 標本群には、明治期の南鳥島産の標本が含まれている。南鳥島は、小笠原諸島父島から東南東 1,300km の太平洋上に位置する日本最東端の海洋島である（北緯 24 度 18 分，東経 153 度 58 分，図 6-1）。周囲 7.6km，面積 1.46km²，標高 9m のサンゴ礁が隆起した平坦で三角形の島である（日本離島センター 2004，国土地理院 2021）。

南鳥島は、1896（明治 29）年 12 月に水谷新六（1850-没年不明）が上陸した際にアホウドリ類のコロニーを見つけ、アホウドリ類の羽毛採取事業を開始したことが契機となり、1898 年に日本領となった（平岡 2003，2015）。水谷の羽毛採取事業は、アホウドリ類が減少したためにわずか 4 年で成り立たなくなり、1900 年からは上滝七五郎（1863-没年不明，「上瀧」と表記されることもあるが，本論では「上滝」とする）が海鳥の剥製業を開始した（平岡 2003）。これらの事業で得られた羽毛や剥製は，装飾品や羽毛布団の原料として主にヨーロッパへ輸出された（平岡 2003，2015）。乱獲により南鳥島の鳥類が減少するなかで、1903 年からは島の産業はグアノやリン鉱の採掘事業に移行した（平岡 2003）。採掘事業のために 60-70 名ほどいた労働者が、1922（大正 11）年には 30 名ほどに減り，その後漁業に従事する数世帯が住むのみとなり，1933 年頃には無人島になった（平岡 2003）。1935（昭和 10）年からは海軍が駐屯するようになり，1935 年に気象観測所が設置された。翌 1936 年には軍用飛行場などの軍事施設が建設され，南鳥島は要塞化していった（平岡 2003）。南鳥島は第二次世界大戦中には重要な軍事基地となり，軍隊の派遣による人口増加などで島の環境が大きく変化した（Kuroda 1954，川上 2019）。戦後 1945 年以降は，南鳥島は米軍の管理下に置かれ，1968 年に日本に返還された（平岡 2003）。

南鳥島の鳥類相については，次の 4 件が報告されている。Bryan (1903) による 1902 年の調査では 18 種が生息し，そのうち 11 種の海鳥，アカオネッタイチョウ *Phaethon rubricauda*，コアホウドリ *Phoebastria immutabilis*，クロアシアホウドリ *Pho. nigripes*，オナガミズナギドリ *Puffinus pacificus*，コミズナギドリ *Pu. nativitatis*，オオグンカンドリ *Fregata minor*，カツオドリ *Sula leucogaster*，クロアジサシ *Anous stolidus*，ヒメクロアジサシ *A. minutus*，シロアジサシ *Gygis alba*，セグロアジサシ *Sterna fuscata* が繁殖していることが報告された。明治期の南鳥島は，小笠原諸島の中で最も多種の海鳥が繁殖する島であった（Chiba *et al.* 2007）。黒田長久による 1952 年の調査では，8 種を観察し，このうちセグロアジサシとクロアジサシ 2 種のみの繁殖を確認した（Kuroda 1954）。海鳥の乱獲や第二次世界大戦による島の環境の変化によって，1952

年までに 9 種の海鳥の繁殖集団が消滅していたことになる。その後、気象庁職員の河原恭一が、気象観測のために派遣された 1992 年 11 月から 1993 年 2 月に 18 種を観察し、ヒアリングの情報としてセグロアジサシ、クロアジサシに加え、アカオネツタイチョウの繁殖を報告した（河原 1993）。川上和人による 2007（平成 19）年 7 月の調査では、6 種を観察し、そのうちセグロアジサシ、クロアジサシ、アカオネツタイチョウの繁殖を確認した。また、ヒアリングによりコアホウドリの営巣を報告した（川上 2017）。第二次世界大戦を経て、南鳥島で繁殖する鳥類は大幅に減少したが、1952 年から 2007 年までの間にアカオネツタイチョウとコアホウドリの 2 種では営巣が確認された（河原 1993, 川上 2017）。

YIO-IH 標本群の南鳥島産標本は、採集時期、採集者、採集目的が明確でないことや、種同定が不明確であることから、これまで学術研究、例えば南鳥島や小笠原の鳥類相の研究などに利用された事例がなかった（Kuroda 1954, Chiba et al. 2007, 川上 2017, 2019）。本研究では、帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的背景を解明し、標本の採集情報の復元を試みることで、標本の学術的価値の向上を目指す。

6-2. 調査対象と方法

6-2-1. 調査対象

調査対象の南鳥島産標本は、天産部台帳で産地が「南鳥嶋」と表記された 42 点である（表 1）。この 42 点は、帝室博物館コレクションを構成する標本群のうち、1889–1923（明治 22–大正 12）年に帝室博物館が収集した標本群に属し、天産部台帳から寄贈年代と寄贈元の情報が得られた（2 章参照）。

寄贈年代は、1902（明治 35）年と 1903（明治 36）年、寄贈元は 6 件（5 名と 1 機関）であった（表 6-1）。寄贈元について、A4305「かつ於どり」では「三十六年十二月製了<元動物園飼養>」とあり（表 6-1, ID: 7）、上野動物園で飼育していた個体を意味していたが、上野動物園は当時、帝室博物館天産部の部署の一つであったため、上野動物園を寄贈元として扱わなかった。また、A4843, A4844, A4845 では「三十五年十二月採集」と表記され（表 6-1, ID: 40, 41, 42）、入手経緯が明確ではなかった。これらの列品保管証番号の「三十五年採」は、台帳全体を通して上野動物園から引き継がれた標本と同様の表記であったため、これら 3 点も A4305 と同じ上野動物園から引き継がれたと考えられる。

天産部台帳の南鳥島産標本 42 点の台帳番号と、標本に添付された天産部台帳番号ラベルを照合したところ、26 点が合致した（表 6-1, 図 6-2b）。帝室博物館コレクシ

ョンを所蔵する国立科学博物館と学習院中・高等科からは、南鳥島産標本は確認できなかったため、この 26 点が現存する帝室博物館コレクションの南鳥島産標本とされた。

天産部台帳では、標本の種名の多くが「あぢさしノ一種」などと登録され、帝室博物館で標本を受け入れた当時から多くの標本が未同定であった（表 6-1）。山階鳥研では、9 点が未同定、標本ラベルの欠落や採集地の記載がないなどで 10 点が採集地不明、26 点中 13 点の標本の採集情報が不明確であった（表 6-1）。

6-2-2. 調査方法

6-2-2-1. 標本の歴史

天産部台帳の記載を基に、帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的背景を調査した。天産部台帳の南鳥島産標本には、「列品保管証」の番号が記載されていた（表 6-1）。列品保管証とは、帝室博物館の各部署が受け入れた物品や標本の品目（種名）、産地、形状、数量、価格、受領の顛末などを記入したもので、標本の受け入れ時の記録であり、帝室博物館が 1902（明治 35）年から台帳整備のために開始した手続きであった（東京国立博物館 1973）。列品保管証は各年の「列品録」に綴られ、東京国立博物館に保管されている。したがって、列品保管証の番号の記載があれば、列品録に標本受け入れ時の記録が残されている。台帳に記載された列品保管証番号は、対応する標本のラベルに貼付されていた（表 6-1、図 6-2a）。列品録と同様に上野動物園で受け入れられた動物の記録は各年の「動物録」に綴られている。

標本が寄贈された 1902, 1903 年頃の列品録や動物録を閲覧し、その記載をもとに、標本寄贈者と南鳥島との関わりについての資料を探索した。得られた情報から、寄贈者ごとに標本の収集経緯や時期を推定した。

6-2-2-2. 標本の種同定

現存する南鳥島産標本 26 点について、標本の歴史的背景から明確になった採集情報を基に標本の形態観察と各部位の計測を行い、種を同定した。種や亜種名は日本鳥学会（2012）に従った。

6-2-2-3. 標本の採集情報の復元

標本の歴史から判明した採集情報や種同定の結果から、現存する各標本の情報を復元した。

6-2-2-4. 標本の学術的価値の評価

帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の学術的価値を評価するために、国内の各機関が保有する南鳥島産標本と比較した。国内の南鳥島産標本の所在は、サイエンスミュージアムネット（S-Net）[<http://science-net.kahaku.go.jp>] による検索、出版されている鳥類標本目録から情報を収集した（黒田 1924, 小松市立博物館 1986, 池田 2001, 説田・時田 2001, Kawaji et al. 2003, 和田 2003, 江崎ら 2006, 星野 2008）。南鳥島産標本の情報が寄せられた場合は、所蔵機関に問い合わせて標本の情報や写真の提供を受け、標本を閲覧することで情報を収集した。また、帝室博物館コレクションの南鳥島産標本と採集当時の南鳥島の鳥類相（Bryan 1903）とを比較することで、現存する標本の学術的価値について評価した。

6-3. 結果および考察

6-3-1. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的背景

6-3-1-1. 南鳥島産標本の寄贈者とその背景

天産部台帳に記載された南鳥島産標本の寄贈者は、1902 年の川室清造、梶川良吉、上滝七五郎、秋元秀太郎、1903 年の金井清次郎、海軍省の 6 件であった（表 1）。列品録によれば、川室清造（生没年不明）は日本郵船株式会社所属で横浜-父島の定期船「兵庫丸」の船長、秋元秀太郎（生年不明-1921）は海軍中尉であり、海軍省が寄贈した標本は、秋元が南鳥島から持ち帰り、海軍大臣に寄贈した後、海軍省が帝室博物館へ寄贈した標本であった（東京帝室博物館 1902a, 1903a）。

また、上野動物園から引き継がれたとされる A4305, A4843, A4844, A4845 について調査したところ、明治 35（1902）年 10 月 22 日に上滝七五郎から南鳥島産の「かつをどり」、「ぐんかんてう」各 1 羽が上野動物園に寄贈されていた（東京帝室博物館 1902b, 読売新聞 1902）。このうちカツオドリは、1903 年 2 月 4 日に死亡し、「死体天産部動物区へ引継」とされ（東京帝室博物館 1903b）、1903 年中に動物園より引き継いだ死体から剥製を作成した旨の記録が見出された（東京帝室博物館 1904）。同時期に動物園から引き継いだ他の個体の天産部台帳への登録状況から勘案して、「A4305 かつ於どり」が上滝から寄贈されたカツオドリに該当した。A4843, A4844, A4845 の 3 点については、動物録や列品録からも資料は見出せず、標本の入手経緯は不明であった。標本の寄贈者の一人である上滝は、帝室博物館へ南鳥島の生きた鳥類をも寄贈していた。

6-3-1-2. 秋元秀太郎と南鳥島事件の関連

海軍中尉の秋元が、南鳥島に駐在した理由は 1902 年 7 月に発生した「南鳥島事件」の対応のためであった（平岡 2003）。

南鳥島事件は、アメリカの帆船ワーレン（Whalen）号が島の統治とグアノ採取のために南鳥島に向かったことに端を発し、それを察知した日本政府が、南鳥島の住民との衝突を避けるために軍艦「笠置」を派遣してワーレン号を追い払ったという歴史的事象であった（平岡 2003）。本事件については海軍省の公文書が見出された（JACAR Ref. C06091434600-C06091435400）。

笠置は 1902 年 7 月 27 日に南鳥島付近に到着し、翌 28 日に秋元ら海軍省の兵士 16 名を南鳥島に上陸させ、7 月 29 日に南鳥島を出航した（表 6-2）。島に残った秋元ら兵士は 7 月 30 日にワーレン号を出迎えた（表 6-2）。ワーレン号には船長のアンドリュー・A・ローズヒル（Andrew Ambrose Rosehill, 1851-1913）、地質の専門家としてアメリカ合衆国農務局のトーマス・F・セドウィック（Thomas Farrington Sedgwick, 1873-1965）と、動植物の専門家としてハワイ、ビショップ博物館のウィリアム・A・ブライアン（William Alanson Bryan, 1875-1942）が乗船していた。秋元はローズヒルに日本政府からの南鳥島領有の経緯を伝え、外交交渉にゆだねるよう書かれた書簡を渡し、退島を求めた。ただし、研究者であるセドウィックとブライアンについては、学術調査のために 1 週間の島の滞在を許可した。これを受け、セドウィックとブライアンは島の調査を行い、8 月 7 日にワーレン号は南鳥島から退去した（表 6-2）。ブライアンによる南鳥島の動植物相の調査結果は、翌 1903 年に報告された（Bryan 1903）。

ワーレン号が南鳥島から退去して間もない 8 月 7 日から 10 日までの間に、伊豆諸島鳥島が噴火し、島民全員が死亡する大惨事が発生した（表 6-2）。秋元ら南鳥島の兵士の收容に向かう予定であった軍艦「高千穂」は予定を変更し、鳥島の現地調査を兼ねて 8 月 22 日に横須賀を出航、24 日に鳥島の調査を終え、8 月 28 日南鳥島に到着した（表 6-2）。兵士と病気の島民を乗船させた高千穂は、翌 29 日に南鳥島を出航、9 月 5 日横須賀に帰港した（表 6-2）。

前述の経緯から、秋元の南鳥島の滞在期間は、1902 年 7 月 28 日から 8 月 29 日までの間であった。秋元はこの間に南鳥島の標本を入手したと推定される。

6-3-1-3. 南鳥島事件に関連する寄贈者たち

南鳥島事件を調べるなかで、秋元以外の標本寄贈者である川室清造、梶川良吉、上

滝七五郎、金井清次郎についても、この事件に関連していたことが判明した (JACAR, 平岡 2003). 各人物の南鳥島との関連と、標本の入手時期の推定は次のようであった.

川室清造

川室は横浜-父島の定期船「兵庫丸」の船長で、南鳥島事件直後に起こった鳥島噴火の第一通報者であった (JACAR Ref. C06091434800, C06091434900, 東京帝室博物館 1902a, 平岡 2003). 川室は兵庫丸が父島から横浜へ帰港する途中の 8 月 16 日に鳥島の噴火を確認し、横浜に帰港した 8 月 18 日に所属する日本郵船を通じ、東京府に鳥島の噴火を通報した (表 6-2). 川室の通報を受けた内務省は兵庫丸を借り上げ、調査団を乗せた兵庫丸は、軍艦高千穂とともに鳥島へ向かい、8 月 24, 25 日に鳥島の上陸調査が行われた (猪間 1902, 表 6-2).

川室から寄贈された標本の受け入れは、天産部台帳では 1902 年 9 月であったが (表 6-1), 列品録によれば、1902 年 7 月 25 日に川室が所属する日本郵船株式会社から帝室博物館の総長、俣野 琢宛にアカオネツタイチョウ 1 点の「剥製鳥献納願」が出され、さらに同年 8 月 25 日にアジサシ類 2 点の献納願が出されていた. いずれも「小笠原島ヨリ賚シ候モノ」とされていた (東京帝室博物館 1902a). 川室が南鳥島を往来した記録は不明であり、特に 1 点目の寄贈日 1902 年 7 月 25 日には笠置はまだ南鳥島に到着していないことから、川室の寄贈標本は、南鳥島事件に関連して入手していない可能性が高い. しかし、天産部台帳全体を通して、川室が標本を寄贈したのは、この 3 点限りであることから、南鳥島事件や鳥島の噴火が帝室博物館へ標本を寄贈した契機になったと考えられる.

梶川良吉

梶川 (1853-1909) は軍艦高千穂の艦長であった (JACAR Ref. C06091435100). 梶川は、高千穂が南鳥島から横須賀に帰港した翌日の 1902 年 9 月 6 日に帝室博物館へアカオネツタイチョウとアジサシ類各 1 点の剥製を寄贈した (東京帝室博物館 1902a, 表 6-1). 梶川が標本を入手したのは、高千穂が南鳥島に停泊した 1902 年 8 月 28-29 日の 2 日間と推定される. 短期間の停泊中に軍艦の艦長である梶川が、アカオネツタイチョウやアジサシ類を採集していたとは考えにくいから、島民が事前に剥製にしていたものを入手したと考えられる.

上滝七五郎

上滝は横浜の貿易商で、南鳥島で輸出を目的とした海鳥の剥製業を営んでいた人物であった（平岡 2003）。南鳥島での海鳥の剥製業は、1900 年から開始され、アホウドリ捕獲事業を行っていた水谷新六と、後述する金井清次郎との共同経営であった（JACAR Ref. C06091434900, 平岡 2003）。南鳥島事件当時の島民は上滝が派遣した出稼ぎ労働者ばかりであったため、上滝が南鳥島の事業代表者として高千穂に乗船した（JACAR Ref. C06091434900）。

上滝は 1902 年 10 月 9 日に 14 点の標本を帝室博物館に寄贈した（東京帝室博物館 1902a）。高千穂停泊中の 2 日間でこれらの標本を用意した可能性もあるが、9 月 5 日に高千穂を下船してから寄贈日までに約 1 カ月が経過していることから、後日に南鳥島から標本を取り寄せて帝室博物館へ寄贈したと考えられる。したがって、標本の採集時期は、上滝が南鳥島で事業を開始した 1900 年以降から、標本を寄贈した 1902 年 10 月 9 日より前までと推定される。

金井清次郎

金井（生没年不明）は前述の上滝、水谷とともに南鳥島で剥製業を営んでいた人物であった（JACAR Ref. C06091434900）。金井は上滝の高千穂への乗船について、1902 年 8 月 19 日付で「軍艦便乗願」を提出していた（JACAR Ref. C06091434900）。金井が南鳥島を訪れていたかは不明だが、事業の関係で南鳥島から標本を取り寄せることは可能であったので、南鳥島で事業を始めた 1900 年以降から、帝室博物館へ寄贈した 1903 年 5 月 16 日より前までに標本が採集されたと推定される（東京帝室博物館 1903a, 平岡 2003）。

6-3-2. 現存する標本の種同定

南鳥島産標本は、帝室博物館が受け入れた時に種が不明確であったため、現存する標本 26 点の種同定を行った。種同定には採集場所と時期の情報が必要である。26 点の採集場所は、天産部台帳との照合から南鳥島で（表 6-1）、採集時期は前述のように寄贈者の背景から推定が可能であった。現存する標本の寄贈者は、上滝 12 点、秋元 8 点、海軍省 6 点で、海軍省が寄贈した標本は、秋元が南鳥島から持ち帰った標本であったため（東京帝室博物館 1903a）、標本の提供元は上滝 12 点と秋元 14 点であった。標本の採集時期は上滝提供が 1900 年から 1902 年 10 月 9 日、秋元提供が 1902 年 7 月 28 日から 8 月 29 日と推定される。種同定の結果、次の 11 種が確認された。

1. アカオネツタイチョウ *Phaethon rubricauda* Boddaert, 1783

YIO-01636 (図 6-3)

当該標本は山階鳥研でアカオネツタイチョウとされていた(表 6-1)。当該標本の羽色は、上面に黒の横斑があり、尾羽は白色で中央尾羽の先端が黒色、初列風切羽は白色で羽軸と各羽の先端が黒色、嘴は黒色であった。これらの特徴から、当該標本はアカオネツタイチョウの幼鳥と同定された(Harrison 1985, 箕輪 2020)。当該標本の各部位の測定値は、本種の既報値[翼長 317–326mm, 嘴峰長 55–65mm, 跗蹠長 27–30.5mm, 清棲 (1978b)] に比べ、翼長、跗蹠長がわずかに短く、嘴峰長は既報値の範囲内であった(表 6-3)。本種の幼鳥はシラオネツタイチョウ *P. lepturus* の幼鳥に似るが、当該標本はシラオネツタイチョウ[翼長 239–272mm, 嘴峰長 43–50mm, 跗蹠長 19–23mm, 清棲 (1978b)] より大型であった(表 6-3)。これらの外部形態から当該標本はアカオネツタイチョウと同定された。

1902 年 8 月のブライアンの報告によれば、本種は島中で繁殖していたことから(Bryan 1903)、同年代に採集された当該標本は南鳥島の繁殖集団と推定される。日本には亜種 *P. r. rothschildi* が生息し(日本鳥学会 2012)、当該標本は本亜種と考えられた。

2. シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* (Salvin, 1888)

YIO-00515 (図 6-4a)

当該標本は山階鳥研でシロハラミズナギドリとされていた(表 6-1)。当該標本は、嘴は黒色で太短く、先端が鋭く鉤状で、管鼻が突出している点でシロハラミズナギドリ属 *Pterodroma* の特徴に該当した(黒田 1962, del Hoyo et al. 1992)。さらに、当該標本の羽色は上面が黒色で背に灰色味があり、頭上、尾羽、下部初列大雨覆が黒色、下面は白色であった。当該標本の各部位の測定値は、本種の既報値[翼長 213–237mm, 嘴峰長 24–27mm, 跗蹠長 27–31mm, 尾長 95–124mm, 清棲 (1978b)] の範囲内であった(表 6-3)。これらの外部形態から当該標本はシロハラミズナギドリと同定された(Onley & Scofield 2007, 箕輪 2020)。

本種については、1902 年 8 月のブライアンの報告に記載はなかったが(Bryan 1903)、1908 年 10 月に南鳥島で採集された標本(YIO-00512, 図 6-4b)が存在した(Kuroda 1954, 山階鳥類研究所 2021)。したがって、同年代に南鳥島で当該標本が得られたことに矛盾はなかった。

3. オナガミズナギドリ *Puffinus pacificus* (Gmelin, 1789)

YIO-00884 (図 6-5a), YIO-00885 (図 6-5b)

当該標本 2 点は、山階鳥研でミズナギドリ科の不明種とされていた (表 6-1)。2 点とも頭部から上面が黒褐色、頬は灰色で頬と喉の白色部との境が不明瞭、下面は喉から腹部が汚白色で、YIO-00885 の腹部はより灰色味が強く、尾羽は黒褐色であった (図 6-5)。これらの特徴はオナガミズナギドリの淡色型に一致した (Onley & Scofield 2007, 箕輪 2020)。当該標本の各部位の測定値は、本種の既報値 [翼長 276-302mm, 嘴峰長 37-41.5mm, 跗蹠長 46-50mm, 尾長 127-146mm, 清棲 (1978b)] の範囲内であった (表 6-3)。これらの外部形態から当該標本はオナガミズナギドリと同定された。

1902 年 8 月のブライアンの報告によれば、本種は南鳥島で繁殖していた (Bryan 1903)。同年代に採集された当該標本は、南鳥島の繁殖集団の標本と推定される。小笠原諸島には亜種 *P. p. cuneatus* が繁殖し (日本鳥学会 2012)、当該標本は本亜種と考えられた。

4. コミズナギドリ *Pu. Nativitatis* Streets, 1877

YIO-00886 (図 6-6a), YIO-00887 (図 6-6b)

当該標本 2 点は、山階鳥研でミズナギドリ科の不明種とされていた (表 6-1)。2 点とも上面、下面とも黒褐色で、嘴、脚は黒色、尾羽は短く、初列風切羽より突出していなかった。これらの特徴はコミズナギドリと一致した (Harrison 1985, Onley & Scofield 2007, 箕輪 2020)。当該標本の各部位の測定値は、本種の既報値 [翼長 239-250mm, 嘴峰長 30.1-33.0mm, 跗蹠長 41.9-44.5mm, 尾長 83.5-88.9mm, 清棲 (1978b)] に比べ、尾長がわずかに短かく、YIO-00887 の翼長はわずかに大きかったが、他の部位は既報値の範囲内であった (表 6-3)。これらの外部形態の特徴から当該標本は本種と同定された。

1902 年 8 月のブライアンの報告によれば、本種は南鳥島で繁殖していた (Bryan 1903)。同年代に採集された当該標本は、南鳥島の繁殖個体群の標本と推定される。

5. アオツラカツオドリ *Sula dactylatra* Lesson, 1831

YIO-01926 (図 6-7a), YIO-01930 (図 6-7b)

当該標本 2 点は、山階鳥研でカツオドリ属の不明種とされていた (表 6-1)。2 点ともに初列風切羽、次列風切羽、三列風切羽、大雨覆、尾羽が黒色である以外は、上面、下面とも白色であった。これらの特徴は、アオツラカツオドリの成鳥に一致した

(Harrison 1985, 箕輪 2020). 当該標本の各部位の測定値は、本種の既報値 [翼長 410-452mm, 嘴峰長 98-106mm, 跗蹠長 53-59mm, 尾長 164-189mm, 清棲 (1978b)] に比べ、YIO-01926 の嘴峰長と跗蹠長がわずかに大きく、YIO-01930 の翼長がわずかに短かったが、他の部位は既報値の範囲内であった (表 6-3). 本種の成鳥は、後述するアカアシカツオドリ成鳥と似るが、当該標本はアカアシカツオドリより大型であり、尾羽、大雨覆、三列風切羽が黒色である点でアカアシカツオドリと異なった (表 6-3, 図 6-7). これらの外部形態から当該標本はアオツラカツオドリと同定された.

1902 年 8 月のブライアンの報告では、南鳥島の沖の岩礁に本種を少数確認し、さらに島民が 1 羽の若鳥を飼っていたことに言及していた (Bryan 1903). ブライアンの報告と同年代の当該標本が南鳥島で採集されたとしても矛盾はなかった. 日本には亜種 *S. d. personata* が生息し (日本鳥学会 2012), 当該標本は本亜種と考えられた.

6. アカアシカツオドリ *S. sula* (Linnaeus, 1766)

YIO-01927 (図 6-8a), YIO-01929 (図 6-8b)

当該標本 2 点は、山階鳥研でカツオドリ属の不明種とされていた (表 6-1). YIO-01927 は上面が黒褐色、腹部が汚白色であり、雨覆や背に白い羽毛が混じっていたことから若鳥と推定され、YIO-01929 は上面、下面、大雨覆、三列風切羽、尾羽が白色、初列と次列風切羽が黒色であることから成鳥であった (Marchant & Higgins 1990, 箕輪 2020, 図 6-8). YIO-01927, YIO-01929 の各部位の測定値は、本種の成鳥の既報値 [翼長 361-387mm, 嘴峰長 78.5-89.5mm, 跗蹠長 32-39mm, 尾長 210-238mm, 清棲 (1978b)] で、YIO-01929 (成鳥) は既報値の範囲内であり、YIO-01927 (若鳥) では尾長がわずかに短かったが、他の部位は範囲内であった (表 6-3). 類似種のアオツラカツオドリより小型である点からも当該標本はアカアシカツオドリと同定された (表 6-3).

1902 年 8 月のブライアンの報告によれば、本種は南鳥島の沖の岩礁で少数が観察され、銃の使用を禁止されていたブライアンは採集できず、1902 年 8 月 7 日に採集した標本 1 点を島民から入手した (Bryan 1903). 日本には亜種 *S. s. rubripes* が生息し (日本鳥学会 2012), 当該標本は本亜種と考えられた.

7. カツオドリ *S. leucogaster* (Boddaert, 1783)

YIO-01918 (図 6-9b), YIO-01919 (図 6-9a), YIO-01920 (図 6-9c)

当該標本 3 点は山階鳥研でカツオドリとされていた (表 6-1). 3 点とも上面と下面

の喉から胸部は濃褐色，胸部から腹部は白色で，胸部の濃褐色と白色の堺が明瞭であった．これらの羽色の特徴はカツオドリの成鳥に一致した (Marchant & Higgins 1990b, 箕輪 2020)．

1902 年 8 月にブライアンは，南鳥島で 1,000 羽程の本種のコロニーを確認していた (Bryan 1903)．小笠原群島には亜種 *S. l. plotus* が繁殖し (日本鳥学会 2012)，当該標本は本亜種と考えられた．

カツオドリ属の不明種 *Sula* sp.

YIO-01928 (図 6-10)

当該標本は山階鳥研でカツオドリ属の不明種とされていた (表 6-1)．当該標本は 1902 年 8 月のブライアンの報告で記録のあるカツオドリ属のアオツラカツオドリ，アカアシカツオドリ，カツオドリのいずれかのヒナに該当すると考えられた．同年代のブライアンの報告では，3 種のうち繁殖が確認されているのはカツオドリのみである (Bryan 1903)．3 種ともにヒナは白い綿羽で覆われているが，裸出部に違いがあり，アオツラカツオドリのヒナの嘴は灰褐色で喉は明色，アカアシカツオドリは嘴と喉が灰黒色，カツオドリは嘴が灰色，喉はピンク色味のある褐色である (Marchant & Higgins 1990b)．これに当てはめれば，当該標本はアカアシカツオドリのヒナに該当した．しかし，剥製標本は裸出部が変色するため，他の形質も検討する必要がある．したがって本稿では当該標本の種を確定しないこととし，別の機会に検討したい．

8. クロアジサシ *Anous stolidus* (Linnaeus, 1758)

YIO-12163 (図 6-11a)，YIO-12164 (図 6-11b)

当該標本 2 点は山階鳥研でクロアジサシとされていた (表 6-1)．2 点とも頭部が白色，上面は黒褐色であった．また，当該標本の各部位の測定値は，クロアジサシの既報値 [翼長 260-283mm，嘴峰長 37-41mm，跗蹠長 22-25mm，尾長 145-165mm，清棲 (1978a)] に比べ，YIO-12164 では全ての部位がわずかに大きく，YIO-12163 では跗蹠長がわずかに大きかった (表 6-3)．しかし，類似種のヒメクロアジサシより嘴峰長を除き大きく，上面が褐色である点でクロアジサシと同定された (Harrison 1985, Higgins & Davies 1996, 表 6-3)．

1902 年 8 月のブライアンの報告で，本種は南鳥島の植生の中で繁殖し，様々な成長段階のヒナが観察された (Bryan 1903)．ブライアンの報告と同年代の当該標本は，南鳥島の繁殖集団の標本と推定される．南鳥島には亜種 *A. s. pileatus* が繁殖し (日本

鳥学会 2012), 当該標本は本亜種とされる。

9. ヒメクロアジサシ *A. minutus* Boie, 1844

YIO-12281 (図 6-12a), YIO-12282 (図 6-12b), YIO-12283 (図 6-12c)

当該標本 3 点は山階鳥研でヒメクロアジサシとされていた (表 6-1)。3 点とも頭部が白色, 上面が黒褐色であった。当該標本の各部位の測定値は (表 6-3), ヒメクロアジサシの既報値 [翼長 213-231mm, 嘴峰長 40-46mm, 跗蹠長 20-21mm, 尾長 115-124mm, 清棲 (1978a)] に比べ, 尾羽がわずかに短く, YIO-12281 の跗蹠長がわずかに大きかったが, 他の部位は既報値の範囲内であった (表 6-3)。当該標本の上面は黒色で褐色味が少なく, 類似種のクロアジサシより小型で, 嘴が長い点でヒメクロアジサシと同定された (Harrison 1985, Higgins & Davies 1996, 表 3)。

1902 年 8 月のブライアンの報告では, 南鳥島の本種の繁殖集団は新種 *Micranous marculsi* と記載された (Bryan 1903)。現在はヒメクロアジサシの一亜種 *A. m. marculsi* とされている (日本鳥学会 2012)。ブライアンの報告と同年代の標本である当該標本は, 本亜種と考えられた。

10. シロアジサシ *Gygis alba* (Sparrman, 1786)

YIO-12351 (図 6-13a), YIO-12352 (図 6-13b), YIO-12353 (図 6-13c)

当該標本 3 点は, 山階鳥研でシロアジサシとされていた (表 6-1)。3 点とも全身が白く, 嘴が黒色でシロアジサシの特徴と一致した (Harrison 1985)。1902 年 8 月のブライアンの報告で, 本種は南鳥島で最も一般的に見られ, 植生の中で繁殖し, 多数のヒナが観察された (Bryan 1903)。同年代に採集された当該標本は, 南鳥島の繁殖個体群の標本と推定される。南鳥島にはかつて亜種 *G. a. candida* が繁殖し (日本鳥学会 2012), 当該標本は本亜種と考えられた。

11. セグロアジサシ *Sterna fuscata* Linnaeus, 1766

YIO-11874 (図 6-14a), YIO-11875 (図 6-14b), YIO-11876 (図 6-14c), YIO-11877 (図 6-14d)

当該標本 4 点は山階鳥研でセグロアジサシとされていた (表 6-1)。4 点とも上面が黒色, 下面が白色, 上面の黒色とのコントラストが明瞭で, 額の白色部が目の上までであった。これらの特徴はセグロアジサシと一致した (清棲 1978a, Harrison 1985)。1902 年 8 月のブライアンの報告で, 本種は南鳥島で繁殖していたことから (Bryan

1903), 同年代に採集された当該標本は南鳥島の繁殖個体群の標本と推定される. 南鳥島には亜種 *S.f. nubilosa* が繁殖し (日本鳥学会 2012), 当該標本は本亜種と考えられた.

6-3-3. 現存する標本の復元された情報

現存する南鳥島産標本 26 点について, 種, 採集地, 採集時期, 列品保管証番号の復元された情報を整理した (表 6-4). 山階鳥研で採集地不明の 10 点は, 天産部台帳から「南鳥島」と復元された (表 6-4). 採集時期は, 各寄贈者の背景から期間を限定することができた (表 6-4). 山階鳥研で種が未確定だった 9 点中 8 点で標本から種を同定することができた (表 6-4).

標本に採集情報が表記されたラベル (図 6-2a) が添付していなかったことで, 列品保管証番号が不明であった 5 点は, 天産部台帳から復元が可能であった (表 6-1, 6-4). このうち, YIO-01918 (A4670) カツオドリでは, 天産部台帳に記載された「明治三十五年 天産第九二号ノ二」のラベルが, 標本から外れていて, 山階鳥研で該当する標本が分からなくなったラベル類を集めているファイルの中から見つかった (図 6-15).

さらに, YIO-00886 (A4678) コミズナギドリでは, 天産部台帳の表記と異なる「明治三十五年 天産第九二号ノ九」と表記されたラベルが付されていたが (図 16b), これは列品保管証番号ラベルのない YIO-00884 (A4677) オナガミズナギドリに付けられるべきであった (図 6-16a). そして, YIO-00886 に付されるべき「明治三十五年 天産第九二号ノ一〇」のラベルは, YIO-00726 (A1139) オナガミズナギドリに付されていた (表 6-1, 6-4, 図 6-16c). YIO-00726 は添付する金属タグから, オーストラリア博物館に由来する標本であるため (4 章参照), オーストラリア産であり, 南鳥島産を示す列品保管証番号が貼付されたラベルは, YIO-00726 に間違っつけられたラベルと判断された (図 6-16c).

標本に添付されたラベルの取り違えは, 該当標本だけでなく, 標本群全体の情報に疑念をもたらすが, 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本では裏付けられる情報から, 標本に付されるべきラベルを復元することが可能であった.

6-3-4. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の歴史的考察

帝室博物館コレクションの南鳥島産標本は, 標本寄贈者の背景から 1902 年に起こった南鳥島事件を契機に帝室博物館に寄贈された標本であった. 現存する標本の寄贈

者である、海軍中尉の秋元と剥製の輸出業を営んでいた上滝の背景から、標本の収集目的を推定した。

秋元が収集した標本 18 点のうち、現存する標本は 9 種 14 点であった（表 6-4）。秋元が収集した標本は、海軍省から帝室博物館へ寄贈された標本と、帝室博物館に直接寄贈した標本とがあった。前者については、秋元は海軍省に南鳥島の動植物や人口など概況を細かく報告していたことから（JACAR Ref.C06091435100）、海軍省への報告の一環として標本を提供したと考えられた。後者については、秋元が南鳥島滞在中に動向を監視していたブライアンの影響を受けたのかもしれない。ブライアンは所属する博物館へ標本を採集して持ち帰っていた（Bryan 1903）。

一方、上滝が寄贈した標本は、上野動物園を経由して引き継いだ 1 点を含め 15 点があり、うち現存する標本は 10 種 12 点であった（表 6-4）。ブライアンは、島民が長い竹竿のようなものや長い棒に網やかごをつけて、朝夕 2 時間でかご一杯の鳥を捕殺していたこと、捕殺した鳥を入れたかご 1 つからは、75 点の標本ができたこと、10 時間に 130 点もの剥製を作製していたことなど具体的な記述をしていた（Bryan 1903）。当時の島民とは上滝が派遣した労働者である（JACAR Ref. C06091434900）。少なくとも、上滝が帝室博物館へ寄贈した 10 種については、捕獲技術や剥製の作製技術が習得されており、輸出用の剥製のために採集されていた可能性が考えられる。

上滝の南鳥島での海鳥の剥製業は、兵士の収容のため派遣された軍艦高千穂が、病気の島民 3 名を乗船させて横須賀に帰港したことや（JACAR Ref.C06091435100）、南鳥島に派遣した労働者の死亡が多発していたこともあり、南鳥島事件をきっかけに島の生活環境の悪化が問題視されていた（平岡 2015）。上滝は帝室博物館へ寄贈することで、自らの事業への付加価値を期待した可能性がある。

現存していなかった標本についても、寄贈者から標本の背景が推定できる。金井が帝室博物館へ寄贈したアホウドリについては、ブライアンが南鳥島に生息していたと報告したコアホウドリ、またはクロアジアホウドリと推定され、両種とも 1902 年には数が減っていた（Bryan 1903, 平岡 2003）。金井は島で希少になった種の標本としてアホウドリ類を寄贈したのであろう。

川室と梶川は、帝室博物館にアカオネッタイチョウとアジサシ類を寄贈していた（表 6-1）。海鳥の剥製業が当時の南鳥島の唯一の産業であったことや、船長や軍艦の艦長といった 2 人の立場を勘案すると、自らが海鳥の剥製を希望して入手したよりも島の関係者から贈答品としてもらい受けた可能性が考えられる。川室や梶川が寄贈した標本は現存していないので、種は不明だが、アカオネッタイチョウ、クロアジサシ、

ヒメクロアジサシ、シロアジサシ、セグロアジサシは、当時の南鳥島に多数生息していたことから (Bryan 1903), 剥製も多数作製されていたと考えられる。

6-3-5. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本の評価

6-3-5-1. 国内の南鳥島産標本との比較

国内の各機関が保有する南鳥島産鳥類標本は、帝室博物館コレクションを除き、11 機関から 85 点が見出された (表 6-5)。うち 44 点が帝室博物館コレクションと同じ明治期の標本であった (表 6-5)。明治期の南鳥島産標本の中には、帝室博物館コレクションと同年代で、南鳥島事件が起きた 1902 年に採集された標本 4 点が含まれていた。この 4 点の内訳は、南鳥島事件でブライアンが採集した標本 1 点、東京帝国大学動物学教室の旧蔵標本 3 点であった (表 6-5, ID: 1-4)。ブライアン採集標本は、山階鳥研がビショップ博物館との交換で入手した標本であった (図 6-17)。東京帝国大学旧蔵標本は、3 点とも標本ラベルに「海軍中佐東郷静之助氏寄贈 明治三十五年九月 (神保教授紹介)」と書かれていた (図 6-18)。東郷静之助 (1866-1942) は軍艦高千穂の副艦長であり (人事興信所 1915)、神保は地質学の専門家で鳥島噴火の調査団の一人として、高千穂に乗船した東京帝国大学教授の神保小虎 (1867-1924) であった (JACAR Ref.C06091435100)。東京帝国大学旧蔵標本は、高千穂が南鳥島に停泊した 1902 年 8 月 28-29 日に東郷が入手し、神保を介して東郷が東京帝国大学に寄贈したものと推定される。ビショップ博物館旧蔵と東京帝国大学旧蔵標本の計 4 点は、帝室博物館コレクションと同様、南鳥島事件に関連して得られた標本であった。

国内の南鳥島産標本は、帝室博物館コレクション 26 点を含めると、21 種 111 点であった。年代別に見ると、明治期の標本 67 点 (60.4%)、大正期 15 点 (13.5%)、昭和期 22 点 (19.8%)、年代不明 4 点 (0.04%) であった。国内に現存する半数以上が明治期の標本であり、その中でも、1900-1902 年に採集された帝室博物館コレクションは、国内最古の標本群であった (表 6-5)。

帝室博物館コレクションを含む国内の南鳥島産標本 21 種からは、Bryan (1903) や Kuroda (1954) が報告していない、オオアジサシ *St. bergii* とアホウドリ *Phoebastria albatrus* の 2 種が見出された (表 6-5, ID: 16, 61, 63)。国内の南鳥島産標本は、かつて豊かであった南鳥島の鳥類相を示していた。

6-3-5-2. 帝室博物館コレクションを含む南鳥島産標本の生物学的評価

帝室博物館コレクションの南鳥島産標本と同時期の 1902 年のブライアンの報告で

は、18 種が生息し、このうち 11 種の繁殖を確認した (Bryan 1903)。現存する南鳥島産標本 11 種 26 点からは、ブライアンが生息を報告した 18 種のうち 10 種 (55.6%)、繁殖種 11 種のうち 8 種 (72.7%) が確認された。このうち 5 種、オナガミズナギドリ、コミズナギドリ、カツオドリ、ヒメクロアジサシ、シロアジサシでは、南鳥島の繁殖集団が消滅し、現在も回復していない。特にコミズナギドリとシロアジサシは、国内では南鳥島でのみ繁殖していた (日本鳥学会 2012)。帝室博物館コレクションは、かつて南鳥島に存在していた繁殖集団を解明するための有効な研究資源になり得る。

また、帝室博物館コレクションを含む国内の南鳥島産標本からは、「日本産鳥類目録改訂第 7 版」(日本鳥学会 2012) の分布情報に追加できる記録が見出された。日本鳥学会 (2012) では、コアホウドリ、アホウドリ、アナドリの南鳥島の記録がなく、これらの種では標本の存在が南鳥島の記録の根拠となり得るであろう (表 6-5)。ナンヨウマミジロアジサシでは日本鳥学会 (2012) に 1910 年 10 月の南鳥島の記録が記載されていた。本種の標本はマミジロアジサシとして登録されている場合もあったため、精査したところ、1910 年 10 月採集 10 点、1910 年採集月不明 1 点のほか、1922 年 11 月採集 2 点が見出された (表 6-5)。標本を根拠に 1922 年 11 月の記録が追加できるであろう。

帝室博物館コレクションの南鳥島産標本は、1902 年に起こった南鳥島事件の歴史的な証拠資料であり、120 年前の南鳥島の鳥類相を裏付ける重要な証拠であった。1902 年のブライアンの報告では、3 月から 9 月までの 6 カ月間で 50,000 羽以上が商業目的で採集されたとしていた (Bryan 1903)。採集された海鳥の大半は、婦人用帽子の飾りなどのファッション用の材料として主にヨーロッパに輸出された (奥 1993)。帝室博物館コレクションの南鳥島産標本は、明治期に海鳥の羽毛や剥製が日本から輸出された時代の歴史的資料としても位置づけられるであろう。

1902 年の南鳥島産標本は国内に 30 点が現存するのみで、学術標本として博物館や大学に収蔵されたことで、かろうじて保存されてきた。本研究で、標本の歴史的背景から採集時の情報が復元されたことで、これらの標本の重要性が認識され、将来にわたり学術的に価値の高い標本として維持されることが望まれる。

表 6-1. 天産部台帳で産地が「南鳥嶋」と記載された 42 点と現存する標本 26 点の情報. アンダーラインは天産部台帳と標本とで異なる情報.

天産部台帳						現存する標本				
ID	番号	種名	製法	寄贈者	列品保管証番号	ID	標本番号	種名	採集地	ラベルの列品保管証番号
1	A4296	あかねつたいてう 赤熱帯鳥 Red-taild tropic-bird <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd.	剥製	三十五年九月 川室清造献	三十五年寄贈 第六三号					
2	A4297	あぢさし 一種 (Tern Sp.)	剥製	同	三十五年寄贈 第六四号					
3	A4298	あかねつたいてう 赤熱帯鳥 Red-taild tropic-bird <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd.	假剥製	三十五年九月 梶川良吉献	三十五年寄贈 第六五号					
4	A4299	あぢさし 一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年寄贈 第六六号					
5	A4302	ぐんかんてう 軍艦鳥 <i>Fregata aquila</i> Gmelin Frigate-bird	剥製	三十六年五月 金井清次郎献	三十六年寄贈 第八六号					
6	A4303	あほうどり 信天翁 (Albatross Sp.)	剥製	同	三十六年寄贈 第八七号					
7	A4305	かつ於(お)どり 雄 (Booby Sp.)	假剥製	三十六年十二月製了 <元動物園飼養>	三十六年採集 第五号ノ一					
8	A4669	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	三十五年十月 上滝七五郎献	三十五年贈 第九二号ノ一	1	YIO-01926	カツオドリ属の不明種 <i>Sula</i> sp.	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ一
9	A4670	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ二	2	YIO-01918	カツオドリ <i>Sula leucogaster</i>		(ラベルなし)
10	A4671	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ三	3	YIO-01927	カツオドリ属の不明種 <i>Sula</i> sp.		(ラベルなし)
11	A4672	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ四	4	YIO-01928	カツオドリ属の不明種 <i>Sula</i> sp.	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ四
12	A4673	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ五	5	YIO-11874	セグロアジサシ <i>Sterna fuscata</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ五
13	A4674	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ六	6	YIO-11875	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ六
14	A4675	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ七	7	YIO-12281	ヒメクロアジサシ <i>Anous minutus</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ七
15	A4676	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ八	8	YIO-12351	シロアジサシ <i>Gygis alba</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ八
16	A4677	みづ奈(な)ぎどりノ一種 (Shearwater Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ九	9	YIO-00884	ミズナギドリ科の不明種 <i>Procellariidae</i> gen. sp.		(ラベルなし)

表 6-1 つづき (3/2)

天産部台帳						現存する標本				
ID	番号	種名	製法	寄贈者	列品保管証番号	ID	標本番号	種名	採集地	ラベルの列品保管証番号
17	A4678	みづ奈 (な) ぎどりノ一種 (Shearwater Sp.)	假剥製	三十五年十月 上滝七五郎献	三十五年贈 第九二号ノ一〇	10	YIO-00886	ミズナギドリ科の不明種 <i>Procellariidae</i> gen. sp.	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ九
18	A4679	みづ奈 (な) ぎどりノ一種 (Shearwater Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ一一	11	YIO-00515	シロハラミズナギドリ <i>Pterodroma hypoleuca</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第九二号ノ一一
19	A4680	ぐんかんちやう 軍艦鳥 (Frigatebird)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ一二					
20	A4681	あか於ねつたいちやう 熱帯鳥 <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd.	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ一三					
21	A4682	ねつたいちやうノ一種 (Tropicbird Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第九二号ノ一四	12	YIO-01636	アカオネッタイチョウ <i>Phaethon rubricauda</i>		(ラベルなし)
22	A4683	ぐんかんちやう 軍艦鳥 (Frigatebird)	假剥製	三十五年十二月 秋元秀太郎献	三十五年贈 第一二五号					
23	A4684	あか於ねつたいちやう 熱帯鳥 <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd. (方言ぼうずんちやう)	假剥製	同	三十五年贈 第一二六号					
24	A4685	於さどりノ一種 (方言かいがん於さ) (Booby Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二七号ノ一	13	YIO-01929	カツオドリ属の不明種 <i>Sula</i> sp.	明治三十五年	天産第一二七号ノ一
25	A4686	於さどりノ一種 (方言やまおさ) (Booby Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二七号ノ二	14	YIO-01919	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>	明治三十五年	天産第一二七号ノ二
26	A4687	みづ奈ぎどりノ一種 (Shearwater Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二八号ノ一	15	YIO-00885	ミズナギドリ科の不明種 <i>Procellariidae</i> gen. sp.	明治三十五年	天産第一二八号ノ一
27	A4688	みづ奈ぎどりノ一種 (Shearwater Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二八号ノ二	16	YIO-00887	ミズナギドリ科の不明種 <i>Procellariidae</i> gen. sp.	明治三十五年	天産第一二八号ノ二
28	A4689	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二九号ノ一	17	YIO-11876	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第一二九号ノ一
29	A4690	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二九号ノ二	18	YIO-12282	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第一二九号ノ二
30	A4691	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二九号ノ三	19	YIO-12163	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第一二九号ノ三
31	A4692	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年贈 第一二九号ノ四	20	YIO-12352	シロアジサシ <i>G. alba</i>	南鳥島	明治三十五年 天産第一二九号ノ四
32	A4693	ぐんかんちやう 軍艦鳥 (Frigatebird)	假剥製	三十六年一月 海軍省寄贈	三十六年贈 第一三号					
33	A4694	あか於ねつたいちやう 熱帯鳥 <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd.	假剥製	同	三十六年贈 第一四号					

表 6-1 つづき (3/3)

天産部台帳						現存する標本			
ID	番号	種名	製法	寄贈者	列品保管証番号	ID	標本番号	種名	採集地 ラベルの列品保管証番号
34	A4695	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	三十六年一月 海軍省寄贈	三十六年贈 第一五号ノ一	21	YIO-01930	カツオドリ属の不明種 <i>Sula</i> sp.	明治三十六年 天産第一五号ノ一
35	A4696	於さどりノ一種 (Booby Sp.)	假剥製	同	三十六年贈 第一五号ノ二	22	YIO-01920	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>	(ラベルなし)
36	A4697	あぢさしノ一種 (Terns Sp.)	假剥製	同	三十六年贈 第一六号ノ一	23	YIO-12164	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	南鳥島 明治三十六年 天産第一六号ノ一
37	A4698	あぢさしノ一種 (Terns Sp.)	假剥製	同	三十六年贈 第一六号ノ二	24	YIO-12283	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>	南鳥島 明治三十六年 天産第一六号ノ二
38	A4699	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十六年贈 第一六号ノ三	25	YIO-11877	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	南鳥島 明治三十六年 天産第一六号ノ三
39	A4700	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十六年贈 第一六号ノ四	26	YIO-12353	シロアジサシ <i>G. alba</i>	南鳥島 明治三十六年 天産第一六号ノ四
40	A4843	あか於ねつたいてう <i>Phaethon rubricauda</i> Bodd.	假剥製	三十五年十二月採集	三十五年採 第三九号				
41	A4844	あぢさしノ一種 (Tern Sp.)	假剥製	同	三十五年採 第四〇号				
42	A4845	しろあじさし (White Tern <i>Gygis alba</i>)	假剥製	同	三十五年採 第四一号				

表 6-2. 1902 年に起きた南鳥島事件と鳥島噴火の概略.

1902 年 日付	南鳥島事件		鳥島噴火	出典
	アメリカ	日本		
7 月 10 日	帆船ワーレン号の艦長ローズヒルが南鳥島に向けてハワイを出航			
7 月 12 日	アメリカの新聞でワーレン号が南鳥島ヘグアノ採取目的で出航したことが報じられる			平岡 (2003)
7 月 13 日		新聞報道を受け、高平小五郎駐米全権公使が小村寿太郎外務大臣に連絡		
7 月 23 日		日本政府が海軍の軍艦「笠置」を派遣		
7 月 27 日		笠置が南鳥島に到着		JACAR,Ref. C06091434700
7 月 28 日		秋元秀太郎中尉ら 16 名の海軍兵が南鳥島に上陸		
7 月 29 日		笠置が南鳥島を出航		
7 月 30 日	ワーレン号が南鳥島に到着. 米農務局セドウィック, ビショップ博物館ブライアンらは学術調査のために一週間島に滞在	秋元はワーレン号船長ローズヒルに退島を求めた. セドウィックとブライアンの調査に対し, 1 週間の滞在を許可		JACAR Ref. C06091435100, 平岡 (2003)
8 月 3 日		笠置が横須賀に帰港		JACAR Ref. C06091434700
8 月 7 日	ワーレン号が南鳥島を出航		横浜-小笠原の定期船「兵庫丸」が鳥島に寄航し, 病人 2 名を乗せて父島へ向う	JACAR Ref. C06091434800, C06091435200, 平岡 (2003)
8 月 10 日			帆船「愛坂丸」が鳥島付近を通過して, 噴火を目撃	JACAR Ref. C06091434800, 大森 (1902)

1902 年 日付	南鳥島事件		鳥島噴火	出典
	アメリカ	日本		
8 月 13 日			兵庫丸の船長川室が父島停泊中に愛坂丸から鳥島の噴火の様子を聞く	
8 月 16 日			兵庫丸が横浜へ帰港途中に噴火する鳥島の状況を観察	JACAR Ref. C06091434800
8 月 18 日			兵庫丸が横浜に帰港。船長川室が鳥島の噴火を東京府に通報	
8 月 22 日		南鳥島の海軍兵の収容と鳥島調査のため、軍艦「高千穂」が横須賀を出航。鳥島の調査団と上滝七五郎ら関係者 8 名が乗船	鳥島調査のため、政府が高千穂とともに兵庫丸を借り上げ、調査団を乗せ出航	JACAR Ref. C06091435100, 猪間 (1902)
8 月 24 日			高千穂、兵庫丸が鳥島到着。調査団らが上陸調査	猪間 (1902), 大森 (1902)
8 月 25 日			兵庫丸が鳥島の上陸調査	猪間 (1902)
8 月 28 日		高千穂が南鳥島に到着		
8 月 29 日		秋元ら海軍兵を収容した高千穂が南鳥島を出航、横須賀に向かう		JACAR Ref. C06091435200
8 月 31 日			兵庫丸が横浜に帰港	猪間 (1902)
9 月 5 日		高千穂が横須賀に帰港。艦長の梶川が海軍省に南鳥島の顛末を報告		JACAR Ref. C06091435200

表 6-3. 現存する南鳥島産標本 8 種の各部位の測定値.

種名	標本番号	年齢	最大翼長 (mm)	露出嘴峰長 (mm)	跗蹠長 (mm)	尾長 (mm)
1. アカオネツタイチョウ <i>Phaethon rubricauda</i>	YIO-01636	Juvenile	305	56.1	26.0	114
2. シロハラミズナギドリ <i>Pterodroma hypoleuca</i>	YIO-00515	Adult	225	25.4	28.5	98
3. オナガミズナギドリ <i>Puffinus pacificus</i>	YIO-00884	Adult	295	38.4	46.2	136
	YIO-00885	Adult	298	39.5	47.7	128
4. コミズナギドリ <i>Pu. nativitatis</i>	YIO-00886	Adult	246	32.5	42.7	82
	YIO-00887	Adult	252	32.9	44.1	82
5. アオツラカツオドリ <i>Sula dactylatra</i>	YIO-01926	Adult	435	107.5	59.6	181
	YIO-01930	Adult	407	101.6	58.6	176
6. アカアシカツオドリ <i>S. sula</i>	YIO-01927	Juvenile	375	83.4	33.7	196
	YIO-01929	Adult	386	89.3	36.2	218
8. クロアジサシ <i>Anous stolidus</i>	YIO-12163	Adult	274	39.0	25.5	151
	YIO-12164	Adult	295	41.7	25.5	166
9. ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>	YIO-12281	Adult	220	44.7	21.8	109
	YIO-12282	Adult	225	41.6	20.1	111
	YIO-12283	Adult	220	45.0	20.5	111.5

表 6-4. 現存する南鳥島産標本 26 点の採集情報. 下線が復元された情報.

ID	標本番号	天産部 台帳番号	種名	採集地	採集時期	寄贈者	列品保管証番号	繁殖個体群 (Bryan 1903)
1	YIO-01926	A4669	<u>アオツラカツオドリ</u> <u><i>Sula dactylatra</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ一	
2	YIO-01918	A4670	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ二	Breeding
3	YIO-01927	A4671	<u>アカアシカツオドリ</u> <u><i>S. sula</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ三	
4	YIO-01928	A4672	カツオドリ 属の不明種 <i>Sula sp.</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ四	
5	YIO-11874	A4673	セグロアジサシ <i>Sterna fuscata</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ五	Breeding
6	YIO-11875	A4674	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ六	Breeding
7	YIO-12281	A4675	ヒメクロアジサシ <i>Anous minutus</i>	南鳥島	1900 - 1902年10月9日	上滝	明治三十五年 天産第九二号ノ七	Breeding
8	YIO-12351	A4676	シロアジサシ <i>Gygis aiba</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ八	Breeding
9	YIO-00884	A4677	<u>オナガミズナギドリ</u> <u><i>Puffinus pacificus</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ九	Breeding
10	YIO-00886	A4678	<u>コミズナギドリ</u> <u><i>Pu. nativitatis</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ一〇	Breeding
11	YIO-00515	A4679	シロハラミズナギドリ <i>Pterodroma hypoleuca</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ一一	
12	YIO-01636	A4682	アカオネツタイチョウ <i>Phaethon rubricauda</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第九二号ノ一四	Breeding
13	YIO-01929	A4685	<u>アカアシカツオドリ</u> <u><i>S. sula</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二七号ノ一	
14	YIO-01919	A4686	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二七号ノ二	Breeding
15	YIO-00885	A4687	<u>オナガミズナギドリ</u> <u><i>Pu. p. cuneatus</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二八号ノ一	Breeding
16	YIO-00887	A4688	<u>コミズナギドリ</u> <u><i>Pu. nativitatis</i></u>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二八号ノ二	Breeding
17	YIO-11876	A4689	セグロアジサシ <i>St. f. nubilosa</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二九号ノ一	Breeding
18	YIO-12282	A4690	ヒメクロアジサシ <i>A. m. marculi</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二九号ノ二	Breeding
19	YIO-12163	A4691	クロアジサシ <i>A. s. pileatus</i>	南鳥島	1902年7月28日-8 月29日	秋元	明治三十五年 天産第一二九号ノ三	Breeding
20	YIO-12352	A4692	シロアジサシ <i>G. a. candida</i>	南鳥島			明治三十五年 天産第一二九号ノ四	Breeding
21	YIO-01930	A4695	<u>アオツラカツオドリ</u> <u><i>S. d. personata</i></u>	南鳥島			明治三十六年 天産第一五号ノ一	
22	YIO-01920	A4696	カツオドリ <i>S. l. plotus</i>	南鳥島			明治三十六年 天産第一五号ノ二	Breeding
23	YIO-12164	A4697	クロアジサシ <i>A. s. pileatus</i>	南鳥島			明治三十六年 天産第一六号ノ一	Breeding
24	YIO-12283	A4698	ヒメクロアジサシ <i>A. m. marculi</i>	南鳥島			明治三十六年 天産第一六号ノ二	Breeding
25	YIO-11877	A4699	セグロアジサシ <i>St. f. nubilosa</i>	南鳥島			明治三十六年 天産第一六号ノ三	Breeding
26	YIO-12353	A4700	シロアジサシ <i>G. a. candida</i>	南鳥島			明治三十六年 天産第一六号ノ四	Breeding

表 6-5. 皇室博物館コレクションを除く、国内に保有される南鳥島産標本。標本番号に付加された略号は所蔵機関を示す。FFPRI＝森林総合研究所，GPM＝岐阜県立博物館，HUNHM＝北海道大学植物園博物館，KCM＝小松市立博物館，MNHAH＝兵庫県立人と自然の博物館，NSMTA＝国立科学博物館，OMNH＝大阪市立自然史博物館，SNMS-DG＝島根県立三瓶自然館所蔵伊達源一郎コレクション，TUMSAT＝東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム，YAMA＝山形県立博物館，YIO＝山階鳥類研究所。

ID	標本番号	種名	性齢	採集日	採集者等	コレクション名	標本の種類	出典
1	YIO-01581	アカオネツタイチョウ <i>Phaethon rubricauda</i>	Male?, Ad.	August 1902	ブライアン Bryan, W. A.	ビショップ博物館	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
2	YIO-01577	アカオネツタイチョウ <i>Ph. rubricauda</i>	Ad.	September 1902	東郷静之助	東京帝大	仮剥製	
3	YIO-11862	セグロアジサシ <i>Sterna fuscata</i>		September 1902	東郷静之助	東京帝大	仮剥製	
4	YIO-12345	シロアジサシ <i>Gygis alba</i>		September 1902	東郷静之助	東京帝大	仮剥製	
5	HUNHM-5838	オナガミズナギドリ <i>Puffinus pacificus</i>		April 1908	松平頼孝		仮剥製	本研究
6	HUNHM-5306	アカオネツタイチョウ <i>Ph. rubricauda</i>	Ad.	October 1908	松平頼孝		仮剥製	
7	MNHAH-A1-30186	アカオネツタイチョウ <i>Ph. rubricauda</i>		October 1908	松平頼孝*	小林桂助	仮剥製	江崎ら (2006)
8	MNHAH-A1-30187	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>		October 1908	松平頼孝*	小林桂助	仮剥製	
9	HUNHM-5309	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>	Ad.	October 1908	松平頼孝		仮剥製	本研究
10	YIO-00512	シロハラミズナギドリ <i>Pterodroma hypoleuca</i>		October 1908	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
11	HUNHM-5769	アオツラカツオドリ <i>Sula dactylatra</i>		October 1908			仮剥製	本研究
12	FFPRI-31	アカアシカツオドリ <i>S. sula</i>	Male	October 1908	松平頼孝*		仮剥製	Kawaji et al. (2003)
13	HUNHM-5771	アカアシカツオドリ <i>S. sula</i>		October 1908			仮剥製	
14	HUNHM-5765	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>	Female	October 1908	松平頼孝		仮剥製	
15	HUNHM-5246	マミジロアジサシ <i>St. anaethetus</i>		October 1908	松平頼孝		仮剥製	
16	HUNHM-5247	オオアジサシ <i>St. bergii</i>		October 1908	松平頼孝		仮剥製	本研究
17	HUNHM-5248	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>		October 1908	松平頼孝		仮剥製	
18	HUNHM-5249	シロアジサシ <i>G. alba</i>		October 1908	松平頼孝		仮剥製	
19	TUMSAT	マミジロアジサシ <i>St. anaethetus</i>	Male	November 1908		山越工作所購入	仮剥製	
20	YIO-12284	ヒメクロアジサシ <i>Anous minutus</i>		1908	松平頼孝	三島冬嗣	仮剥製	
21	YIO-11798	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
22	YIO-11799	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
23	YIO-11800	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
24	YIO-11801	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
25	YIO-11802	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
26	YIO-11803	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
27	FFPRI-251	*ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝*		仮剥製	Kawaji et al. (2003)
28	OMNH-A1717	*ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910	松平頼孝*	川村多美二	仮剥製	和田 (2005)
29	OMNH-A1718	*ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910		川村多美二	仮剥製	
30	MNHAH-A1-31097	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>		October 1910		小林桂助	仮剥製	江崎ら (2006)
31	SNMS-DG-1498	アカオネツタイチョウ <i>Ph. rubricauda</i>	Male	November 1910		伊達源一郎	仮剥製	星野 (2008)
32	FFPRI-30	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>	Ad.	November 1910	松平頼孝*		仮剥製	Kawaji et al. (2003)
33	FFPRI-250	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>		November 1910	松平頼孝*		仮剥製	
34	YIO-12344	シロアジサシ <i>G. alba</i>		November 1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
35	MNHAH-A1-31167	シロアジサシ <i>G. alba</i>		November 1910	松平頼孝*	小林桂助	仮剥製	江崎ら (2006)

表 6-5 つづき (2/3)

ID	標本番号	種名	性齢	採集日	採集者等	コレクション名	標本の種類	出典
36	FFPRI-253	シロアジサシ <i>G. alba</i>		November 1910	松平頼孝*		仮剥製	Kawaji et al. (2003)
37	YIO-11804	ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>	Juv.	1910	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	
38	YIO-12279	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>		1910		東京帝大	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
39	YIO-12280	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>		1910		東京帝大	仮剥製	
40	SNMS-DG-1495	オオグンカンドリ <i>Fregata minor</i>	Female	May 1911		伊達源一郎	仮剥製	星野 (2008)
41	YIO-01638	オオグンカンドリ <i>F. minor</i>	Juv.	1911	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
42	FFPRI-40	オオグンカンドリ <i>F. minor</i>	Male, Ad.	1911	松平頼孝*		仮剥製	Kawaji et al. (2003)
43	FFPRI-18	アナドリ <i>Bulweria bulwerii</i>		1911	松平頼孝*		仮剥製	
44	YAMA-3Av000006	シロハラミズナギドリ <i>Pte. hypoleuca</i>		1911		石沢慈鳥	仮剥製	池田 (2001), 山 形県立博物館 (2021)
45	YIO-00838	コムズナギドリ <i>Puffinus nativitatis</i>		November 1913	松平頼孝	松平頼孝	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
46	TUMSAT	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>	Male	November 1916		山越工作所購入	仮剥製	本研究
47	NSMTA-12078	オオグンカンドリ <i>F. minor</i>	Female, Juv.	November 1918	長興標本店	京都帝大	仮剥製	黒田 (1924), 本 研究
48	GPM-Z-12292-256	カツオドリ <i>S. leucogaster</i>		November 1919	長興標本店	柳原要二	仮剥製	説田・時田 (2001)
49	NSMTA-13018	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Male	November 1919	長興標本店	京都帝大	仮剥製	黒田 (1924), 本 研究
50	SNMS-DG-923	*ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>	Male	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
51	SNMS-DG-924	*ナンヨウマミジロアジサシ <i>St. lunata</i>	Female	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
52	SNMS-DG-925	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Male	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
53	SNMS-DG-926	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Female	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
54	SNMS-DG-912	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Male	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
55	SNMS-DG-913	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>	Male	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	星野 (2008)
56	SNMS-DG-914	ヒメクロアジサシ <i>A. minutus</i>	Female	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
57	SNMS-DG-915	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Male	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
58	SNMS-DG-916	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Female	November 1922		伊達源一郎	仮剥製	
59	SNMS-DG-1499	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>	Male	September 1923		伊達源一郎	仮剥製	
60	SNMS-DG-1500	シラオネツタイチョウ <i>Ph. lepturus</i>	Female	May 1930		伊達源一郎	仮剥製	
61	TUMSAT	アホウドリ <i>Ph. albatrus</i>	Male	June 1931		山越工作所購入	仮剥製	本研究
62	SNMS-DG-1640	アジサシ <i>St. hirundo</i>	Male	1935		伊達源一郎	仮剥製	
63	SNMS-DG-1501	アホウドリ <i>Ph. albatrus</i>	Male	March 1938		伊達源一郎	仮剥製	星野 (2008)
64	YIO-02492	ムナグロ <i>Pluvialis dominica</i>	Male, Juv.	April 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
65	YIO-11867	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Female, Juv.	April 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
66	YIO-04522	メリケンキアシシギ <i>Heteroscelus incanus</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
67	YIO-11868	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
68	YIO-11869	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Male, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
69	YIO-11870	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Male	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
70	YIO-11871	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Male, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)
71	YIO-11872	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
72	YIO-70597	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>	Male	May 1952	黒田長久	黒田長久	骨格	
73	YIO-12158	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Male, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
74	YIO-12160	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Female, Ad.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
75	YIO-12161	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Female, Ad.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
76	YIO-12162	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
77	YIO-12349	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	

表 6-5 つづき (3/3)

ID	標本番号	種名	性齢	採集日	採集者等	コレクション名	標本の種類	出典
78	YIO-12350	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Female, Juv.	May 1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
79	YIO-02515	ムナグロ <i>Pl. dominica</i>	Male, Juv.	1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
80	YIO-12159	クロアジサシ <i>A. stolidus</i>	Male, Sub Ad.	1952	黒田長久	黒田長久	仮剥製	
81	YIO-70515	オオグンカンドリ <i>F. minor</i>		1960	黒田長久	黒田長久	骨格	
82	KCM-47001	*コアホウドリ <i>Ph. Immutabilis</i>				石川県立小松高校 *	本剥製	小松市立博物館 (1986)
83	NSMTA-12035	コアホウドリ <i>Ph. immutabilis</i>			島津製作所標本部	京都帝大理学部	仮剥製	本研究
84	YIO-E-00122	セグロアジサシ <i>St. fuscata</i>			藤沢 格	中西悟堂	卵	
85	YIO-12444	シロアジサシ <i>G. alba</i>	Ad.	March		島津製作所購入	仮剥製	山階鳥類研究所 (2021)

* 本研究による種同定と追加情報.

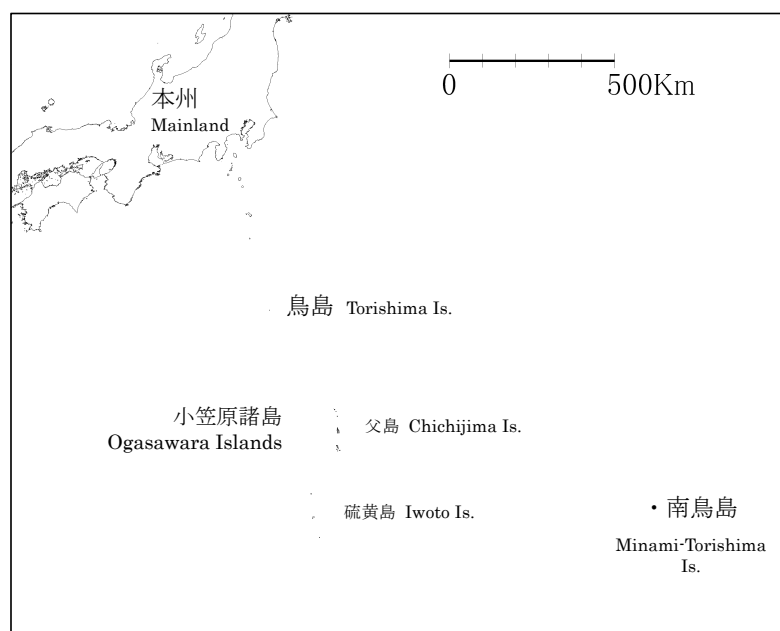


図 6-1. 南鳥島の位置図.

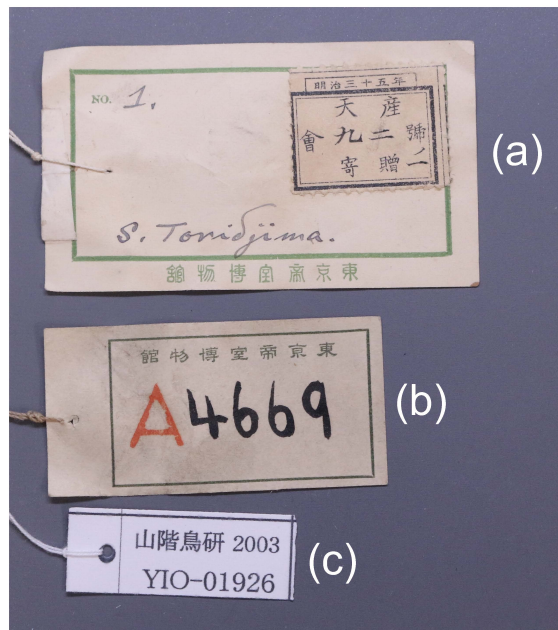


図 6-2. 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本に付されたラベルの例 (YIO-01926). (a) 採集情報が表記された帝室博物館のラベル. 「S. Toridjima」が南鳥島を示す. 列品保管証番号「明治三十五年 天産第九二号ノ一寄贈」が貼付されている. (b) 天産部台帳番号に対応する帝室博物館のラベル. (c) 標本番号が表記された山階鳥研のラベル.



図 6-3. アカオネッタイチョウ *Phaethon rubricauda*. YIO-01636.



図 6-4. シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca*. (a) YIO-00515 : 帝室博物館コレクションの南鳥島産標本. (b) YIO-00512 : 1908 年 10 月に南鳥島で採集された標本.



図 6-5. オナガミズナギドリ *Puffinus pacificus*. YIO-00884 (a) と YIO-00885 (b).



図 6-6. コミズナギドリ *Pu. Nativitatis*. YIO-00886 (a) と YIO-00887 (b).



図 6-7. アオツラカツオドリ *Sula dactylatra*. YIO-01926 (a) と YIO-01930 (b).



図 6-8. アカアシカツオドリ *S. sula*. YIO-01927 幼鳥 (a), YIO-01929 成鳥 (b).



図 6-9. カツオドリ *S. leucogaster*. YIO-01919 (a), YIO-01918 (b), YIO-01920 (c).



図 6-10. カツオドリ属の一種 *Sula* Sp. YIO-01928.



図 6-11. クロアジサシ *Anous stolidus*. YIO-12163 (a), YIO-12164 (b).

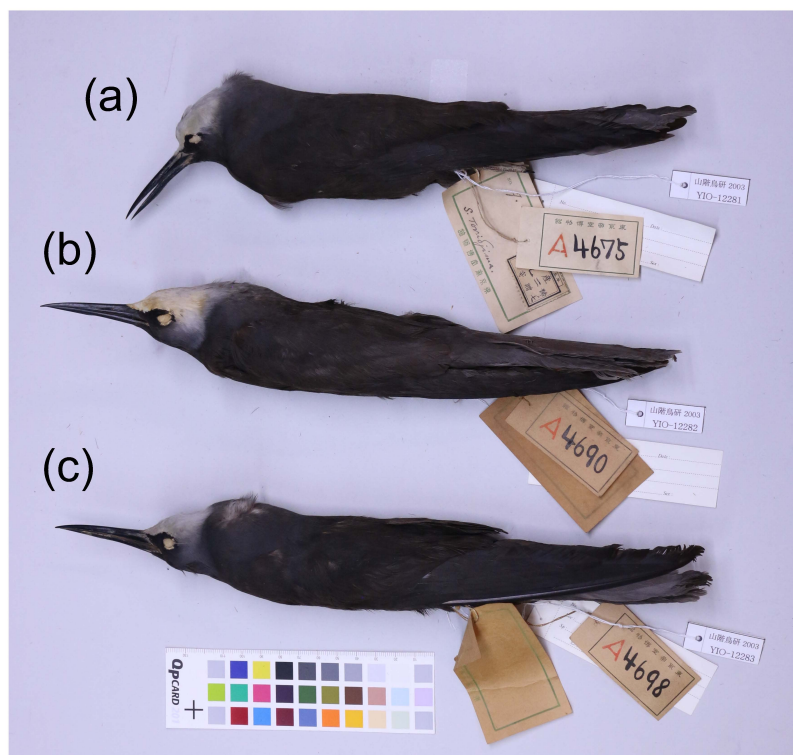


図 6-12. ヒメクロアジサシ *A. minutus*. YIO-12281 (a), YIO-12282 (b), YIO-12283 (c).



図 6-13. シロアジサシ *Gygis aiba*. YIO-12351 (a), YIO-12352 (b), YIO-12353 (c).

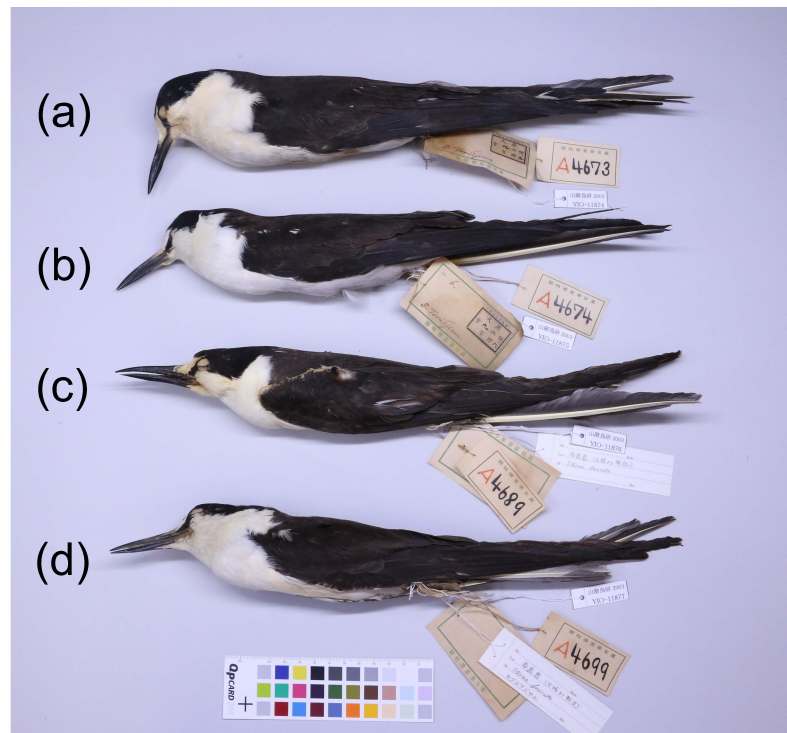


図 6-14. セグロアジサシ *Sterna fuscata*. YIO-11874 (a), YIO-11875 (b), YIO-11876 (c), YIO-11877 (d).



図 6-15. 列品保管証番号から見出された YIO-01918 に対応するラベル.

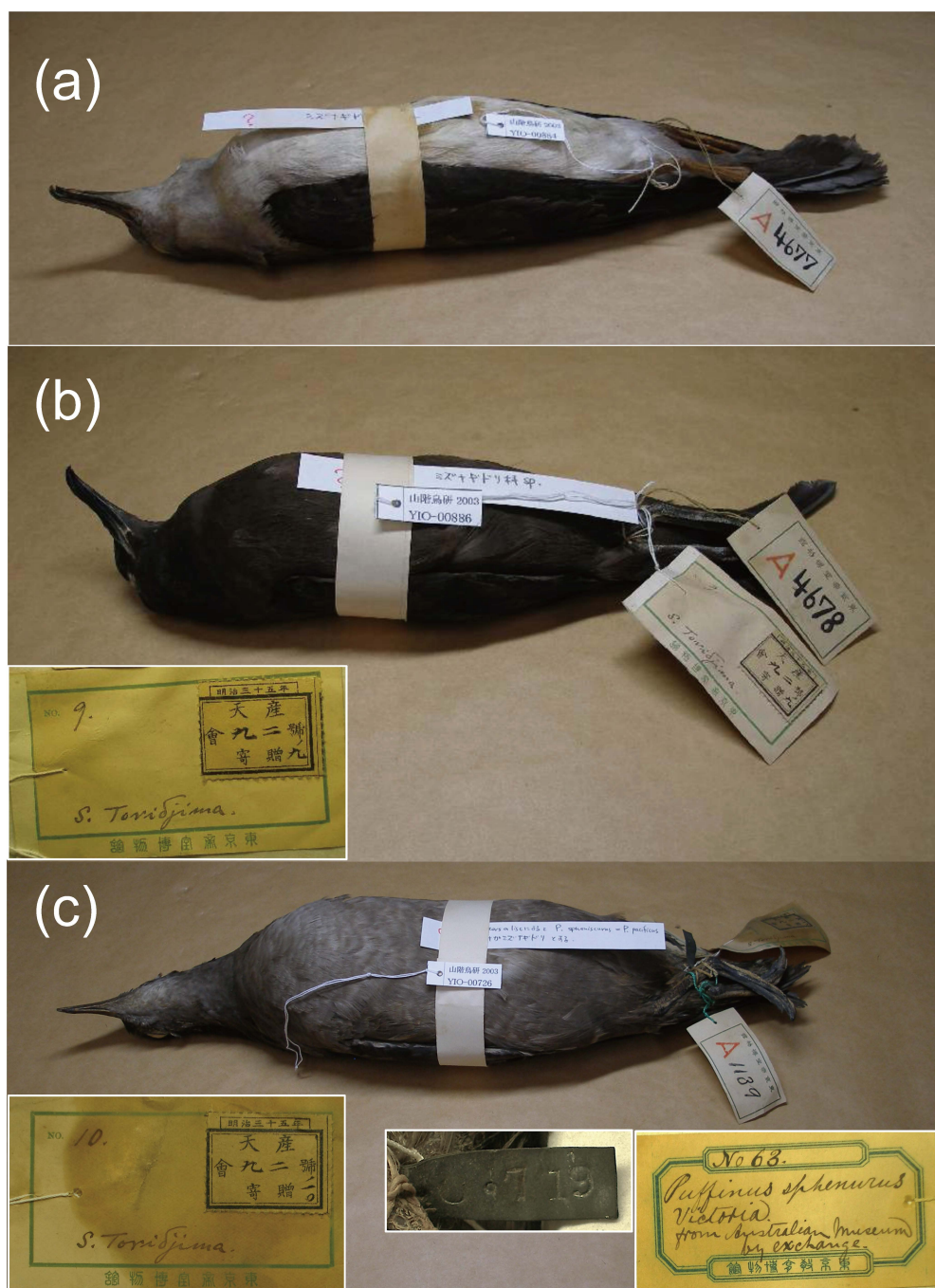


図 6-16. 列品保管証番号のラベルが付されていない YIO-00884 (a), 天産部台帳の列品保管証番号に対応していないラベルを付した YIO-00886 (b) と YIO-00726 (c). (b) YIO-00886 の標本と列品保管証番号のラベル, (c) YIO-00726 の標本と列品保管証番号のラベル (左), オーストラリア博物館の金属タグ (中央), オーストラリア博物館と交換したことが記載された東京教育博物館ラベル (右).

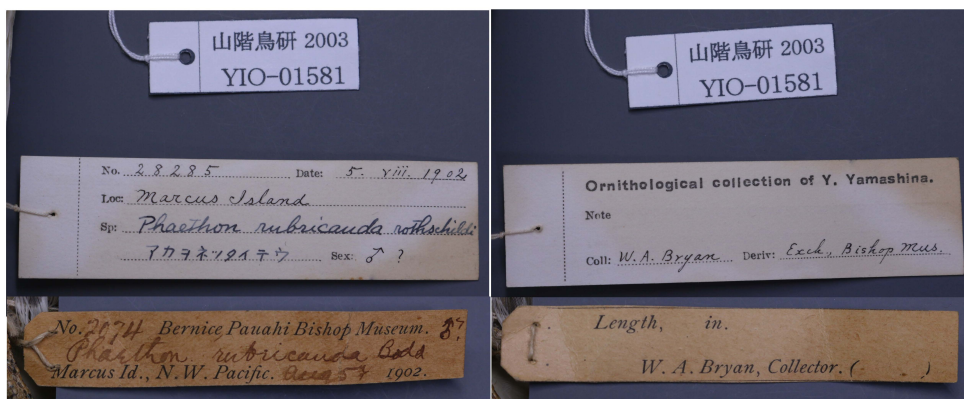


図 6-17. 1902 年にブライアンが採集した YIO-01581 アカオネツタイチョウに付されたラベル。

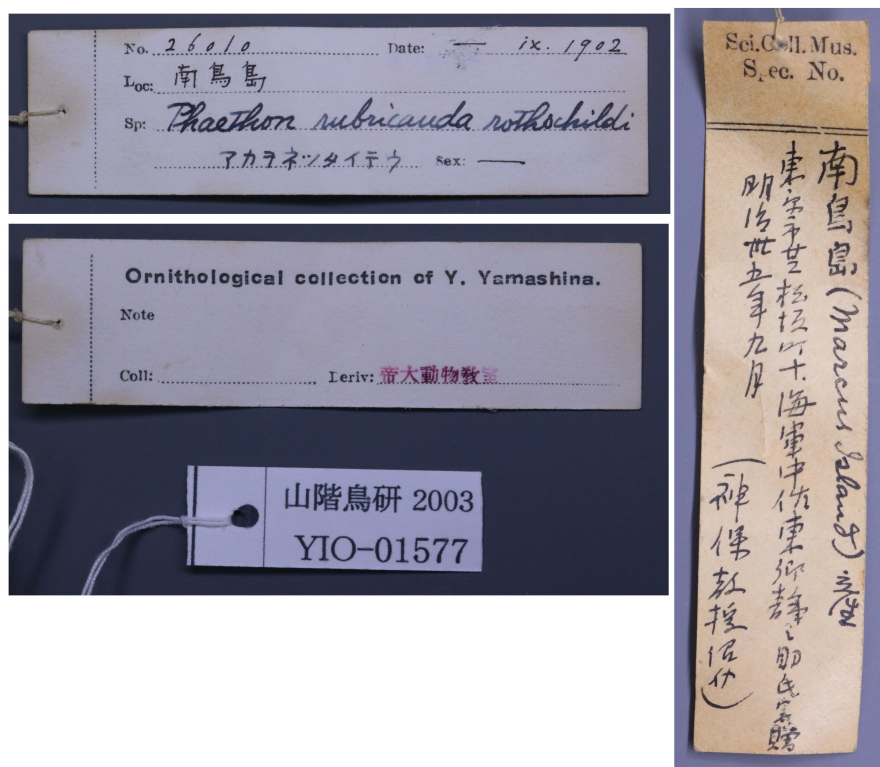


図 6-18. 東京帝国大学旧蔵標本の YIO-01577 アカオネツタイチョウに付されたラベル。

第 7 章

総合考察と今後の課題

7-1. 解明された帝室博物館コレクションの歴史的背景

帝室博物館コレクションは、明確な採集情報が得られないことで、多数の標本が研究資源として利用しにくいことが課題であった（1章参照）。この課題を解消するために第一段階として、帝室博物館コレクションの歴史的背景を調査した。帝室博物館コレクションは、東京国立博物館と国立科学博物館が明治・大正期に収集した標本が統合した標本群であった。帝室博物館が管理していた天産部台帳には5,043点が登録され、1923年の関東大震災後には4,033点となっていた（2章参照）。現存する標本は、山階鳥研、国立科学博物館、学習院から計3,454点を確認した。

帝室博物館コレクションは、次の3つの標本群から成立していたことが明らかになった（2章参照、図7-1）。

（1）東京国立博物館が設立した1872年（明治5年、博覧会）から1889年（明治22年、宮内省博物館）までに東京国立博物館が収集した標本群。

（2）国立科学博物館が設立した1875年（明治8年、東京博物館）から1890年（明治23年、東京教育博物館）までに国立科学博物館が収集した標本群。

（3）1889年（明治22年、帝国博物館）から帝室博物館天産部が廃止された1923（大正12）年までに東京国立博物館が収集した標本群。

これにより、標本群（1）に属する標本であれば1889年までに採集され、標本群（2）に属すれば1890年まで、標本群（3）に属すれば1923年まで、と各標本の採集年代を限定した。山階鳥研、国立科学博物館、学習院に現存する標本からは、標本群（1）748点、（2）2,384点、（3）322点に分けられ、これまで採集年次が確定されていなかった標本の採集日を確定することができた。

第二段階として、スミソニアン、オーストラリア博物館、フランス国立自然史博物館に由来する標本群に分けて検討した。スミソニアン由来標本は、スミソニアンから1877年に東京国立博物館へ、同年に国立科学博物館へ、1887年に国立科学博物館へ送付された3つのルートによって収集されていた（3章参照）。この3つのルートに属する標本ごとに採集年代が1877年以前、あるいは1887年以前とより限定することができた。

オーストラリア博物館由来標本は、天産部台帳で言及された1893年に東京国立博物館へ送付されたルートのほか、1888年に国立科学博物館への送付ルートが見出された（4章参照）。フランス国立自然史博物館由来標本では、1877年に国立科学博物館へ送付されたことが確認された（5章参照）。いずれの標本群も旧蔵機関の標本台帳から、不正確な標本の採集情報の復元が可能であり、採集地や採集者の特定や採集年代

が不明なものであっても、旧蔵機関の登録年次、あるいは各機関が日本の博物館へ標本を送付した年代を利用して、採集年代を限定することができた。

海外の博物館との交換標本とは別に、南鳥島で採集された標本群の歴史的背景を検討した。これらの南鳥島産標本は、1902年に起きた南鳥島事件に関連して東京国立博物館（帝室博物館）に寄贈された標本であった。現存する26点は、未同定の標本やや採集情報が不明確な標本が混じっていた。これらは、天産部台帳の記載から採集地（南鳥島）が明確になり、寄贈者の活動背景から、採集期間が1900年から1902年と推定された（6章参照）。標本の採集情報が明確になったことで、種同定を可能にした。

本研究により、スミソニアン由来標本1,306点、オーストラリア博物館由来標本329点、フランス国立自然史博物館由来標本82点、南鳥島産標本26点、計1,743点の歴史的背景が明確になった。現存する帝室博物館コレクション3,454点の約半数(50.5%)の標本情報を復元することができた。この成果は、山階データベースの情報を大きく修正、補うものであり、標本の研究資源としての価値を飛躍的に向上させたと評価できる。

7-2. 東京国立博物館と国立科学博物館収集標本の考察

帝室博物館コレクションの歴史的背景から、東京国立博物館と国立科学博物館における収集活動の特徴を考察する。東京国立博物館へ送付された標本は、1877年のスミソニアンや、1893年のオーストラリア博物館ともに外務省を通じて送られ、外交的な意味合いが強かった。欧米から文化を取り入れようとしていた明治期の日本において、外交は重要であった。また、南鳥島事件を契機に寄贈された南鳥島産標本や、白瀬 矗（1861-1946）ら日本人初の南極探検隊が持ち帰った標本（A4901-A4907）のように、東京国立博物館では社会的な出来事によって入手された標本が含まれていた。このように東京国立博物館の標本は、各国との外交交流など社会的な要因によって収集されたものが多い傾向がみられた。

一方、国立科学博物館では、1877年にスミソニアンから送付された標本は東京国立博物館と同様に外交目的であったが、1887年のスミソニアン、1893年のオーストラリア博物館からの送付標本は、両博物館の学術交流による標本交換によって入手していた。1877年に国立科学博物館へ送られたフランス国立自然史博物館由来標本も、天文学者ジャンサン の要請がきっかけで送られた可能性があるため、学術交流の一環と見なせるであろう。国立科学博物館では、教育や学術を目的とした標本収集を行っていた傾向が見られた。

また、国立科学博物館が採集していた標本には、1880年代に波江元吉ら博物館の職員が国内各地で採集した標本も含まれていた。これらを用いて、波江は伊豆諸島の鳥類について「動物学雑誌」に学術論文を發表し（波江 1889a, 1889b）、スタイネガーはリュウキュウカラスバトなど11種を新種記載した（Stejneger 1887a, 1887b, 1887c, 1887d, 1892, 表 7-1）。国立科学博物館が1880年代に伊豆諸島や琉球列島の鳥類を採集していたことは、日本の鳥学史において価値のある事象であった。当時、本州や九州の鳥類はシーボルト（Philipp Franz Balthasar von Siebold, 1796-1866）が収集した標本によって新種記載され（Temminck & Schlegel 1844-50）、北海道の鳥類はブラキストンが収集した標本によって記載されていた（Blakiston & Pryer 1878）。波江らが伊豆諸島や南西諸島に未記載種がいるであろうことを想定していたことは疑いの余地がない。波江が1887年に伊豆諸島で採集した標本は、種同定のために直ちにスミソニアンに送られ、同年のうちにスタイネガーがアカコッコ *Turdus celaenops* を新種記載した（Stejneger 1887c, 波江 1889b）。標本送付にあたり、船便しかない時代に未記載種の存在を想定し、あらかじめ両方で連携がとれていなければ、成しえない速さである。

日本人で初めての鳥類の新種記載は、東京帝国大学教授の飯島 魁（1861-1921）による1893年のオーストンヤマガラ *Parus owstoni*（現 *Poecile varius owstoni*）で、その飯島らを中心に日本鳥学会が設立されたのは1912年である（飯島 1893, 西海 2012）。国立科学博物館の標本でスタイネガーが新種記載したのはこれら以前のことであり、帝室博物館コレクションの歴史的背景の解明を通して、国立科学博物館収集標本が草創期の日本の鳥学を支えていた実態を評価することができた。

7-3. 帝室博物館コレクションの学術的意義

7-3-1. 生物学標本としての価値

多くの標本の採集地が明確になったことで、帝室博物館コレクションには国内で採集された標本のほか、スミソニアン由来標本からはアメリカ大陸、オーストラリア博物館由来標本からはオーストラリア、フランス国立自然史博物館由来標本からは、当時のフランスが統治していたアフリカ、東南アジア、中南米、オセアニアで採集された標本が含まれていることが確認された。また、本論では取り上げなかったが、帝室博物館は、「大正二年六月南極探検後援会寄贈」標本（A4901-A4907, 学習院中・高等科と国立科学博物館が所蔵）によって南極産標本、明治「四十年三月ドクトル・ハアベレル寄贈」標本（A4707-A4789, YIO-IH 標本群に一部現存）によってヨーロッパ産標本も入手し、世界中の鳥類標本を有する標本群であった。つまり、大正期には世

界中の鳥類標本を閲覧できる博物館が、国内に存在していたことを意味していた。世界中の鳥類を1カ所で、さらに手にとって実見できることは、分類学、生物地理学、比較形態学など様々な学問分野にとって意義が大きい。当時の日本の鳥学の中心は、分類学であったと推測されるが、新種を発見したと考えられる場合でも、比較検討できる標本がなければ新種の記載はできない。1880年代の国立科学博物館で、波江らが収集した標本を種同定のためにスミソニアンに送ったのは、国内に比較検討できる充実した標本コレクションを有している機関がなかったのも一因であろう。YIO-IH 標本群の状況から、帝室博物館コレクションは20世紀初頭までには、学術研究に用いることができる充実したコレクションが整備されていたと評価された。

海外産の鳥類標本については、今後、帝室博物館コレクションの規模で収集することは、生物多様性条約などの制限もあり困難である。また、現在は感染症の拡大で国外への移動も難しくなっており、国内の研究者にとって、帝室博物館コレクションの海外産標本は有益なものと評価できる。

一方、国内で採集された国立科学博物館収集標本は、当時の標本台帳やフィールドノート類などの資料が乏しく、海外の博物館に由来する標本のような詳細な調査は進められなかった。しかし、帝室博物館コレクションの歴史的背景から、天産部台帳、および標本ラベルに表記された採集日を明確にすることができた(2章参照)。その結果、YIO-IH 標本群の国立科学博物館収集標本1,100点(A1-A1124, 24点は消失)は、1883年から1889年の間に千島列島、北海道、本州、伊豆諸島、小笠原諸島、対馬、琉球諸島で採集されたことが確認できた。日本に現存する日本産鳥類標本群としては、ブラキストンや東京帝国大学のコレクションと並ぶ、歴史の古い標本群であった

(Stejneger 1893, 加藤 2012a)。国内で採集された標本からは、19世紀の国内の分布記録を示す材料として、また、現代の科学的手法によって、遺伝情報、安定同位体比による生息環境の推定、CTスキャンによる形態情報など、過去に生息していた鳥類の情報を引き出す有効な研究資源にもなり得るであろう。

帝室博物館コレクションは、リュウキュウヒヨドリ(YIO-00097, A267)、リュウキュウカラスバト(YIO-00048, A849)などのタイプ標本や、北米で絶滅したカロライナインコ(YIO-00240, A2373)、エスキモーコシャクシギ(YIO-03698, A1279)など、学術的価値が高い標本を内包していた(山階鳥類研究所 2021)。これらに加え、本研究ではスミソニアン由来標本から、スミソニアンのタイプリスト(Deignan 1961)で、文部省博物館に送られた後、行方不明とされた標本6点が見出された(表7-2)。6点はいずれもアメリカ大陸の鳥類で、複数の標本から新種記載されたタイプシリー

ズの一部であることから、シンタイプであった。これらの標本について、山階鳥研では、本研究で明らかになるまで、タイプ標本とは認識していなかった。タイプ標本は、新種・亜種を記載したときの証拠であり、失われればその後の分類の再検討を困難にってしまう恐れがある。また、国際動物命名規約第4版では、タイプ標本を所蔵する施設において、タイプであることをラベルなどに明示し、標本を安全に保管することが謳われている(動物命名法国際審議会 2005)。そのため、見出された6点について、タイプ標本としての有効性などの検討は今後の課題である。

見出されたタイプ標本の中には、メキシコのグアダルーペ島で絶滅したグアダルーペカラカラ *Caracara lutosa* のタイプ標本が含まれていた(表7-2)。1877年、1887年にスミソニアンから日本へ送付された当初は、グアダルーペカラカラはじめ、カロライナインコやエスキモーコシャクシギも絶滅してはいなかった。1886年に沖縄島で採集されたリュウキュウカラスバトを含め、いずれも絶滅したのは東京国立博物館や国立科学博物館が標本を入手した後の20世紀以降のことである。また、南鳥島事件を契機に東京国立博物館に寄贈された20世紀初頭の南鳥島産標本は、海鳥の乱獲や島の環境悪化によって9種の繁殖集団が南鳥島から消滅し、結果として、当時の南鳥島の鳥類相を知る重要な証拠標本となった(6章参照)。

今後、気候変動による気温の上昇で、地域絶滅種は増加していくと予想される。すでに個体数が減少し、分布域が狭まってしまった鳥種では、過去の分布はその種の保全にとって重要な情報である。例えば、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のアホウドリ *Phoebastria albatrus* では、保護増殖の目的のために小笠原諸島鴎島に新たな繁殖地の形成を促す活動を実施している。この新繁殖地の選定は、明治期の分布記録を基にした(出口 2017)。また、個体数が減少した鳥種の現在の個体群が遺伝的に健全であるかを知るためには、過去の個体群の遺伝情報との比較が欠かせない。環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠA類のシマフクロウ *Bubo blakistoni* では、1864年以前に採集された標本から採取されたミトコンドリアDNAが用いられた結果、分断された生息地内の遺伝的多様性が低く、本種の保全のためには生息地間の移動の重要性が示された(Omote et al. 2015)。

帝室博物館コレクションは、保全学上も重要な標本群になり得る可能性があり、コレクションの価値は今後ますます高まるものと考えられる。

7-3-2. 歴史資料としての価値

帝室博物館コレクションは、約150年前の日本の博物館の創設から収集された標本

群であり、日本の博物館史の証拠となる資料であった。例えば、帝室博物館コレクションを構成する3つの標本群は、博物館の転換期を示す証拠であった（2章参照）。海外の博物館との標本の交換も博物館史においては重要な事象である。本論で検討したスミソニアン、オーストラリア博物館、フランス自然史博物館のほか、ヴィクトリア博物館（現 Museums Victoria）のラベルも確認され、これらの標本はここに挙げた博物館との標本交換の証拠であった（3, 4, 5章参照）。

帝室博物館コレクションからは、日本の博物館の創設当時のものと推測される標本も見出された。日本の博物館は、1872年に湯島聖堂で行われた博覧会に端を発している。帝室博物館コレクションから博覧会に出品された標本は特定できなかったが、博覧会に尽力した内田正雄（1838-1876）が寄贈した展示用標本2点が国立科学博物館から見出された（A3420 *Rupicola aurantia*（イワドリ）、A3421 *Calyptomena viridis*（ミドリヒロハシ））。内田は博覧会の翌1873年に官職を離職し、執筆活動に専念した後、1876年に亡くなっていることから、内田が標本を寄贈できたのは1873年以前に限定された（秋元 2004）。つまり内田の標本は博覧会時代の標本であり、日本の博物館の創設当時を象徴する標本になり得るであろう。帝室博物館コレクションは日本の博物館の歴史的資料としても位置づけられる。

また、帝室博物館コレクションは、博物館史だけではなく、動物園の飼育史の検討にも貢献した。上野動物園は、かつて帝室博物館天産部の付属施設であり、動物園の飼育個体は死亡後、帝室博物館で標本として受け入れられていた（6章参照）。上野動物園から引き継がれた標本からは、日本で初めて飼育されたペンギンの標本が見出された（A4939 フンボルトペンギン、福田 2019）。帝室博物館コレクションが、ペンギンの飼育史の解明の一助となった事例であった。

7-4. 今後の展望と課題

本論では、帝室博物館コレクションの成立の歴史的背景の解明に加え、YIO-IH 標本群を構成する海外の博物館に由来する標本、スミソニアン米国立博物館、オーストラリア博物館、フランス国立自然史博物館を対象に検討を行った。海外の博物館由来標本を詳細に調べた理由は、標本群の歴史的背景を検討するための資料が残されていたからであった。

本論で検討した海外の博物館由来標本は、いずれも日本へ送付してから100年以上が経過するが、送付標本リストや書簡、当時の標本台帳が旧蔵機関に現存していたことで、標本に付属する標本番号との照合を可能にし、歴史的背景が解明され、個々の

標本の情報も復元された。

一方で、YIO-IH 標本群には、国内で採集された国立科学博物館収集標本のように、標本の歴史的背景を調べるための資料がほとんど残されていない標本群も存在した。さらに、YIO-IH 標本群の国立科学博物館収集標本は、元来付属されていたラベルが外され、帝室博物館のラベルに取り替えていたことが、スミソニアンに所蔵される国立科学博物館収集標本との比較で判明した（図 7-2）。オリジナルのラベルが取り替えられると、転記ミスなどのヒューマンエラー、本来書かれていたかもしれない標本番号やコレクター番号などの情報が得られない懸念がある。

しかし、情報が少ない標本であっても、標本群として検討することで、付加できる情報を見出せる可能性はある。国立科学博物館が収集した標本のうち、波江とスタイネガーが研究で用いた標本群という枠組みでとらえ、スミソニアンに所蔵されている関連標本や論文類を用いることで、本研究とは異なる視点での情報復元が可能であろう。また、国立科学博物館には「各地採集物目録」という 1880 年代前半の採集に関わる資料が残されているので、一部の標本の情報には得られる見通しである。国内採集標本の検討は、調査手法を含め今後の課題である。

本研究で行った、標本群の歴史的背景の解明と、その結果に基づく個々の標本情報を復元する手法は、北海道大学植物園博物館のブラキストンコレクションで行われていた手法であるが（加藤 2012a）、他のコレクションにも応用可能である。近年は博物館資料のデータベースや、アーカイブスのデータベースから情報が得やすくなっており、これらを利用した本研究の手法で国内の様々なコレクションを解明することができ、今後も科学研究の基盤となる自然史標本の情報の復元を続けていきたい。

山階鳥研には、本研究で解明した帝室博物館コレクションの他、創立者の山階芳麿が採集人の折居彪二郎（1883-1970）に依頼して収集した鳥獣標本コレクション、東京帝国大学旧蔵鳥類標本、著名な鳥類学者のコレクションが所蔵されている。これらについても標本情報の不足が散見されるため、標本群の歴史的背景を解明して標本価値の復元を行わなければならない。このうち、山階芳麿コレクションでは折居彪二郎の採集日誌から復元できる情報が存在する。現在、科学研究費の助成を受け、4 年計画で山階芳麿コレクションの折居採集標本群の情報復元に取り組んでいる。この標本群には、1920-30 年代の日本領土だった台湾、満州（中国東北部）、樺太、北千島、朝鮮、ミクロネシアなどの採集標本が含まれ、この標本群を解明することで、東アジアや太平洋地域の鳥類相や鳥学史の解明にもつながるであろう。

表 7-1. 国立科学博物館収集標本でスタイネガーが新種記載した日本産鳥類 11 種のホロタイプ標本.

ID	標本番号	天産部台帳番号	記載時の種名	現在の種名 (日本鳥学会 2012)	性	採集年	月	日	採集地	記載論文
1	YIO-00097	A267	<i>Hypsipetes pryeri</i>	リュウキュウヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis pryeri</i>	F	1886	3	8	Naha, Okinawa	
2	YIO-00077	A763	<i>Chelidon namiyei</i>	リュウキュウツバメ <i>Hirundo tahitica namiyei</i>	M	1886	3	11	Urasaimagiri, Okinawa	Stejneger (1887a)
3	YIO-00096	A838	<i>Treron permagna</i>	ズアカアオバト <i>Treron formosae permagnus</i>	M	1886	3	9	Naha, Okinawa	
4	YIO-00048	A849	<i>Janthoenas jouyi</i>	リュウキュウカラスバト <i>Columba jouyi</i>		1887	2	3	Kun-Chan, Okinawa	Stejneger (1887d)
5	USNM 109349	-	<i>Pericrocotus japonicus</i>	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i> (Raffles, 1822)	M	1885	5	1	Amagi San, Shizuoka	
6	USNM 109474	-	<i>Icoturus namiyei</i>	ホントウアカヒゲ <i>Luscinia komadori namiyei</i>	M	1886	3	21	Nagogatake, LiuKiu	Stejneger (1887a)
7	USNM 109476	-	<i>Pericrocotus tegimae</i>	リュウキュウサンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>	M	1886	3	11	Okinawa Island	
8	USNM 110975	-	<i>Euryzoniia sepiaria</i>	オオクイナ <i>Rallina eurizonoides sepiaria</i>	F	1887	2	3	Yayeyama	Stejneger (1887b)
9	USNM 110976	-	<i>Porzana phaeopyga</i>	リュウキュウヒクイナ <i>Porzana fusca phaeopyga</i>	M	1887	2	3	Yayeyama	
10	USNM 111663	-	<i>Acanthopneuste ijimae</i>	イイジマムシクイ <i>Phylloscopus ijimae</i>	M	1887	5	3	Miyakeshima	Stejneger (1892)
11	USNM 111665	-	<i>Turdus celanops</i>	アカコッコ <i>Turdus celanops</i>	M	1887	5	3	Miyakeshima	Stejneger (1887c)

表 7-2. スミソニアンのタイプリスト (Deignan 1961) で文部省博物館へ送られたとされたシンタイプ 6 点.

ID	標本番号	天産部台帳番号	USNM No.	記載時の種名 (和名)	性	採集年	月	日	採集地
1	YIO-55141	A1524	USNM 10309	<i>Corvus caurinus</i> Baird, 1858 (ヒメコバシガラス)		1856	2		Fort Steilacoom, Washington
2	YIO-50511	A2787	USNM24352	<i>Dendroeca petechiae jamaicensis</i> Sundevall, 1869 or 1870 (キイロアメリカムシクイ)	F	1861	8	28	Near Spanish Town, Jamaica
3	YIO-50671	A2776	USNM 33279	<i>Setophaga aurantiaca</i> Baird, 1865 (ベニイタダキアメリカムシクイ)					San Jose, Costa Rica
4	YIO-44325	A1935	USNM 38367	<i>Turdus propinquus</i> Ridgway, 1877 (コマツグミ)		1864	6		Laramie Peak, Wyoming
5	YIO-44322	A1932	USNM 38371	<i>Turdus propinquus</i> Ridgway, 1877 (コマツグミ)		1864	5		Laramie Peak, Wyoming
6	YIO-09803	A1406	USNM 69991	<i>Polyborus lutosus</i> Ridgway, 1876 (グアドルーペカラカラ)	M	1875			Guadalupe Island, Mexico

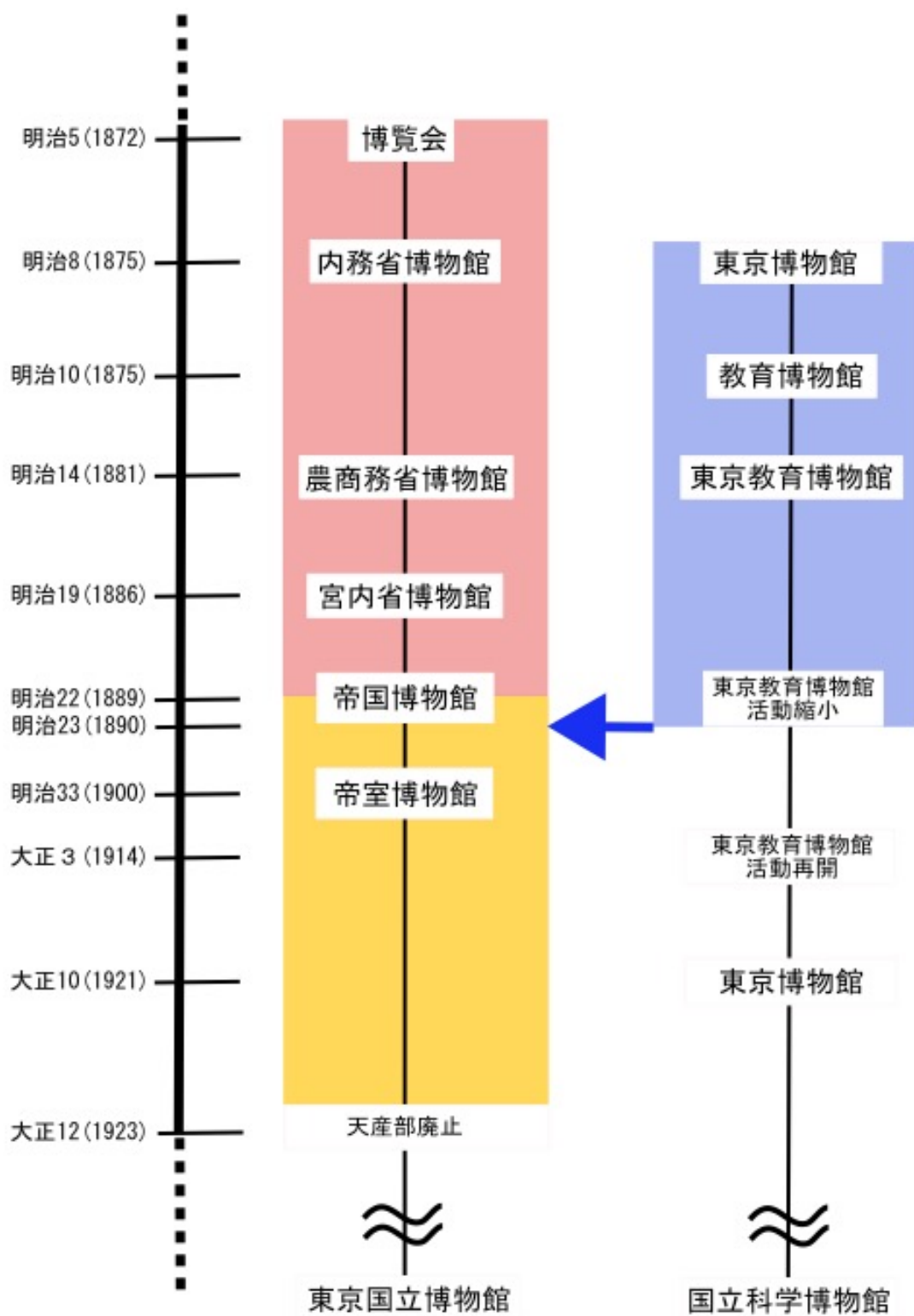


図 7-1. 帝室博物館コレクションを構成する 3 つの標本群のイメージ. 赤：1872 年（明治 5 年，博覧会）から 1889 年（明治 22 年，宮内省博物館）までに東京国立博物館が収集した標本群. 青：1875 年（明治 8 年，東京博物館）から 1890 年（明治 23 年，東京教育博物館）までに国立科学博物館が収集した標本群. 黄：1889 年（明治 22 年，帝国博物館）から帝室博物館天産部が廃止された 1923（大正 12）年までに東京国立博物館が収集した標本群.



図 7-2. A : スミソニアン自然史博物館所蔵の国立科学博物館収集標本と付属する東京教育博物館のラベル。リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* のタイプ標本 (USNM 109476)。B : YIO-IH 標本群の国立科学博物館収集標本と付属する東京帝室博物館のラベル。リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei* のタイプ標本 (YIO-00077)。A, B と同日 (1886 年 3 月 11 日) 採集。

謝辞・引用文献・Abstract

謝 辞

本研究を行うにあたり、多くの機関の方々にご協力いただいた。

帝室博物館コレクション研究の基本となった天産部台帳や資料類、国立科学博物館が所蔵する帝室博物館コレクションの閲覧に際し、同館の西海 功研究官にご協力いただいた。東京国立博物館の資料は、同館資料館で閲覧した。学習院中・高等科が所蔵する帝室博物館コレクションの閲覧には、同校教諭の田中一樹、栢 知子両氏、学習院大学史料館学芸員の吉廣さやか氏にご協力いただいた。

第3章のスミソニアン国立博物館由来標本の調査では、スミソニアン台帳“catalog ledger”や同館所蔵の標本の閲覧に際し、スミソニアン自然史博物館鳥類部門コレクションマネージャーChristopher M. Milensky 氏、および同部門の Christina A. Gebhard, Brian Schmidt 両氏、スミソニアンの古資料類の閲覧は、スミソニアン協会アーカイブスにご協力いただいた。

第4章のオーストラリア博物館由来標本の調査では、同館の資料の閲覧に際し、同館アーカイブスの Patricia Egan 氏、第5章のフランス国立自然史博物館由来標本の調査では、同館の台帳類の閲覧に際し、同館の Jérôme Fuchs 博士とコレクションマネージャーの Patrick Boussès 氏にご協力いただいた。また、山階鳥研の平岡 考専門員からは調査前に同館の台帳類について情報提供をいただいた。

第6章の南鳥島産標本の調査では、各館が所蔵する南鳥島産鳥類標本の情報について、兵庫県立人と自然の博物館の布野隆之氏、森林総合研究所の川上和人氏、島根県立三瓶自然館の星野由美子氏、大阪市立自然史博物館の和田 岳氏、岐阜県立博物館の説田健一氏、山形県立博物館の細越林太郎氏、東京海洋大マリンサイエンスミュージアムの平野晴野氏、小松市立博物館の高栄晋平氏にご協力いただいた。梶田 学氏、および山階鳥研の富田直樹研究員からは南鳥島産鳥類標本の所在に関し情報提供をいただいた。

山階鳥研の所蔵標本については、山階データベース (<https://decochan.net>) の活用が欠かせなかった。当データベースを担当される山崎剛史研究員、およびデータベースの作成に関わったスタッフの方々に感謝申し上げる。また、資料類の撮影については、元山階鳥研特任研究員でバードフォトアーカイブス代表の塚本洋三氏にご教示いただいた。臨時職員の小牧伸子氏には天産部台帳の入力をお手伝いいただいた。また、浅井芝樹研究員には、たびたび草稿を見てもらい、アドバイスいただいた。弟で Queen

Mary University of London の小林一哉博士には Abstract の英文を見てもらった。

博士論文の審査を引き受けてくださった、主査の北海道大学総合博物館の大原昌宏先生、副査の北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの富士田裕子先生、北海道大学総合博物館の首藤光太郎先生、北海道大学理学院の高木昌興先生には、お忙しいところ本論に対し有意義なコメントをいただいた。

ご協力いただいた全ての方々に心より御礼申し上げます。

本研究は日本学術振興会科学研究費助成事業・若手研究 (B)「鳥類標本ラベル情報の不整合を文献史料から解読する研究」(JP24700937)、基盤研究 (C)「明治期国立博物館所蔵鳥類学標本群成立過程の解明と標本情報の現代的意義に関する研究」(JP16K01193) の助成を受け行った。

最後に、私の一連の帝室博物館コレクション研究の共著者であり、これまで長期間ご指導いただいた北海道大学助教・加藤 克先生に、心より感謝申し上げます。

引用文献

- 秋元信英 (2004) 内田正雄の履歴と史料. 國學院短期大学紀要 21:3-109.
- Anonymous (1858) Notice bibliographique de M. Victor Fontanier, correspondant regnicole de l'Académie. Comptes rendus des séances de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres 2(1): 453. [in French]
- 浅野長愛 (1992) 所員エッセー ある朝のこと. 山階鳥研 NEWS 37: 4.
- Aurousseau L (1992) Jules Harmand (1845-1921). Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient 22: 402-404. [in French]
- Australian Museum (1882) Report of trustees, for 1881. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1883) Report of the trustees, for 1882. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1884) Report of the trustees for 1883. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1885) Report of the trustees for 1884. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1886) Report of the trustees for 1885. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1887) Report of the trustees for 1886. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1888a) Report of the trustees for 1887. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1888b) Outward Exchange letter books 1877–1923, Volume 1, Australian Museum Archives: AMS59: 601–605.
- Australian Museum (1889) Report of trustees for the year 1888. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1890) Report of trustees for the year 1889. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1891) Report of trustees for the year 1890. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1894) Report of the Trustees for the year 1893. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (1894–5) Report of the Trustees for the year 1894. Australian Museum, Sydney.
- Australian Museum (2021) Museum staff 1829–1977.
<https://australianmuseum.net.au/about/history/people/museum-staff-18291977>, accessed 2021-12-14.
- Baird SF, Brewer TM, Ridgway R (1874) A history of North American birds. Land birds. Vol. 3. Little, Brown, and Company, Boston.
- Beolens B, Watkins M, Grayson M (2009) The eponym dictionary of Mammals. The Johns Hopkins University Press, Baitimore.

- Blakiston T, Pryer H (1978) A Catalogue of the Birds of Japan. *Ibis* 20(3): 209-250.
- Bryan WA (1903) A monograph of Marcus Island. *Occasional Papers, Bishop Museum* 2(1): 77-126.
- British Museum (2021a) Jacques Gérard Milbert.
<https://www.britishmuseum.org/collection/term/BIOG181715>, accessed 2021-12-5.
- British Museum (2021b) Pierre Jules César Janssen.
<https://www.britishmuseum.org/collection/term/BIOG243006>, accessed 2021-12-5.
- CHAFC (Council of Heads of Australian Faunal Collections) (2021) OZCOM. Occurrence record: Ornithology: B.9397.
<https://ozcam.ala.org.au/occurrences/e00e97c5-6c34-4e68-90c1-c00e66ef746a>,
 accessed 2021-12-13.
- Chiba H, Kawakami K, Suzuki H, Horikoshi K (2007) The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. *J Yamashina Inst Ornithol* 39: 1-17.
- 出口智広 (2017) アホウドリの移住計画. *生物の科学 遺伝* 71(4): 376-382.
- Deignan HG (1961) *Type Specimens of Birds in the United States National Museum*. Smithsonian Institution, U.S. National Museum Bulletin 22, Washington D. C.
- del Hoyo J, Elliott A, Sargatal J (eds) (1992) *Handbook of the Birds of the World. Vol. 1. Ostrich to Ducks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- 動物命名法国際審議会 (2005) 国際動物命名規約 第4版 日本語版 [追補]. 日本分類学会連合, 東京.
- 江崎保男・山崎剛史・森岡弘之 (2006) 小林桂助コレクション鳥類標本目録. 兵庫県立人と自然の博物館, 三田市.
- 福田道雄 (2019) 日本で最初に飼育されたペンギンに関する追加記録. *山階鳥学誌* 51: 53-61.
- 学習院 (1981) 学習院百年史第一編. 学習院百年史編纂委員会, 東京.
- Gill BJ, Bell BD, Chambers GK, Medway DG, Palma RL, Scofield RP, Tennyson AJD, Worthy TH (2010) *Birds of new zealand, norfolk and Macquarie islands, and the ross dependency, antarctica. 4th Edition*. Ornithological Society of New Zealand & Te Papa Press, Wellington.
- Gill F, Donsker D, Rasmussen P (ed) (2020) IOC World Bird List (v10.1).
<http://www.worldbirdnames.org/>, accessed 2020-04-17.
- Global Plants (2021) Edit History Filhol, Henri (1843-1903).

<https://plants.jstor.org/stable/history/10.5555/al.ap.person.bm000331198>, accessed 2021-12-5.

博物館 (1881) 天産部列品目録. 内務省博物館, 東京.

Hamy E (1989) Lucien Biart. *Journal de la Société des Américanistes* 2(4): 196-197. [In French]

Harrison P (1985) *Seabirds: An Identification Guide (revised edition)*. Croom Helm, London.

Hellmayr CE, Conover B (1948) Catalogue of birds of the Americas and the adjacent islands. Field Museum of Natural History, Zoological Series 13, 1(2).

Higgins PJ, Davies SJF (1996) *Handbook of Australian, New Zealand & Antarctic birds Vol.3 Snipe to Pigeons*. Oxford University Press, Melbourne.

Higgins PJ, Peter JM, Steele WK (ed) (2001) *Handbook of Australian, New Zealand and Antarctic Birds. Vol 5: Tyrant- flycatchers to Chats*. Oxford University Press, Melbourne.

平岡昭利 (2003) 南鳥島の領有と経営—アホウドリから鳥糞, リン鉱採取へ—. *歴史地理学* 45(4): 1-14.

平岡昭利 (2015) アホウドリを追った日本人—攫千金の夢と南洋進出. 岩波書店, 東京.

星野由美子 (2008) 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録第 10 号 伊達コレクション 鳥類標本目録 (暫定版). 島根県立三瓶自然館, 大田市.

飯島 魁 (1893) やまからノ新種ニ就テ. *Description of a new species of Parus from Miyakeshima. 動物学雑誌* 5(62): 445-446.

池田正明 (2001) 山形県立博物館収蔵資料目録 動物資料目録 4 石沢コレクション. 山形県立博物館, 山形市.

猪間収三郎 (1902) 鳥島破裂實験記. *地学雑誌* 14: 630-640.

JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. B12082112200, 亜米利加「スミソニアン」博物館ト物品交換一件 (B-3-10-3-7). 外務省外交史料館.

JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. C06091434600-C06091435400, 南鳥島事件 軍艦笠置 高千穂派遣并噴火の件 1-9, 明治 35 年 公文備考 卷 43 土木 3 止外国人建白請願外交及騒乱. 防衛省防衛研究所.

Jenkinson SH (1940) 4 - von Haast. In: Jenkinson SH, *New Zealanders and Science* : 36- 47. Department of Internal Affairs, Wellington.

人事興信所 (編) (1915) 人事興信録 第 4 版. 人事興信所, 東京.

- Juniper T, Parr M (1998) *Parrots A guide to the parrots of the world*. Pica Press, Sussex.
- 蔭山麻里子 (2005) 標本を貸すこと・借りること—テキサステック大学博物館のローン活動紹介—. タクサ 19: 49-71.
- 柿沢亮三 (1980) 黒田長禮博士寄贈の鳥類標本目録 I. タイプ標本および非スズメ目. 山階鳥類研究所研究報告 59: 192-212.
- 加藤 克・市川秀雄・高谷文仁 (2009) 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (1) 東京仮博物場から札幌農学校所属博物館初期まで. 北大植物園研究紀要 9: 29-94.
- 加藤 克・市川秀雄・高谷文仁 (2010) 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (2) 明治期の札幌農学校所属博物館. 北大植物園研究紀要 10: 9-96.
- 加藤 克・市川秀雄・高谷文仁 (2012) 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (3) 大正～昭和期の博物館. 北大植物園研究紀要 12: 1-84.
- 加藤 克 (2012a) ブラキストン「標本」史. 北海道出版会, 札幌.
- 加藤 克 (2012b) 標本ラベルからみた樺太動物調査鳥類標本について. 北大植物園研究紀要 12: 91-114.
- 加藤 克 (2013) ブラキストンの鳥類標本ノートについて. 北大植物園研究紀要 13: 35-47.
- 加藤 克・市川秀雄・高谷文仁 (2014) 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (4) 標本ラベルの変遷からみた管理史. 北大植物園研究紀要 14: 1-44.
- Kato M (2014) Notes on a re-examination of type specimen of the Japanese House Martin (*Chelidon blakistoni*). Bulletin of Botanic Garden, Hokkaido University 14: 45-52.
- 加藤 克 (2018) 国立科学博物館所蔵オーストラリア産骨格標本の採集情報の復元. タクサ 日本動物分類学会誌 45: 61-72.
- Kato M, Davis AJ (2019) Relocation and restoration of collection data, for two taxonomically important Japanese Reed Bunting *Emberiza yessoensis* specimens collection by Thomas Blakiston in the Early Meiji Period. J Yamashina Inst Ornithol 51: 29-42.
- 河原恭一 (1993) 南鳥島における鳥類の観察記録. Strix 12: 243-247.
- Kawaji N, Tojo H, Matsuoka S, Takano H, Kitahara E (2003) Catalogue of bird skin collection in Forestry and Forest Products Research Institute (FFPRI). Bulletin of the Forestry and Forest Products Research Institute 2(4): 271-350.
- 川上和人 (2017) 小笠原諸島南鳥島の鳥類相. Strix 33: 131-143.
- 川上和人 (2019) 小笠原諸島における攪乱の歴史と外来生物が鳥類に与える影響. 日

- 本鳥学会誌 68(2): 237-262.
- 清棲幸保 (1978a) 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 II. 講談社, 東京.
- 清棲幸保 (1978b) 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 III. 講談社, 東京.
- 小林さやか・浅井芝樹・平岡考・百瀬邦和・齋藤武馬・浦野栄一郎・山岸哲 (2009) 山階鳥類研究所の標本・試料受け入れシステムとその収集状況. 山階鳥学誌 41: 101-126.
- 小林さやか・加藤 克 (2017) 明治・大正期に収集された国立博物館の鳥類標本コレクションの検証—山階鳥類研究所所蔵の帝室博物館旧蔵鳥類標本の歴史的背景とその評価—. タクサ 日本動物分類学会誌 43: 42-61.
- 小林さやか・加藤 克 (2020a) 東京帝室博物館旧蔵鳥類標本コレクションの歴史—スミソニアン米国立博物館に由来する標本に注目して—. タクサ 日本動物分類学会誌 49: 45-55.
- 小林さやか・加藤 克 (2020b) 東京帝室博物館旧蔵鳥類標本コレクションの歴史—オーストラリア博物館に由来する標本に注目して—. 日本鳥学会誌 69(2): 209-221.
- 国土地理院 (2021) 国土地理院技術資料 E2-No.72 令和 3 年全国都道府県市区町村別面積調 (4 月 1 日時点). 国土地理院, つくば.
- 国立科学博物館 (1977) 国立科学博物館百年史. 国立科学博物館, 東京.
- 国立科学博物館 (2022) Science Museum Net (S-Net). <http://science-net.kahaku.go.jp/>, 参照 2022-01-02.
- 小松市立博物館 (1986) 所蔵品目録 III. 小松市立博物館, 小松市.
- Kuroda N (1954) Report on a Trip to Marcus Island with Notes on the Birds. PACIFIC SCIENCE 8: 84-93.
- 黒田長久 (1962) 動物系統分類学 10 (上) 脊椎動物 (III) 鳥類. 中山書店, 東京.
- 黒田長禮 (1924) 京都帝国大学理学部所蔵鳥類標本目録. 鳥 4 : 67-80.
- 教育博物館 (1881) 教育博物館列品目録 動物之部. 教育博物館, 東京.
- Marchant S, Higgins PJ (1990a) *Handbook of Australian, New Zealand & Antarctic birds. Vol.1 Part A Ratites to Petrels*. Oxford University Press, Melbourne.
- Marchant S, Higgins PJ (1990b) *Handbook of Australian, New Zealand & Antarctic birds Vol.1 Part B Australian Pelican to Ducks*. Oxford University Press, Melbourne.
- 松浦啓一 (2014) 自然史標本の収集と管理の指針. 松浦啓一 (編) 標本学第 2 版 自然史標本の収集と管理: 3-7. 東海大学出版会, 秦野.
- Meagher D (2012) The mysterious Alexander Lindig, c.1815 – ?1882. Australasian

Bryological Newsletter 60: 9-10.

箕輪義隆 (2020) 新 海鳥ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

文部省 (1876) 東京博物館年報. 日本帝国文部省年報 第4(明治9年)第1冊:379-384.

文部省 (1877) 教育博物館年報. 日本帝国文部省年報 第5(明治10年)第1冊:455-464.

Morioka H, Dickinson EC, Hiraoka T, Allen D, Yamasaki T (2005) *Types of Japanese Birds*.
Nat Sci Mus Monogr 28. National Science Museum, Tokyo.

森岡弘之 (2006) 小林桂助氏と小林コレクション. 江崎保男・山崎剛史・森岡弘之(編)
小林桂助コレクション鳥類標本目録: 1-3. 兵庫県立人と自然の博物館, 三田.

Muséum d'histoire naturelle de Nantes (2021) Alfred Marche.

<https://museum.nantesmetropole.fr/home/collections/zoologie/collection-des-oiseaux/alfred-marche.html>, accessed 2021-11-23. [In French]

波江元吉 (1889a) 伊豆諸島の鳥類. 動物学雑誌 1(10): 329-333.

波江元吉 (1889b) 伊豆諸島の鳥類: 三三三頁へ續く. 動物学雑誌 1(11): 369-370.

Navarro RA (text), Burke P, Beadle D (illustrations) (2003) *Helm Field Guides - Birds of Chile including the Antarctic Peninsula, the Falkland Islands and South Georgia*.
Christopher Helm, London.

西海 功 (2012) 分類学・系統地理学研究の歩みと成果. 日本鳥学会誌 61 特別号 日本鳥学会 100 年の歴史: 35-38.

日本離島センター (2004) 日本の島ガイド SHIMADAS (シマダス) 第2版第1刷. 財団法人日本離島センター, 東京.

日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 三田.

奥 須磨子 (1993) 海を渡った日本産羽毛. 羽毛文化史研究会(編) 羽毛と寝具のはなし: 127-146. 日本経済評論社, 東京.

大森房吉 (1902) 鳥島破裂概報. 地学雑誌 14: 728-737.

Omote K, Nishida C, Takenaka T, Saito K, Shimura R, Fujimoto S, Sato T, Masuda R (2015) Recent fragmentation of the endangered Blakiston's fish owl (*Bubo blakistoni*) population on Hokkaido Island, Northern Japan, Revealed by Mitochondrial DNA and Microsatellite Analyses. Zoological Letters 1(16): 1-9.

Onley D, Scofield P (2007) *Albatrosses, petrels and shearwaters of the world*. Princeton Univ Press, Princeton.

Osborn H F (1902) Henri Filhol, Paleontologist. Science 15(388): 912.

Palmer T S (1922) Notes and News. The Auk 39: 453.

- Peters JL (1937) *Check-List of the Birds of the World*. Vol. 3. Harvard University Press, Cambridge.
- Pizzey G, Knight F, Pizzey S (ed) (2012) *The field guide to the birds of Australia*. Ninth edition. HarperCollins Publishers, Sydney.
- Reichenow A (1881) Conspectus Psittacorum. Systematische Uebersicht aller bekannten Papageienarten. Journal für Ornithologie Neunundzwanzigster Jahrgang 155: 241. [in German]
- Reid A (1973) The French in Sumatra and the Malay world, 1760-1890. Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde/ Journal of the Humanities and Social Sciences of Southeast Asia 129(2): 195-238.
- Riviale P (1996) *Un siècle d'archéologie française au Pérou 1821-1914*. Editions L'Harmattan, Paris. [in French]
- Riviale P (2005) Un négociant français au Pérou au XIXe siècle: splendeur et décadence de Félix Dibos (1831-1898). HISTOIRE(S) de l'Amérique latine 1(3): 1-21. [in French]
- Robson C (2020) *Field guide to the birds of South-East Asia*. New Holland Publishers, London.
- 齊藤国治・篠沢志津代 (1972) 金星の日面経過について, 特に明治七年 (一八七四) 十二月九日日本における観測についての調査 前編. 東京天文台報 16 (1) : 72—162.
- Sakula A (1986) Louis Daniel Beauperthuy: pioneer in yellow fever and leprosy research. Journal of the Royal College of Physicians of London 20(2): 146-150.
- 笹川昭雄 (1984) 14.学術標本資料. 柴田敏隆 (編) 山階鳥類研究所 50 年のあゆみ 創立 50 周年記念出版: 98–102. 山階鳥類研究所, 東京.
- 説田健一・時田賢一 (2001) 柳原要二鳥類コレクション標本目録. 岐阜県博物館調査報告 22 : 17-24.
- 白井克也 (2016) 館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換. 平成二十七年年度成果報告公開研究会 明治期博物館の国際的な文化財交換: 4-11.
- Smithsonian Institution (1878) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the Operations, Expenditures, and Condition of the Institution for the year 1877*. Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution (1880) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the Operations, Expenditures, and Condition of the Institution for*

- the year 1879.* Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution (1881) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the Operations, Expenditures, and Condition of the Institution for the year 1880.* Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution (1883) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the Operations, Expenditures, and Condition of the Institution for the year 1881.* Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution (1889) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the Operations, Expenditures, and Condition of the Institution for the year ending June 30, 1887.* Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution (1890) *Annual report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution, showing the operations, expenditures, and condition of the Institution for the year ending June 30, 1888. Report of the U. S. National Museum.* Government Printing Office, Washington.
- Smithsonian Institution Archives (2020) Spencer Fullerton Baird, 1823–1887. <https://siarchives.si.edu/history/spencer-fullerton-baird>, accessed 2021-12-14.
- Smithsonian Institution Archives. Record Unit 105: Records, circa 1854–1959, Box 33, Folder 4. Smithsonian Institution Archives, Washington D.C.
- Smithsonian Institution Archives. Record Unit 105: Records, circa 1854–1959, Box 34A, Folder 2. Smithsonian Institution Archives, Washington D.C.
- Stejneger L (1887a) On a collection of birds made by Mr. M. Namiye, in the Liu Kiu Islands, Japan, with descriptions of new species. *Proceedings of the United States National Museum* 9(597): 634–651.
- Stejneger L (1887b) Further contributions to the Liu Kiu Island, Japan, with descriptions of new species. *Proceedings of the United States National Museum* 10(641): 391–415.
- Stejneger L (1887c) Diagnosis of a New Species of Thrush (*Turdus celanops* sp. nov.) from Japan. *Science* 108(238): 108.
- Stejneger L (1887d) Zoology. Description of a new species of Fruit-Pigeon (*Tanthenas jouyi*) from the Liu Kiu Island, Japan. *The American Naturalist* 21(6): 583–854.
- Stejneger L (1888) On a Collection of Birds made by Mr. M. Namiye in the Islands of Idzu, Japan. *Proceedings of the United States National Museum* 10(649): 482–487.
- Stejneger L (1892) Two additions to the Japanese Avifauna, including description of a new

- species. Proceedings of the United States National Museum 15(904): 371–373.
- Stejneger L (1893) Notes on a third installment of Japanese birds in the Science College Museum, Tokyo, Japan, with descriptions of new species. Proceedings of the United States National Museum 16(957): 615–638.
- Stuart L C (1948) The amphibians and reptiles of Alta Verapaz Guatemala. University of Michigan Press, Ann Arbor.
- 高島春雄 (1948) 今は昔物語. 鳥, 57: 74.
- 帝国博物館 (1891) 帝国博物館天産部動物標本目録. 帝国博物館, 東京.
- 帝国博物館 (1893) 第三一號 濠州「シドニー」博物館ヨリ送附ノ交換品受領ノ件. 列品録明治 26 年, 館資 384 (マイクロフィルム No. M1256). 東京国立博物館所蔵史料.
- Temminck C, Schlegel H (1844-1850) Description des oiseaux observés au Japon par les voyageurs Hollandais. In: Siebold PF von (ed). Fauna Japonica sive descriptio animalium, quae in itinere per Japoniam, jussu et auspiciis superiorum, qui summum in India Batava Imperium tenent, suscepto, annis 1823-1830 collegit, notis, observationibus et adumbrationibus illustravit. II. Aves: 1- 142. Lugduni Batavorum. [in French]
- 東京国立博物館 (1973) 東京国立博物館百年史. 東京国立博物館, 東京.
- 東京帝室博物館 (1902a) 明治 35 年列品録. 館資 396 (マイクロフィルム No. M1269). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1902b) 明治 35 年動物録. 館資 570 (マイクロフィルム No. M1656). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1903a) 明治 36 年列品録. 館資 397 (マイクロフィルム No. M1270). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1903b) 明治 36 年動物録. 館資 571 (マイクロフィルム No. M1657). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1904) 明治 37 年列品録. 館資 398 (マイクロフィルム No. M1271). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1912) 第一九號 國華外五百點學習院女學部へ無償譲渡稟議の件. 列品録三修理出陳等ノ部 明治四五年・大正元年, 館資 409 (マイクロフィルム No. 1286). 東京国立博物館所蔵史料.
- 東京帝室博物館 (1920) 東京帝室博物館列品案内目録 (脊椎動物之部). 東京帝室博物

館，東京．

東京帝室博物館 (1924) 列品台帳削除ノ件．天産部列品削除目録，館資 827（マイクロフィルム No. M2927）．東京国立博物館所蔵史料．

東京帝室博物館 (1926a) 東京帝室博物館天産部列品其ノ他引渡ニ付報告．列品録天産部列品引継関係，館資 508（マイクロフィルム No. M1394）．東京国立博物館所蔵史料．

東京帝室博物館 (1926b) 五 天産部列品九百四拾八点ヲ文部省へ無償譲渡ノ件伺．列品録天産部列品引継関係，館資 508（マイクロフィルム No. M1394）．東京国立博物館所蔵史料．

東京帝室博物館 (1926c) 十四 學習院長ヨリ受領證送付ノ件．列品録天産部列品引継関係，館資 508（マイクロフィルム No. M1394）．東京国立博物館所蔵史料．

東京帝室博物館 (1926d) 十六 右大臣決裁ニ付文部次官へ引渡スヘキ旨通知ノ件．列品録天産部列品引継関係，館資 508（マイクロフィルム No. M1394）．東京国立博物館所蔵史料．

東京帝室博物館 (1926e) 十九 元天産部列品ヲ文部省へ無償譲渡ノ件伺．列品録天産部列品引継関係，館資 508（マイクロフィルム No. M1394）．東京国立博物館所蔵史料．

和田 岳 (2005) 川村多実二鳥類コレクション -旧宝塚昆虫館所蔵鳥類仮剥製標本目録-．大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 37，大阪自然史博物館，大阪市．

Whitley GP (1974) Laporte, François Louis Nompar de Caumont (1810–1880). Australian Dictionary of Biography vol.5. Melbourne University Press, Victoria. (online) National Centre of Biography, Australian National University, <https://adb.anu.edu.au/biography/laporte-francois-louis-nompar-de-caumont-3993/text6315>, accessed 2021-12-5.

山形県立博物館 (2021) 動物資料データベース．山形県立博物館．
<http://db.yamagata-museum.jp/muse/animal/>. 参照 2021-10-26.

山階鳥類研究所 (2021) 山階鳥類研究所標本データベース．山階鳥類研究所・我孫子市鳥の博物館．<https://decochan.net>. 参照 2021-12-14.

山階芳麿（編）(1966) 財団法人山階鳥類研究所業績（設立 35 周年，発足 25 周年）記念出版．山階芳麿，東京．

山階芳麿 (1986) 世界鳥類和名辞典．大学書林，東京．

読売新聞 (1902) 動物館へ新来の鳥獣．読売新聞 1902 年 10 月 23 日朝刊：4．

吉廣さやか (2016) 旧制学習院の博物学科関連資料について-明治から現在へ引き継がれた標本教材-. 学習院大学史料館紀要, 22: 95-112.

Abstract

Specimens for studying natural history are evidence that collected organisms existed in a particular time and place and can support scientific research. Old specimens tend to have insufficient label information, which may reduce their research value. However, some lost label information can be restored by examining the background of the specimen and collector in the collection catalog and collector's field notes. Thus, it is possible to improve the scientific value of specimens that were previously considered of low value. The main purpose of this study was to restore and verify collection data by clarifying the history of a bird collection of the Tokyo Imperial Household Museum (TIHM), which is the predecessor of the Tokyo National Museum. The study goal was to evaluate the significance of this collection, including the value of specimens with restored information, for modern ornithology and Japanese museum history (Chapter 1).

The Yamashina Institute for Ornithology (YIO) has over 70,000 specimens, making it the largest bird collection in Japan. It includes part of the TIHM collection, which has 3,349 specimens (YIO-IH specimens). The YIO-IH specimens have label problems, such as loss, defacement, damage, and illegibility, so that not all specimen information is available including, at times, the date and place of collection. This makes it difficult to use the specimens for scientific research. To overcome this problem, this study first examined the history of the TIHM collection, to restore specimen collection data. The TIHM collection originated from specimens that two Japanese national museums had collected between 1872 and 1923. The specimens in the TIHM collection could be separated into three groups: those

collected by the Tokyo National Museum from 1872 to 1889; those amassed by the National Museum of Nature and Science, Tokyo, from 1875 to 1890; and those put together by the Tokyo National Museum from 1890 to 1923. The YIO-IH specimens, which comprise 83.0% of the TIHM collection, are considered an important collection in terms of the history of Japanese museums and ornithology. Although the collection dates of 93.1% of the YIO-IH specimens are not clear, they can be narrowed down based on the TIHM collection history (Chapter 2).

The YIO-IH specimens include many specimens originating from overseas museums. Next, this study examined the transfer history of those specimens. Specimens that originated from the United States National Museum (USNM) at the Smithsonian Institution were obtained via three routes: specimens sent from the USNM to the Tokyo National Museum in 1877 and to the National Museum of Nature and Science, Tokyo, in 1877 and 1887. Of the 1,321 specimens sent from the USNM, the YIO-IH possessed 1,306 (98.9%) (Chapter 3). The specimens that originated from the Australian Museum were sent to the National Museum of Nature and Science, Tokyo, in 1888, and the Tokyo National Museum in 1893. Of the 329 specimens sent from the Australian Museum, the YIO-IH possesses 326 (99.1%) (Chapter 4). Of the 104 specimens sent from the French National Museum of Natural History (Muséum national d'histoire naturelle) to the National Museum of Nature and Science, Tokyo, in 1877, the YIO-IH possesses 82 (78.8%) (Chapter 5).

Materials were discovered in the process of examining the specimens from overseas, such as the specimen ledger of the overseas museums through which the details of the

YIO-IH specimens could be tracked. This made it possible to restore specimen collection data, which enabled us to identify the species of specimens that had not been determined, to track past research use, and to correct errors in the current international database (Chapter 3 to 5).

Apart from the specimens that originated from overseas museums, an examination of the historical background of the specimens collected on Minami-Torishima Island during the Meiji Period showed that the specimens were related to the Minami-Torishima Island incident of 1902, and donated to the Tokyo National Museum. With the aid of the TIHM specimen catalog and the specimen registration records, an examination of 26 specimens of unknown origin revealed that these specimens originated from Minami-Torishima Island, and were donated by Shichigoro Kamitaki and Hidetaro Akimoto. Based on the background of the donors' activities, the collected dates of the 12 specimens donated by Mr. Kamitaki were estimated to be from 1900 to October 9, 1902, and those of the 14 specimens donated by Mr. Akimoto from July 28 to August 29, 1902. At that time, 11 seabird species were breeding on Minami-Torishima Island, although nine species subsequently disappeared due to overhunting and environmental degradation. The specimens from Minami-Torishima Island in the TIHM collection included specimens of extinct breeding populations, and will be useful as research resources to elucidate past breeding populations (Chapter 6).

This study clarified the collection history of 1,743 of the 3,454 (50.5%) specimens in the TIHM collection and restored collection data. This greatly supplemented the previous specimen data, improving its scientific value.

Of the specimens in the TIHM collection, those collected by the Tokyo National Museum tended to be obtained through diplomatic and social events, whereas the National Museum of Nature and Science, Tokyo, obtained foreign species through academic exchanges with overseas museums and domestic species by sampling during collection trips for academic research. These facts enabled us to understand some of the characteristics and differences in the activities of the two National Museums during the Meiji Period. The TIHM collection, which began in the early days of museums in Japan, can also serve as a historical record of museum history. In particular, the bird specimens collected by the National Museum of Nature and Science on the Izu and Ryukyu Islands included the type specimens used to describe new species and played a vital role in early ornithology in Japan (Chapter 7).

Restoration of the collection data revealed that the TIHM collection contained both a wide variety of bird specimens from around the world and some of the oldest specimens collected in Japan. The TIHM collection contains specimens of extinct birds such as the Carolina parakeet *Conuropsis carolinensis* from North America and the Ryukyu wood pigeon *Columba jouyi* from the Nansei Islands. The value of specimens of extinct species as research resources will continue to increase. Given recent rapid environmental changes, including global warming, the number of local extinctions is predicted to increase. The scientific value of specimens should also increase as research resources. Restoration of the TIHM collection data will be useful for future studies (Chapter 7).